Ⅰ　26年度自己点検評価報告書　総括表

自己点検評価報告書「総括表」　様式補足説明

○　定量評価項目

評価は、以下の評定区分を使用している。

Ｓ：達成率 120%以上かつ質的に顕著な成果
Ａ：達成率 120%以上
Ｂ：達成率 100%以上 120%未満
Ｃ：達成率 80%以上 100%未満
Ｄ：達成率 80%未満
※Ｂ評価が標準となる

○　自己評価

評価（年度：年度計画に対する総合評価、中期：中期計画に対する総合評価）は、以下の評定区分を使用している。

Ｓ：所期の目標を量的及び質的に上回る顕著な成果が得られている
Ａ：所期の目標を上回る成果が得られている
Ｂ：所期の目標を達成している
Ｃ：所期の目標を下回っており、改善を要する
Ｄ：所期の目標を下回っており、業務の廃止を含めた抜本的な改善を要する
※Ｂ評定が標準となる

平成 26 年度 独立行政法人国立文化財機構 自己点検評価報告書総括表

Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1　歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承

(1)　収蔵品の収集

【中期目標】国の文化財保護政策との整合性、一体性を保ちつつ機構の設置する博物館各館の役割・任務に沿って収集方針を定め、これに基づき、計画的かつ適時適切な購入と寄贈・寄託の受入れを進め、体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の充実と保全を図ること。

【中期計画】
(1)－1　体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の蓄積を図る観点から、次に掲げる各館の収集方針に沿って、外部有識者の意見等を踏まえ、適時適切な収集を行う。また、そのための情報収集を行う。
(東京国立博物館)
日本を中心にして広くアジア諸地域にわたる美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。
(京都国立博物館)
京都文化を中心とした美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。
(奈良国立博物館)
仏教美術及び奈良を中心とした美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。
(九州国立博物館)
日本とアジア諸地域との文化交流を中心とした、美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。
(1)－2　収蔵品の体系的・通史的なバランスに留意し、寄贈・寄託品の受け入れを推進するとともに、積極的に活用する。また、既存の寄託品については、継続して寄託することを働きかけ、積極的に活用する。

【主な計画上の評価指標】
○購入、寄贈・寄託の受け入れにより、各館の特色に沿った体系的・通史的にバランスのとれたコレクションを形成すること。

【25 年度評価における主な指摘事項】

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価 年度		自己評価 中期	
1111	（１）－１　適時適切な収集 各館の収集方針に沿って、鑑査会議等で収集案を作成し、外部有識者からなる買取協議会の意見を踏まえて収集する。また、文化財の散逸や海外流出を防ぐため、内外の研究者、学芸員、古美術商等との連携を図り、迅速かつ的確な情報収集にも努め、それらを収集活動に効果的に反映していく。 （東京国立博物館） 日本を中心として広くアジア諸地域の文化の体系的陳列を目指し、絵画、書跡、彫刻、工芸、考古、歴史資料の中から重点的に購入する。	（１）－１　適時適切な収集 **【東京国立博物館】** ・購入件数 9件。内訳：絵画3件、書跡1件、漆工1件、東洋染織4件。 ・決算額　139,686,000円 26年度は、絵画3件「柿本人麻呂像」・「融通念仏縁起絵断簡」・「桜下美人図」、書跡1件「関戸本古今和歌集切」、漆工1件「花卉漆絵片口」、東洋染織「スレンダン(肩衣)茜地草花文様緯絣浮紋織」・「頭巾	B	総合文化展の充実に寄与する貴重な作品が購入できた。	B	中期計画に基づき順調に成果をあげている。

		紫地段幾何文様浮紋織」・「帯 茜地段幾何文様浮紋織」・「スレンダン(肩衣)茜地段幾何文様浮紋織」の計9件を購入した。				
1112	（京都国立博物館） 京都文化を中心とした絵画、彫刻、書跡、陶磁器、染織品、漆工芸品、金工品、考古資料、歴史資料の中から重点的に購入する。	**【京都国立博物館】** ・購入件数　9件 内訳:絵画2件、金工1件、漆工5件、染織1件 ・決算額　　227,452,000円 今年度は、近年新たに発見された藤末鎌初の「仏涅槃図」、室町幕府の同朋衆芸阿弥に水墨画を習った祥啓の「鍾秀斎図」（重文）、加賀藩家老前田家に伝来した有線七宝の名品「七宝唐花文手付盆」、中世の蒔絵手箱の好例「千鳥蒔絵手箱」、桃山時代の高台寺蒔絵様式による「桐違鷹羽蝶紋蒔絵箪笥」、類例の少ない江戸時代の刺繍による「紅繻子地松竹梅鶴花車文様繍掛下帯」といった京都文化を物語る良品を購入することができた。	B	国指定品を含めた高水準の作品の購入を進め、収蔵品の欠落部分の一部を補うことができた。	B	京都文化を研究・展示するのに効果的な作品を収集することができた。
1113	（奈良国立博物館） 仏教美術及び奈良を中心とした絵画、彫刻、書跡、工芸品、考古資料、歴史資料等の中から重点的に購入する。	**【奈良国立博物館】** ・購入件数　15件　内訳：彫刻2件、絵画4件、書跡1件、金工4件、漆工1件、考古3件 ・決算額　261,960,000円 購入により15件の文化財が新たな収蔵品として加わった。 木造如来立像、銅造光背、絹本著色春日宮曼荼羅、絹本著色釈迦十六善神像、愛染明王像印仏、最勝蔓荼羅、天永二年十一月二十一日 東大寺注進状案、金銅火焔宝珠形舎利容器、金銅能作性塔、金銅蓮華形磬、金銅都五鈷杵、愛染明王彩絵舎利厨子、人面付蓮華文鬼瓦（八島廃寺出土）、伝奈良県葛城市出土品（銅製骨蔵器）、伝滋賀県根本如法堂付近出土品	B	仏教美術及び奈良に関わる文化財を分野に偏りなく収集できた。	B	仏教美術を中心にバランスの取れた収蔵品蓄積が図られている。
1114	（九州国立博物館） 日本とアジア諸国との文化交流を中心とした美術、考古及び歴史・民族資料等の中から重点的に購入する。	**【九州国立博物館】** ・購入件数 14 件　内訳：絵画 4 件、書跡 1 件、彫刻 1 件、漆工 1 件、染織 3 件、考古 2 件、歴史資料 2 件 ・決算額　727,228,000円 当館のテーマである日本とアジア諸国との文化交流の足跡を示す作品を収集する一方で、日本の王朝文化を象徴する作品として、優れた文化財を14件購入した。	B	「松に叭叭鳥・柳に白鷺図　六曲屏風」などの国立博物館として収集すべき作品と、文化交流を端的に示す作品とを、バランスよく収集した。	B	文化交流を端的に示す作品を、バランスよく収集した。

1121	**（１）－２　寄贈・寄託品の受け入れ及びその積極的活用** （４館共通） １）寄贈品及び寄託品の受け入れについては、文化庁とも連携を図り、登録美術品制度の活用を進めるなど、積極的に働きかけるとともに、平常展に必要な文化財の寄贈を受け入れる。併せて、継続的寄託及び新規寄託に努力する。	**（１）－２　寄贈・寄託品の受け入れ及びその積極的活用** **【東京国立博物館】** 1)〇寄贈 ・新規寄贈品件数　100件 内訳：絵画3件、書跡11件、彫刻1件、金工14件、漆工1件、考古6件、東洋金工1件、東洋考古62件、東洋民族1件。 〇寄託 ・新規寄託品件数　604件 内訳：絵画86件、書跡26件、彫刻104件、金工6件、刀剣3件、陶磁4件、漆工16件、染織217件、考古12件、歴史資料4件、東洋絵画22件、東洋書跡15件、東洋彫刻20件、東洋金工4件、東洋陶磁55件、東洋漆工8件、東洋考古2件。 ・寄託品は新規に604件を受け入れ、59件を返却した。	B	総合文化展と研究に寄与する内容の寄託を受けることができた。	B	中期計画に基づいて順調に成果をあげている。
1122		**【京都国立博物館】** 1)〇寄贈 ・新規寄贈品件数　379件 内訳：絵画49件、書跡17件、金工56件、陶磁86件、漆工161件、染織7件、考古3件 〇寄託 ・新規寄託品件数　162件 内訳：絵画122件、書跡18件、彫刻5件、金工9件、陶磁4件、漆工3件、染織1件 ・新規受入件数では昨年度より倍増した。これは、中国絵画のまとまったコレクションを受託できたことによる。天野山金剛寺の重文「大日如来坐像」と重文「不動明王坐像」は、同寺本堂の改修期間に合わせて借用しているもので、圧倒的な存在感の丈六仏であり、26年9月にリニューアル・オープンした名品ギャラリーの顔ともなった。	A	文化庁との連携により、大型彫刻の長期寄託が実現し、平常展で注目を集めた。個人から大量の寄贈を受け、収蔵品を大幅に充実させることができた。	A	寄贈・寄託とも、質・量のいずれかにおいても従来の実績を大幅に上回り、たいへん順調に推移した。

1123		**【奈良国立博物館】** 1)○寄贈 ・新規寄贈品件数　0件 ○寄託 ・新規寄託品件数　7件※1　内訳は下記のとおり 彫刻 3件：重要文化財　木造菩薩面　2面 重要文化財　木造行道面　蠅払　1面 重要文化財　木造舞楽面　皇仁庭　2面 ※1 重要文化財　乾漆虚空蔵菩薩半跏像　1軀 絵画 1件：最勝曼荼羅　1幅 工芸 3件：重要文化財　秋草松喰鶴鏡　1面 木造黒漆六角厨子　1基 金銅鬼面五鈷杵　1口 ※1 彫刻「重要文化財　木造舞楽面　皇仁庭　2面」は、既に寄託されている作品１件に点数の追加としたため、下記定量的評価項目の寄託品件数26年度実績値には含めない。	B	新規寄託件数は、前年度比マイナスではあるものの23・24年度とは同程度であり、かつ、すぐに平常展に出陳しており、順調と言える。	B	新規に寄託を受けた最勝曼荼羅1幅は、すぐに名品展で陳列しており、積極的な活用が図られている
1124		**【九州国立博物館】** 1)○寄贈 ・新規寄贈品件数　5件　内訳：金工1件、考古3件、民族資料1件 ○寄託 ・新規寄託品件数　12件　内訳：絵画9件、書跡1件、彫刻2件	B	文化交流を主軸に据えた寄託品・寄贈品の受入を、分野のバランスよく行うことができた。特に館蔵品の少ない考古分野の優品の寄贈を受けることができた。	B	文化交流を主軸に据えた寄託品・寄贈品の受入を、分野のバランスよく行うことができたため。

(2)　適切な管理保存

【中期目標】収蔵品全体を常時、適切な保存及び管理環境下に置くこと。特に、施設の老朽化、耐震対策に計画的かつ速やかに取り組み、収蔵品と人の安全を守る施設・設備の整備を図ること。

【中期計画】	**【主な計画上の評価指標】**
(2)-1　国民共有の貴重な財産である文化財を永く次世代へ伝えるため、収蔵品の保存・管理を徹底する。現状を確認の上、写真・管理データを蓄積して、展示・研究等の業務に活かし、博物館活動を充実する。	○収蔵品を適切に保存・管理するための、写真・管理データを蓄積すること。 ○展示場、収蔵庫の老朽化対策や温湿度、生物生息、空気汚染、地震等への対策を計画的かつ速やかに実施すること。 **【25 年度評価における主な指摘事項】**

(2)-2　展示場、収蔵庫の老朽化に対応するとともに、温湿度、生物生息、空気汚染、地震等への対策を計画的かつ速やかに実施し、保存・管理・活用のための環境整備を行う。						
処理番号	**年度計画**	**主な実績**	**自己評価**			
			年度		**中期**	
	（２）－１　収蔵品の管理・保存 収蔵品の保存・管理を徹底するとともに、現状を確認の上、写真・管理データを蓄積して、展示・研究等の業務に活かし、博物館活動を充実する。 （４館共通） １）定期的に寄託品の所在確認作業を行う。 ２）収蔵品を中心とした保存カルテを作成する。 （東京国立博物館・京都国立博物館・奈良国立博物館） １）文化財情報システム（業務システム）の運用を継続し、収蔵品データを更新する。	**（２）－１　収蔵品の管理・保存**				
1211	（東京国立博物館） １）収蔵品情報調査を継続して行う。 ２）歴史資料・和書・古写真・ガラス乾板・館史資料等の旧資料部関係品を整理し、列品として編入活用・公開するための作業を進める。	**【東京国立博物館】** 1)寄託品の状態確認作業を行い、所在情報を更新した。また、寄託の継続について寄託者の確認をとった。 2)本格修理のための列品調査、対症修理の実施、列品貸与の点検として1,721件の保存カルテを作成し、蓄積した。 （東京国立博物館・京都国立博物館・奈良国立博物館） 1)文化財情報システム（業務システム）の運用を継続し、収蔵品データを更新した。 （東京国立博物館） 1)収蔵品情報調査を継続して行い、収蔵品データベースを更新した。 2)旧資料部関係品を整理し、列品として 26 年度は 506 件の歴史資料を編入した。	B	列品貸与、応急修理、本格修理などの業務を通じて資料の状態を観察し、保存カルテに記載した。業務の進捗に合致した蓄積と共有化を図ることができた。	B	従来から蓄積されつつある保存カルテによって、収蔵品に関する詳細な状態把握が可能になった。資料を確実に次世代に継承するための基本情報の整備が着実に進んでいる。
1212		**【京都国立博物館】** 1)年2回行う寄託品の継続手続きに合わせて、所在確認作業を実施した。 2)貸与に伴う点検時を主体として作成を行っている館蔵品の保存カルテの作成を継続して行い、204件作成した。 ・収蔵品の貸与記録及び館内の展示記録を継続して行った。 （東京国立博物館・京都国立博物館・奈良国立博物館）	B	新館収蔵庫への作品の移動を行い、作品の管理データを蓄積した。	B	作品の写真・データを蓄積し、展示・研究等に繋げる基盤を作った。

		1)購入品、寄贈品、新規寄託品等、文化財情報システムの収蔵品データを更新した。 ○彫刻の大型作品の写真撮影を行った。 ○仮設収蔵庫から新館収蔵庫へ各分野の作品移動を行った。 ○新規寄贈品・寄託品を中心に、収蔵庫搬入前に酸化エチレン製剤「エキヒュームＳ」による燻蒸庫燻蒸を実施した。				
1213	（奈良国立博物館） １）文化財保存修理所を円滑に運用して、文化財の積極的な保存修理を図る。	**【奈良国立博物館】** (4館共通) 1) 寄託品の所在確認 ・寄託品の移動時に、保存修理指導室及び列品室への所定のフォームに基づく日時連絡を徹底した。 ・2ヶ月に1回実施している収蔵庫内環境チェック時、及び年末の収蔵庫査察時に寄託品の所在確認を行った。 2)保存カルテの作成 ・保存カルテについては、文化財の個別写真が添付されたフォームに統一し、保存修理指導室で作成･保管するシステムの運用が軌道に乗ったことで、115件を順調に作成した。 ・保存カルテのコンディション評価欄に記入されたＡ～Ｅの5段階評価についてデータを集計し、館蔵・寄託品データベースに統合するための準備を進めた。 （東京国立博物館・京都国立博物館・奈良国立博物館） 1)収蔵品情報システムの運用を継続し、26年度新収品を含む収蔵品データを更新した。 (奈良国立博物館) 1)文化財保存修理所の運用 ・学芸部と文化財保存修理所において、修理に従事する公益財団法人美術院、株式会社文化財保存、北村工房の3工房代表者との懇談会である文化財保存修理所協議会を26年9月11日及び27年3月5日に開催し、各工房の修理事業実施状況、修理所施設の維持・管理、工房内の温湿度をはじめとする保存環境改善に関する課題などを討議した。 ・館長以下博物館職員が定期的に文化財保存修理所各工房の修理実施状況を視察する修理所巡回を3回実施した。	B	文化財情報システムと連動して保存カルテの効率的な運用を計った。文化財保存修理所の各工房との連携を通じて、修理所の積極的な活用を行った。	B	保存カルテを順調に作成し、文化財保存修理所での修理につなげることができた。その成果を修理所公開や特集陳列「新たに修理された文化財」等で広く公開できた。
1214	（九州国立博物館） １）博物館科学・保存修復諸室を計画的に運用し、文化財の適切な保存・積極的活用を図る。	**【九州国立博物館】** 1)出品期間の更新または返却の時期に合わせて所在確認作業を行った。	B	保存状況と構造調査等を例年通り着実に実施す	B	文化財を永く次世代に伝えるため、保存・管理・

	２）より充実した業務システムの構築を目指す。	2)収蔵品及び修理完了資料を中心とした保存カルテを75件作成した。 (九州国立博物館) 1)収蔵品・展示品を中心にＸ線ＣＴスキャナ・３Ｄデジタイザ・三次元プリンタを用いて非接触で三次元データを取得し、保存状況と構造調査を実施した。測定結果をデータ化するとともに、３Ｄプリンタで出力した。このデジタルデータは文化財の保存に役立てると共に展示に反映した。また、保存修復施設1～6を運用し、計画的な保存修理事業を進めた。 2)現行システムの問題点を洗い出した結果を受け、新システムに向けた取り組みを行った。		ることができた。		調査等を例年通り着実に実施することができた。
	（２）－２　施設の環境整備 展示場、収蔵庫の老朽化に対応するとともに、温湿度、生物生息、空気汚染、地震等への対策を計画的かつ速やかに実施し、保存・管理・活用のための環境を整備する。 （４館共通） １）収蔵品の生物被害を防止するため、ＩＰＭ（総合的有害生物管理）の徹底を図る。	**（２）－２　施設の環境整備**				
1221	（東京国立博物館） １）本館収蔵庫の整備計画を作成しつつ、既存収蔵庫のセキュリティ強化、環境改善の工事を実施する。 ２）収蔵品の保存と展示に関する環境について全館的視野にたって調査研究を進め、環境データの解析・蓄積を行う。 ３）展示場及び収蔵庫における地震対策の再検討と改善を図る。 ４）収蔵庫、展示室の温湿度、汚染気体など保存環境に関する年次報告を整備する。 ５）輸送中の文化財に生じる振動及び衝撃に関する計測と調査を実施する。	**【東京国立博物館】** (4館共通) 1)収蔵庫など325地点における生物生息状況を夏季に調査した。また、ゴキブリなどの生活害虫を防除するため、夏季に防虫薬剤を全館に設置した。 (東京国立博物館) 1)設備と収納を評価するための各項目を設定し、本館に存在する収蔵庫18箇所の収蔵実態について悉皆調査を実施した。調査によって収蔵庫全体の整備計画に必要な情報を収集、整理した。 2)収蔵庫及び展示室など367地点の温湿度を計測し、環境の評価及び処置を実施した。空気環境に関しては、収蔵庫及び外気など11地点におけるアルデヒド類及び有機酸類などを計測し、蓄積した。 3)平成館1階展示室改修工事に伴う新規導入免震台の加振実験を行い、免震効果を検証した。東洋館展示室に陳列する資料の支持具を新規製作し、地震対策を強化した。 4)収蔵庫、展示室など258ヵ所の温湿度、及び11地点の空気汚染物質濃度に関し年次報告書を整備した。	B	生物生息、温湿度、輸送中の振動、免震装置の効果などに関する調査と検証を実施し、文化財を保存するための環境の整備に役立てた。	B	展示、収蔵スペースの保存環境の質的向上を計画的に進めるため、各種の環境データの集積と解析によって、環境改善を効果的に進めることができた。

		5)クリーブランド美術館からの国際輸送、特別展「みちのくの仏像」、特別展「3.11大津波と文化財の再生」出品作品の国内輸送において、輸送中に発生する振動･衝撃の計測を実施した。				
1222	（京都国立博物館） 1）平成知新館（新平常展示館）の講堂ほかの先行運用を開始し、9月に全館開館する。 2）平成知新館の開館までに、空調による調整開始前の空気環境、粉塵等の環境調査を行い、開館後の効率的な展示収蔵環境の維持管理に役立てる。 3）明治古都館（特別展示館、旧本館）の免震補強ほかの改修を前提として活用計画を策定する。 4）明治古都館の温湿度など、展示・保存環境に関わる調査研究を行う。	**【京都国立博物館】** （4館共通） 1)年間を通じて、収蔵庫での網羅的な昆虫類生息調査を行った。また、温湿度モニタリングを拡大した。日常清掃のための備品を拡充した。 （京都国立博物館） 1)25年度に展示製作工事が完了した平成知新館（新館）は枯らし期間を終えて26年9月13日より一般公開を開始し、初回展示「京へのいざない」は連日、1万人前後に上る多数の来館者を迎えたが、温湿度制御監視により適正な環境を維持した。 2)平成知新館では、空気環境目標が達成され、新しい展示ケースと収蔵庫については、収蔵・展示前に専門的な虫菌害調査と除塵清拭清掃を行った。 3)明治古都館(本館)免震補強ほかの準備として、保存活用計画報告書の原案を作成した。 4)明治古都館、東収蔵庫等では、温湿度モニタリングや昆虫類生息調査等に基づいた、効率的な環境維持を目指した。北収蔵庫の適切な空調運転体制の整備を図った。	B	平成知新館の環境を万全に整えて開館し、収蔵品・寄託品の移動を行うことができた。	B	新館収蔵庫の管理システムを構築し、生物･カビの調査、気流調査を実施する等、順調に成果をあげた。
1223	（奈良国立博物館） 1）展示室及び展示ケースの温湿度管理について、無線ＬＡＮによるデータ管理システムを更に充実させる。 2）展示ケース内の温湿度･粉塵量などを継続的に計測し、ケースの調湿性能や気密性能の向上を図る。 3）収蔵庫及び展示室の適正な温湿度管理の徹底を図る。	**【奈良国立博物館】** （4館共通） 1)・館内の文化財害虫生息状況を把握するため、文化財の保管及び展示にかかわる箇所を中心に、昆虫調査用トラップを2ヵ月に1回設置・回収し、調査結果の蓄積・分析を行った。 ・文化財害虫の生息が確認された展示室・展示ケースを中心に防虫シートの設置や殺虫処置を行い、併せて展示施設の周囲に害虫忌避剤を散布した。 ・収蔵庫周辺や展示室内、調査室内の衛生環境保持のため、掃除と防塵マット交換を定期的に実施した。 （奈良国立博物館） 1)展示室及び展示ケース内の温湿度の管理をすることができる無線ＬＡＮによるリアルタイムの温湿度管理システムにより、正倉院展のような多数の観覧者がもたらす展示室内の温湿度環境の変化に、科学的データを以て即時に対応した。	B	無線 LAN 温湿度管理、文化財害虫調査用トラップの回収、展覧会の環境対応など、当初の計画通り実施できた。	B	調査で得られたデータの解析が進みつつあり、保存・展示環境のよりよい構築が進みつつある。
		2)・展覧会ごとに展示レイアウトに応じて無線ＬＡＮ温湿度センサーを設置し、期間中に得られたデータを展示終了後に分析して報告書を作成した。 ・正倉院展終了直後の26年11月13日に、毎年継続的に実施している展示ケース内の粉塵調査を宮内庁正倉院事務所研究員とともに行った。 3)展示室内の温湿度については無線ＬＡＮ温湿度管理システムにより24時間リアルタイムで状況を把握した。収蔵庫及び文化財保存修理所各工房内については、ロガータイプの温湿度センサーによる監視を継続するとともに、定期的にデータの回収、分析を行うことによって温湿度の変化を把握した。				
1224	（九州国立博物館） 1）館内の温湿度･空気質など保存環境に関するデータを蓄積する。 2）全館的視野に立った陳列品の展示・保存環境に係る調査研究を進め、環境データの蓄積解析を行う。	**【九州国立博物館】** （4館共通） 1)収蔵品の生物被害を防止するため、ＩＰＭの徹底を図った。文化財搬入に際し、ＩＰＭメンテナンスに基づく収蔵準備作業を実施すると共に、必要に応じて殺虫殺黴処理を実施した。 （九州国立博物館） 1)展示室に新たな温湿度モニタリング装置を導入し、より確実な温湿度データの蓄積を図った。収蔵庫、諸室等館内約 420 ヵ所にトラップを設置し、虫の侵入を調査して保存環境の改善を行った。 2）・収蔵庫にこれまでの温湿度データロガーとは別に、温湿度モニタリング装置を導入し、早期対策に努めた。 ・環境データを解析することで、海外より借用した文化財の安定した状態での展示に寄与することができた。	B	温湿度計測に関して新たなモニタリング装置を導入してより確実なデータの集積を図った。ＩＰＭ活動に関しては市民ボランティアや地元ＮＰＯ法人と連携して進めることができた。	B	新システムの導入（温湿度モニタリング装置）、地道な粘着トラップによる生息調査、環境のモニタリングにより、確かな環境整備を行うことができ順調である。中期計画の最終年度である次年度はこれまでの環境整備を見直し、次につながる環境整備システムを検討する。

(3)　計画的な修理

【中期目標】収蔵品の保存技術の向上に努めること。	
【中期計画】 (3)-1 修理を要する収蔵品等は、機構の保存科学及び修復技術担当者の連携の下、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品等から順次、計画的に修理する。 (3)-2 国立博物館の文化財保存修理所の整備・充実に努める。	**【主な計画上の評価指標】** ○緊急性の高い収蔵品等から計画的に修理を実施すること。 ○文化財保存修理所の整備・充実のための取組を行うこと。

(3)-3 収蔵品、寄託品の増加に伴う収蔵スペースの確保及び収蔵品の調査・研究並びに修理に伴う調査・研究のための基本設備の充実を図る。			○計画的な収蔵スペースの確保及び調査研究のための基本設備充実に向けた取り組みを行うこと。 **【25 年度評価における主な指摘事項】**			
処理番号	**年度計画**	**主な実績**	**自己評価**			
			年度		**中期**	
	（３）－１　収蔵品の修理 ①　計画的な修理及びデータの蓄積 修理、保存処理を要する収蔵品等については外部の専門家等との連携の下、緊急性の高い収蔵品から順次、計画的に修理する。 （４館共通） １）文化財の応急修理に積極的に取り組み、劣化の予防に努め、緊急性の高いものから80件（東京：40、京都：10、奈良：9、九州21）の本格修理を実施する。	**（３）－１　収蔵品の修理** **①　計画的な修理及びデータの蓄積**				
1311-1	（東京国立博物館） １）引き続き国宝・重要文化財の中長期修理計画を策定する。 ２）保存修復関係資料（前年度修理実施分）のデータベース化を図る。（70件）	**【東京国立博物館】** (4館共通) 1)紙本などの修理技術者として保存修復課に2名のアソシエイトフェローを配置し、館内で実施する館蔵品の本格修理、応急(対症)修理を本格化させた。作品の劣化予防のために413件の応急修理を実施し、緊急性の高いものから78件の本格修理を実施した。うち国宝2件、重要文化財1件、未指定品4件は寄附金による本格修理である。 (東京国立博物館) 1)修理計画立案に向け、国宝・重要文化財を含む305件の作品に関して修理仕様の検討を行い、中長期修理計画策定を進めた。 2)データベース構築のために25年度に本格修理を実施した93件の内、修理が完了した61件の修理内容についてデジタル化を実施した。 『東京国立博物館文化財修理報告書XV』を刊行した。	A	緊急性の高い本格修理及び応急修理、計画立案のための事前調査を計画的に実施し、厳しい経済的事情の中で国宝２件、重要文化財１件を含む修理を実施し、当初予定を上回る内容の成果を挙げた。合わせて修理関係資料のデータベース化を予定通り完了した。	B	事前調査、応急修理、本格修理の各段階で保存科学と修理技術が連携して保存修理事業に当たり、博物館活動に対して最適な作品修理を行うことができた。
1312-1	（京都国立博物館） １）中長期的修理計画の策定を検討する。 ２）収蔵品修理資料のデータベース化に向けた調査を開始する。	**【京都国立博物館】** (4館共通) 1)・館費による修理に加えて、館への寄附金による修理を1件新規で実施し、平成24年度より朝日新聞文化財団の修理助成にて継続して行われている修理を1件実施した。 ・絵画2件と漆工1件について、修理中に修理請負候補者選定委員による工程検査を行い、修理が適正に実施されているかを現場確認した。 ・本格修理実績　11件　内訳は絵画4件、金工1件、漆工1件、染織3件、考古1件、歴史資料1件 (京都国立博物館) 1)中長期的修理計画の策定に向けて、確保できる財源についての検討を行い、昨年度に引き続いて各分野の作品担当と実施作品についての調整を行った。 2)昨年度から引き続いて、収蔵品データベースの更新計画に修理情報の集積を盛り込むことを念頭に、必要項目の洗い出しとデータ状況の確認を行った。	B	今年度の修理件数は当初目標値の 10 件を超えており、懸案であった指定品の修理にも着手できた。	B	緊急性の高い重要文化財の屏風作品の修理に着手しており、計画達成に向けて順調に成果を上げている。
1313-1	（奈良国立博物館） １）引き続き修理の中長期的計画に基づき修理を実施する。 ２）修理資料のデータベース化を図る。 ３）寄託の継続を図る必要性の高い寄託品について修理を実施する。	**【奈良国立博物館】** (4館共通) 1)・館蔵品修理10件（応急修理1件含む）のうち、新規7件、前年度からの継続事業3件を実施した。 内訳　絵画4件　（※うち絹本著色六字経曼荼羅1件は2ヵ年継続事業の最終年度。絹本著色山越阿弥陀図1件は3ヵ年継続事業の1年目。紙本著色泣不動縁起及び絹本著色東大寺曼荼羅2件は2ヵ年継続事業の1年目。） 書跡1件 工芸2件　（※うち国宝 刺繍釈迦説法図1件は4ヵ年継続事業の3年目） 考古資料3件（※うち二塚古墳出土鉄製品1件は2ヵ年事業の最終年度。） ・年度内に6件が完了した。 (奈良国立博物館) 1)平成22年度に策定した館蔵品の長期修理計画に基づき、計画通りに館蔵品修理を実施している。	B	22 年度に策定した館蔵品の長期修理計画に基づいて館蔵品の修理を実施するとともに、文化財保存修理所で行われた文化財修理のデータベース化を着実に実施した。	B	館蔵品、寄託品について長期計画に基づきながら修理を着実に実施することができた。修理に際しては、当館保存担当者が光学的調査を実施してその所見を修理仕様に反映するとともに、修理監督についても当館研究員が適宜行った。

		2)前年度に引き続き、当館紀要『鹿園雑集』に「奈良国立博物館文化財保存修理所 修理一覧の掲載作業を進めるとともに、併せて修理報告資料を整理し、データベース化を進めた。 3)寄託品３件について当館の推薦による財団助成を受けて修理を実施した。				
1314-1	（九州国立博物館） １）博物館科学・保存修復諸室の積極的活用を図る。 ２）修理資料のデータベース化の調査を実施する。	**【九州国立博物館】** （4館共通） 1)館所蔵品を中心に、展示や損傷の程度を勘案して、緊急性の高い文化財29件（本格修理23件、応急修理6件）を修理した。 （九州国立博物館） 1)九州をはじめとする館外所蔵者負担による文化財修理32件のために、当館の保存修復諸施設を積極的に活用した。館費による修理とあわせて61件の修理を実施した（施設内修理58件、施設外修理3件合計61件）。このうち、九州の寺院に伝来した重要美術品・両界曼荼羅（奈良国立博物館所蔵）については、長期貸与を前提として3年間かけて当館経費で本格修理を行っている。この修理において奈良国立博物館の保存修理担当者と連携して調査を行い、修理を進めているところである。 2)修理報告書及び修理経過を示す画像データを整理して、データベース化に備えた。	B	館費による本格修理件数ならびに館外所蔵者負担による文化財修理件数は徐々に増加しており、年度計画を順調に達成していると判断できる。	B	機構の保存修復担当者と連携しながら修理を進めており、中期計画を順調に達成していると判断できる。
	②　科学的な技術を取り入れた修理 伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術を取り入れた修理を実施する。 （４館共通） １）紙本文化財について、繊維同定を行い、文化財の材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。 ２）修理前あるいは修理中に、蛍光Ｘ線分析、Ｘ線透過撮影などの光学的調査を行い、文化財の材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。	**②　科学的な技術を取り入れた修理**				
1311-2	（東京国立博物館） １）Ｘ線ＣＴスキャナを運用し、研究の進展を図り、より適切な修理方法を検討する。	**【東京国立博物館】** ・東京国立博物館でもより深い文化財調査を行うべく、性能の違う３台のＸ線ＣＴスキャナーを設置し、研究を開始した。 所蔵品の貸与前の点検時に亀裂等の確認を行うことで適切で安全な輸送方法の検討を行えるようになった。大型Ｘ線 CT を用いた他の研究機関との共同による調査研究も進み、今後の研究の進展が期待できる。また、東日本大震災で被災した文化財の修理前調査を行い、適切な修理方法の設計、施工を行うことが出来た。	B	蛍光Ｘ線分析、赤外線撮影、Ｘ線透過撮影など従来から運用している分析方法に加え、Ｘ線ＣＴスキャナーの導入により多面的に文化財の内部構造あるいは状態を確認することが可能になり、本格修理や調査研究に対して精度の高い基礎情報を提供できた。	B	東日本大震災で被災した文化財の修理のための事前調査を始めとして、各種の文化財の保存状態確認のための調査を修理技術者、学芸研究者らと共に実施し、具体的な修理の仕様策定に結びつけることができた。
1312-2	（京都国立博物館） １）文化財材質分析システム等を整備する。	**【京都国立博物館】** （4館共通） 1) 24年度より朝日新聞文化財団の助成にて修理を継続している国宝「病草紙」について、本紙の裏面に接着する肌裏紙の分析（明度・色目・紙厚・簀目）を行い、修理完成にむけた指針の策定に役立てた。 2)25年度に設置したマイクロフォーカスＸ線ＣＴシステムの運用を開始し、文化財の調査を行った結果、内部構造の解明、修理に資することが出来た。 （京都国立博物館） 1)電子顕微鏡システム、３Ｄプリンター、蛍光Ｘ線分析装置などの機器を新たに調達した。	B	分析機器の整備を進め、科学的な手法を取り入れるための基礎を整えることができた。	B	科学的な手法を加味した、より精度の高い保存修理の実現に向け、順調に成果を上げている。
1313-2	（奈良国立博物館） １）木造文化財について、木材樹種同定の調査を行い、文化財の材料の解明及び修理指針の検討に役立てる。 ２）古墳出土の甲冑片、武具等鉄製品、木造彫刻などのＸ線撮影及び実測図作成を順次進め、材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。	**【奈良国立博物館】** （4館共通） 1) 紺紙金地五苦章句経の修理に際して料紙の繊維分析を実施し、補紙として用いる紙の仕様を決定した。（実施回数1回） 2)・小野流相承絵系図の修理に際し、当館光学調査室の機器を用いて顔料の蛍光Ｘ線分析を実施した。（実施回数2回） ・花鳥蒔絵螺鈿櫃（阪急文化財団蔵）の修理に際し、当館研究員がＸ線透過撮影を実施し、蝶番金具の固定に関する調査を行った。（実施回数4回） （奈良国立博物館）	B	文化財の修理に際し、光学的調査を連携して随時行うことで、修理の指針に役立てることができた。	B	携帯型蛍光Ｘ線分析装置を導入し、修理現場で光学的調査を随時実施する体制が整いつつある。

1314-2		1)当館文化財保存修理所で修理施工された木造彫刻作品11件について、京都大学生存圏研究所に委託して樹種同定調査を実施し、その成果を当館研究紀要『鹿園雑集』に掲載した。 2) 古墳出土の鉄器を中心とする館蔵考古資料の修理に際し、X線透過撮影を実施し、修理方針の決定に役立てた。 **【九州国立博物館】** (4館共通) 1) 当館所蔵国宝栄花物語及び重要文化財布袋図等の紙本作品９件について繊維同定を行った。 2)・当館所蔵物語図屏風(A75)について、現状二曲屏風であるが、表現や本紙の状況から度重なる改装が行われていることが予想されたため、絵の具の顕微鏡観察と蛍光X線分析を行った。その結果、予想された改装順序に矛盾が無いことが判明した。 ・当館所蔵朱漆螺鈿二層(ME1)については近代の作品であったため、使用されている赤色着色材料が有機化合物である可能性も考慮しX線回折分析を行った。その結果、着色材料は無期化合物である朱（HgS）であることが明らかになった。 ・前年度調査を行った当館所蔵仏涅槃図命尊筆(A74)の裏彩色に用いられた彩色材料の調査結果について、修理完成記念特別公開も兼ねた当館トピック展示「大涅槃展」でパネルを用いて展示するとともに、展示図録にも掲載し、一般の方々へ修理に伴う科学調査の必要性を伝えることができた。	B	紙本文化財の繊維同定を行うことによって適切な補修紙の作成を行うことができた。また、文化財の修理履歴について、目視だけに頼っていたものをより客観的に判断することができた。以上から年度計画を順調に達成していると判断できる。	B	科学調査の件数も毎年10件前後と安定しており、中期計画を順調に達成していると判断できる。
1320	**（３）－２　国立博物館の文化財保存修理所の整備・充実に努める。** （京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館） １）文化財保存修理所等の整備・充実に向けた検討を行う。 （京都国立博物館） １）文化財保存修理所の改修工事を行う。	**（３）－２　国立博物館の文化財保存修理所の整備・充実に努める。** **【京都・奈良・九州国立博物館】** （京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館） 1)・京都国立博物館の文化財保存修理所の空調機を点検し、空調機内の中性能フィルターを一部の空調機で交換した。 ・奈良国立博物館の文化財保存修理所の空調機を点検し、空調機内のプレフィルター及び活性炭フィルターを一部の空調機で交換した。 ・九州国立博物館の保存修復施設について、室内温湿度環境の改善の検討を行った。 ・九州国立博物館の保存修復施設において、修理件数の増加に伴い、修復収蔵庫内の既存木製棚に棚板を増段した。	B	３館とも文化財保存修理所等の整備・充実に向けた検討を行い、必要に応じて改善を実施しており、年度計画を達成している。京都国立博物館文化財保存修理所の改修工事も順調に進行している。	B	京都国立博物館文化財保存修理所の大規模修理を行うなど、中期計画を順調に達成している。
1330	（３）－３　収蔵品、寄託品の増加に伴う収蔵スペースの確保及び収蔵品の調査研究並びに修理に伴う調査研究のための基本設備の充実に向けた検討を行う。	**（３）－３　収蔵品、寄託品の増加に伴う収蔵スペースの確保及び収蔵品の調査研究並びに修理に伴う調査研究のための基本設備の充実に向けた検討を行う。** **【東京・京都・奈良・九州国立博物館】** （東京国立博物館） ・東洋館2階の収蔵庫に棚を設置し、収納の効率化を図った。 ・資料館3階の収蔵庫を整理し、より効率的な収納が可能となるよう収蔵品を移動した。 （京都国立博物館） ・X線ＣＴを導入し、調査研究に活用することを始めた。今後、電子顕微鏡、蛍光X線分析装置等の科学機器を設置することで、調査研究の充実を図ることができる。 ・平成知新館にて「環境モニタリングシステム」の運用を開始し、温湿度環境の維持に役立てることができた。 ・北収蔵庫１階に新たな収納棚を設置し、収蔵スペースを確保した。 ・京都府精華町の旧私のしごと館の収蔵庫整備を設計し、着手した。 ・平成知新館のフィルム保管室に、独立した空調機を１機増設した。 （奈良国立博物館） ・複数室一体で温湿度管理を実施していた箇所について、詳細な温湿度管理に向けて各部屋毎に計測器を設置した。 ・X線装置の設置に伴い、機器の有効利用に向けた施設改修の検討を行った。 （九州国立博物館） ・これまで空席であった撮影技師の採用に向け、写場及び撮影機材の整備・拡充に努めた。 ・写場の専属撮影技師の作業スペースとして、写場隣にある器材庫の改修を行った。(27年３月) ・九州国立博物館の保存修復施設では、近年、古文書や歴史資料等の大量一括紙文化財の修理事業が年々増加してきており、将来的に修復施設が手狭になることが予想されるため、外部専門家を交えて空調や修復作業の安全性等を考慮した中二階増設のための検討を行った。 （京都国立博物館） 1) 文化財保存修理所改修工事（一期工事）を完了した。また、電気設備及び機械設備の改修工事に着手した。	B	順調に成果をあげている。例えば、京都国立博物館では科学機器を備えることができ、九州国立博物館では写場及び撮影機材の整備・拡充を図るなど、調査研究のための設備の充実を行うことができた。	B	京都国立博物館では収蔵庫のスペースを新たに確保するなど、中期計画に基づき順調に成果をあげている。

		定量評価項目	26 年度	25 年度	目標値	評価
		文化財の本格修理(件)				
		東京国立博物館	78	93	40	A
		京都国立博物館	11	15	10	B
		奈良国立博物館	9	8	9	B
		九州国立博物館	23	17	21	B
		文化財修理のデータベース化(件)				
		東京国立博物館	86	84	70	A
		京都国立博物館	113	101	－	－
		奈良国立博物館	77	73	－	－

２　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

(1)　展示の充実

【中期目標】　文化財を活用して日本及びアジア諸地域の歴史・伝統文化を国内外へ発信するため、展示、教育活動、広報の充実を図ること。

(1)展覧事業の充実

我が国の中核的拠点として、展覧事業については常に点検・評価を行うなど改善への取組みを進め、日本及びアジア諸地域の歴史・伝統文化を国内外に発信し、これらについての理解促進に寄与するものとなるように努めること。

①展覧事業の中核である平常展は、歴史・伝統文化についての理解に資するよう、体系的・通史的な展示に努めるとともに、各館の収蔵品を法人全体として有効活用した魅力ある展示を行うこと。また、より多くの方々に我が国の歴史・文化財の理解を深めてもらうため、来館者の増加に努めること。さらに海外からの来訪者が必ず訪れる博物館を目指し、魅力ある展示と展示に関する説明を一層充実させること。

②特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行うこと。また、展示方法、解説などについて機構の人的資源を最大限に生かした魅力あるものを提供すること。また、展示内容・展覧環境を踏まえた適切な来館者数の確保に努めること。

③海外に向けても機構の各博物館の収蔵する日本の優れた文化財と優れた人材を活用して、我が国の歴史と伝統文化を紹介する機会の拡充に努めること。

【中期計画】

文化財を活用して日本及びアジア諸地域の歴史・伝統文化を国内外へ発信するため、展示、教育活動、広報の充実を図るとともに、政府の観光政策と連動した観光資源としても活用を図る。

(1)展覧事業の充実

我が国の中核的拠点として、展覧事業については、常に点検・評価を行い国民のニーズ、学術的動向等を踏まえた質の高いものを実施するとともに、展覧会を開催するにあたっては、開催目的、期待する成果、学術的意義を明確にし、国際文化交流に配慮するなど魅力あるものとする。

また、見やすさ分かりやすさに配慮した展示及び解説や音声ガイド等の導入を行うことにより、日本及びアジア諸地域の歴史・伝統文化についての理解を深めるものとなるよう工夫する。

①－１平常展は、展覧事業の中核と位置付け、各国立博物館の特色を十分に発揮した体系的・通史的なものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本及びアジア諸地域の歴史・伝統文化の理解の促進に寄与する展示を実施し、国内外からの来館者の増加を図る。

なお、京都国立博物館においては、耐震化を図るための平常展示館建て替え終了後、国際文化観光都市･京都において京都文化発信の核となる博物館を目指した平常展を平成 26 年度までに開催する。

①－２　展示に関する説明を一層充実させることに努め、作品キャプションについては全てに英語訳を付すとともに、展示テーマ毎にその時代背景等を説明した外国語パネル等を８０％以上設置する。

②特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。

特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。

（東京国立博物館）　　年３～４回程度

【主な計画上の評価指標】

○国民のニーズや学術的動向等を踏まえた質の高いものとすること。

○観覧者の理解が深まるよう展示・解説を工夫すること。

(平常展)

○平展覧事業の中核として、各館の特色を十分に発揮した体系的・通史的な展示とすること。

○作品のキャプションについては、すべてに英語訳を付すこと。

○海外からの来館者向けに、展示テーマごとに外国語の解説パネル等を 80%以上設置すること。

(特別展)

○我が国の博物館の中核的拠点にふさわしい質の高い展示とすること。

○各館ごとに以下の回数程度の特別展を実施すること。

東京国立博物館　3～4 回

京都国立博物館　奈良国立博物館　九州国立博物館　2～3 回

○個々の展覧会ごとに、展示内容・観覧環境を踏まえた目標入館者数を定め、それを達成すること。

○展覧会来館者の満足度を把握し、改善を図ること。

○海外において展覧会を開催し、日本の歴史と伝統文化を紹介すること。

【25 年度評価における主な指摘事項】

○各館における特別展・平常展の個々について、展示内容と来館者数等の自己評価がなされているが、その結果を次年度以降の展示に如何に反映させるか、必ずしも明確に示されていない。展示の質を高め、来館者数を増加させるための重要な作業と思われる

（京都国立博物館）　　年２～３回程度 （奈良国立博物館）　　年２～３回程度 （九州国立博物館）　　年２～３回程度 ③海外からの要請等に応じて、海外において展覧会等を行うことにより、日本の優れた文化財をもとにした歴史と伝統文化を紹介する。			○平常展示の充実は、博物館として本来あるべき姿を追求するものであり、今後も創意工夫の元に一層の充実を図られたい。京都国立博物館の平常展示施設が開業されれば、さらなる進展が期待される。			
処理番号	年度計画	主な実績	自己評価			
			年度		中期	
	（１）展覧事業の充実 東京、京都、奈良、九州４館それぞれの特色を活かし、国内はもとより、海外からも国立博物館を訪れたくなるような魅力ある平常展や特別展を実施する。 **①　－１　平常展** 展観事業の中核と位置づけ、各国立博物館の特色を十分発揮した特集陳列等を実施し、国内外からの来館者の増加を図る。 （４館共通） 平常展来館者数について、各施設の工事等による影響を勘案し、前中期計画期間の年度平均の確保を目指す。	**（１）展覧事業の充実** **①－１　平常展**				
2111-1	（東京国立博物館） ア　定期的な陳列替の実施（年5,800件） イ　陳列総件数　約7,500件 ウ　本館「日本美術の流れ」を始めとする日本美術関係の展示、平成館の日本考古展示の更なる充実を図る。平成27年1月より黒田記念館の一般公開を再開する。黒田記念館内の展示室のうち黒田記念室については本館等と同様、原則週6日の公開とする。 エ　特集 特別展「日本国宝展」の開催に合わせた「国宝再現―田中親美と模写の世界―」(10月15日～12月7日）を開催する。東洋館の展示を中核に据えた「博物館でアジアの旅」期間を秋に設け、「中国書画精華」（9月30日～12月7日）、「唐物ってなに？　唐物受容のその後」（9月30日～11月24日）などを開催する。すでに恒例となった「博物館に初もうで」関連企画、上野動物園・国立科学博物館との動物を取り上げた連携企画、台東区立書道博物館との連携企画「趙之謙の書画と北魏の書」（7月29日～9月28日）などを実施する。 ・「日本人が愛した官窯青磁」（5月27日～10月13日） ・「伊能忠敬の日本図」（6月24日～8月17日） ・「甦った飛鳥・奈良染織の美―初公開の法隆寺裂―」（8月19日～9月15日）等 オ　文化庁関係企画 ・「平成26年 新指定 国宝・重要文化財」（仮称）（4月22日～5月11日） 平成26年に新たに国宝・重要文化財に指定される文化財を展示する。	**【東京国立博物館】** (4館共通) 総合文化展(平常展)は、平成館1階考古展示室が27年10月のリニューアルオープンに向け、26年12月～27年3月まで工事のため閉室したが、黒田記念館のリニューアルオープンや「博物館に初もうで」などの事業の充実によって、平常展来館者数の目標値である前中期計画期間の年度平均を上回った。 （東京国立博物館） ア　定期的な陳列替を実施し、5,506件の展示替を行った。 イ　陳列総件数　8,161件 ウ　展示ケースの修理点検、清掃などで保存環境及び観覧環境の向上を図った。東洋館・法隆寺宝物館の展示ケースの補修を行った。また、26年12月より平成館1階考古展示室を閉室し、展示環境の改善のための工事を開始した（27年10月再開予定）。耐震改修のため24年4月8日より休館していた黒田記念館は、27年1月2日より展示を再開した。以前は週2日の限定公開であったが、再開後は東京国立博物館の休館日・開館時間に準じた。 エ　22件の特集を実施した。 オ　「平成26年 新指定国宝・重要文化財」を実施した(26年4月22日～5月11日)。また、新指定の重要文化財となった彫刻の一部を、同時期の本館11室においても展示した。	B	本館特別１室を緊急に改修する必要があったため陳列替件数が目標に達しなかったが、黒田記念館のリニューアルオープンや「博物館に初もうで」などの事業の充実によって目標を上回る来館者があった。	B	平常展示とともに、テーマ性を持った特集展示、「博物館でアジアの秋」などのイベント等を充実させることによって国内外の多くの来館者があり、中期計画に向け順調にすすんでいる。
2112-1	（京都国立博物館） ア　平成26年9月13日に平成知新館を開館し、平成知新館開館記念展「京（みやこ）へのいざない」を開催する（9月13日～11月16日）。 イ　定期的な陳列替を行い、テーマ性を持った展示を行う。（陳列替件数　年700件） ウ　陳列総件数　約1,000件 エ　特別展示室において、部門を超えた特別展示を行う。 オ　特集陳列 ・「ひなまつりと人形」（平成 27 年 2 月 21 日～4 月 7 日）	**【京都国立博物館】** ア　26年9月13日に平成知新館を開館し、平成知新館開館記念展「京（みやこ）へのいざない」を開催した（26年9月13日～11月16日）。 イ　定期的な陳列替を行い、各展示室ごとにテーマ性を持った展示を行った。（陳列替件数 693件） ウ　陳列総件数 980件 エ　特別展示「桃山 秀吉とその周辺」（26年10月13日～11月16日）、特別展観「島根鰐淵寺の名宝」（27年1月2日～2月15日）等、特別展示室において、分野を超えた特別展示を行った。 オ　特集陳列「雛まつりと人形」（27年2月21日～4月7日）、特別展観「天野山金剛寺の名宝」（27年3月4日～3月29日）を開催した。	A	判定根拠：陳列替件数・陳列総件数は目標値をわずかに下回ったものの、粒よりの名品を効果的に展示したことにより、予期以上の好評を博し、目標値の4倍以上に達する来館者を迎えることができた。 対応と課題：26年秋の混雑した平成知新館も新年度では沈静化が見込まれるので来館者確保のために各種特集陳列の企画・広	A	判定根拠：平成知新館の開館に伴い京都文化の様相をよく示す「京へのいざない」展を開催することによって日本人およびアジア・欧米からの来館者に向けて日本の伝統美術工芸作品を紹介することができた。音声ガイドも日・英・中・韓の4言語を用意して来館者対応を強化した。 課題と対応：京都文化の本質を

				報及びイベントの実施などを強化して来館者減を極力抑えるように努める。		紹介できる平常展示・特集陳列を積極的に推進することが欠かせない。
2113-1-1	（奈良国立博物館） ア　活発な収集と新しい資料の発掘により名品展（平常展）の充実を図る。 ・西新館　絵画・書跡・工芸・考古部門の名品展絵画・書跡・工芸・考古の各ジャンルにわたる日本仏教美術の粋ともいうべき作品群を展示する。 ・なら仏像館　彫刻部門の名品展 大きな仏像を中心に、できるだけケース外での展示を増やし、より見やすい環境で、優れた仏教彫刻を展示する。（ただし年度の下半期は展示ケース等改修工事のため休館予定） ・青銅器館　中国青銅器の名品展 国内における屈指の青銅器コレクションを展示する。 ・特集展示コーナー等を設け、観覧者の関心を喚起する。	**【奈良国立博物館】** (4館共通) 平常展来館者数は、今年度の目標値である94,338人を若干下回った。なお目標値は、工事による閉館を勘案して補正した。 (奈良国立博物館) ア　名品展においては、多数の優れた文化財をバランス良く展示することができた。 ・西新館　彫刻・絵画・書跡・工芸・考古部門の名品展 26年12月9日～27年3月31日の日程で開催した。なら仏像館の休館に伴い、彫刻の一部を西新館名品展で陳列した。 ・なら仏像館　彫刻部門の名品展 26年4月1日～9月7日の日程で開催した。館内では通常展示のほか、以下の特別公開を実施した。 特別公開「金剛寺　降三世明王坐像」（23年10月24日～26年9月7日） 特別公開「定朝様の丈六阿弥陀像」（24年6月26日～26年9月7日） ・青銅器館　中国青銅器の名品展 館が所蔵する中国・商（殷）～漢時代までの青銅器の逸品を展示した。ただし、26年10月23日～11月12日は臨時休館した。また、26年9月9日以降は、上記休館期間を除き、観覧無料とした。 ・西新館で特集展示「新たに修理された文化財」（26年12月23日～27年1月18日）、及び特集展示「和紙―文化財を支える日本の紙―」（27年1月27日～3月15日）を開催した。	B	近年新たに見出され当館寄託となった内山永久寺の扁額を展示するなど、新資料の公開に成果を上げた。	B	当館の特色である仏教美術のテーマに沿って、時に特別公開や特集展示を設けながら、充実した平常展を実施できている。
2113-1-2	イ　定期的な陳列替の実施（年80件） ウ　陳列総件数　約475件 エ　特別陳列により名品展の充実を図る。 独創的な研究テーマ及び地域に密着した研究テーマによる特別陳列の充実 ・「おん祭と春日信仰の美術」（12月9日～平成27年1月18日） ・「お水取り」（平成27年2月7日～3月15日）	(奈良国立博物館) イ　定期的な陳列替を実施し、208件を替えた。 ウ　陳列総件数　791件（特別陳列を含む） エ　下記特別陳列を開催し、平常展の充実を図った。 ・特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」（26年12月9日～27年1月18日）陳列件数54件（陳列替13件） ・特別陳列「お水取り」（27年2月7日～3月15日）　陳列件数62件（陳列替2件）	B	奈良の地域に根ざした内容の特別陳列や世界的に価値の認められた和紙に関する特集展など、当館ならではの企画を織り込み、充実した平常展を展開することができた。	B	和紙に関する特集展示を組むなど、日本の伝統文化理解の促進に寄与する展示ができた。
2114-1	（九州国立博物館） ア　定期的な陳列替の実施（年800件） イ　陳列総件数　約1,000件 ウ　文化交流展（平常展）のリニューアルに向けて引き続き検討する。 エ　トピック展示により、独創的なテーマ及び地域に密着したテーマを掘り下げる。 ・「館蔵　近世絵画名品展」（平成26年2月25日～4月6日；4月8日～5月18日） ・「中国を旅した禅僧の足跡」（5月27日～7月6日） ・「全国高等学校　考古名品展」（7月15日～9月23日） ・「大涅槃展」（平成27年1月14日～2月15日）	**【九州国立博物館】** (4館共通) 平常展来館者数は、前中期計画期間の年度平均に届かなかった。 (九州国立博物館) ア　定期的かつ計画的に陳列替を実施し、1,027件の陳列替を行った。 イ　陳列総件数　1,904件 ウ　開館10周年のリニューアルに向けて、基本展示室のケース配置やグラフィックを抜本的に見直すべく、秋からテーマ会議を招集し、計画を進めた。 エ　独創的な着想に基づいたトピック展示・特別公開を11回開催し、新鮮な展示を提供することができた。	C	判定根拠：文化交流展示室の展覧会事業のうち、トピック展示・特別公開は特別展的な性質を持っており、当初想定していた来館者の動員を行うことができず、目標値に達することができなかった。 課題と対応：今後、平常展に関する広報を充実させ、かつ効率的に展開すべく広報戦略の見直しも含め、効果的に機能させることで対応していく。来館者増加につながるような広報のあり方について検討する必要がある。	B	判定根拠：全体として順調に推移している。 課題と対応：今後、広報戦略も含め実績の分析・対策を積極的に打っていくことで、来館者増加を図っていく。
	①－２　展示説明の充実	**①－２　展示説明の充実**				
2110-2	（４館共通） １)作品キャプションについては全てに英語訳を付す。	**【東京・京都・奈良・九州国立博物館】** 1)東京国立博物館、京都国立博物館、奈良国立博物館及び九州国立博物館の展示説明において作品キャプション全てに英語訳を付した。	B	４館とも作品キャプション英訳100%、テーマ	B	外国語パネルを設置することにより、外国語解

	２)展示テーマ毎にその時代背景等を説明した外国語パネル等を80%以上設置する。	2)展示テーマ毎にその時代背景等を説明した外国語パネル等を各館とも80%以上設置した。 (東京国立博物館)展示テーマ数131件のうち、131件(100%)について外国語パネルを設置した。また、74件(56%)については中国語、韓国語での解説も付している。 (京都国立博物館)展示テーマ数63件のうち、63件（100%）について外国語パネルを設置した。 (奈良国立博物館)展示テーマ数65件のうち、65件（100%）について外国語パネルを設置した。 (九州国立博物館) 展示テーマ数54件のうち、50件(92%)について外国語パネルを設置した。また、33件(61%)については中国語、韓国語での解説も付している。		解説英訳 80%以上であり、年度計画を達成している。加えて、中国語・韓国語による解説も整備が進んでいる、今年度リニューアルオープンの東京国立博物館黒田記念館(27 年 1 月 2 日)、京都国立博物館平成知新館(26 年 9 月 13 日)においても、海外からの来館者への対応ができており、順調である。		説の充実とサービスの向上に努め、中期計画達成に向け順調である。
2120	**②　特別展**	**②　特別展** **【東京・京都・奈良・九州国立博物館】** (東京国立博物館)特別展を8回開催した。 内訳：当館開催7回、海外展1回 (京都国立博物館)特別展を2回開催した。 (奈良国立博物館)特別展を3回開催した。 (九州国立博物館)特別展を5回開催した。	B	４館とも目標値を達成し、年度計画通り特別展を順調に開催できている。混雑対策については引き続き検討していく。	B	判定根拠：東京国立博物館においては年度計画外の特別展も開催するなど、４館とも中期計画達成に向けて順調である。 課題と対応：京都国立博物館では特別展会場である明治古都館の耐震強度が必ずしも充分ではないため、開催の在り方を検討

	（共同企画） ・「クリーブランド美術館展　－名画でたどる日本の美－」　（平成25年度 東京国立博物館、平成26年度 九州国立博物館） ・特別展「台北　國立故宮博物院　－神品至宝－」（平成26年度 東京国立博物館、九州国立博物館）	・「クリーブランド美術館展　－名画でたどる日本の美－」 九州国立博物館での開催については、処理番号2124-2 ・特別展「台北　國立故宮博物院　－神品至宝－」 東京国立博物館での開催については、処理番号2121-3 九州国立博物館での開催については、処理番号2124-3				する予定である。
2121-1	（東京国立博物館） ア　開山・栄西禅師800年遠忌　特別展「栄西と建仁寺」（平成26年3月25日～5月18日） 建仁寺開山・栄西の事跡と建仁寺の法脈をたどり、建仁寺に関わる文化にも注目する。（目標来館者数 20 万人）	**【東京国立博物館】** ・展覧会名　開山・栄西禅師 800年遠忌 特別展「栄西と建仁寺」 ・会　　期　26年3月25日（火）～ 5月18日（日）（49日間） ・会　　場　平成館 特別展示室第1～4室 ・主　　催　東京国立博物館、建仁寺、読売新聞社、NHK、NHKプロモーション ・協　　賛　ジェイティービー、日本写真印刷 ・協　　力　あいおいニッセイ同和損保 ・作品件数　183件(うち、国宝4件、重要文化財37件、重要美術品3件) ・来館者数　252,116人（目標200,000人・達成率126.1%） ・入場料金　一般1,600円(1,400円／1,300円)、大学生1,200円(1,000円／900円)、高校生900円(700円／600円)、中学生以下無料 ＊（　）内は前売り／20名以上の団体料金 ・アンケート結果　満足度72% 建仁寺山内の塔頭に伝わる工芸や絵画の名品、栄西をはじめとした建仁寺歴代名僧の書跡、全国の建仁寺派寺院などが所蔵する宝物を展示することで、近年研究の進展している栄西の著述のほか、建仁寺に関わりのある禅僧の活動を通して、栄西の伝えようとしたもの、そして建仁寺が日本文化の発展に果たした役割を広く検証することができた。	A	目標を大きく上回る来館者数を達成し、全国の建仁寺派寺院に関わる多様な分野の調査研究の成果をわかりやすく展示することができたため。	B	所期の目標を上回る来館者数を達成し、かつ質の高い展示ができたため。
2121-2	イ　特別展「キトラ古墳壁画」（4月22日～5月18日） キトラ古墳壁画の修理や、今後の保存活用の展開をより広く国民に紹介する。（目標来館者数 8.7 万人）	・展覧会名　特別展「キトラ古墳壁画」 ・会　　期　26年4月22日（火）～ 5月18日（日）（25日間） ・会　　場　本館　特別5室 ・主　　催　文化庁、東京国立博物館、東京文化財研究所、奈良文化財研究所、国土交通省近畿地方整備局、	A	目標を大きく上回る来館者数を達成し、かつ修理完了後には移動して展示する	B	所期の目標を上回る来館者数を達成し、積年の研究成果を各研究機関と連携し

		奈良県教育委員会、明日香村 ・共　　催　朝日新聞社 ・協　　賛　岡村印刷工業 ・特別協力　情報通信研究機構、大塚オーミ陶業、日本通運 ・作品件数　18件(そのほか、参考出品13件) ・来館者数　119,268人(目標87,000人・達成率137.1%) ・入場料金　一般900円(800円)、大学生700円(600円)、高校生400円(300円) 中学生以下無料 ＊(　)内は前売り・20名以上の団体料金 ・アンケート結果　満足度63% 我が国で２例目の大陸風極彩色壁画古墳であるキトラ古墳の保存管理への取り組みも紹介しながら、複製陶板により剥ぎ取り以前の壁画全体を実感してもらい、四神のうち高松塚古墳壁画では確認できなかった躍動的に描かれた朱雀やほぼ完全な姿で残る玄武などを広く紹介することができた。		ことが不可能な文化財を観覧できる貴重な機会を提供できたため。		て十全に提示できたため。
2121-3	ウ　特別展「台北　國立故宮博物院　－神品至宝－」(6月24日～9月15日) 台北故宮博物院の収蔵品の中から、北宋山水画、王羲之に始まる名筆、青磁・汝窯、玉器・青銅器などの名品を初めて日本で展示する。（目標来館者数45万人）	・展覧会名　特別展「台北 國立故宮博物院－神品至宝－」 ・会　　期　26年6月24日(火)～9月15日(月・祝)(78日間) ・会　　場　平成館、本館特別5室 ・特別後援　日華議員懇談会 ・主　　催　東京国立博物館、國立故宮博物院、ＮＨＫ、ＮＨＫプロモーション、読売新聞社、産経新聞社、フジテレビジョン、朝日新聞社、毎日新聞社、東京新聞 ・特別協力　ＴＢＳ、テレビ朝日、日本テレビ放送網、共同通信社 ・協　　力　チャイナ エアライン（中華航空） ・作品件数　186 件 ・来館者数　402,241人（目標450,000人・達成率89.4%） ・入場料金　一般1,600円(1,400円／1,300円)、大学生1,200円(1,000円／900円)、高校生700円(600円／500円)、中学生以下無料　＊(　)内は前売り／20名以上の団体料金 ・アンケート結果　満足度63% 「翠玉白菜」をはじめとする台北 國立故宮博物院が収蔵するひときわ優れた中国の文化財によって、中国文化の特質や素晴らしさを広く提示することができた。	A	所期の目標の来館者数に達しなかったが、我が国で初めて台北國立故宮博物院のコレクションを展示したことで国民に極めて貴重な鑑賞機会を提供できたため。	B	国民の知的好奇心を刺激する極めて貴重な展示機会となったため。

2121-4	エ　2014年日中韓国立博物館合同企画特別展「東アジアの華　陶磁名品展」（9月17日～11月24日予定) 日中韓国立博物館の合同企画として、東京国立博物館、中国国家博物館、韓国国立中央博物館それぞれの蔵品の中から、東アジアの陶磁器の名品を選び一堂に展示する。（目標来館者数3.4万人）	・展覧会名　2014年日中韓国立博物館合同企画特別展「東アジアの華 陶磁名品展」 ・会　　期　26年9月20日（土）～11月24日（月・休）（57日間） ・会　　場　本館　特別5室 ・主　　催　東京国立博物館、中国国家博物館、韓国国立中央博物館 ・作品件数　45件（うち、国宝1件、重要文化財10件） ・来館者数　65,075 人（目標 34,000 人・達成率 191.4%） ・入場料金　一般620円（520円）、大学生410円（310円）総合文化展観覧料、＊(　)内は20名以上の団体料金 ・アンケート結果　満足度60% 日本、中国、韓国の３ヵ国の国立博物館が合同で実施する初めての国際共同企画展という極めて意義深い展覧会となった。各館の陶磁器コレクションの特徴をふまえて厳選された名品を一堂に展示することによって、各国の陶磁器の特質をわかりやすく展示できた。	A	３ヵ国の国立博物館が合同で実施する初めての国際共同企画展であり、３カ国の陶磁器の特質を各国ブロックにより明確に区分した展示構成によって、わかりやすく示すことができた。さらに所期の目標を大きく上回る来館者数を集めた。	B	３ヵ国の国立博物館が合同で実施する初めての国際共同企画展という極めて意義深い展覧会を開催することができたため。
2121-5	オ　「日本国宝展」（10月15日～12月7日） 大切に継承されてきた「信ずるもの」の評価の結晶こそが「国宝」であると考え、国宝によって日本文化形成の精神をたどる。(目標来館者数35万人)	・展覧会名　「日本国宝展」 ・会　　期　26年10月15日（水）～ 12月7日（日）（47日間） ・会　　場　平成館　特別展示室第1～4室 ・主　　催　東京国立博物館、読売新聞社、ＮＨＫ、ＮＨＫプロモーション ・協　　賛　損保ジャパン日本興亜 、大伸社、日本通運、みずほ銀行 ・作品件数　130件（うち、国宝119件、正倉院宝物11件） ・来館者数　386,708人（目標350,000人・達成率110.5%） ・入場料金　一般1,600円(1,400円／1,300円)、大学生1,200円(1,000円／900円)、高校生900円(700円／600円) 中学生以下無料 ＊(　)内は前売り／20名以上の団体料金 ・アンケート結果　満足度70% 類い稀な国の宝としての「国宝」を人々の篤い信仰心が結実した文化的遺産として捉え、日本文化形成の精神を見つめ直し、日本文化の粋の結集を提示することができた。	B	所期の目標来館者数を達成することができ、かつ様々な分野の国宝によって、日本文化の信仰心がいかに表現されたかを広く提示することができたため。	B	所期の目標の来館者数を達成し、かつ「信じる」というテーマ設定により、質の高い展示ができたため。

2121-6	カ　特別展「みちのくの仏像」（平成27年1月14日～4月5日） 東京において、東北の優れた仏像がまとまって展示される初めての展覧会とする。（目標来館者数14万人）	・展覧会名　特別展「みちのくの仏像」 ・会　　期　27年1月14日（水）～4月5日（日）（73日間） ・会　　場　本館　特別5室 ・主　　催　東京国立博物館、ＮＨＫ、ＮＨＫプロモーション、読売新聞社 ・後　　援　文化庁、青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県 ・協　　賛　大伸社 ・協　　力　あいおいニッセイ同和損害保険 ・作品件数　19件（うち、国宝1件、重要文化財8件） ・来館者数　179,521人（目標140,000人・達成率128%） ・入場料金　一般1,000円(900円)、大学生700円(600円)、高校生400円(300円)、中学生以下無料 ＊(　)内は前売り・20名以上の団体料金 ・アンケート結果　満足度79% 「東北の三大薬師」とも称される、黒石寺・双林寺・勝常寺に伝わる薬師如来像が一堂に会して展示されるなど、東京において東北の仏像に的を絞って展示する初めての機会となり、東北の優れた仏像の特色を魅力的に示すことができた。	A	目標を上回る来館者数を達成し、かつ東京ではじめて東北地方の仏像をまとめて鑑賞できる貴重な機会を提供でき、東北の仏像の魅力を示せたため。	A	東北の優れた仏像を東京で初めて、まとめて展示したことで、その特色を十全に示すこととなり、さらに今後の東北地方の仏像研究に資することとなったため。
2121-7	（年度計画外に実施）	・展覧会名　特別展「3.11大津波と文化財の再生」 ・会　　期　27年1月14日（水）～3月15日（日）（53日間） ・会　　場　本館 特別2室・特別4室 ・主　　催　東京国立博物館、津波により被災した文化財の保存修復技術の構築と専門機関の連携に関するプロジェクト実行委員会 ・作品件数 73件(うち、登録有形民俗文化財4点) ・来館者数　この特別展は会場が平常展の一部で別途カウントを行っていない。 参考値：78,615人(開催期間中の平常展来館者数) ・アンケート結果　満足度59% 当館が、陸前高田市立博物館、岩手県立博物館やその他の機関と協力し、被災文化財の再生に取り組んできた約4年にわたる成果と現状を、修理に関わる具体例とともに示すことができた。	B	考古資料、歴史資料、仏像、民俗資料、自然史資料など多岐にわたる陳列された再生文化財によって具体的な再生事業を示すことができた。	B	約4年にわたる被災文化財の再生事業について、各関係研究機関と連携して十全に提示できたため。
	○目標来館者数の合計126.1万人（海外展、他館での開催展を除く。）	○東京国立博物館の特別展来館者数の合計(評価用)は1,404,929人 ※評価用：年度計画であげた特別展の来館者数合計 参考：統計用の合計は1,326,115人 ※統計用は26年4月1日～27年3月31日の特別展来館者数合計。なお、平常展料金の特別展は平常展来館者数に計上。				
2122-1	（京都国立博物館） ア　特別展覧会「南山城の古寺巡礼」（4月22日～6月15日） 京都府南部、木津川流域には奈良時代以来の古い寺院が分布している。この展示ではそれらの古寺に伝来した彫刻や絵画・工芸作品などの名宝を展示し、南山城地域（京都府南部木津川流域）の歴史と文化風土を紹介する。（目標来館者数5万人）	**【京都国立博物館】** ・展覧会名　特別展覧会「南山城の古寺巡礼」 ・会　　期　26年4月22日（火）～6月15日（日）（49日間） ・会　　場　京都国立博物館　明治古都館（本館） ・主　　催　京都国立博物館、朝日新聞社 ・後　　援　文化庁、京都府、木津川市、京田辺市、井手町、宇治田原町、笠置町、（公財）京都文化交流コンベンションビューロー ・協　　賛　岡村印刷工業、きんでん、京阪電気鉄道、竹中工務店、福寿園 ・特別協力　京都南山城古寺の会、飛鳥園 ・協　　力　日本香堂 ・作品件数　139件（うち、国宝2件、重要文化財27件） ・来館者数　69,443人（目標50,000人・達成率138.9%） ・入場料金　一般1,500円、大学・高校生900円、中学・小学生500円 ・アンケート結果　満足度92% 京都市と奈良市に挟まれて従来観光寺院としてはあまり注目されなかった南山城地域の小規模な寺院にスポットを当てた展覧会として、来館者の評価も高く、「現地でお寺を見てみたい」との感想が多く寄せられた。木津川流域の歴史と仏教文化のありかたへの理解が高まった展覧会であると評価できる。	A	共催新聞社の紙面広報も多数行われて目標来館者数を大きく上回った。同時期の関西地域の仏教彫像関係の展覧会と比較しても第一位の来館者数を数えた。	A	南山城地域の古寺に関して3年間にわたる京都国立博物館による文化財調査の結果を展覧会に反映できた。また出陳寺院との信頼関係が生まれて、展覧会後において文化財の一部の寄託を受けることができ、今後の平常陳列にも利用できるようになった。
2122-2	イ　特別展覧会「修理完成記念　国宝　鳥獣戯画と高山寺」（10月7日～11月24日） 平成21年から修理が行われていた、国宝「鳥獣人物戯画」4巻（高山寺蔵）の修理が平成25年3月をもって無事終了した。これを記念して修理後の国宝「鳥獣人物戯画」4巻を特別展覧会で一般に公開し、併せて高山寺の名宝の数々を公開する。（目標来館者数10万人）	・展覧会名　特別展覧会「修理完成記念　国宝　鳥獣戯画と高山寺」 ・会　　期　26年10月7日(火)～11月24日(月・休)(43日間) ・会　　場　京都国立博物館明治古都館（本館） ・主　　催　京都国立博物館、高山寺、朝日新聞社 ・後　　援　公益財団法人京都文化交流コンベンションビューロー ・特別協力　岡墨光堂 ・協　　力　朝日放送、日本香堂 ・協　　賛　カネカ、京都銀行、きんでん、JR西日本、竹中工務店、凸版印刷	A	判定根拠：目標値の倍以上に上る来館者数を達成し、図録販売数（31,366冊）、オーディオガイド利用台数（40,221台）なども大きな伸	A	来館者数をはじめとして、目標を大きく上回り、アンケート等でも多大な好評を得た。

		・作品件数　84件（うち、国宝8件、重要文化財54件） ・来館者数　203,900人（目標100,000人・達成率 203,9%） ・入場料金　一般1,500円、大学生1,200円、高校生900円、中学生以下無料 ・アンケート結果　満足度84% 予備調査や修理を通じて得られた最新の知見を盛り込みながら、鳥獣人物戯画を核として高山寺の名宝の数々を公開し、鎌倉時代を代表する僧明恵や「学問寺」である高山寺の文化財及び中世の日本文化に対する理解を深めることができた。		びを示すなど、全体的に予期した以上の実績を残すことができた。 課題と対応：待ち時間対策に工夫が必要であるため、引き続き検討する。		
	○目標来館者数の合計15万人	○京都国立博物館の特別展来館者数の合計は273,343人				
2123-1	（奈良国立博物館） ア　特別展「武家のみやこ　鎌倉の仏像－迫真とエキゾチシズム－」（4月5日～6月1日） 鎌倉の地に根づいた仏教文化の中から生まれた迫真性とエキゾチシズムに富んだ魅力ある仏像の数々を一挙紹介する。（目標来館者数５万人）	**【奈良国立博物館】** ・展覧会名　特別展「武家のみやこ　鎌倉の仏像　迫真とエキゾチシズム」 ・会　　期　26年4月5日（土）～6月1日（日）（51日間） ・会　　場　奈良国立博物館　東新館・西新館 ・主　　催　奈良国立博物館、鎌倉国宝館、読売新聞社 ・後　　援　文化庁、ＮＨＫ奈良放送局、奈良テレビ放送 ・協　　力　日本香堂、仏教美術協会 ・協　　賛　あいおいニッセイ同和損保、岩谷産業、大伸社、大和ハウス工業、非破壊検査 ・作品件数　53件(うち重要文化財26件) ・来館者数　37,022人（目標50,000人・達成率74.0%） ・入場料金　一般1,300円、高校・大学生800円、小・中学生500円 ・アンケート結果　満足度85% 関西においてはじめて東国の仏教美術の中心地である鎌倉の仏像の代表作を多数展示し、関西とは異なる東国独自のエキゾチックなものへの美意識を紹介できた。仏像を中心に、仏教美術を専門に展示し、その普及に努めている奈良国立博物館として、意義深い展覧会が行えた。	B	来館者数は目標値よりも下回ったが、関西において初めて鎌倉の仏像が一挙多数展示された本展覧会は、仏教美術を専門に展示し、その普及に努めている当館としては意義深く、また来館者アンケートでも好評であったことから充実した展覧会であった。	B	本展覧会の来館者数は目標値を下回ったが、関西ではじめて東国の中心である鎌倉の仏像に焦点を当てた展覧会を開催できたこと、また来館者アンケートでも好評であったことから我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行えたことは非常に意義深いものである。
2123-2	イ　醍醐寺文書聖教7万点 国宝指定記念特別展「国宝 醍醐寺のすべて ―密教のほとけと聖教―」（7月19日～9月15日） 醍醐寺の歴史を伝える古文書・聖教69,378点が国宝に指定されたことを記念し、平安時代から近世に至る醍醐寺の歴史と美術をたどる。（目標来館者数5万人）	・展覧会名　醍醐寺文書聖教７万点 国宝指定記念特別展 「国宝　醍醐寺のすべて―密教のほとけと聖教―」 ・会　　期　26年7月19日(土)～9月15日(月・祝)（52日間） ・会　　場　奈良国立博物館　東新館・西新館 ・主　　催　奈良国立博物館、総本山醍醐寺、日経新聞社 ・共　　催　ＮＨＫ奈良放送局 ・後　　援　文化庁、奈良テレビ放送 ・協　　賛　岩谷産業、オリックス、京都銀行、住友林業、ダイキン工業、大和ハウス工業 ・協　　力　朝日生命保険、日本香堂、日本通運、仏教美術協会 ・作品件数　192件（うち、国宝62件、重要文化財85件） ・来館者数　78,476人（目標50,000人・達成率157.0%） ・入場料金　一般1,500円、高校・大学生1,000円、小・中学生500円 ・アンケート結果　満足度84% 本展覧会のメインテーマに据えた下記の3つの要素について、展示構成に十分反映させることができ、また観覧者からの評価を得た。 ・従来注目されていなかった醍醐寺と奈良の歴史的結びつきへの着目。 ・単なる名品紹介や時代順展示ではなく、醍醐寺の歴史的特色と役割を明確に打ち出す展示構成。 ・「醍醐寺文書聖教７万点」の実態とその重要性について取り上げ、通常注目されにくい文書聖教を主要な展示作品として扱い、観覧者の興味を引き出した。 また国宝指定に至る文書聖教の保存と管理の歴史を取り上げ、現在の文化財保存に結びつくテーマにスポットを当てた。	A	単なる寺宝展とは一線を画し、醍醐寺文書聖教の重要性と醍醐寺の歴史を理解できる展示構成を実現し、目標値の 1.5 倍の来館者数を達成した。	A	長年の調査により 25 年度に国宝指定された醍醐寺文書聖教を主要テーマとし、通常注目されにくい文書聖教の全体像と歴史的意義を紹介することに成功した。これにより、研究者のみならず一般観覧者からも高い評価を獲得した。
2123-3	ウ　特別展「第６６回正倉院展」（予定） 正倉院宝庫に伝わる宝物約70件を展示。（目標来館者数18万人）	・展覧会名　天皇皇后両陛下傘寿記念　「第66回正倉院展」 ・会　　期　26年10月24日(金)～11月12日(水)（20日間） ・会　　場　奈良国立博物館　東新館・西新館 ・主　　催　奈良国立博物館 ・特別協力　読売新聞社 ・協　　力　ＮＨＫ奈良放送局、奈良テレビ放送、日本香堂、仏教美術協会、ミネルヴァ書房、読売テレビ ・協　　賛　岩谷産業、ＮＴＴ西日本、キヤノン、京都美術工芸大学、近畿日本鉄道、ＪＲ東海、ＪＲ西日本、 ダイキン工業、大和ハウス工業、白鶴酒造、丸一鋼管 ・作品件数　59件 ・来館者数　269,348人（目標180,000人・達成率149.6%） ・入場料金　一般1,100円、高校・大学生700円、小・中学生400円 ・アンケート結果　満足度69% 天皇皇后両陛下傘寿記念にふさわしい華やかな宝物が出陳され、会期は通常より３日長い２０日間開催された。とりわけ、宝庫を代表する名品である鳥毛立女屏風４扇、白瑠璃瓶、桑木阮咸、衲御礼履などが	B	判定根拠：展示の工夫、題箋や参考パネルのわかりやすさ、適切な照明など、概ね好評であった。また、展示ケース内の環境が良好であり、宝物の保存上も問題なかった。 課題と対応：課題は混雑した会場の整理であるが、臨機に対応して改善することができた。	B	判定根拠：海外からの集客も増え、国際的にも注目されている。当館が正倉院展を開催する博物館としてのイメージも定着し、秋の奈良の代表行事として定着している。 課題と対応：混雑の緩和と学校教育との連携など教育面に課題があり、引き続き検討したい。

	○目標来館者数の合計28万人	人気を集めた。また、手鉾、銅漆作大刀、無荘刀など古代の武器武具類がまとまって展示され、注目を集めた点は評価される。リピーターの獲得はもちろん、新しい客層の開拓も着実に実を結んでいる。一日平均の来館者数が１万人を優に超える展覧会ながら、大きな混乱はなく、講演会やシンポジウムなどの行事も滞りなく開催された。 ○奈良国立博物館の特別展来館者数の合計は 384,846 人				
2124-1	（九州国立博物館） ア　特別展「近衛家の国宝　京都･陽明文庫展」（4月15日～6月8日） 公家を代表する近衛家に伝来した宮廷文化の精華を紹介する。（目標来館者数7万人）	**【九州国立博物館】** ・展覧会名　特別展「華麗なる宮廷文化　近衛家の国宝　京都・陽明文庫展」 ・会　　期　26年4月15日(火)～6月8日(日)　(49日間) ・会　　場　九州国立博物館　特別展示室 ・主　　催　九州国立博物館・福岡県、西日本新聞社、ＴＶＱ九州放送、公益財団法人陽明文庫 ・作品件数　114件(うち、国宝18件、重要文化財34件、重要美術品13件) ・来館者数　60,808人（目標70,000人・達成率86.9%） ・入場料金　一般1,500円、高大生1,000円、小中生600円 ・アンケート結果　満足度 88% 25 年 6 月に世界記憶遺産に登録された国宝「御堂関白記」の公開を中核とするタイムリーな展覧会である。「御堂関白記」に代表される文書・記録の展示では記憶を後世に伝えることの重要性を、書跡の展示では日本書道史の展開を紹介することができた。また、九州ゆかりの近衛信尹を主要なテーマとして位置づけ、初公開となる作品を紹介することができたのも重要な成果である。	B	来館者数が目標値の 87%であったが、九州において大規模で質の高い書跡・歴史系の展覧会を開催できたことは、大変有意義である。また、アンケート結果によると「とても良かった」が半数を上回る51%、「良かった」が 37%となっており、お客様満足度が非常に高いことからも大変充実した展覧内容だったと言える。	B	国宝「御堂関白記」の世界記憶遺産登録記念を冠する本展覧会は時宜を得たものである。展示作品は質の高い作品ばかりで、来館者の鑑賞時間が長い傾向が認められた。
2124-2	イ　特別展「クリーブランド美術館展　－名画でたどる日本の美－」（7月8日～8月31日） 平安～明治時代の日本の絵画 40 数点を通して、日本の美術の流れと魅力をたどる。（目標来館者数 5 万人）	・展覧会名　特別展「クリーブランド美術館展－名画でたどる日本の美－」 ・会　　期　26年7月8日(火)～8月31日(日)　(49日間) ・会　　場　九州国立博物館　特別展示室 ・主　　催　九州国立博物館・福岡県、クリーブランド美術館、西日本新聞社、ＴＶＱ九州放送、テレビ西日本 ・作品件数　51件 ・来館者数　70,794人（目標50,000人・達成率141.5%） ・入場料金　一般1,400円、高大生1,000円、小中生600円 ・アンケート結果　満足度 86% 世界有数の東洋美術コレクションを所蔵するクリーブランド美術館の名品を、九州で初めて紹介した。これまで日本で紹介される機会が少なく、地名や所蔵品の九州における知名度の低さが懸念されたため、展示・照明・解説を工夫し、効果的な広報を行った。同時期に開催した「海を越えた再会－クリーブランド美術館の仲間たち」も好評を得た。	S	迫力のあるポスターデザイン、多彩な広報展開、教育普及事業などを通じて、集中豪雨の続いた天候不順の時期であったにもかかわらず目標を上回る来場者数を得ることができ、高い満足度を得た。	S	所期目標の 50,000 人に対して、141%の 70,794 人の来館者があり、好評を得た。また、特別展に合わせて文化交流展示（平常展示）で関連展示を行ったため、特別展と文化交流展示の両方を観覧した来場者が 54%に上った（通常は 40%前後）。
2124-3	ウ　特別展「台北　國立故宮博物院　－神品至宝－」（10月7日～11月30日） 台北故宮博物院所蔵の優れた文化財を通して、中国文化の特質や素晴らしさを紹介する。（目標来館者数 15 万人）	・展覧会名　特別展「台北　國立故宮博物院　―神品至宝―」 ・会　　期　26年10月7日(火)～11月30日(日)　(51日間) ・会　　場　九州国立博物館　特別展示室 ・主　　催　九州国立博物館・福岡県、東京国立博物館、國立故宮博物院、西日本新聞社、ＮＨＫ福岡放送局、ＮＨＫ プラネット九州、読売新聞社、産経新聞社、朝日新聞社、毎日新聞社、ＲＫＢ毎日放送、ＴＶＱ九州放送 ・作品件数　110件 ・来館者数　256,070人（目標150,000人・達成率170.7%） ・入場料金　一般1,600円（1,400円）、高大生900円（700円）、小中生400円（200円） ＊(　)内は前売り／20名以上の団体料金 ・アンケート結果　満足度 79% 中国皇帝コレクションを受け継ぐ世界的な博物館の名品を、東京国立博物館とともに、アジアで初めて紹介した。中国文明を総体的に紹介するために多様な分野の作品を公開し、その照明・解説などの展示方法を工夫して好評を得た。注目度の高い展覧会だったため、展示の期間や内容を様々な媒体を通じて告知し、効果的な広報を行った。	S	中華文明の神髄であり、人類の至宝とも呼ぶべき台北故宮の所蔵品の数々を、日本で初めて出陳することができた。多彩な広報活動を展開して陳列品に関する周知を徹底させ、所期目標を大幅に超える来館者を迎えることができた。	S	日本初の台北故宮展であるこの展覧会では、同館の代表的な作品を数多く九州で紹介することができ、陳列品の品質としても来館者数の数値としても、目標を大きく超える成果を上げることができた。また、2016 年の台北故宮での交換展につなげることができた。
2124-4	エ　特別展「古代日本と百済の交流　－大宰府・飛鳥そして公州・扶余－」（平成27年1月1日～3月1日） 日本の古代文化と百済の関わりについて、交流の歴史を紹介する。（目標来館者数3万人、オと一体でカウント）	・展覧会名　特別展「古代日本と百済の交流　－大宰府・飛鳥そして公州・扶餘－」 ・会　　期　27年1月1日(木・祝)～3月1日(日)　(52日間) ・会　　場　九州国立博物館　特別展示室 ・主　　催　九州国立博物館・福岡県、西日本新聞社、ＴＶＱ九州放送 ・特別協力　国立公州博物館、国立扶餘文化財研究所、太宰府天満宮 ・作品件数　74件（うち、国宝4件、重要文化財5件、重要美術品2件、韓国国宝2件、韓国宝物1件）	S	目標値の約２倍となる来館者数があり、とても注目度の高い展示会となった。また、来館者アンケートによると、展示内容に関して「とても	A	所期目標 30,000 人に対して 198%の来館者があり、予想を遥かに超える反響であった。この展覧会を通して次年度の特別展「美の国日

		・来館者数　59,629人（目標30,000人・達成率198.7%） ・入場料金　一般1,400円、高大生1,000円、小中生600円（「発掘された日本列島2014」展と共通チケット） ・アンケート結果　満足度 87% 本年は日韓国交正常化50周年にあたり、両国の国宝を含め、古代日本と百済との交流を物語る代表的な作品を数多く展示し、両国相互の文化理解に貢献した。また、期間限定ではあるが、門外不出とされる石上神宮の国宝「七支刀」を展示することができた。		良かった」が45%、「良かった」が36%であり、8割以上の来館者から良いとの評価を得た。 また、門外不出とされる石上神宮の国宝「七支刀」を展示することができ、好評を博した。		本」でも韓国との連携をつなげることができた。さらに本年は、日韓国交正常化50周年にあたり、また水城・大野城・基肄城築造1350年記念といった節目の年であったことから、非常にタイムリーな展覧会として来館者の知的好奇心を刺激できた展覧会だったと言える。
2124-5	オ　特別展「発掘された日本列島2014」（平成27年1月1日～3月1日） 近年発掘された埋蔵文化財を中心に、20年の成果を展示する。（目標来館者数3万人、エと一体でカウント） ○目標来館者数の合計30万人	・展覧会名　特別展「日本発掘　発掘された日本列島2014」 ・会　　期　27年1月1日(木・祝)～3月1日(日)　(52日間) ・会　　場　九州国立博物館　特別展示室 ・主　　催　九州国立博物館、文化庁、東北歴史博物館、東京都江戸東京博物館、堺市博物館、長野市立博物館 ・作品件数　960件（うち、重要文化財47件） ・来館者数　59,629人（目標30,000人・達成率198.7%） ・入場料金　一般1,400円、高大生1,000円、小中生600円（「古代日本と百済の交流展」と共通チケット） ・アンケート結果　満足度 87% 全国の主だった遺跡の出土品を集め展示し、それぞれの発掘調査の成果を広く来館者に知ってもらう機会を提供した。特に、九州内の遺跡から出土した重要文化財を一挙に見ることができる大変貴重な機会を提供できた。 ○九州国立博物館の特別展来館者数の合計は447,301人	B	最新の科学的な調査を行うとともに、無機質になりがちな展示室に現場の「野帳」を展示することによって来館者からも評価を得た。	B	特別展については、計画通り順調に開催を行っている。特に教育普及に力を入れた取り組みを実践していることが来館者からの評価を得ることにつながっており、今後も継続していきたい。

2131	**③海外展** （東京国立博物館） 1）海外展「伝統の再創造：日本の近代美術」（平成26年2月16日～5月11日） 会場：クリーブランド美術館（米国） 東京国立博物館の近代美術作品により、日本近代美術を伝統の再創造という観点で紹介する。	・展覧会名　海外展「伝統の再創造：東京国立博物館所蔵　日本の近代美術」 Remaking Tradition: Modern Art of Japan from the Tokyo National Museum ・会　　期　26年2月16日(日)～5月11日(日)（72日間） ・会　　場　アメリカ・クリーブランド美術館ケルビン＆エレノア・スミス財団展示ホール ・主　　催　クリーブランド美術館、東京国立博物館 ・作品件数　55件(うち、重要文化財6件) ・来館者数　37,648人 東京国立博物館所蔵の絵画、書跡、彫刻、工芸の近代美術作品の優品を通して、東洋の古典的主題の新たな表現や、西欧から学んだ技術の受容の様相、そして風景画（山水画）が洗練され、花鳥画が再構築されたことなど、近代日本において造形文化の伝統が「再創造」されたことを示すことができた。	B	開催館における企画展では近年類のない来館者数を集め、大変高い評価を得たため。	B	アメリカにおいて広く、日本の優れた文化財をもとにした近代の文化を紹介することができたため。

定量評価	26年度	25年度	目標値	評定
【平常展】平常展来館者数(人)				
東京国立博物館(23年度より黒田記念館を含む)	587,528	484,429	362,470	A
京都国立博物館	265,791	－	96,981	S
奈良国立博物館	92,147	122,075	94,338	C
九州国立博物館	357,362	349,848	380,690	C
【平常展】陳列替件数(件)				
東京国立博物館	5,506	5,708	5,800	C
京都国立博物館	693	－	700	C
奈良国立博物館	208	130	80	A
九州国立博物館	1,027	1,157	800	A
【平常展】陳列総件数(件)				
東京国立博物館	8,161	8,824	7,500	B
京都国立博物館	980	－	1,000	C
奈良国立博物館	675	632	475	A
九州国立博物館	1,904	2,750	1,000	S
【平常展】外国語パネルの設置(%)				
東京国立博物館	**100%**	**100%**	**80%**	**A**
京都国立博物館	**100%**	**－**	**80%**	**A**

		奈良国立博物館	100%	91%	80%	A
		九州国立博物館	92%	85%	80%	B
		【特別展】開催回数(回)				
		東京国立博物館	8	8	3～4	A
		京都国立博物館	2	3	2～3	B
		奈良国立博物館	3	3	2～3	B
		九州国立博物館	5	5	2～3	A
		【特別展】来館者数(人)				
		東京国立博物館	**1,404,929**	－	**1,261,000**	**B**
		①「栄西と建仁寺」	252,116	－	200,000	A
		②「キトラ古墳壁画」	119,268	－	87,000	A
		③「台北 國立故宮博物院－神品至宝－」	402,241	－	450,000	C
		④「東アジアの華　陶磁名品展」	65,075	－	34,000	A
		⑤「日本国宝展」	386,708	－	350,000	B
		⑥「みちのくの仏像」	179,521	－	140,000	A
		⑦「3.11 大津波と文化財の再生」	※(78,615)	－	－	－
		京都国立博物館	**273,343**	－	**150,000**	**A**
		①「南山城の古寺巡礼」	69,443	－	50,000	A
		②「国宝　鳥獣戯画と高山寺」	203,900	－	100,000	S
		奈良国立博物館	**384,846**	**－**	**280,000**	**A**
		①「武家のみやこ　鎌倉の仏像 ―迫真とエキゾチシズム―」	37,022	－	50,000	D
		②「国宝 醍醐寺のすべて ―密教のほとけと聖教―」	78,476	－	50,000	A
		③「第 66 回正倉院展」	269,348		180,000	A
		九州国立博物館	**447,301**	**－**	**300,000**	**A**
		①「近衛家の国宝　京都・陽明文庫」	60,808	－	70,000	C
		②「クリーブランド美術館展－名画でたどる日本の美－」	70,794	－	50,000	S
		③「台北　國立故宮博物院－神品至宝－」	256,070	－	150,000	S
		④「古代日本と百済の交流　－大宰府・飛鳥そして公州・扶餘－」「発掘された日本列島 2014」	59,629	－	30,000	S
		【海外展】来館者数(人)				
		東京国立博物館				
		海外展「伝統の再創造：東京国立博物館所蔵　日本の近代美術」(アメリカ・クリーブランド美術館)	(37,648)	－	－	－

※この特別展は会場が平常展の一部で別途カウントを行っていない。（開催期間中の平常展来館者数を参考値で計上）

(2)　教育活動の充実

【中期目標】

日本及びアジア諸地域の歴史・伝統文化の理解促進に寄与するよう、子どもから成人まで、対象に応じた多彩な学習機会の提供を実施し、ボランティアを育成し、教育活動の充実に努めるとともに、次代の博物館事業を担う人材育成に寄与すること。

【中期計画】

(2) 教育活動の充実

日本及びアジア諸地域の歴史・伝統文化の理解促進に寄与するよう、機構の人的資源・物的資源・情報資源を活用した教育活動を実施する。

① 学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等と連携協力しながら、講演会、作品解説、スクールプログラム、ワークショップ等の学習機会を提供する。また、参加者数についてはその都度、目標を設定する。

② 教育活動の充実に寄与するようボランティアを支援する。また、企業との連携や友の会活動の活性化等により博物館支援者の増加を図る。

③ 大学との連携事業、各種セミナー、インターンシップ等の実施を通じて人材育成に寄与する。

【主な計画上の評価指標】

○講演会、作品解説、スクールプログラム、ワークショップ等の目標参加者数を達成すること。

○ボランティアを支援すること。

○企業との連携や友の会活動の活性化等により博物館支援者の増加を図ること。

○大学との連携事業等を実施すること。

【25 年度評価における主な指摘事項】

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価 年度		自己評価 中期	
	（２） 教育活動の充実 日本の歴史・伝統文化及びアジア諸地域の歴史・文化の理解促進を図り、国立博物館としてふさわしい教育普及事業を実施する。 **① 学習機会の提供** （４館共通） 1）キャンパスメンバーズ（学校法人会員制度）による大学等との連携を継続して実施する。	**（２） 教育活動の充実** **① 学習機会の提供**				
2211-1	（東京国立博物館） 1）日本の歴史・文化及びアジア諸地域の歴史・文化の理解促進を図るための教育普及の先導的事業を実施する。本館地下、本館19室、東洋館2室、6室等を教育普及スペース「みどりのライオン」と位置づけ、適宜、小講堂やミュージアムシアター等も活用し、内容に応じた環境を設定しながら事業を展開する。 ○ファミリー向け教育普及的展示企画「親と子のギャラリー」の実施	**【東京国立博物館】** （東京国立博物館） 1)総合文化展の状況に応じ歴史・文化の理解促進を目的とした教育普及事業を展開した。 ・総合文化展鑑賞の手がかりとして、展示や作品に関連した企画を通じ、伝統文化への興味関心を高めることができた。 ・4月16日から本館19室に「みどりのライオン 体験コーナー」を開設。伝統模様のスタンプでポストカードを作る「トーハクでデザイン」、制作工程や技法がわかる「トーハクで○○ができるまで」、ｅ国宝がさらに使いやすくなった「トーハクで国宝をさぐろう」、3D の作品画像を自由に動かす「トーハクをまわそう」の5つの体験コーナーができた。	B	全観覧者向け、ファミリー向け、親子向けなどさまざまな対象に向けたプログラムを展開し、幅広い層に楽しむ機会を提供することができた。	B	順調。幅広い層へ機会提供し、目標を達成できた。

	・特集「親と子のギャラリー　仏像のみかた鎌倉時代編（6月10日～8月31日） ○教育的展示及びイベント「博物館でお花見を」（平成26年3月18日～4月13日）を実施する。 ○体験型プログラムの実施 ・特集「親と子のギャラリー　仏像のみかた鎌倉時代編」など、総合文化展（平常展）に関連した一般向け及びファミリー向けのギャラリートークや体験型プログラムを実施する。 ・本館19室・本館地下教育普及スペース・東洋館オアシスで展開する教育普及スペースで、ワークショップやハンズオンアクティビティなどの体験型プログラムを実施する。 ・お花見企画「博物館でお花見を」、正月企画 「博物館に初もうで」に関連して、ワークシートを用いた体験型プログラムを実施する。	・本館地下、東洋館2室、6室、ミュージアムシアターや小講堂において、体験型プログラム、ギャラリートーク、ワークショップ等を行った。 ○ファミリー向け教育普及的展示として、特集「親と子のギャラリー仏像のみかた鎌倉時代編」（6月10日～8月31日）を実施し、仏像鑑賞に必要なキーワードをトピックスに、分かりやすく伝えることができた。また、特集「熊めぐり」(4月22日～6月1日)を実施し、熊をテーマにした文化財ならびに、国立科学博物館、恩賜上野動物園から借用した資料をもとに、熊をめぐる文化史や生態についてわかりやすく伝えることができた。 ○「博物館でお花見を」に関連し、鑑賞ガイド、桜セミナー、ボランティアによるガイドツアー及び体験型プログラムを実施した。 ○体験型プログラムの実施 ・総合文化展関連ワークショップ及び関連事業　25回　1,721人 ・博物館でアジアの旅に関連し、「アジアンぬりえ」（10月4・5・11・12日／329人）、「着てみて！ポーズ　中国・韓国の伝統衣装」（9月30日～10月13日／868人）を実施した。また、東洋館2室で体験型プログラム「旅の案内所」、6室で体験型プログラム「アジアの占い体験」を通年実施した。 ・「博物館でお花見を」に関連し「ぬり絵 日本のデザイン、色づかい」（3月29・30日、4月5・6日／684人）、「桜スタンプラリー」（3月18日～4月13日／12,489人）、「花見で一句」（3月18日～4月13日／285人、うち6人が入選）を実施した。 正月企画「博物館に初もうで」関連のワークシートを用いたアクティビティ「トーハク羊めぐり」（27年1月2日、3日／5,500人）を実施した。 ○特別展の鑑賞手引きとしてジュニアガイドの制作、配布を行った。				
2211-2	2）学校との連携事業を推進する。 ・スクールプログラム（鑑賞支援・体験型プログラム等）を継続して実施する（小・中・高校生対象）。 ・職場体験の受け入れを継続して行う（中・高校生対象）。 ・全国高等学校美術・工芸教育研究会所属教員のための研修を継続して実施する。 ・教員鑑賞会・ガイダンスを継続して実施する。	(4館共通) 1)国立博物館と大学等との連携を図り、歴史・伝統文化に対する理解促進に寄与し、博物館が所蔵する文化財を核とした学ぶ場を提供することができた。加入校数44校、団体利用を含み28,700名の学生・教員が本制度を利用し入館した。 (東京国立博物館) 2)学校との連携事業を計画通り実施した。 ・スクールプログラムを実施し、児童生徒に対し目的、学年、人数などに応じたプログラムを提供することで、充実した鑑賞体験の提供に寄与した。また、伝統文化への興味関心を高め、理解を促した。	B	従来の事業を進めるとともに、学校連携では盲学校との連携も始めるなど、着実に成果を伸ばしつつある。	B	順調。研究の成果による新たなプログラムの開始を含め、成果をあげている。

		なお、一部をボランティアにより実施した(詳細は処理番号2221-1参照)。 ・職場体験として、19校63人を受け入れた。 ・全国高等学校美術・工芸教育研究会所属教員のための研修(共催：東京藝術大学)を26年7月30日～8月1日の3日間開催し、41名が参加した。展示のみならず博物館への理解を深め、学校団体での博物館利用について検討するきっかけとなる研修を提供した。 ・教員鑑賞会・ガイダンスを3回実施し、計469人が参加した。 ○「盲学校のためのスクールプログラム」を3校17人に対して実施した。				
2211-3	3）文化財について分かりやすく理解するためのギャラリートーク・月例講演会・記念講演会・連続講座・教育普及イベント等を継続して実施する。 （講演会等の目標）　　参加者数計7,830人（実施回数計77回） ・講演会　　参加者数3,500人（実施回数20回） ・ギャラリートーク等　参加者数4,000人(実施回数55回) ・連続講座　参加者数　250人（実施回数 1回） ・公開講座　参加者数　80人（実施回数　1回）	3)文化財について分かりやすく理解するためのギャラリートーク・月例講演会・記念講演会・連続講座を継続して実施した。総参加者数計 14,419 人(実施回数　計 127 回) ・講演会　参加者数 6,735 人(実施回数 30 回)　うち月例講演会 1,893 人(12 回)、記念講演会 3,651 人(13 回)、テーマ別講演会 1,096 人(4 回)、その他講演会 95 人(1 回) ・ギャラリートーク等　参加者数 7,326 人(実施回数 94 回)（26 年 4 月より列品解説をギャラリートークに名称変更した。） ・連続講座　　参加者数 320 人(実施回数 1 回) ・公開講座　　参加者数 38人(実施回数2回)	B	順調。一部予定変更があったが、全体としては目標通り事業を達成した。	B	順調。目標通り事業を達成した。
2212	（京都国立博物館） 1）展覧会内容及び展示作品への理解を深めるための事業を実施する。 ・「土曜講座」など各種の講座を実施する。 ・展覧会鑑賞ガイド・ワークシートなどを発行する。 ・小中学生向けワークショップ「少年少女博物館くらぶ」を実施する。 ・小中学生向けワークシートを発行する。 ・分かりやすい展示作品解説シート「博物館ディクショナリー」を発行し配信する。 2）歴史及び文化財への理解促進を図るために教育普及事業を実施する。 ・テーマを定めた一般向けの連続講座として「夏期講座」などを開講する。	**【京都国立博物館】** (4館共通) 1)キャンパスメンバーズを継続し、大学と連携(29校)した。 （京都国立博物館） 1)・「記念講演会」(1回・193人)・「土曜講座」(31回・3,888人)を実施した。 ・展覧会の「鑑賞ガイド」（国宝・鳥獣戯画と高山寺、140,000部）を発行した。 ・「少年少女博物館くらぶ」(2回・57人)を開催した。 ・小中学生向け「ワークシート」(南山城のみほとけめぐり、50,000部)を発行した。 ・「博物館Dictionary」(4回、8,000部)を発行した。 2)・「夏期講座(古社寺と文化財Ⅱ)」(１回・206人)を開催した。 ・「文化財に親しむ授業」(9回・581人)を実施した。	A	平成知新館の開館に伴って講堂を活用し、講演会には目標値以上の参加者数があった。さらにセミナーやシンポジウムなど、国外からも研究者を招聘した専門性の高い会合を開くことができた。	B	外部機関と連携協力しながら、各種の学習機会を提供することができた。

	・京都市内の小中学生を対象とする訪問授業「文化財に親しむ授業」を実施する。 ・文化財への関心を高めるワークショップなどを実施する。 3）教育諸機関との連携事業を推進する。 ・京都市内４美術館・博物館（京都国立博物館、京都国立近代美術館、京都文化博物館、京都市美術館）で組織する「京都市内４館連携協力協議会」での連携協力として「京都ミュージアムズ・フォー連携講座」を開催する。 ・教員のための講座を開講する。 （講演会等の目標）参加者数計3,120人（実施回数計22回） ・記念講演会　参加者数　160人（実施回数 1回） ・土曜講座　参加者数2,800人（実施回数20回） ・夏期講座　参加者数　160人（実施回数 1回（3日間）） ・「京都ミュージアムズ・フォー連携講座」参加者数　120人（実施回数 1回）（土曜講座の内数）	・東日本復興支援の「こども☆ひかりプロジェクト」に参加しワークショップを行った。（2回・620人） ・国際研究セミナー「日仏漆芸交流史を学ぶ」（1回・75人）を開催した。 3)・「京都ミュージアムズ・フォー連携講座」（1回・113人）を土曜講座と合同で開催した。 ・「社会科教員のための向上講座」（1回・66人）を実施した。				
2213-1	（奈良国立博物館） 1）小中学校との連携 ・奈良県内の小中学校にメールマガジンを配信する。 ・奈良市内の公私立小中学校に博物館だよりを送付する。 ・奈良市内の小学校5年生を中心に、幼稚園児から中学3年生までを対象に奈良市教育委員会と連携して世界遺産学習を実施する。 ・奈良市内の小学校6年生を対象に、奈良市教育委員会と連携して正倉院展見学を実施する。 ・中学生の職場体験学習を受け入れる。	**【奈良国立博物館】** 1)キャンパスメンバーズへの入会及び更新を積極的に進めてきた結果、本年度までで入会校数は27校、大学との連携を継続した。 （奈良国立博物館） 1)小中学校との連携 ・奈良県内の小中学校222校に対してメールマガジンの配信を行った。 ・『奈良国立博物館だより』は、奈良市内の全小中学校への郵送配布を行った。 ・世界遺産学習事業は、奈良市内小学校5年生35校、合計2,281名に対して実施した。 ・中学2年生の職場体験を3校12人受け入れた。 3)奈良市教育委員会と連携した教員への研修（8月26日実施、参加者63名）として講演を行った。 4)地下回廊のタッチパネル式学習端末機で、収蔵品の中から名品の画像を公開した。	B	キャンパスメンバーズ加入校は脱会が１校あったが、新規加入が２校あり、より多くの大学等と連携を図れた。	B	順調に成果を上げているため

		5)地下回廊で仏像模型及びパネルを用いて、文化財に関する情報を継続的に公開した。				
2213-2	2）講座等の開催 ・仏教美術等に関するサンデートークを定期的に実施する。 ・特別展等に際してシンポジウム、フォーラム及び公開講座等を開催する。 ・一般向け教育普及事業として夏季講座を開催する。 ・特別陳列に因み、伝統的行事を体験する催しを実施する。 ・文化財保存修理所の一般公開を行い、文化財保存の意義についての認知度向上に努める。 （講演会等の目標）　参加者数計2,650人（実施回数計27回） ・特別展等講座　参加者数1,500人（実施回数14回） ・夏季講座　　参加者数　500人（実施回数 1回（3日間 9講座）） ・サンデートーク　参加者数　650人（実施回数12回） 3）奈良市教育委員会と連携して教員の研修を受け入れる。 4）地下回廊のタッチパネル式学習端末機で名品のハイビジョン映像等を公開する。 5）地下回廊で仏像模型及びパネルを用いて文化財に関する情報を継続的に公開する。	2)講座等の開催 ・サンデートークは毎月第3日曜日に実施し、実績は12回、合計978人の参加があり、アンケート結果では87%の平均満足度が得られた。 ・公開講座は、3つの特別展及び2つの特別陳列の会期中に実施した。公開講座の実施回数は、合計12回、1,600人の参加があり、平均満足度は87%を得た。その他、特集展示「和紙-文化財を支える日本の紙-」に関連して記念講座＆座談会「和紙-文化財を支える日本の和紙-」を実施した。 ・正倉院展に関連したシンポジウムは「正倉院学術シンポジウム2014」と題して26年11月2日に実施し、3人のパネラーにより基調講演と討論を行った。192人の参加を得、満足度は89%であった。 ・夏季講座は、今年は第43回目を迎え、奈良県文化会館で開催した。「醍醐寺と南都の密教」と題し、26年8月19日～21日の3日間に実施、講師は計9人、561人の参加があった。 ・特別陳列「お水取り」では、東大寺の協力のもと、「お水取り「講話」と「粥」の会」を27年2月14日に実施し、35人の参加があった。 ・文化財保存修理所の一般公開は、27年1月15日に3回実施し、計110人の参加があった。 ○講演会等の実績　総計27回・参加者3,525人 特別展等講座14回・参加者1,986人（うち公開講座12回・1,600人、シンポジウム1回・192人）、夏季講座1回(3日間)・参加者561人、サンデートーク12回・参加者978人	B	当初の予定通り各種の講座及び講演会を実施することができ、目標値を上回る参加者数が得られた上、アンケートでみる満足度も高かった。	B	奈良教育大学、奈良市教育委員会との連携協力を行い、学習プログラムの開発を進めており、中期計画に対し順調である。
2214-1	1）博物館における体験型事業の充実を図る。 ・教育普及ゾーンで活用する様々な教育キットを開発する。 ・幅広い層に向け体験活動の促進を図るため、教育活動の場を提供する。 ・アジア諸国の文化を理解する様々な体験学習プログラムを開発する。	**【九州国立博物館】** （九州国立博物館） 1) ・体験型展示室「あじっぱ」の運営を進め、従来からのプログラム、キットの継続展開に加え、これまでの調査研究で得られた新知見を加味して内容を充実させた各プログラムを開発し、来館者向け、及びアウトリーチでの活動時に展開した。 ・「いこうよ！あじっぱ夏祭り」やボランティアワークショップを実施し、幅広い層の来館者に体験の場を提供した。	B	新規プログラム開発、プログラムの改善が順調に進んでいるため、また、小学生・大人など、幅広い年齢層に向けてのプログ	B	開発したプログラムは館内のみならず学校や他の博物館等においても実践し、広く学習機会を提供できているため。

		・アジア各国の文化の類似性や相違性についての理解を深めるため、様々なテーマのもと、「あじ庵」「あじぎゃら」「ディスプレイ」において特集展示を行った。また、季節にあわせて体験資料の展示替えを随時行った。		ラムも実施できているため。		
2214-2	2）学校教育との連携事業を実施する。 ・職場体験（中学生）の受け入れを実施する。 ・ジュニア学芸員(高校生)事業を実施する。 ・博物館活用の促進を図るため、教員研修の場を設置する。 ・学校貸出キット「きゅうぱっく」の貸し出しを実施する。	(4館共通) 1)キャンパスメンバーズ(学校法人会員制度)による大学等との連携を継続して実施した。 (九州国立博物館) 2)・中学生・高校生の職場体験を23校101名(のべ51日間)受け入れた。 ・高校生「ジュニア学芸員」は、9校24名の参加を得て計8回の継続プログラムで実施した。 ・高等学校初任者研修に係わる体験活動研修を希望する教員4校6名に対し、3日間の体験研修を実施した。 ・学校教育における「きゅうぱっく」及び博物館の活用に関する教員研修会を1回実施した。 ・学校貸出キット「きゅうぱっく」の貸出を引き続き行い、67件の貸出を行った。 ・出前講座や館内での体験等を希望する学校への個別対応を行った。 9)放送大学の面接授業を実施した。（「美術工芸品にみる文化交流の諸相」26年11月15日、16日）	B	キャンパスメンバーズ加入校数について前年度数を維持することができ、職場体験、教員研修、放送大学等についても、計画通り着実に実施できたため。	B	中期計画に対して学校教育との連携を順調に推進しており、職場体験、教員研修、放送大学等についても、計画通り着実に実施できたため。
2214-3	3）シンポジウムを開催する。 4）特別展記念講演会を開催する。 5）文化交流展、特別展に関連した教育普及事業を実施する。 6）ミュージアムトークを随時実施する。 7）文化施設等へ講師を派遣する。 8）特別展の内容に親しみをもたせ、より良く理解するためのワークショップを開催するとともに、文化交流展示の内容とも連携した事業展開を行う。 9）放送大学の面接授業を実施する。 （講演会等の目標）　参加者数計3,100人（実施回数計54回） ・特別展記念講演会　参加者数　600人（実施回数 4回） ・講演及びシンポジウム　参加者数1,300人（実施回数10回） ・ミュージアムトーク　参加者数1,200人（実施回数40回）	3）国際シンポジウム「中国皇帝コレクションの意味―工芸における復古と革新―」を開催した。(10月25日開催)(詳細は処理番号3214参照) 4）本年度は特別展記念講演会を4回開催した。 5）本年度は講演会等を26回開催し、連続講座も開催した。 6）定例のミュージアムトークを52回開催し、展示だけでは伝わらない博物館活動の内容を紹介し、好評を博している。 7）文化施設等へ講師を派遣した。（福岡市 アクロス・文化学び塾等） 8）文化交流展、特別展に関連した教育普及事業としてワークショップ等を行った。 2214-2 に記載	B	特別展や文化交流展示における展示作品について、多角的に学習の機会を提供し、理解促進に寄与するなど予定通り実施できており、また来館者の好評を得ている。	B	特別展や文化交流展示における展示作品について、幅広い年齢層に対して学習の機会を提供し、理解促進に寄与しているため。
	②－１　ボランティア活動の支援	**②－１　ボランティア活動の支援**				
2221-1	（東京国立博物館） 1）館内案内、各種教育事業及びイベントの補助活動等の充実を図る。 2）点字パンフレット、触知図、盲学校対応プログラム等による視覚障がい者対応、手話やコミュニケーションボード等による聴覚障がい者への博物館案内等、バリアフリー活動を実施する。 3）自主企画グループによる各種ガイドツアー等を継続して実施する。 4）ボランティアの自主性を活かし、ボランティアデーなどにおいてボランティアの企画立案によるプログラムの充実を図る。	**【東京国立博物館】** (東京国立博物館) 1)館内各所での案内、本館19室みどりのライオン体験コーナー、東洋館オアシスでの活動、職場体験の活動補助の他、イベント班とワークショップ班による、年間を通した各種イベント・ワークショップの補助活動を実施。また、今年度よりスクールプログラム班を立ち上げ、スクールプログラムの一部をボランティアにより実施した。また、各活動実施のための研修会・解説会を実施した。 2)通年で触知図やコミュニケーションボード等を用いたバリアフリー活動を実施。バリアフリー対応班により、盲学校を含む視覚障がい者対応、点字パンフレットの印刷、自主企画グループにより手話通訳付きのガイドを実施した。また、実施準備や活動のための研修会を実施した。 3)新規1グループを含めた全16の自主企画グループによるガイドツアー等の活動を実施した。また、研究員による、ボランティア活動のための研修会を実施した。 4)通常の自主企画グループの活動の他に「留学生の日」・「ボランティアデー」・「博物館でお花見を」・「博物館でアジアの旅」などでの活躍の場を設け、より自主性を持った活動を行えるよう支援した。また、ボランティアデーでは、新規ボランティア応募者を対象に募集説明会とボランティアによるボランティア活動紹介ツアーを実施した。	B	順調にボランティア活動及び活動支援を行っている。	B	ボランティアの特性を活かしながら順調に実績をあげている。
2222-1	（京都国立博物館） 1）平成知新館の新装開館に向け、新規ボランティア事業を立ち上げるための準備を行うとともに、平成知新館でのボランティア活動を開始する。	**【京都国立博物館】** (京都国立博物館) 1)9月13日の平成知新館オープンとともに、新規ボランティアである京博ナビゲーターの活動を開始した。京博ナビゲーターの募集・活	A	京博ナビゲーターの活動を立ち上げるなど、予期以上の多大な成果をあげた。	A	新規ボランティアを加え、きわめて充実した活動を展開することができた。

	2）調査・研究支援ボランティアを受け入れ、各種事業活動の充実を進める。 3）文化財に親しむ授業講師（文化財ソムリエ）として大学生・大学院生ボランティアを育成し、小中学校への訪問授業を実施する。 4）「京都・らくご博物館」において、大学生を ボランティアとして起用する。	動開始にあたっては、募集説明会（1日×6回）や基礎講座（1日×8回）を実施した。 2)収蔵品調査及び社寺調査の補助のため、調査・研究支援ボランティアを受け入れた。（16人） 3)・文化財ソムリエを対象としたスクーリングを実施した。(21回) ・文化財ソムリエによる、京都市内の小中学校への訪問授業等を実施した。(7回) 4)「京都・らくご博物館」において、大学生をボランティアとして起用した。(9 人)				
2223-1	（奈良国立博物館） 1）ボランティアの各グループ（世界遺産グループ、解説グループ、サポートグループ）の活動の充実を図る。 2）ボランティアの資質向上を目的に、定期的に研修を実施する。 3）勉強会や見学会等によって、ボランティア同士のグループ別学習の充実を図る。 4）ボランティアの自主性を活かし、ボランティアによる企画立案プログラムの充実を図るための支援を行う。	**【奈良国立博物館】** (奈良国立博物館) 1)ボランティアの新制度が発足して3年目になり、世界遺産グループ、解説グループ、サポートグループ、それぞれの活動がより充実した。奈良市教育委員会と連携し、世界遺産学習として奈良市の35校の小学5年生（2,281人）を受け入れ、また同学習で県内外の小学生～高校生（18校，1,045名）を受け入れた。 2)ボランティア全員に対して、名品展研修を毎月実施し、また特別展、特別陳列の開催ごとに展覧会担当者による展示内容の研修を実施して全ての展覧会図録を配布し、解説と自己研修のための学習資料とした。 正倉院展の会期中に、ボランティアによる講堂解説を実施した。このため、教育室がスライド資料と原稿を作成し、ボランティア室が約1ヵ月間の練習の立会と指導をした。 3)ボランティアのグループ別に、毎月の勉強会を実施し、その指導に当たった。チーム力と知識の向上を図るため、毎月それぞれテーマを決めて勉強会を行った。解説グループの勉強会では、オブザーバーとして学芸部が立会、指導した。 4)ボランティアによる自主企画として、敷地内の茶室庭園や仏教美術資料研究センターの案内ツアーを実施した。 プログラムの企画立案にあたって、学芸部や総務課の協力を得ながら、ミーティングの立会と指導をした。 また、ボランティア活動３年目の集大成として、12月に「ボランティア・フェスタ」を実施した。ボランティア・フェスタの企画立案にあたり、実行委員会を組織し、ボランティア室と約１年間計画を練り、ボランティア全員が何らかの活動で関われるよう助言を行った。	B	ボランティア活動の支援の一層の充実に努め、各グループの活動もより活性化し、また「ボランティア・フェスタ」などの自主的な企画も成功し、当初の目的を達成した。	B	小中高生への世界遺産学習や来館者への解説などの、ボランティア活動への支援により教育普及の充実に寄与した。

2224-1	（九州国立博物館） 1）ボランティアを受け入れ、展示解説部会、教育普及部会、館内案内部会（日本語、英語、中国語、韓国語）、環境部会、イベント部会、資料整理部会、サポート部会、学生部会の充実を図る。 2）ボランティアに対し資質向上を目的に基礎研修・専門研修を実施する。 3）ボランティア同士のグループ別学習の充実を図る。	**【九州国立博物館】** (九州国立博物館) 1)第3、4期ボランティアの体的な活動を重視することによって、活動意欲の向上、活動の活性化・充実、そして市民視点の活動の創造等が行われた。 2)ボランティア自身の企画・実施による研修等を積極的に実施することで、活動の資質の向上や活性化、発展が行われた。 3)各部会において研修やグループ別学習、活動を行った。また、グループ活動や子どもフェスタにおいて、部会の枠を超えてボランティア同士が活動を行った。	A	当初計画していたよりも多くの研修を、ボランティアが企画したため、充実した活動を行うことができたため。また、他部会との交流も積極的に行う部会が多かったため。	B	来館した学校団体へは、ボランティアが活動を支援することができた。次年度は博物館と学校の相互交流をより活発に行うため、出前授業を行う予定である。この時、講師として職員だけでなく、当館ボランティアも参加する計画である。また、特別支援学校への対応は職員中心に行っているが、当館ボランティアも含めて、対応を検討していく。
	②－２　博物館支援者の増加 （４館共通） 企業との連携及び友の会活動等の会員制度の活性化を図る。 1）会員制度によるリピーターの拡大に努める。 2）会員制度利用者を対象とした事業を実施する。 3）企業等と連携し、広報活動やイベントによる博物館の認知度向上に努める。 4）展覧会事業の協賛企業から各種支援（協賛・協力）を募る。	**②－２　博物館支援者の増加**				

2221-2	（東京国立博物館） 1）各種会員制度を整理し、割引の適用や新たな会員制度を導入することで、リピーターの促進や若年層の拡充を図る。 2）近隣地域の諸団体や支援団体等と連携したイベントの実施及び広報活動の充実を図る。	**【東京国立博物館】** （4館共通） 1)26年4月の消費税率改定による料金の改定に伴い、これまで独立していた賛助会・友の会・パスポートの会員制度を一元化し、支援者の選択の幅を広げ、継続的に支援しやすい体系に整備した。 2)友の会、賛助会会員を対象に、講演会を実施した。また、賛助会会員を対象に感謝会を実施した。 3)日本橋三越本店と銀座三越の三越新春祭と当館の「博物館で初もうで」での共同企画を実施し、当館の宣伝活動の拡大を図った。 4)一部の特別展において、三菱商事株式会社と共催で「障がいのある方のための特別鑑賞会」を実施した。 （東京国立博物館） 1)26年4月の会員制度改定後、個人会員が大幅に増加した。26年度末時点で友の会会員数2,145人(前年度比35%増)、パスポート会員数20,302人(前年度比23%増)となり、新規に創設したベーシック会員も1,038人の新規会員を集めた。賛助会についても、会員数414件(前年度比9%増)、金額ベース8%増を達成した。 2)・上野ミュージアムウィーク（上野のれん会との共催）、上野の山文化ゾーンフェスティバル（台東区との共催） 及び東京・春・音楽祭（東京・春・音楽祭実行委員会との共催） 等、地域連携事業に参加した。 ・27年3月14日のＪＲ上野東京ラインの開業に合わせて国立科学博物館、国立西洋美術館との3館を回れる共通入場チケットを3万枚発行し、上野地域の周遊を促した。	A	個人会員の大幅増を達成できた。団体会員は微減となったが、金額ベースでは増となった。次年度は団体会員数増に重点化して取り組みたい。また、大手百貨店との共同企画等を博物館の来館者数増につなげることができており、企業や地域との連携は順調に実施できている。	B	個人の会員数の増加、企業との共同事業や地域との連携の拡大は、順調に達成できていると評価できる。
2222-2	（京都国立博物館） 1）支援団体等が行う文化財の鑑賞会・見学会等に協力する。	**【京都国立博物館】** （4館共通） 1)「パスポート」事業を継続し、リピーターの拡大に努めた。 2)「パスポート」会員を対象とした事業を実施した。 3)企業等と連携し、広報活動やイベントによる博物館の認知度向上に努めた。 4)22年度に設置した「ミュージアム・パートナー」制度について引き続き周知を続けた結果、新たに株式会社日本香堂がパートナー会員になった。 （京都国立博物館） 1)支援団体(社団法人清風会)が行う鑑賞会(3回)・見学会(3回)・会報(3回)の解説・執筆及び、総会の開催に協力した。また、地域・機関との連携事業に協力した。	A	企業等と連携し、閉館後の特別鑑賞会などを開催し好評を得た。また平常展示館建替工事中のため年2回しか行えなかった「京都・らくご博物館」を、年3回開催した。	A	パスポート会員が大幅に増加し、また企業との多彩な連携事業を展開するなど、博物館支援者の増加を図ることができた。
2223-2	（奈良国立博物館） 1）支援団体等との連携により施設を活用したイベント等を実施し、博物館支援の輪を広げる。 2）支援団体等と連携し、展覧会の充実を図る。 3）賛助会員制度の継続・拡充を図る。 4）地域、企業との連携を推進する。	**【奈良国立博物館】** （4館共通） 1)パスポート会員　会員数3,162人(一般3,026人、学生99人、家族37人) 2)会員に夏季講座を優先的に受講できるようにした。 3)株式会社日本香堂提供のラジオ番組で、展覧会のＰＲを行った。 4)他の主催者と連携し、企業等からの協賛・協力を募った。 （奈良国立博物館） 1)支援団体等が主催する展覧会の解説付の鑑賞会の実施に協力した。 2)特別展の実施に際して企業等からの協力金を得て特別展の充実を図った。 3)賛助会員　27団体46人(特別支援会員：5団体、特別会員：4団体、一般会員(個人)：46人、(団体)：18団体) 4)観光関連業界と連携し顧客層の開拓を行った。 奈良の観光イベント「ムジークフェストなら2014」、「ライトアッププロムナード・なら2014」、「なら燈花会」、「なら瑠璃絵」に対して協力した。	B	パスポート会員が昨年度比564名増や、賛助会員が3会員増など新たな博物館支援者を獲得する事ができた。	B	順調に成果を上げているため。
2224-2	（九州国立博物館） 1）近隣地域の諸団体や支援団体等と連携したイベントの実施及び広報活動の充実を図る。	**【九州国立博物館】** （4館共通） 1)「友の会」等の会員制度を継続して実施した。 2)「友の会」会員を対象に、季刊情報誌『アジアージュ』、トピック展示チラシ等の送付を行った。 3)企業等と連携し、広報活動を行った。 4)展覧会事業への企業からの協賛・協力を得た。 （九州国立博物館） 1)支援団体や近隣地域と連携したイベントを実施し、広報活動の充実を図った。	B	26年4月の消費税改定による料金の改定にも関わらず、友の会及びパスポート会員数はほぼ前年度並びを維持できた。各種イベントを実施し、博物館の活性化に寄与した。	B	「友の会」等の会員制度について、徐々にではあるが会員数を増やしている。各種イベントを実施し、博物館の活性化に寄与した。
	③　大学との連携 （東京国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館） 1）インターンシップを継続して実施する。	**③　大学との連携**				
2231	（東京国立博物館） 1）キャンパスメンバーズへの教育連携事業を実施する。	**【東京国立博物館】** （東京国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館）	B	順調。目標通り事業を達成できた。	B	順調。例年通り実施できた。

	2）東京藝術大学との連携事業を継続して実施する（大学院生対象）。 3）日本大学芸術学部と連携し柳瀬荘アート・教育プロジェクトを実施する。	1)博物館学芸員を目指す学生の学習意欲の喚起及び高い職業意識の育成を目的として、大学院生を対象にインターンシップを募集し、それぞれ学芸研究部・学芸企画部の9部署で10～30日間の活動を行い、11大学11名が修了した。 （東京国立博物館） 1)東京藝術大学大学院インターンシップでは、ギャラリートーク(研究発表)班3名、調査研究班12名が活動した。ギャラリートーク班では大学院生と当館研究員が連携して準備を行い、総合文化展の解説を行った。調査研究班では館蔵の「突起装飾坏（TJ-5401)」の工程見本の展示及び教育普及事業を行った。 2)キャンパスメンバーズ加入校の学生を対象に、博物館の歴史、保存修復、博物館情報、教育普及事業等について当館の職員が実例を交えた解説を実施。また、キャンパスメンバーズ加入校の学芸員志望学生を対象として、作品の取り扱い等博物館実務全般について演習・実習を実施した。(9月8日～13日に実施し、21大学・34人が参加した) 3)日本大学芸術学部と共同で「柳瀬荘アート・教育プロジェクト」を実施した。				
2232	（京都国立博物館） 1）京都大学大学院人間・環境学研究科の歴史文化社会論講座を担当する。	**【京都国立博物館】** （京都国立博物館） 1)京都大学大学院人間・環境学研究科の歴史文化社会論講座において、研究員４人で８科目の授業を担当し、実際の文化財を教材にしながら、研究指導を行った。	B	博士後期課程及び修士課程の学生に対して専門的な教育や論文指導等を着実に実施し、また、日本語・日本文化研修留学生のための授業も行うなど、順調に成果を上げた。	B	博士後期課程と修士課程の学生に指導を行い、計画通り、着実に人材育成を図っている。
2233	（東京国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館） 1）インターンシップを継続して実施する。 （奈良国立博物館） 1）奈良女子大学及び神戸大学との連携講座を継続して実施する（大学院生対象）。 2）奈良教育大学・奈良市教育委員会と連携して世界遺産学習のプログラム開発を進める。	**【奈良国立博物館】** （東京国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館） 1)立命館大学から3名の学生をインターンシップとして受け入れた。 （奈良国立博物館） 1)・奈良女子大学大学院人間文化研究科博士後期課程に学芸部研究員1名を客員准教授として派遣し、日本古典資料論の講義を行った。授業の内容は古典資料講読を中心とし、受講生は前期4人、後期4人であった。 ・神戸大学大学院人文学研究科の連携講座文化資源論に、学芸部研究員2人を客員教授と客員准教授として派遣し、文化資源論の講義を行った。受講した学生は同研究科の修士課程、博士課程の大学院生16人であった。 2)・26年11月9日(日)、奈良市教育センター及びなら100年会館を会場として、「第5回世界遺産学習全国サミット in なら」を文部科学省・奈良市教育委員会・奈良教育大学等と共同で開催し、女優・タレントのサヘル・ローズ氏及び帝塚山大学教授の西山厚氏による『「伝えるということ」～未来を創るあなたへ』と題した対談及び子供達による世界遺産学習発表会を行った。	B	年度計画どおり、各種の事業を実施できた。	B	大学との連携事業、各種セミナー、インターンシップを継続的に実施しており、これらの取り組みを通じて人材育成に寄与できている。
2234	（東京国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館） 1）インターンシップを継続して実施する。 （九州国立博物館） 1）博物館実習生の受け入れを実施する。	**【九州国立博物館】** （東京国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館） 1)当館の保存修復施設を利用して地域大学との協業を図る短期インターンシップ研修プログラムを実施した。 （九州国立博物館） 1)博物館実習生を11大学15人、計10日間受け入れた。（うちキャンパスメンバーズ校は5大学8人） ○博物館見学実習に対応した。（16件延べ491人）	B	館内各部門の協力を得て、順調に博物館実習を実施できているため。	B	博物館実習、見学実習を継続して順調に実施できており、人材育成に寄与できているため。

定量評価項目	26年度	25年度	目標値	評定
学習機会の提供　講演会等参加者数（人）				
東京国立博物館	**14,419**	**15,777**	**7,830**	**A**
講演会	6,735	7,184	3,500	A
ギャラリートーク等	7,326	8,205	4,000	A
連続講座(夏期講座)	320	354	250	A
公開講座	38	34	80(40)	D(C)
京都国立博物館	**4,596**	**2,062**	**3,120**	**A**
土曜講座	3,888	1,257	2,800	A
記念講演会	193	190	160	A
夏期講座	206	219	160	A
社会科教員のための向上講座	66	30	－	－
セミナー・シンポジウム	243	366	－	－
京都ミュージアムズ・フォー連携講座(土曜講座に含む)	113	157	120	C

		奈良国立博物館	**3,525**	**3,219**	**2,650**	**A**
		特別展等講座	1,986	1,682	1,500	A
		夏季講座	561	587	500	B
		サンデートーク	978	950	650	A
		九州国立博物館	**4,694**	**7,276**	**3,100**	**A**
		特別展記念講演会	980	1,108	600	A
		講演及びシンポジウム	2,132	4,450	1,300	A
		ミュージアムトーク	1,582	1,718	1,200	A
		学習機会の提供　講演会等実施回数（回）				
		東京国立博物館	**127**	**131**	**77**	**A**
		講演会	30	30	20	A
		ギャラリートーク等	94	98	55	A
		連続講座（夏期講座）	1	1	1	B
		公開講座	2	2	1(2)	A（B）
		京都国立博物館	**36**	**21**	**22**	**A**
		土曜講座	31	10	20	A
		記念講演会	1	1	1	B
		夏期講座	1	1	1	B
		社会科教員のための向上講座	1	1	－	－
		セミナー・シンポジウム	2	8	－	－
		京都ミュージアムズ・フォー連携講座（土曜講座の内数）	1	1	1	B
		奈良国立博物館	**27**	**26**	**27**	**B**
		特別展等講座	14	13	14	B
		夏季講座	1	1	1	B
		サンデートーク	12	12	12	B
		九州国立博物館	**82**	**90**	**54**	**A**
		特別展記念講演会	4	5	4	B
		講演及びシンポジウム	26	38	10	S
		ミュージアムトーク	52	47	40	A

(3)　快適な観覧環境の提供

【中期目標】国民に親しまれ、他の館の見本となる施設を目指し、来館者の立場に立った観覧環境の整備や観覧料金及び開館時間の弾力化などの利用者の要望を踏まえた管理運営を行い、来館者の期待に応えること。

【中期計画】

国民に親しまれる施設を目指し、来館者の立場に立った観覧環境の整備や利用者の要望を踏まえた管理運営を行う。

①施設のバリアフリー化、各種案内の充実、研修等の実施等を通じて、高齢者、障がい者、外国人等の利用にも配慮した快適な観覧環境の提供を行う。

②一般来館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的に実施する。調査結果から来館者のニーズを把握し、観覧料金及び開館時間の弾力化などの管理運営の改善を行う。また、施設の収容力に応じた来館者数を確保するとともに、混雑時の対応を含め利用者に配慮した運営を行う。

③ミュージアムショップやレストラン等のサービスについては利用者の意見を収集し、改善する。

【主な計画上の評価指標】

○施設のバリアフリー化を進めること。

○利用者のニーズを踏まえ、観覧料金や開館時間の弾力化などの管理運営の改善を行うこと。

○利用者の意見を踏まえ、ミュージアムショップやレストラン等のサービスを改善すること。

【25 年度評価における主な指摘事項】

○ミュージアムショップの商品は、インターネット販売など、観覧者へのサービスの向上に向けた更なる取組を期待したい。

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価 年度		自己評価 中期	
	（３）快適な観覧環境の提供 **①施設・設備等の充実** （４館共通） １）特別展において音声ガイド等を活用した情報提供を積極的に推進し、来館者に対するサービスの向上を図る。	**（３）快適な観覧環境の提供** **①施設・設備等の充実**				
2311-1	（東京国立博物館） １）多言語による案内及び誘導サイン等を順次整備する。 ２）より快適な観覧環境を構築するため、展示照明を順次整備する。	**【東京国立博物館】** （4館共通） 1)当館開催の特別展のうち、6つの特別展で音声ガイドを実施し、来館者サービスの向上を図った。特別展「キトラ古墳壁画」の音声ガイドでは、松尾佳子（声優）のナビゲーター起用等が好評を博し、貸出率が24.8%となった。 （東京国立博物館） 1)27年１月２日(金)リニューアルオープンした「黒田記念館」への案内について、東博敷地（正門）から記念館までの誘導サインを多言語で整備した。 2)・リニューアルオープンした黒田記念館の黒田記念室において、天井間接照明用スプレッドレンズ付ＬＥＤスポットライトを整備したことにより、展示室全体の明るさ感が向上し、天井装飾を効果的に照明する効果が得られた。 ・東洋館のさらなるお客様誘導効果と親しみやすさ向上のため、東洋館入口前にサインと懸垂幕を設置し、懸垂幕と獅子に対して新たに照明を整備した。	B	所定の目標を達成し、来館者へのサービス向上に成果を出した。	B	新規にリニューアルオープンした施設等を含め、計画にあげたサービス提供が実現できている。

2311-2	3）総合文化展におけるスマートフォンアプリを用いたガイド「トーハクなび」(日本語版・英語版)・「法隆寺宝物館30分ナビ」(日本語版・英語版)を引き続き実施する。 4）障がい者のために点字版パンフレット等を引き続き配布する。 5）「総合案内パンフレット」（7言語（8種）：日、英、中(簡体字・繁体字)、韓、仏、独、西）を制作・配布する。 6）本館2階「日本美術の流れ」の展示を外国人に理解してもらうために、より基礎的な解説を盛り込んだ、3言語（英、中、韓）のパンフレットを継続して制作・配布する。 7）育児中の来館者が快適に観覧できるよう託児サービスを提供する。	(東京国立博物館) 3)24年度より公開しているアプリ「トーハクなび」（日・英）の提供を継続した。 26年4月にはAndroid版とiOS版コンテンツで機能とコンテンツを統一したver.2.0を公開し、さらに10月にバージョンアップ（ver.3.0）を行い、「本館2階 日本美術の流れコース」に新たに「今日のオススメ」作品ガイド機能を搭載した。また、iOSアプリ「法隆寺宝物館30分ナビ」（日本語・英語対応）を引き続き公開した。 4)障がい者の方のための点字版パンフレット等を引き続き配布した。 5)総合案内パンフレット「案内と地図」(7言語(8種)：日、英、中(簡体字・繁体字)、韓、仏、独、西)の制作・配布を行った。 6)本館２階「日本美術の流れ」の展示を外国人に理解してもらうために、より基礎的な解説を盛り込んだ３言語(英、中、韓)のカラーパンフレットを継続して制作・配布した。展示テーマと主な展示作品の解説を収録した日本語版は展示替えに応じて更新・配布した。11月、「トーハクなび」の「今日のオススメ」作品ガイドの配信開始に伴い、『博物館ニュース』ページ中の「日本美術の流れ」を「今日のオススメ」と連動させ、アプリ掲載作品ガイドをかねるパンフレット「日本美術の流れ　今日のオススメ」として作成し、配布した。また、総合文化展の見学ポイントを示し、鑑賞と理解を促す子供向けワークシート「本館１階見学マップ」「本館２階見学マップ」「暮らしの道具　今昔」「日本の伝統もよう」の４種を制作・配布した。 7)これまで試行実施に留まっていた託児サービスを、26年度より通年で実施した。	A	順調。「トーハクなび」の作品解説（日・英）掲載開始により、本館展示案内のいっそうの充実がはかられた。また、託児サービスの本運用を行うなど、多岐にわたり観覧環境の整備に努めた。	B	順調。「トーハクなび」の作品解説（日・英）掲載開始により、より時代に即したサービスを提供できた。託児サービスを始めとして、来館者の様々なニーズに応じた観覧環境の整備を着実に進めている。
2312	（京都国立博物館） 1）快適な観覧環境を提供するための平成知新館の建替プログラムを継続して推進する。 2）館内案内リーフレット（6言語：日、英、中、韓、仏、西）を継続して制作・配布する。	**【京都国立博物館】** （4館共通） 1)特別展及び平常展（平成知新館名品ギャラリー）において音声ガイド等を活用した情報提供を積極的に推進し、来館者に対するサービスの向上を図った。 （京都国立博物館） 1)25年度に展示製作工事が完了した平成知新館（名品ギャラリー)の開館準備として、より快適な観覧環境を提供するため、外構工事（本館前庭整備）、南門ショップ改修整備、サイン追加整備を実施した。 2)前年度に製作した館内案内リーフレット(6言語：日、英、中、韓、仏、西)を継続して配布した。また、平成知新館展示案内リーフレット(6言語：日、英、中、韓、仏、西)を新規に制作・配布した。	A	平常展（平成知新館名品ギャラリー）音声ガイドにおいて多言語（4言語）を導入し、積極的な情報提供を推進した。庭園も含めた施設全体として意匠統一された整備を行うことで、快適かつ美的な環境を実現し、各種メディアから高い評価を得て集客増に繋がった。	A	平成知新館建替プログラムの実施及び平成知新館展示案内リーフレット制作・配布等各種案内の充実を通じ、快適な観覧環境の提供を行った。
2313	（奈良国立博物館） 1）快適な観覧環境を提供するための展示施設の計画的な整備を実施する。 2）誘導サイン及び展示照明を整備し、より快適な観覧環境を確保する。 3）正倉院展の際に託児室を設置する。 4）ウェブサイトで展覧会の混雑状況・待ち時間の速報を行う。 5）館内案内リーフレット（7言語：日、英、中、韓、仏、独、西）を継続して制作する。 6）なら仏像館の会場案内図、展示一覧を作成する。	**【奈良国立博物館】** （4館共通） 1)特別展において音声ガイドを活用した情報提供を行い、来館者に対するサービスの向上を図った。 （奈良国立博物館） 1)快適な観覧環境を提供するための展示施設の計画的な整備を実施した。 2)誘導サイン及び展示照明を整備し、より快適な観覧環境を提供した。 3)正倉院展の会期中に、託児室を開設し、保育士2人が常駐して1歳児から未就学児までの預かりを予約制で実施した。会期中142人の利用があった。 4)ウェブサイトでの展覧会の混雑状況・待ち時間の速報については、正倉院展において特別協力の新聞社ウェブサイトにリンクを張る形で行った。 5)館内案内リーフレット(7言語：日、英、中、韓、仏、独、西)を継続して制作した。 6)なら仏像館の会場案内図、展示リストを作成・配布した。	B	なら仏像館休館後の展覧会のない時期に庭園等の無料開放を実施して来館者サービスの維持に努めた。	B	館内案内リーフレットの多言語化を継続し、正倉院展では託児室を設置した。
2314-1		**【九州国立博物館】** （4館共通） 1)特別展等において展覧会の内容のより深い理解を助けるための音声ガイドを実施した。	B	本年度の特別展「台北　國立故宮博物院－神品至宝－」において来館者数が多かった影響で、前年度より貸し出し台数が増加しており、来館者の理解に役立っている。	B	所期の目的を達成しており、順調に推移している。

2314-2	（九州国立博物館） 1）快適な観覧環境を提供するための展示施設等の調査・分析及び検討を進める。 2）来館者にとって分かりやすい展示室内サインを開発し、快適な鑑賞環境を提供する。 3）館内案内リーフレット（7言語：日、英、中、韓、仏、独、西）を継続して制作する。 4）文化交流展示室の展示を、日本文化に初めて接する海外の来館者にも理解しやすいような、外国語のパンフレットを刊行する。 5）英語・中国語・韓国語版の文化交流展示室のマップを継続して制作する。	（九州国立博物館） 1)開館10周年に向けて、文化交流展示室のケース配列を再検討し、展示テーマの見直しや中央部分の活用等について議論を重ねた。 2)分かりにくいという声のあった関連展示室サインの場所とデザインについて、デザイナーへの提案要件事項を整理し、開館10周年を機にリニューアルを図る予定である。 3)館内案内リーフレット(7言語：日、英、中、韓、仏、独、西)を継続して作成・配布した。 4)文化交流展示室では引き続き、英語・中国語・韓国語版のマップを展示替に応じて更新し、作成・配布した。 （中期計画記載事項） ・身障者トイレに幼児用補助便座を取り付けた。（6ヵ所：１階、3階、4階） ・公益財団法人日本博物館協会が実施する車椅子・ベビーカーの寄贈事業を活用し、ベビーカーを新たに2台導入した。 ・斜行リフト案内板（国博通り側）に英語・中国語・韓国語の案内文を追記した。	B	身障者トイレに幼児用補助便座を取り付けるなど利用者へ配慮した。	B	ベビーカーを新たに２台導入し、斜行リフト案内板に英語・中国語・韓国語の案内板を追記するなどして利用者に配慮した取り組みを推進している。
	②　来館者満足度調査及び利用者に配慮した運営 （４館共通） 1）来館者のニーズを引き出すため来館者調査を実施し、その結果を改善に活かす。 2）混雑が予想される展覧会ではその対応を想定した計画を立て、収容力に応じた入場者数の調整、陳列品の配置及び音声ガイドの対象となる文化財の解説場所の工夫等を行い、展覧会場の快適な環境維持に努める。	**②　来館者満足度調査及び利用者に配慮した運営**				
2321		**【東京国立博物館】** 1)・タッチパネルアンケート(特別展、総合文化展)を平成館、本館、東洋館で開催された全ての特別展及び総合文化展でアンケートを実施し、集計結果を元に環境改善に努めた。 ・「総合文化展100万人プロジェクト」の一環として、館内環境の整備や外国人来館者対応の問題点の洗い出しなどに努めた。 2)特別展「台北 國立故宮博物院－神品至宝－」において、期間中の混雑対応等、展覧会場の快適な環境維持に努めた。	B	アンケートでの満足度に大きな変化はなく、アンケートやモニタリング調査で出された意見や要望について引き続き検討が必要。特に特別展により長時間の待ち時間が発生したものがあったため、今後の混雑対策について検討中である。	B	外国人をはじめとする一般来館者の意見については聴取できているため、それを基に今後改善を行う。混雑時の観覧環境の維持も課題である。
2322	（京都国立博物館・奈良国立博物館） 1）特別展等に関し、専門家の展覧会評を求め、広報誌等に掲載する。 （京都国立博物館） 1）モニターを委嘱し、提言を受け、博物館運営に反映する。	**【京都国立博物館】** （4館共通） 1)来館者アンケートを実施し、その結果を改善に生かした。 2)混雑時には入場制限を行い、来館者の安全の確保、快適な観覧環境の維持に努めた。 （京都国立博物館・奈良国立博物館） 1)特別展覧会等に関する専門家の展覧会評を求め、『京都国立博物館だより』に掲載した。 （京都国立博物館） 1)小学校・中学校・高等学校の教員、キャンパスメンバーズ加盟校の学生及び外国人招致活動用務に携わっている方、近畿地区在住の外国人の方へモニターを委嘱し、提言を受けた。館内で情報を共有し、展覧会を含めた博物館運営に反映した。	B	特別展覧会ではテントやコインロッカーの増設を行い、混雑状況に応じて入館制限も行うなど、快適な観覧環境を実現すべく、施策を着実に実施した。	B	来館者へのアンケートや専門家による批評、モニターからの提言などの取り組みを継続的に行っている。
2323	（京都国立博物館・奈良国立博物館） 1）特別展等に関し、専門家の展覧会評を求め、広報誌等に掲載する。	**【奈良国立博物館】** （4館共通） 1)来館者のニーズを引き出すため来館者にアンケートを実施し、その結果を改善に活かした。 2)混雑が予想される展覧会ではその対応を想定した計画を行い、実際の混雑に対しては、収容力に応じた来館者数の調整、陳列品の配置及び音声ガイドの対象となる文化財の解説場所の工夫等を行い、展覧会場の快適な環境維持に努めた。 （京都国立博物館・奈良国立博物館） 1)特別展「国宝 醍醐寺のすべて―密教のほとけと聖教―」に関し、専門家の展覧会評を『奈良国立博物館だより』92号に掲載した。	B	来館者アンケートを実施し、その結果をもとに改善を実施した。	B	特別展について専門家の展覧会評を『奈良国立博物館だより』に掲載している。また一般来館者のアンケートを実施し改善すべきところを把握し、特に混雑する正倉院展については工夫してその緩和に努めた。

2324		**【九州国立博物館】** （4館共通） 1)来館者のニーズを引き出すため、文化交流展示及び各特別展で来館者調査を実施した。 2)・混雑が予想される展覧会（特別展「台北　國立故宮博物院―神品至宝―」）について、入場規制、展示レイアウトの工夫をし、展覧会場の快適な環境維持に努めた。 ・来館者のニーズ等を把握するため、識者や市民代表などの外部委員による懇話会を開催した。	B	アンケート結果は概ね好評を得ている。また、管理運営のためのアンケート結果を改善に向けて活かしている。さらには、外部からの要望意見聴取等をまとめという形で発行した。なお、混雑が予想された特別展「台北　國立故宮博物院―神品至宝―」については、東京国立博物館へ事前調査を行い、情報収集し、その情報を基に混雑対策を講じることができた。その結果、入場の待ち時間はあったが、混乱なく入場案内ができた。	B	管理運営のためのアンケート結果を関係各課で改善に向けて活かしている。また、外部委員のまとめを全職員に配布し、来館者ニーズ等に対する職員の意識改革の推進を図った。なお、混雑が予想される特別展については、関係部署と連携を取り対応等を講じることができた。
	③　ミュージアムショップやレストラン等館内環境の充実 ミュージアムショップやレストランの利用者等の意見を把握し、関係者との協議のうえ、利用者サービスの向上に努める。 （４館共通） １）オリジナルグッズの開発や展覧会に応じた商品を提供するなど、サービス向上に努める。	**③　ミュージアムショップやレストラン等館内環境の充実**				
2331	（東京国立博物館） １）正門周辺の再開発に伴い設置する無料ゾーンに、ミュージアムショップを併設する。 ２）黒田記念館別館のカフェで黒田清輝作品関連のグッズ販売を行う。	**【東京国立博物館】** （4館共通） 1)・ミュージアムグッズは、東京国立博物館協力会と協議を重ね、新たな商品の開発に努めた。26年度は、考古フィギュア、卓上カレンダーなどを新たに販売開始した。 ・レストランでは、特別展に合わせたメニューを提供する等、サービスの向上に努めた。 ・低価格帯のカフェがないとのお客様の声を受けて、26年10月の「アジア・フェス」期間中にケータリングカーによる軽食の屋外販売を試行的に行い、順調であったことから、3月のお花見の時期に合わせて本格的に野外販売を開始した。 （東京国立博物館） 1)正門プラザの無料ゾーンに、ミュージアムショップを併設し、26年4月15日にオープンした。 2)黒田記念館別館の上島珈琲店で黒田清輝作品関連商品の販売を引き続き行った。また、27年1月2日の黒田記念館のリニューアルオープンにあわせ、黒田記念館内にミュージアムショップをオープンし、同日よりオリジナルグッズを販売した。	B	レストランやショップと協力しながら、サービスの向上に努めている。	B	引き続き利用者の意見を収集し、サービスの向上に努めている。
2332	（京都国立博物館） １）レストラン利用者にアンケート調査を行いサービス向上に努める。 ２）平成知新館に新たなレストランを設け、更なる利用者サービス向上を図る。	**【京都国立博物館】** （4館共通） 1)新規にオリジナルグッズを作成し、また展覧会に応じた関連商品、関連書籍等を取り揃え、サービスの向上に努めた。 （京都国立博物館） 1)レストラン利用者にアンケート調査を実施し、アンケートの集計結果をレストラン外部委託業者に提示し、さらなる接客サービスの向上に努めた。 2)平成知新館に新たなレストランを設けた。 ○平成知新館内に新たなミュージアムショップを設けた。	B	平成知新館内に新たにレストラン及びミュージアムショップを設け、利用者サービスの向上に努めるなど、着実な成果をあげた。	B	ミュージアムショップやレストランのサービスについて、利用者に対し定期的にアンケートを行うなど、快適な観覧環境を実現するための事業を的確に推進している。
2333	（奈良国立博物館） １）ノベルティグッズを作成し、来館者に配布するなどのサービスを行う。 ２）仏教美術に関する図書の販売の充実を図る。	**【奈良国立博物館】** （4館共通） 1)オリジナルグッズ（元気が出る仏像シリーズ、正倉院展模様シリーズ、博物館グッズ）の商品をミュージアムショップで販売し、サービスの向上に努めた。	B	ノベルティグッズを作成して来館者に配布し、サービスの向上に努めた。ま	B	ミュージアムショップにおけるオリジナルグッズや仏教美術に関する図書の販

		（奈良国立博物館） 1）・正倉院展のオータムレイトの観覧券を購入した方に非売品のしおりを配布した。 ・27年1月2日に来館された方に正月サービスとして非売品のオリジナルステッカーを配布した。 2)仏教美術に関する図書の販売の充実を図った。		た、ミュージアムショップにおいて、オリジナルグッズを新たに開発し販売した。		売について、利用者の意見を参考に充実を図った。また、レストランにおいても利用者の意見を収集し、サービスの向上に努めており、中期計画期間中の改善が順調に行われている。
2334	（九州国立博物館） 1）特別展に関連した特別メニューを提供するなど、サービスの向上に努める。	**【九州国立博物館】** （4館共通） 1)ミュージアムショップでは、特別展及び文化交流展示の展示内容に即した商品陳列を行い、オリジナル商品の陳列面積を増やすとともに地場産業のお菓子やグッズなどを提供した。 （九州国立博物館） 1)レストランでは、特別展に関連したメニューを期間限定で提供した。	B	ミュージアムショップが新聞に取り上げられ、特別展「台北國立故宮博物院」開催中はレストランが大勢の方で賑わうなど順調である。	B	経営側との頻繁な意見交換を行うなど、中期計画に基づいてサービスを改善するための取り組みを行った。

定量評価項目	26 年度	25 年度	目標値	評定
リーフレット等（ヵ国語）				
東京国立博物館	7	7	7	B
京都国立博物館	6	6	6	B
奈良国立博物館	7	7	7	B
九州国立博物館	7	7	7	B

(4)　文化財情報の発信と広報の充実

【中期目標】文化財情報の蓄積と発信の充実に努めるとともに、展示及び各種事業に関し、積極的な広報に努めること。

【中期計画】	**【主な計画上の評価指標】**
（４）文化財情報の発信と広報の充実	○収蔵品等に関するデジタル化目標件数を定め、それを達成すること。また、公開データ件数を増加させること。 ○報資料を収集し、レファレンス機能を充実させること。

①収蔵品等の文化財その他関連する資料の情報について、永く後世に記録を残すために、データ整備及びデジタル化を推進する。また、整備したデータを公開するウェブサイトなどの公開システムの充実を行う。公開データの件数は継続的に増加させる。 収蔵品等に関するデジタル化件数は、その都度目標を設定する。 ②美術史・考古学・博物館学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館等に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積するとともに、情報の発信と、レファレンス機能を充実させる。 ③展示や教育事業等について、個々の企画の目的、対象、内容、学術的な意義を踏まえて広報計画を策定し、情報提供を行う。 ④広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用及びマスメディアとの連携強化等により、積極的な広報を行う。 ⑤ウェブサイトアクセス件数のカウントの統一を図り、アクセス件数の向上を図る。	○計画的な広報・情報提供を行うこと。 ○ウェブサイトアクセス件数の向上を図ること。 **【25 年度評価における主な指摘事項】** ○文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信に際して、分かりやすく親しみのもてる平常展の構築、ｅ国宝やＨＰによる情報提供、ＳＮＳ、ガイドアプリ等広い年代層へむけての各種広報などが行われ様々なニーズに応えているが、今後はさらに新たな入館者のシーズを掘り起こすような一層の創意工夫と、多言語化の推進が求められる。

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価 年度		自己評価 中期	
	（４）文化財情報の発信と広報の充実 ①　デジタル化の推進 （４館共通） 1）収蔵品のデジタル画像による来館者への情 報提供及びインターネットでの公開を継続して行う。 2）収蔵品の国宝･重要文化財について、5言語 （日、英、中、韓、仏）の説明を付したデジタル高精細画像（ｅ国宝）を継続して公開する。 3）約5,800件　（東京：300、　京都：2,000、 奈良：3,000、　九州：500）の収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化を実施する。	**（４）文化財情報の発信と広報の充実** ①　デジタル化の推進				
2411	（東京国立博物館） 1）外部への公開を見据えた「列品管理プロトタイプデータベース」（学芸業務支援システム）の構築を進め、博物館機能の充実を図る。 2）収蔵品に関する基本情報のデータ化	**【東京国立博物館】** （4館共通） 1)デジタル画像を資料館及びインターネットで公開した。 2)国宝・重要文化財の高精細画像(ｅ国宝)を継続して公開した。またiOS、Androidそれぞれのアプリ版「e国宝」を継続して公開した。	B	デジタル画像の公開、データベース開発やデータ整備等は順調である。既存フィルムのデジタ	B	既存フィルムのデジタル化はほぼ完了しているが、その他のデータ整備や和古書・洋古書デジタル化を進め

	及びデ ータ整備を引き続き推進する。 3）収蔵品の和古書・洋古書のデジタル化を実施 し、データを整備して、公開する。 4）法隆寺献納宝物について、5言語（日、英、 中、韓、仏）の説明を付したデジタル高精細画像（「法隆寺献納宝物デジタルアーカイブ」）等の提供を法隆寺宝物館にて継続して実施するとともに、システムの更新について検討する。	3)通常博物館で使用する形態の既存フィルムのデジタル化は大半が既に終了しており、今年度は、26年度新規フィルム撮影分及び25年度末撮影分にあたる、カラーフィルム41枚、モノクロフィルム38枚をデジタル化した。 (東京国立博物館) 1)「列品管理プロトタイプデータベース」について、機能向上に向けてプログラムコードの大幅な整理を行うとともに、列品に関する調査結果のデータの流し込み機能を開発した。 2)収蔵品情報のデータ化とデータ整備を推進した。 3)収蔵する和古書・漢籍について25,991カット、また洋古書について10,820カットのデジタル撮影を行い、前年度までに撮影したものの一部を公開した。 4)「法隆寺献納宝物デジタルアーカイブ」は故障のため25年4月より一時公開を停止しシステムの更新を行ったが、27年度の法隆寺宝物館の改修が完了した後、再度公開する予定である。 ○東京国立博物館情報アーカイブの運用を継続し、収蔵品、調査研究成果等の情報公開の充実を図った。		ル化はほぼ全て完了しているため、目標値の設定について見直しが必要である。一方、和古書・洋古書のデジタル化件数は増加している。また本館19室では先進的なシステムを開発し、データ公開を大きく充実させた。		た。また本館19室では先進的な公開システムを開発した。
2412	（京都国立博物館） 1）収蔵品について6言語（日、英、 中、韓、 仏、西）の説明を付した国宝重要文化財・名品高精細画像閲覧システムの整備を継続して実施する。	**【京都国立博物館】** （4館共通） 1)収蔵品のデジタルデータを作成し、文化財情報システム及び公開収蔵品データベースのシステム修正およびデータ更新を随時行い、当館デジタルアーカイブ及び公開情報サービスを行った。 2)収蔵品の国宝・重要文化財について、5言語(日本語、英語、中国語、韓国語、フランス語)の説明を付したデジタル高精細画像(e国宝)を継続して公開した。 3)・収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化を継続し、5,536件実施した。 ・フィルム用スキャナを運用し、既存フィルムのデジタル化を促進した。 ・ガラス乾板及びマイクロフィルムのデジタル化を行った。(詳細は処理番号2422を参照) （京都国立博物館） 1)京都国立博物館所蔵国宝重要文化財・名品高精細画像公開システム「KNM GALLERY」の内容及び表示方法等について前年度に引き続きシステム修正を行った。 (中期計画記載事項)今年度は公開データを103件増加した。	B	既存フィルムのデジタル化は目標値を大きく上回った。しかし、6言語による高精細画像閲覧システムは費用対効果の面で問題が生じ、見直しを始めた。	B	デジタル化は大幅に進めることができた。公開方法について課題が残った。言語によるアクセス件数を考慮して対応を検討したい。
2413	（奈良国立博物館） 1）収蔵品について情報の整備を継続して実施 し、収蔵品データベースの充実を図	**【奈良国立博物館】** 1)収蔵品データベースと画像データベースの公開により、来館者及びインターネットでの情報提供を継続して行った。 2)国宝・重要文化財のデジタル高精細画像（ｅ国宝）を継続して公開した。	S	既存フィルムのデジタル化を重点的に実施し、目標値を大幅に	S	目標値を大きく上まわり、かつデータの質の維持にも力を注いでおり、

	る。 2）画像データベースの個別データを約2,000件追加更新する。 3）修理記録・古写真・ガラス乾板等の整理とデ ジタル化を推進し、運用方法について検討する。 4）仏教美術情報の公開・普及を図る。	3)収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化を実施した(5,154件)。 (奈良国立博物館) 1)収蔵品情報システムに新たに収蔵品となった文化財の情報を継続して蓄積し、内容の充実に努めた。これらは公開用の収蔵品データベースにも反映され、当館から発信する収蔵品の情報を充実させることが出来た。また画像データベースとのリンク情報も追加し、情報の効率的な運用と公開に努めた。 2)写真情報システムの個別データを5,447件追加更新した。このうち公開データは3,376件。 3)「日本美術院彫刻等修理記録」の整理とデータ修正が完了し、公開用のデータベースを新規に作成した。仏教美術資料研究センターでは全ての画像ならびにテキストデータ、インターネットでは全てのテキストデータを公開した（26年7月）。 4)仏教美術資料研究センターのウェブサイトを運営し、蔵書、論文データの更新を行い内容の充実に努めた。 (中期計画記載事項) インターネットで公開している収蔵品データベース、画像データベースの公開件数を継続的に増加させている。		超える数値となった。既存データの訂正、非公開から公開への切り替えを行ったため、昨年度より若干減少したものの、引き続き既存フィルムのデジタル化を重点的に行っているため。		中期計画におけるデータ整備及びデジタル化について顕著な成果と言えるため。
2414	（九州国立博物館） 1）収蔵品に関するコンテンツを順次追加し、 デジタルアーカイブの充実を図る。 2）対馬宗家文書データベース等の効率的な運 用を検討し、実施する。 3）海外調査で撮影した写真やビデオを展示や 教育普及事業で活用するための整備を行う。	**【九州国立博物館】** （4館共通） 1)「九州国立博物館収蔵品デジタルアーカイブ」の拡充を図り、館内及びインターネットで継続して収蔵品情報を発信した。 2)収蔵品の国宝・重要文化財について、デジタル高精細画像（ｅ国宝）を継続して公開した。 3)776件の収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化を実施した。 (九州国立博物館) 1)九州国立博物館デジタルアーカイブの運用・公開を継続した。 2)対馬宗家文書データベースの運用・公開を継続した。 3)ミャンマーにおける伝統文化・工芸品等の実態を調査して写真に収め、今後の博物館教育の参考資料とした。次年度以降体験型展示室「あじっぱ」にてミャンマーの資料を展示する際に活用する予定である。	B	デジタルアーカイブ及び宗家文書データベースの運用・公開を前年同様に実施した。また、ミャンマーにおける伝統文化・工芸品の実態を静止画・動画に収めることができ、且つ次年度以降の活用について具体的な方法等が確認できた。	B	収蔵品等のデータ整備及びデジタル化については順調に推移している。
	②博物館関係資料の収集及び発信、レファレンス機能の強化 美術史・考古学その他の関連諸学に関	**②博物館関係資料の収集及び発信、レファレンス機能の強化**				

	する基礎資料、国内外の博物館・美術館に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積を図る。また、資料の登録や検索・利用については、最新の情報処理技術を用いた、活用しやすいシステムを開発する。 （４館共通） １）約13,000件 （東京：6,000、 京都：3,000、 奈良：3,000、 九州：1,000）の収蔵品･出品作品等の新規撮影及び関連データを整備する。					
2421	（東京国立博物館） １）資料館において、美術史等の情報及び資料 を一般に広く公開するために、図書管理システム及び画像管理システムを軸とした図書資料、画像資料などのデータ整備を推進し、レファレンス機能とサービスの充実を図る。 ２）法隆寺宝物館において、観覧者向け図書コ ーナーサービスを継続実施する。 ３）調査・研究・教育など博物館の機能全般に関わる有益な情報及び関係資料を収集・蓄積する。 ４）資料館の機能の拡充に向け、施設・設備の見 直しを含めた、利用計画を策定する。	**【東京国立博物館】** （4館共通） 1)本年度は10,720件の収蔵品・出品作品等の新規撮影及び関連データを整備した。 (東京国立博物館) 1)・資料館における美術史等の情報・資料の公開のため、8,115件の図書資料のデータ整備入力を行った。 ・博覧会資料565件と売立目録332件の書誌データを整備し、国立情報学研究所が提供する総合目録データベースへの登録を実施した。また所蔵する和雑誌のNCへの所蔵登録を継続し、1,995タイトルの所蔵情報を点検・登録した。 ・画像管理システムに画像データ10,720件を登録し、既存データ493件の修正を行って正確な情報の提供に努めた。 ・シーボルト旧蔵本の保存とデジタルアーカイブでの公開について図書館振興財団からの助成を受け、修理・保管箱作成（77冊）及びデジタル撮影（29冊）等を行い、一部をウェブサイトで公開した。 ・また助成金枠以外にも洋書28冊、漢籍79冊の貴重書のデジタル撮影を行った。 ・博覧会資料と売立目録について、中性紙封筒への収納を行った。また、博覧会関係資料、戦前目録類、洋書等約2,000点について大量脱酸の処理のための事前調査を行い、戦前目録492冊について脱酸化処理を実施した。 ・資料の閲覧、複写及びレファレンスサービスを継続し、資料館利用者数は前年度に引き続き増加した。 （6,118人 参考：25年度5,661人）	B	法隆寺宝物館での図書コーナーは平成館工事により一時中止があったが、基本である資料館での美術史等の情報及び資料の公開とその活用を支援する事業は順調に行われ、検索方法ガイドの作成など新たな利用促進の試みも進んでいる。	B	データ整備入力、データベース作成、調べ方ガイド作成など、情報の発信とレファレンスに有益な業務を展開できた。
		・「日本国宝展」の開催時期に合わせ、「東京国立博物館資料館 調べ方ガイド 1重要文化財」を作成し、資料館内での配布と、ウェブサイトでのPDF版公開を行った。また図書館システム改定に合わせ検索方法のガイド（冊子）を作成し、PDF版を公開した。 2)法隆寺宝物館において、観覧者向け図書コーナーサービスを継続した。 （12月～年度末までは平成館工事に伴い飲食可能な休憩スペースとしたため中止。27年4月再開予定。） 3)当館開催の特別展(戦後分)の出品作品データベースを作成・維持した。また、刊行物に収載されている当館の所蔵品を調査し、約86冊の図書・雑誌のデータに列品番号の情報を入力した。 4)黒田記念館の書庫スペースについて、書架を設置し、資料の再配置の一環として一部の資料を移動した。				
2422	（京都国立博物館） １）資料情報などの研究系システムについて、 サーバ仮想化(多数のサーバを仮想的に少数のハードウェア装置へ集約する技術)による費用低減と性能向上を図る。 ２）蔵書管理システムをデータベース統合し、 資料の管理性や検索性を向上させる。	**【京都国立博物館】** （4館共通） 1)・収蔵品、出品作品等の新規撮影は、フィルム撮影を557枚、デジタル撮影を4,370枚行った。 ・高精細デジタルカメラが導入され、デジタル撮影を中心としてフィルム撮影も並行して行った。 ・画像利用申請に伴う収蔵フィルムのデジタル化作業を継続して行った。 ・当館で所有するスキャナを使用し、所蔵フィルムのデジタル化を開始した。 ・8×10フィルムの高精細スキャニング作業を開始した。 ・館蔵ガラス乾板の保存整理作業、及びガラス乾板のデジタル化を継続して行った。 ・フィルムの保存状態改善のため、保存に適した収納箱への移し替えを継続して行った。 ・経年劣化の激しいマイクロフィルムのデジタル化を継続して行った。 ・調査、研究、教育等に資するため、図書資料においては、新規図書9,758冊、逐次刊行物1,011冊を収集した。 （京都国立博物館） 1)研究系基盤サーバにおいて仮想化統合を実施した。処理能力の向上により、レファレンスの検索速度が向上した。 2)・蔵書管理システムについて、図書システムとサブシステムを統合したことにより資料検索の利便性を向上させた。 ・統合する際、サブシステムに登録している書誌データに登録番号を付与し、管理上の便宜を図った。	B	新規撮影件数・図書資料の収集を滞りなく実施することができた。	B	資料の収集・整備、及び情報の発信とレファレンスを滞りなく行うことができた。

2423	（奈良国立博物館） １）図書情報システム及び写真情報システムに よる資料整備と情報蓄積を推進し、内外の利用者に対してサービスの充実を図る。 ２）仏教美術資料研究センターの利用者に対し 利便性向上を図るため、資料配置を見直し、資料の有効的な活用と効率的な運用について検討し、実施する。	**【奈良国立博物館】** （4館共通） 1)収蔵品・展覧会等出品作品等の新規撮影を多数行い、関連データを整備した(5,478件)。 （奈良国立博物館） 1)・図書情報システム及び画像情報システムによる情報蓄積を推進し、仏教美術資料研究センター及びインターネットにおける情報公開を充実させた。 ・OPACの機能を強化し、図書・論文の書誌情報を一括で検索する画面を新規に作成した。これにより、内部で継続して蓄積を行っている、論集・学術雑誌・展覧会図録等に掲載されている論文情報をより有効に活用することが叶い、情報発信と利便性の向上が実現した。 2)仏教美術資料研究センターでは、通常の資料・施設の公開にとどまらず、ボランティアによる建築案内や、専門家の見学や研修の受け入れを複数回行っている。今年度は、文化庁招聘の日本美術資料専門家（欧米）の研修を実施し、日本東洋美術に関する資料の蓄積やデジタル化について強い関心が集まった。こうした外部からの見学・取材依頼に適宜対応することにより、機能及び施設の普及・宣伝に着実に効果を上げている。	A	美術史・考古学・博物館学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館等に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積するとともに、情報の発信と、レファレンス機能を充実させる。	A	データ整備の目標値を上まわる数値となるだけに留まらず、情報の発信についてもOPACの機能強化等新たな試みの実施により、着実に機能を充実させることができた。
2424	（九州国立博物館） １）博物館資料（図書、写真など）データベー スにおける業務の効率化に向けて、第２次業務システムについて継続的に見直しと改良を加え、より充実した業務システム構築を目指す。	**【九州国立博物館】** （4館共通） 1)1,167件の収蔵品・出品作品等の新規撮影及び関連データを整備した。 （九州国立博物館） 1)博物館資料（収蔵品、図書、写真など）データベースにおける業務の効率化に向けて、第２次業務システムの検討を行った。その結果、図書管理については、日本事務器製ネオシリウス（蔵書管理システム）を導入した。収蔵品、写真管理については、日本写真印刷製アルタイズネットを導入した。	B	目標値は達成した。撮影業務は引き続き外部委託として実施しているが、委託業者の確保と撮影制度の向上には留意している。蔵書管理システム等の導入により、より充実した業務システムの構築を実現することができた。	B	撮影自体は各年の展覧会開催や借用実績等の事情によってかなり左右されるが、毎年度の目標値は順調に達成している。なお、画像データの管理について新しい文化財管理システムの導入の中でプロトタイプを作成した。

	③　広報計画の策定と情報提供	**③　広報計画の策定と情報提供**				
2430	（機構本部） １）機構の概要、年報を作成する。 ２）機構本部ウェブサイトを運用し、法人情報の提供を行う。 （４館共通） １）年間スケジュールリーフレットの制作・配布を行う。	**【本部事務局】** （機構本部） 1)『独立行政法人国立文化財機構概要 平成26年度』（日本語版・英語版）を26年7月に発行し、PDF版をウェブサイトに掲載した。 『独立行政法人国立文化財機構年報 平成25年度』を26年12月に発行し、PDF版をウェブサイトに掲載した。 2)機構本部ウェブサイト(http://www.nich.go.jp/)の運用を継続した。随時掲載情報の追加更新を行い、広く一般に向けた法人情報の提供を行った。	B	計画通り概要・年報を作成し、本部ウェブサイトの運用においても必要な情報提供を行うことが出来た。	B	機構本部から一般への情報提供について、計画通り行うことが出来ている。
2431	（東京国立博物館） 総合文化展の活性化に重点をおいた広報活動を行う。 １）広報・宣伝制作物の企画・制作・配布等を行う。 ２）春の「博物館でお花見を」、秋の「博物館で アジアの旅」、正月の「博物館に初もうで」を軸とした総合文化展の広報の企画・運営を行う。 ３）本館2階「日本美術の流れ」のテーマ解説及 び主な展示作品の解説をまとめ、展示替ごとに更新する日本語パンフレットを継続して作成し、配布する。	**【東京国立博物館】** （4館共通） 1)年間スケジュールリーフレットを制作し(35,000部）、送付及び館内配布した。 （東京国立博物館） 1)『東京国立博物館ニュース』(隔月刊)や、総合案内パンフレット「案内と地図」（7言語8種）、「展示・催し物のご案内」を作成、配布した。 2)「博物館でアジアの旅」、「秋の特別公開」、「博物館に初もうで」、「黒田記念館リニューアル」などにおいて、チラシ、パンフレット、ポスターなど各種広報印刷物を作成・配布し、また当館ウェブサイト・SNSによる告知を行った。 3)本館2階「日本美術の流れ」のテーマ解説及び主な展示作品の解説をまとめ、展示替ごとに更新する日本語パンフレットを10月まで作成し、配布した。11月以降、「トーハクなび」の「今日のオススメ」作品の配信開始に伴い、『東京国立博物館ニュース』ページ中の「日本美術の流れ」を「今日のオススメ」と連動させ、パンフレット「日本美術の流れ　今日のオススメ」として作成し、配布した。	B	スケジュールや案内は当初計画した形での広報物作成と配布が実施できた。また各企画において印刷物を作成し効果的な広報が展開できた。	B	より一般来館者の関心を惹き、かつ外国人や若年層など、今後来館の幅を広げうる層にも訴求するような印刷物及び広報展開が実施できている。
2432	（京都国立博物館） １）26年9月13日の平成知新館開館に伴い、広報 用ポスター・パンフレットの企画・製作・配付等を行う。	**【京都国立博物館】** （4館共通） 1)年間スケジュールリーフレットの制作・配布を行った。 （京都国立博物館）	A	年間スケジュールや展覧会チラシ・メールマガジンの発行・ツイッターでの特	A	中期計画に従って、年間スケジュールや展覧会チラシ・メールマガジンの発行・ツイッ

	2）文化大使を引き続き任命し、広報活動を行う。	1)・26年9月13日の平成知新館開館に伴い、平成知新館の建築及びオープン記念展を紹介するプレスリリース、広報用ポスター・パンフレットの企画・製作・配付等を行った。 ・平成知新館開館ならびにオープン記念展「京へのいざない」の開催に向けて、事前記者発表を3回（うち１回は東京）開催した。 2)文化大使を引き続き任命し、広報活動を行った。		別展覧会混雑状況の告知など多方向の媒体を活用して着実な広報活動を行うと共に、当初、予定になかった東京での報道発表を実施し、報道関係者及び一般読者等から多大な好評を得た。引き続き様々な機会と媒体に対して積極的な発信を行うこととする。		ターでの特別展覧会混雑状況の告知など多方向の媒体を活用して博物館の広報活動を着実に行った。また東京での記者発表を実施する等、新館開館に伴い、これまでになく広範な広報活動を行った。引き続き様々なマスコミや媒体に対して積極的な発信を行うこととする。
2433	（奈良国立博物館） 1）広報・宣伝制作物の企画・制作・配布等を行う。 2）特別展の際に、タクシー・ホテル等関係者に 対する内覧会を実施し、タクシー・ホテル等利用者への広報活動を展開する。 3）地域の観光協会を通じて観光客への広報活動を展開する。 4）地域の自治体・商工団体・観光団体等と連携 した広報活動の展開を図る。 5）文化大使を引き続き任命し、広報活動を行う。 6）写真・映像の撮影等に場所提供を含め協力することにより博物館の認知度を高める。	**【奈良国立博物館】** （4館共通） 1)26年7月～27年5月の展覧会日程を記載したリーフレットの初版を5月に5,000部、一部改訂版を10月に30,000部作成し、配布した。 (奈良国立博物館) 1)それぞれの展覧会の特性や意義に応じた広報の方針、及び印刷物の部数を議論する広報戦略委員会を、6回実施した。 2)特別展では、タクシー・ホテル等関係者に対する内覧会を実施、タクシー・ホテル等の利用者への広報活動を行った。 3)奈良市観光協会への入会をはじめ、積極的に地元観光業界に対し広報活動を展開するとともに情報収集に努めた。 4)奈良県が後援する観光イベントへの積極的な協力や、奈良県ビジターズビューローとの連携等、地域の観光団体等と連携した広報活動を展開した。 5)文化大使の次期候補者から就任の内諾を得た。 6)新聞社や鉄道会社の広報誌、地元のタウン情報誌等の写真撮影協力やテレビ局に対して放送のための映像撮影協力を行い、博物館の認知度を高めた。	B	昨年に引き続き、近隣商店街など地域と連携して博物館の情報を発信することができた。	B	順調に成果を上げているため。
2434	（九州国立博物館）	**【九州国立博物館】**	B		B	

	1）特別展の実施に伴う広報・宣伝材料を制作する。 2）現在及び過去や将来の展示リストを検索・紹介し、新鮮な展示情報を情報発信するためのウェブデータベースの整備を継続する。 3）地域の自治体・商工団体・観光団体等と連携した広報活動を展開する。 4）九州観光推進機構などを通じた海外への広報・営業活動を展開する。 5）文化交流展示室からの積極的な情報発信を図るため、ポスター・ちらし・ウェブコンテンツの活用を一層、促進する。	（4館共通） 1)年間スケジュールリーフレット「九州国立博物館　展示スケジュールのご案内」の制作・配布を行った。（50,000部） (九州国立博物館) 1)特別展にかかわるポスター、ちらしなどの広報・宣伝材料を制作した。 2)過去の特別展やトピック展などの情報の整備とともに、現在及び将来の展示リストの検索・紹介、新鮮な展示情報について情報発信するためのウェブデータベースの整備についても実施した。 3)トピック展示ポスター、ちらし、「展示・イベントスケジュール」の設置など観光協会と連携した広報活動を実施した。 4) 九州観光推進機構のウェブサイトに博物館情報を掲載し、アジアへ情報を発信した。 5)特別展と文化交流展示室とで統一的な企画を行った際、チケット半券に文化交流展示室の詳細情報を記載し、特別展来場者が文化交流展示室へも足を運ぶよう工夫した。		実施した特別展のそれぞれの適正に応じたポスター・ちらしなどの制作や、航空会社機内誌への掲載など新たな取り組みも行うことができた。		各年度において広報計画を策定し、告知にあたっては、企画目的を考慮し、地域・年齢層などのターゲティングを行い、効果的に広報を行うことができた。
	④　広報印刷物、ウェブサイト等の活用及びマスメディアとの連携強化等による積極的な広報活動 （４館共通） 1）マスコミ媒体や公共交通機関等と連携した広報活動を展開する。 2）ウェブサイト、モバイルサイトによる情報提供を行う。 3）メールマガジンを配信する。	**④　広報印刷物、ウェブサイト等の活用及びマスメディアとの連携強化等による積極的な広報活動**				
2441	（東京国立博物館） 1）『東京国立博物館ニュース』の編集・発行・配布を行う。（年6回） 2）ウェブサイトでは、ブログや投票などの博物 館の顔が見えるコンテンツ及びユーザ参加型のコンテンツを継続して発信する。 3）スマートフォン対応を目的としたモバイルサイトの充実を図る。 4）SNS（ツイッター、フェイスブック）による 情報発信を継続して行う。	**【東京国立博物館】** （4館共通） 1)マスコミ媒体や公共交通機関等と連携した広報活動を展開した。 2)ウェブサイト、モバイルサイトによる情報提供を行った。 3)メールマガジンを配信した。(22回) (東京国立博物館) 1)『東京国立博物館ニュース』の編集・発行・配布を行った。（年6回） 2)・「1089ブログ」により、情報発信を行った。（更新数82回） ・「投票」など、読者参加型のコンテンツで、展示や文化財についての興味喚起を図った。 3) 26年4月よりスマートフォン対応を目的としたモバイルサイトを開発し、26年12月17日に一般向けに正式公開した。 4) 25年7月より開始したSNS「Facebook」、「Twitter」による情報発信を継続し、よりタイムリーな情報発信と新たな来館者層の開拓に努めた。	B	雑誌の特集対応、ウェブサイトの充実やSNSの活用により、東京国立博物館のより積極的なPRに寄与した。	B	スマートフォン用サイトの開発や記者懇談会の実施などにより、一般およびメディア媒体への認知度は年々着実に浸透している。

	5）主要メディアの文化担当記者との懇談会を 開催し、マスコミとの連携を強化する。	5)新聞雑誌各紙の美術・文化担当記者ならびに文部科学省記者クラブのメンバーを対象とした記者懇談会第2回を実施した(26年4月14日)。また総合文化展示活性化の一環として企画した「博物館でアジアの旅」では、FMラジオ局J-WAVEと連携し、リスナーを招待しての打楽器コンサートを開催した。				
2442	(京都国立博物館) 1）『京都国立博物館だより』、『Newsletter』(英文)の編集・発行・配布を行う。(年4回) 2)地域等が主催する各種の委員会に参加・連携 し、広報活動を展開する。 3）京都市内4美術館博物館で連携し、共通の展 覧会情報パンフレットを制作・配布する。 4）既刊の博物館ディクショナリーをウェブサ イトに掲載し、新刊をメールマガジンにて配信し、利用者の拡大を図る。 5)収蔵品貸与情報をウェブサイトにて公開する。	**【京都国立博物館】** (4館共通) 1)各展覧会の招待日のプレス発表会とは別に、調査研究成果のプレス発表会を随時開催し、博物館の研究活動の広報に努めた。また平成知新館開館にあわせ、平成知新館の建築及びオープン記念展を紹介する事前記者発表を開催した。 2)ウェブサイトによる情報提供(日本語・英語)、及び、モバイルサイトによる情報提供を行った。 3)メールマガジンを配信した。また、メールマガジン読者限定特典のブックレット「京博PLUS」の配信を行った。(メールマガジン12回、ブックレット6回) (京都国立博物館) 1)『京都国立博物館だより』(年4回)、『Newsletter』(年４回)の発行・配布を行った。 2)東山南部地域の社寺やホテル等と連携し、展覧会チケットが割引券となる地域マップ付チラシを作成し、広報活動を展開した。 3)京都市内4館(京都国立博物館、京都国立近代美術館、京都府文化博物館、京都市美術館)の連携協力の提携を結び、共通の展覧会情報パンフレットを作成・配布した。 4)既刊の博物館Dictionaryをウェブサイトに掲載し、新刊をメールマガジンにて配信し、利用者の拡大を図った。 5)収蔵品貸与情報をウェブサイトにて公開した。 ○京都新聞社と連携し、年間を通して館蔵の名品を紹介する『名品手帳』を連載した。 ○雑誌『婦人画報　京都国立博物館非公式ガイドブック』、『月刊文化財　京都国立博物館・平成知新館の全て』、書籍『京都で日本美術をみる【京都国立博物館編】』（集英社）を始め、多くの雑誌、書籍、に記事が掲載され新たな来館者層の開拓に寄与した。 ○朝日放送の「京へのいざない」9月15日放送など複数のテレビ番組の京都国立博物館特集番組に協力して新たな来館者層の開拓に寄与した。	A	より読みやすく平常展示の内容について読者に興味を持ってもらえるよう『京都国立博物館だより』や英語版『Newsletter』デザインを刷新し、新たな京博を印象付ける広報活動を展開した。さらに平成知新館の開館にあたりさまざまな媒体の活用が進んだため。	A	『京都国立博物館だより』・『Newsletter』・Webサイトの更新・メールマガジンの発行など平成知新館の開館にあたり着実な刊行が継続できている。 さらにテレビ・雑誌・単行本などに新館の紹介番組・記事がでるように積極的な広報展開を実施し、中期計画に対し順調に成果を上げている。
2443-1		1)年間を通じて文化財の魅力を紹介する新聞連載を行ったほか、各特別展等の開催に合わせて、マスコミ媒体や公共交通機関等と連携した広報活動を展開した。 2)特別展や公開講座等の企画ごとに、また展示替えごとにウェブサイト及びモバイルサイトを更新し、最新の情報提供を行った。	B	昨年に引き続き、各メディアの協力を得て、広報物の製作に努めた。	B	順調に成果を上げているため。

		3)メールマガジンを毎月1回配信した。(11回)				
2443-2	(奈良国立博物館) 1）特別展及び名品展の情報を掲載した『奈良 国立博物館だより』の編集・発行・配布を行う。(年4回) 2)ウェブサイトの外国語版の充実を図る。 3)「奈良トライアングルミュージアムズ」(奈良国立博物館、奈良県立美術館、入江泰吉記念奈良市写真美術館)の３館で連携し、集客増に繋がる広報活動を展開する。 4）周辺関係社寺等と連携し、特別展等の割引特 典付きチラシを配布する。 5）マスコミからの取材申し込みを積極的に受 け入れ、展覧会、博物館活動への理解・促進を図る。 6）季刊誌『奈良国立博物館だより』のPDF版を ウェブサイトに継続して掲載する。 7）英語による展覧会チラシを作成し、外国人 観光客誘致のための情報発信を行う。	**【奈良国立博物館】** (奈良国立博物館) 1)名品展や特別展の紹介に加え、文化財情報を満載した季刊誌『奈良国立博物館だより』を発行した。(4回) 2)ウェブサイトの英語版に関して、すべての内容や用語の見直しを図った。適切な美術用語、新しい施設名称、外国人にも分かり易い表現などを積極的に採用し、アクセス数の集中する正倉院展の会期前までに修正を完了した。 3)奈良トライアングルミュージアムズ(奈良国立博物館・奈良県立美術館・入江泰吉記念奈良市写真美術館)として、26年9月に奈良国立博物館にてワークショップ、26年12月に奈良まほろば館にて東京セミナーを実施した。 4)・東大寺、春日大社の協力を得て、体験型のイベントを行った。 ・冬季の集客を図るため割引券を作成し、観光案内所及び市内の宿泊施設に配布した。 ・特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」について、期間限定（27年1月2日～4日）の無料観覧券（※名品展も無料）を、春日大社において配付し、おん祭展の広報と館の認知度アップに繋げた。 ・特別陳列「お水取り」について、期間限定（27年3月6日～8日）の無料観覧券（※名品展も無料）を、東大寺において配付し、お水取り展の広報と館の認知度アップに繋げた。 5)特別展、特別陳列等の開催にあたっては、報道発表、プレスプレビューを実施、取材にも積極的に対応した。 6)季刊誌『奈良国立博物館だより』のPDF版をウェブサイトに掲載した。 7)特別展では、英文チラシを作成、外国人観光客向けの情報発信を行った。	B	昨年に引き続き、近隣美術館や関連社寺と連携しイベントを行い、集客に努めた。	B	順調に成果を上げているため。
2444	(九州国立博物館) 1）ウェブサイトで提供する博物館情報の充実 を図るとともに、利用者の利便性を考慮した情報の発信に努める。 2)「九州国立博物館季刊情報誌アジアージュ」 の編集・発行・配布を行う。(年4回)	**【九州国立博物館】** (4館共通) 1)マスコミや公共交通機関等と連携し、新聞紙上での作品の解説や公共交通機関での広報活動を行った。 2)ウェブサイト、モバイルサイトによる情報提供を行った。26年7月、フォーマットをリニューアルした。 3)メールマガジンを配信した。(毎月2回、年24回) (九州国立博物館)	B	ウェブサイト利用者からの意見に対応し、より快適な利用者サービスの向上に努め、好評の声を得た。	B	積極的な広報活動を順調に行っている。 特に故宮展では、多くのマスメディアと連携し、十分な告知が行えた。

	3）太宰府市と連携し、スマートフォンに対応 した文化情報発信サイトにより情報発信を行う。	1)ウェブサイトにて文化交流展示室の「今月の名品」のスケジュール等を掲載し、また研究員が展覧会等の解説を行う動画を「YouTube」で配信した。（詳細は処理番号2454参照） 2)九州国立博物館季刊情報誌『アジアージュ』を発行した。（年4回） 3)スマートフォン向け情報ガイド「太宰府市イベントガイド」で展覧会情報等を発信した。 ○『きゅーはく攻略本』を増刷・福岡県内全小中学校等へ配付した。（26年8月･27年1月）				
	⑤　ウェブサイトアクセス件数の向上を図る。 （4館共通） 1）アクセス件数の向上を図るため、ウェブサイトの内容の充実を図る。	**⑤　ウェブサイトアクセス件数の向上を図る。**				
2451		**【東京国立博物館】** （4館共通） 1)アクセス件数の向上を図るため、ウェブサイトの内容の充実を図った。 （詳細は処理番号2441参照）	B	SNSやブログを積極的に活用し多くのアクセスを得た。スマートフォン対応ウェブサイトを開発し、予定通り公開することができた。	B	コンテンツ内容の充実とともに、日々新展開するITツールに積極的に対応し、着実にアクセス数を延伸している。
2452		**【京都国立博物館】** （4館共通） 1)平成知新館(新平常展示館)開館を控えた26年6月に、当館ウェブサイトのリニューアル公開を行った。 ・ウェブサイトにおいて、平成知新館開館に伴う新規コンテンツの集中投入や各種情報の大幅な整理を行ったほか、特別展覧会、各種講座、イベント、教育等のコンテンツも掲載や更新を継続的に実施し、内容の充実に努めた。 ・ウェブサイトにおける博物館概要、刊行物案内などのページも刷新するとともに、研究成果の発信機能を強化した。 ・メールマガジン及びメールマガジン読者特典ブックレットを配信し、親しみやすさの向上等に努めた。（詳しくは処理番号2442を参照）	B	平成知新館開館に合わせたリニューアル公開を通じ、広報強化を実現した。情報発信に関わるマンパワー不足が限界を超えており、今後の課題となる。	A	前年度に対し、190%のアクセス件数向上を達成した。来年度のアクセス数低下に備え、引き続き情報発信の充実を図る。
		・平成知新館開館に伴う来館者の混雑に対応するため、これまで特別展会場の混雑状況を発信してきた「Twitter」の活用を広げるなどの試みを行った。				
2453		**【奈良国立博物館】** （4館共通） 1)　・「トピックス」の欄を頻繁に更新し、さらにイベント情報欄には文字情報のみならずチラシ画像なども掲載して、より多くの情報を発信することに努めた。 ・特別展および特別陳列を紹介する頁に、主な出陳作品の写真付き解説を掲載し、展示構成や作品理解への便宜を図った。特に昨年以上に掲載作品を増やし、より展覧会の理解に資するよう努めた。 ・『奈良国立博物館だより』の最新版をウェブサイト上で閲覧できるよう適宜アップした。 ・「第66回 正倉院展」の会期中、読売新聞大阪本社（特別協力）のウェブサイトと連携して「ただ今の混雑状況」を知らせる小窓を設置した。 ・ホームページから閲覧できる主要作品の写真情報や解説の追加・見直しに努めた。	B	昨年に引き続き、イベント情報等への充実に努めた。	B	順調に成果を上げているため。
2454		**【九州国立博物館】** （4館共通） 1)ウェブサイトにおいて特別展、トピック展示、特別公開やイベント等の情報を常に更新し、内容の充実を図った。 ・研究員が展覧会の解説を行う動画の配信を行った。 ・駐車場空き情報の提供を行った。 ・26年5月から、ご利用案内に「団体でのご利用について」を追加し、学校団体等からの問合せに迅速に対応できるように努めた。 ・26年7月から、「画像のご利用について」の項目を追加し、文化財ならびに博物館建物外観等画像の利用に関する問合せに迅速に対応できるよう努めた。	B	スペースの都合でチラシに掲載できない情報などもウェブサイトに盛り込み充実を図った。その結果、アクセス件数が前年度を上回った。	B	ウェブサイトアクセス件数の向上を図るため、特別展、トピック展示、特別公開やイベント等の情報を常に更新し、また研究員が展覧会の解説を行う動画の配信など内容の充実を推進している。

		定量評価項目	26年度	25年度	目標値	評価
		収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化件数（件）				
		東京国立博物館	79	550,305	300(79)	D(B)
		京都国立博物館	5,536	2,682	2,000	A
		奈良国立博物館	5,154	7,615	3,000	S
		九州国立博物館	776	62	500	A

		収蔵品・出品作品等の新規撮影及び関連データ整備件数（件）				
		東京国立博物館	10,720	9,865	6,000	A
		京都国立博物館	4,927	4,525	3,000	A
		奈良国立博物館	5,478	4,648	3,000	A
		九州国立博物館	1,167	1,512	1,000	B
		各博物館発行の広報印刷物発行回数（回）				
		東京国立博物館				
		東京国立博物館ニュースの発行	6	6	6	B
		京都国立博物館				
		博物館だよりの発行	4	4	4	B
		Newsletter の発行	4	3	4	B
		奈良国立博物館				
		博物館だよりの発行	4	4	4	B
		九州国立博物館				
		「九博季刊情報誌アジアージュ」の発行	4	4	4	B

３　我が国における博物館の中核として博物館活動全体の活性化に寄与

【中期目標】博物館の中核として我が国における博物館の先導的役割を果たすとともに、海外の博物館とも積極的に交流を図り、国内外の博物館活動全体の活性化に寄与する。

(1)　収蔵品等に関する調査研究成果の発信

【中期目標】収蔵品等に関する調査・研究の成果を多様な方法により積極的に公表し、広く博物館関係者の知見の向上に資すること。

【中期計画】
博物館の中核として我が国における博物館の先導的役割を果たすとともに、海外の博物館とも積極的に交流を図り、国内外の博物館活動全体の活性化に寄与するため、以下の事業を実施する。
(1)収蔵品等に関する調査・研究の成果を図版目録、研究紀要、学術雑誌並びに展覧会に関わる刊行物などで発表するとともに、こうした刊行物の電子書籍化及びインターネットでの公開を行う。

【主な計画上の評価指標】
○各種刊行物等で調査・研究の成果を広く公表すること。
○各種刊行物の電子書籍化、インターネットでの公開を行うこと。

【25 年度評価における主な指摘事項】
○インターネットを用いた公開も行われているが、今後は、多言語化、一般向けの分かりやすい成果報告など、なお一層の工夫が望まれる。

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価 年度		自己評価 中期	
	（１）調査研究の成果の発信	**（１）調査研究の成果の発信**				
3111	（東京国立博物館、京都国立博物館） １）文化財修理報告書を刊行する。 （東京国立博物館） １）東京国立博物館情報アーカイブを運用し「東京国立博物館情報アーカイブ」等、インターネットを活用した収蔵品・調査研究等に関する情報公開の充実を図る。 ２）紀要・図版目録等を刊行する。 ３）法隆寺献納宝物特別調査概報を刊行する。 ４）研究誌『MUSEUM』を刊行する。（年6回）	**【東京国立博物館】** （東京国立博物館、京都国立博物館） 1)『東京国立博物館文化財修理報告』XVを刊行した。 （東京国立博物館） 1)（東京国立博物館情報アーカイブの詳細は処理番号2411参照）。特別展図録・特集陳列印刷物（リーフレット）12件を発行した。そのうちPDFファイル版5件を東京国立博物館ウエブサイト上に公開することによって研究情報の普及を図った。 2)『東京国立博物館紀要』50号、『東京国立博物館図版目録　東洋彫刻篇』を刊行した。 3)『法隆寺献納宝物特別調査概報XXXV　古今目録抄１』を刊行した。 4）研究誌『MUSEUM』649～654号を刊行した。 ○特別展図録・特集図録を編集した。 ○出版企画委員会６回、『MUSEUM』『紀要』等編集委員会８回を開催し、博物館の出版事業の拡充を図った。	B	刊行の実績値が前年度に比べ高くなっており、その事業も順調に進んだため。	B	博物館における出版刊行事業を通じて、調査研究の成果が十分発信されたため。
3112	（東京国立博物館、京都国立博物館） １）文化財修理報告書を刊行する。 （京都国立博物館）	**【京都国立博物館】** （東京国立博物館、京都国立博物館） 1)『文化財保存修理所修理報告書12号』を刊行した。 （京都国立博物館）	C	平成知新館の開館に合わせて館蔵名品図録『京都国立博物館所	B	一部刊行の遅れている報告書等があるものの、その他展覧会図

	1）平成知新館開館に伴い、『京都国立博物館所蔵名品120選－京（みやこ）へのいざない－』を発行する。 2）研究紀要『学叢』を刊行するとともに、学術研究公開の一環として既刊分の概要を順次ウェブサイトで公開する。 3）社寺調査報告書等を刊行する。	1)『京都国立博物館所蔵名品120選　京（みやこ）へのいざない』を発行した。 2)研究紀要『学叢』第36号を刊行した。 3)社寺調査報告書についてはデータ整理に正確さを期すために次年度に刊行することとした。 ○特別展等の図録を2巻刊行した。		蔵名品 120 選京へのいざない』を刊行し、特別展覧会『南山城の古寺巡礼』及び『鳥獣戯画と高山寺』の展覧会図録を編集するなど館蔵品や古社寺の文化財の図録を刊行して研究成果の発信を着実に行った。また研究誌である『学叢』を発行して、学術研究成果を公開した。南山城地域の社寺調査報告書についてはデータ整理中であるため報告書は次年度に刊行する予定である。		録・研究紀要などを予定通りに刊行し、中期計画に沿って着実に研究成果の普及を行った。
3113	（奈良国立博物館、九州国立博物館） 1）文化財修理に関する印刷物を刊行する。 （奈良国立博物館） 1）研究紀要『鹿園雑集』を刊行するとともに、学術研究公開の一環としてウェブサイトで公開する。 2）入場無料ゾーンを利用し、調査研究活動実績をパネル等で公開する。	**【奈良国立博物館】** （奈良国立博物館、九州国立博物館） 1)文化財修理に関する調査研究成果は、研究紀要『鹿園雑集』内に包摂する形で刊行した（27年3月）。 （奈良国立博物館） 1)研究紀要『鹿園雑集』は、前年度刊行予定であった分とあわせ、合併号として刊行した（27年3月）。 2)地下回廊の入場無料ゾーンにおいて、東京文化財研究所との共同研究による仏教美術の光学調査の成果、館蔵品の修理実績等に関するパネル展示を行った(26年9月7日まで)。また、9月9日より同所にて特別企画「正倉院展ポスター昭和22―昭和63」（9月9日～11月30日）、仏像写真展「大和の仏たち」（12月2日～27年3月31日）を開催した。 ○展覧会等図録10冊を刊行し、その中に収蔵品の調査研究成果の一部を収録した。	B	入場無料ゾーンでの研究活動実績公開を複数回にわたり実施することができた。	B	展覧会図録等を予定通りに刊行し、中期計画に沿って着実に研究成果の発信を行った。
3114	（奈良国立博物館、九州国立博物館） 1）文化財修理に関する印刷物を刊行する。 （九州国立博物館） 1）研究紀要『東風西声』を刊行する。 2）保存修復活動の成果を教育普及事業に反映させる。	**【九州国立博物館】** （奈良国立博物館、九州国立博物館） 1)九州国立博物館トピック展示「大涅槃展」展示図録に修理と科学調査に関する解説を掲載した。 （九州国立博物館） 1) 研究紀要『東風西声』第10号を刊行した。 2)・保存修復活動の成果を反映させた教育普及事業を行った。 ・九州国立博物館トピック展示「大涅槃展」において、修理と科学調査に関するパネルを展示した。	B	特別展図録・特集陳列等図録11冊を刊行するなど、年度計画を順調に達成している。	B	予定通りに図録を刊行するなど、中期計画に沿って順調に達成している。

		定量評価	26 年度	25 年度	目標値	評定
		研究誌の刊行回数(回) 東京国立博物館(MUSEUM)	6	6	6	B

(2)　**海外研究者の招聘**

【中期目標】国内外の博物館関係者及び文化財とその活用に関する専門家と積極的に学術・人物交流等を行い、国際的な博物館の拠点となることを目指すこと。

【中期計画】
(2)　文化財とその活用等に関する博物館活動について、先進的かつ有用な情報を集積するため、海外の優れた研究者を招聘し国際シンポジウムや研究会・共同調査等を実施する。また職員を海外の博物館・文化財研究所等の研究機関及び国際会議等に派遣する。

【主な計画上の評価指標】
○国際シンポジウムや研究会・共同調査等を実施すること。
○職員を海外の博物館・文化財研究所等の研究機関や国際会議等に派遣すること。

【25 年度評価における主な指摘事項】

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価 年度		自己評価 中期	
	（２）海外研究者の招聘等研究交流の実施 （４館共通） 1）海外の博物館・美術館等の研究者を招聘し、海外の研究者との交流を促進する。（18人：東京6、京都2、奈良6、九州4）	**（２）海外研究者の招聘等研究交流の実施**				

	2）当機構職員を海外の博物館・美術館等に研究交流並びに研修のため派遣する。（31人：東京6、京都15、奈良6、九州4） 3）国際的な講演・研究集会、シンポジウムを開催する。 4）ICOM（国際博物館会議）大会の日本への招致に向けた活動を促進する。					
3211	（東京国立博物館） 1）学術交流協定を締結している博物館及び東アジア・欧米主要館を中心に、海外の博物館との交流を活発に行う。 2）日中韓国立博物館長会議を開催するとともに、IEO（国際展覧会オーガナイザー会議）等の国際会議へ参加する。	**【東京国立博物館】** （4館共通） 1)韓国、中国、アメリカ、イギリス、タイ等より47名の研究者を招聘し、学術交流に寄与した。 2)韓国、中国、アメリカ、イギリス、ドイツ、オーストリア等に延べ18名の研究員を派遣し、学術交流及び展覧会準備・調査の実施、あるいは研究会・国際会議に参加した。 3)國立故宮博物院展関連事業として国際シンポジウムを、「東アジアの華」展の関連事業として記念講演会を開催した。 4)2019年ICOM世界大会誘致の足がかりの一つとして、「米欧ミュージアム専門家交流事業」を開催し、欧米の日本美術担当研究員10名（上記34名のうち）を招聘して、交流を深めた。（26年11月8日～16日） （東京国立博物館） 1)韓国国立中央博物館及び中国・上海博物館、故宮博物院との学術交流協定に基づき、研究員の交流を行うとともに、海外での作品調査や特別展等共同事業の企画・実施準備、国際会議出席などのため海外に研究員を派遣、調査研究及び海外館とのネットワーク構築や交流事業の推進を図った。 2)第８回日中韓国立博物館長会議を開催し、中国国家博物館・韓国国立中央博物館の館長らと交流・情報交換を行い、ネットワークを強化した。（26年９月18日）　またIEOに研究員を派遣し、欧米各国を中心とした主要美術館・博物館の展覧会担当責任者との意見交換を実施し、ネットワーク強化を図った。（26年５月５～９日ウィーン）	A	外部資金も活用し目標値以上の研究者招聘・派遣を行い目標以上の成果を達成した。今後、対象国がやや偏っていることの改善策を検討したい。	A	中期計画をかなり上回る成果を達成し、順調に進んでいる。
3212		**【京都国立博物館】** （4館共通） 1)26年度実績　2名 2)研究交流並びに研修のため研究員を海外へ14人派遣した。 3)「鳥獣戯画を語る」と題した特別シンポジウムを開催（26年11月15日）、第1部については日英同時通訳をつけた。 4)ＩＣＯＭ大会招致活動の一環である「米欧ミュージアム専門家交流事業」に協力した。事業の詳細は処理番号3211を参照。 5)国際研究セミナー「日仏漆芸交流史を学ぶ」（1回・75人）を開催した。	B	判定根拠：今年度は新館開館準備に重点を置いたため、海外への研究者派遣がやや低調であったが、国際シンポジウムのほか、国際研究セミナーの開催や、さらには新館開館に伴い、海外からの研究者の訪問が多数に上るなど、数値に表れないところで国際交流の進展が見られた。 課題と対応：27年度は琳派に関する国際シンポジウムを開催予定。	B	判定根拠：毎年の国際シンポジウムをほぼ１回開催するとともに研究者の海外派遣を着実に行っている。 課題と対応：今後は、より積極的に海外博物館及び研究者との交流を進めていきたい。
3213	（奈良国立博物館） 1）学術交流協定を締結している博物館を中心として、海外の博物館との交流を活発に行う。	**【奈良国立博物館】** （4館共通） 1)中国・韓国の研究者等計9名を招聘し、今後の共同調査や展示活動等に関わる実りある情報交換を実施した。 2)職員延べ13名を諸外国に派遣し、文化財に関する情報収集や現地研究者との交流を図った。 3)26年8月5日に韓国の古代古墳に関する国際研究集会を開催し、申大坤氏（韓国国立慶州博物館学芸室長）が「天馬塚出土文化財の意義」のタイトルで口頭報告した。 （奈良国立博物館） 1)中国上海博物館、中国河南博物院、韓国国立慶州博物館との間で、学術交流協定に基づいて研究員等を派遣し、また招聘して、今後の共同調査や展覧会開催に向けて情報を交換した。	B	海外からの研究者招聘、当館からの海外派遣とも充実した内容の実績を上げることができた。	B	学術交流協定に基づく交流が堅調で、招聘及び派遣を継続できている。
3214	（九州国立博物館） 1）　国際交流活動推進へ向けての基盤を整備するとともに学術文化交流協定を締結している	**【九州国立博物館】** （4館共通）	A	予算を工夫した結果、目標値を大きく上回る研	B	一定数の研究者を招聘及び派遣し、国際シンポ

	海外博物館等との交流を活発に行う。 2） 海外の文化財研究者や修理技術者を招聘し、文化財保存修復施設を活用した専門的な国際交流セミナーやワークショップを開催する。	1)オランダ、デンマーク等、海外の博物館・美術館等の研究者を35人招聘した。 2)当機構職員を台湾等、海外の博物館・美術館等に研究交流及び特別展「台北　国立故宮博物院-神品至宝-」等のため、82人派遣した。 3)国際シンポジウム「中国皇帝コレクションの意味－工芸における復古と革新－」を開催した。（10月25日150人参加） 国際シンポジウム「世界のアリタ　－有田焼の伝統と未来へ続く創造性－」を開催した。（3月8日253人参加） （九州国立博物館） 1)国際交流活動推進へ向けての基盤を整備し、海外博物館等との交流を実施した。（タイ芸術局、韓国国立公州博物館等） 2)海外の文化財研究者や修理技術者を招聘し、文化財保存に関するセミナーや講演会を実施した。（オランダ7月14日、デンマーク27年1月27日）		究者招聘ならびに研究者派遣が可能ととなり、海外研究者との交流を活動的に行うことが出来た。また、シンポジウムについても着実に実施しており、計画通り順調に進んでいる。		ジウム、調査等も計画通り実施することができた。

		定量評価	26 年度	25 年度	目標値	評定
		海外研究者招聘(人)				
		東京国立博物館	47	21	6	A
		京都国立博物館	2	0	2	B
		奈良国立博物館	9	9	6	A
		九州国立博物館	35	16	4	S
		研究員派遣(人)				
		東京国立博物館	18	41	6	A
		京都国立博物館	14	19	15	C
		奈良国立博物館	13	8	6	A
		九州国立博物館	82	87	4	S

(3)　博物館等関係者や修理技術関係者等を対象とした研修プログラムについて検討、実施

【中期目標】国内外の文化財の保存・修理に関する人材育成に寄与すること。

【中期計画】	**【主な計画上の評価指標】**
(3)　保存科学、修理技術及び博物館関係者等を対象とした研修プログラムを関係機関と連携しながら検討、実施する。	○研修プログラムを関係機関と連携しながら検討、実施すること **【25 年度評価における主な指摘事項】**

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価 年度		自己評価 中期	
	（３）　保存修理事業者への研修プログラム （４館共通） 1）保存修理事業者を対象とした研修会を開催するとともに、インターンの受け入れや保存修理事業者と協力した研修会を開催する。	**（３）　保存修理事業者への研修プログラム**				
3311		**【東京国立博物館】** (4館共通) 1) ・特定非営利活動法人文化財保存支援機構(NPO-JCP)が主催する専門家セミナーに当館が共催し、当館を会場として「文化財保存修復専門家養成実践セミナー・レベルⅠ」(26年9月1日～11日の10日間)を開催した。当館は講師・プログラムの選定、及びセミナー会場・修理施設・展示施設の提供を行った。本セミナーの対象は、社会で活動している文化財保存修復専門家及び専門家を目指す学生である。内容は、国内外で活躍できる高度な能力を持つ専門家を育成するために、基礎能力の格段の向上を目指すものであり、既に現場で活躍している講師陣による実践セミナーである。受講生は全国から26名が参加した。 ・レベルⅠの応用編として「文化財保存修復専門家養成実践セミナー・レベルⅡ 陸前高田学校」(26年7月28日～8月3日の7日間)を別会場において開催し、受講生は11名であった。 ・大学院生のインターンシップを2人受け入れ、当館の臨床保存と包括的保存について研修を実施した(26年10月6日～20日)。 ・東京藝術大学保存科学研究室、日本博物館協会、岩手県立博物館、陸前高田市立博物館、特定非営利活動法人文化財保存支援機構(NPO-JCP)との連携し、大津波被災文化財保存修復連携プロジェクトとして「津波被災文化財の安定化処理に関するワークショップ」（27年1月30日）を開催し、参加者は30名であった。	B	当初計画の通り「文化財保存修復専門家養成実践セミナー・レベルⅠおよびⅡ」、大学院生のインターンシップを実施し、研修生に対して実践的な研修機会と知識の提供が出来た。	B	中期計画に基づき、関係機関と連携の上、文化財保存に関する研修を効果的に実施することができた。
3312		**【京都国立博物館】** 1)・毎月1回文化財保存修理所内工房を当館研究員が巡回し、文化財の修復状況を確認するとともに、修理技術者に指導・助言を行った。また、2ヵ月に1回、修理技術者と当館との定例会議を開催した。（巡回12回・会議6回）	B	年度計画に記載した事項については、修理技術者及び博物館関係者に益する内容を実施し、目	B	中期計画に記載した所期の目標を順調に達成している。保存修理の意義をより多くの国民に知

		・当館開催の特別展覧会において、修理技術者に対する定例の研修会(熟覧)を実施した。(計2回・87人) 26年6月9日　「南山城の古寺巡礼」展（35人） 26年10月20日　「国宝　鳥獣戯画と高山寺」展（52人） ・文化財修復に関わる大学院生（1人)のインターンシップ実習（26年8月18日～9月19日）を実施し、26年12月10日に口頭による報告会を開催し（出席者42人）、報告書を作成した。 ・国内外博物館における保存科学、修復の専門家、あるいは文化庁の主催する「指定文化財（美術工芸品）企画・展示セミナー」による文化財保存修理所の視察を受け入れ、情報交換などを行った。（計6回・61人） 26年9月2日　国立台湾大学博物館及び京都大学総合博物館（7人） 26年9月24日　フォルゲン博物館（2人） 26年10月23日　文化庁（25人） 26年11月14日　米欧ミュージアム専門家交流事業実行委員会（20人）詳細は処理番号3211を参照 26年10月30日　フリーア美術館（2人） 26年12月16日　韓國學中央研究院蔵書閣（5人） ・保存修復技術を専攻する大学院生のための研修会を26年9月5日に実施した。(参加者19人)		標を達成している。		ってもらうため、一般向けの講演会の実施を検討したい。
3313		**【奈良国立博物館】** （4館共通） 1) ○保存修理事業者を対象とした研修会(計4回・67人) ・文化財保存修理所技術者研修会を1回実施した(27年1月16日)。(41人) ・国内外の保存修復専門家による文化財保存修理所各工房での研修・視察を合計3回受け入れ、各工房技術者との間で情報交換を行った。(計3回・26人) ・26年5月15日：インドネシア・ジャカルタ特別州職員による視察・研修（5人） ・26年10月17日：米国・ポールゲッティ美術館支援者による視察・研修(16人) ・27年1月9日：東京文化財研究所新入職員による視察・研修(5人) ○一般向け講演会等 ・文化財保存修理所の概要及び諸活動、修理内容に関する一般向けの講演会を実施（計4回）。	B	文化財保存修理所の修理技術者研修会を実施し、漆工室工房代表者による報告に基づいた活発な議論を通じて、各工房の技術者及び当館研究員の垣根を越えた研鑽を積むことができた。文化財保存修理所の研修・視察申し込みが例年に比べて少なかったが、今後はインターンシップの受け入れなど修理技術交流の方法を新たに検討していく。	B	中期計画に沿って、関係機関と連携し研修会等を実施することができた。また、修理技術者研修会などを通じて文化財保存修理所の各工房が垣根を越えた研鑽を積むことで、修理現場における工房同士の協業が増えており、文化財保存修理所全体の活動の活発化につながっている。また講演会などを通じてそうした活動内容を広く一般に伝えることができた。
3314		**【九州国立博物館】** （4館共通） 1)・インターンの受け入れや保存修理事業者と協力した研修会を行った。(3回30人) ・文化財保存、ＩＰＭ普及のための講座・研修を開催した。（計 6 回 145 人）	B	保存科学、修理技術、博物館関係者等がそれぞれ多く参加したことにより、有意義な研修会を開催することができた。	B	中期計画に基づき、保存科学、修理技術及び博物館関係者等の様々な分野の専門家と連携しながら、着実に研修会を実施し、成果をあげている。

(4)　公私立の博物館等への貸与の推進

【中期目標】国内外の博物館等の展覧事業の活性化を支援するため、収蔵品の貸与を実施すること。

【中期計画】
(4)　収蔵品については、その保存状況を勘案しつつ、公私立の博物館等の要請に対し、展示等の充実に寄与するため貸与を実施する。

【主な計画上の評価指標】
○収蔵品の保存状況に配慮した貸与を実施すること

【25 年度評価における主な指摘事項】

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価 年度		自己評価 中期	
	（４）収蔵品の貸与 （４館共通） １）国内の博物館等で開催する展覧会等へ収蔵品を貸与する。	**（４）収蔵品の貸与**				
3411	（東京国立博物館・奈良国立博物館） １）国内の公私立博物館と考古資料の相互貸借を実施する。 （東京国立博物館） １）長崎歴史文化博物館の平常展示のため、引き	**【東京国立博物館】** （4館共通） 1)国内の博物館等108機関に1,059件の作品を貸与した。 （東京国立博物館・奈良国立博物館）	B	平成館改修に伴う考古資料貸与業務中止により貸与件数は若干減少したが、予	B	中期計画に基づき順調に成果をあげている。

	続き長期貸与する。 2）海外の美術館・博物館等で開催する展覧会へ貸与する（海外交流展出品作品を含む）。	1)大阪府立近つ飛鳥博物館と協力して考古資料の相互貸借を実施した。 （東京国立博物館） 1)長崎歴史文化博物館の平常展示のため、年度を越えた長期貸与を実施した。 2)海外の美術館・博物館等延べ7機関に71件の作品を貸与した。		定通り貸与業務を行えた。		
3412		**【京都国立博物館】** （4館共通） 1)82機関に対し582件の収蔵品・寄託品貸与を行った。（うち海外3機関に対し12件） 収蔵品の貸与件数：272件 寄託品の貸与件数：310件 計　　：582件 ○本年度も継続してウェブサイトにて「貸出作品リスト」の公開を行った。	B	出品申請に対しては、貸与先の環境、作品の状態を確認したうえで、積極的に対応した。	B	中期計画に沿って、着実に貸与業務を実施することができた。
3413	（東京国立博物館・奈良国立博物館） 1）国内の公私立博物館と考古資料の相互貸借を実施する。	**【奈良国立博物館】** （東京国立博物館・京都国立博物館・奈良国立博物館） 1)収蔵品と寄託品を、国内外合わせて47の機関に、計149件貸し出した。 （東京国立博物館・奈良国立博物館） 1)平泉町（平泉文化遺産センター）、島根県立八雲立つ風土記の丘資料館、涌谷町（涌谷町立わくや万葉の里歴史館）、色麻町（色麻町立農業伝習館）、五條市（市立五条文化博物館）の計5館との間で相互貸借事業を実施した。	A	計画どおり、貸与申請に対して慎重に、かつ積極的に対応できたため。貸与件数についても例年と同様、100件を超える貸与を行った。なお本年は考古相互貸借も５機関と実施することで、広く文化財の公開に寄与できた。	A	中期計画に基づき、貸与申請に対して慎重に、かつ可能な限り全てに応えるよう対処し、文化財の公開活用に貢献することができ、中期計画は順調に進んでいる。
3414		**【九州国立博物館】** （4館共通） 1)国内 27 機関・海外 3 機関に収蔵品及び寄託品計 101 件を貸与した。 （機関数は延べ数。東京国立博物館からの長期管理換品を含む。）	B	公私立の博物館等の要請に対し、適切に貸与を実施した。	B	中期計画に沿って、適切に貸与を実施し、公私立博物館の展示等の充実に寄与することができた。

(5)　公私立博物館等に対する援助・助言

【中期目標】全国の博物館等の運営に対する援助、助言を行うとともに、博物館関係者の情報交換・人的ネットワークの形成等に努めること。

【中期計画】
(5)　公私立博物館等に対する援助・助言を行うとともに、博物館関係者の情報交換・人的ネットワークの形成等を行う。

【主な計画上の評価指標】
○公私立博物館等に対する援助・助言を行うこと。

【25 年度評価における主な指摘事項】

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価 年度		自己評価 中期	
	（５）　公私立博物館・美術館等に対する援助・助言の推進 （４館共通） 1）公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等の援助・助言を行う。	**（５）公私立博物館・美術館等に対する援助・助言の推進**				
3511	（東京国立博物館） 1）新規貸与館に対する環境調査は、東京文化財研究所と協力して指導助言を行う。	**【東京国立博物館】** （4館共通） 1)公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等に対し、119件の援助・助言を行った。 ・文化庁や地方公共団体等の文化財関係事業にて協力(21件) ・公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等の援助・助言(48件) ・講演会やセミナー等における講演等での協力(7件) ・作品の展示・保存環境についての調査・指導(20件) ・博物館の管理運営にかかわる助言(23件) （東京国立博物館） 1)新規貸与館に対する環境調査を実施し、東京文化財研究所と協力して指導助言を行った。	B	件数、内容ともに適切に公私立博物館・美術館等に対する援助・助言を実施することができた。	B	中期計画に基づき、援助・助言を着実に行うことにより、我が国における博物館の中核としての機能の強化がなされた。
3512		(4館共通) 1)公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等に対し、29件の援助・助言を行った。 ・文化財の展示、修理にかかる指導助言　(12件) ・文化財の調査に関する指導助言　(9件) ・講演会、セミナー等における講演等での協力　(7件)	C	26年度は平成知新館開館に向けた準備業務に重点を置いたため、人的資源を集中せざるを得	C	26年度は平成知新館開館に向けた準備業務に重点を置いたため、人的資源を集中せざるを得

		・地方公共団体の文化財保護審議会等会議にて協力　(1件)		なかったことにより、対応件数が減少した。次年度は解消される見込みである。		なかったことにより、対応件数が減少した。中期計画最終年度となる次年度は実績が上向く見込みである。
3513	(奈良国立博物館) 1）福岡市美術館、静岡市立美術館、岡崎市美術博物館で開催する「法隆寺展－聖徳太子と平和への祈り－」（主催：各開催館、法隆寺、読売新聞社）に学術協力する。	**【奈良国立博物館】** (4館共通) 1)公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等に対する援助・助言は、総計58件を実施した。 ・文化財の展示にかかる援助と助言（13件） ・文化財の調査、保存、修理にかかる援助と助言（14件） ・講演会やセミナー等における講演等での協力（8件） ・文化庁や地方公共団体、その他各種団体等の文化財関係事業への協力（17件） ・博物館等の運営にかかわる援助と助言（6件） (奈良国立博物館) 1)福岡市美術館、静岡市立美術館、岡崎市美術博物館で開催された「法隆寺展－聖徳太子と平和への祈り－」（主催：各開催館、法隆寺、読売新聞社）に学術協力した。	B	援助・助言の件数、内容とも、充分な実績を上げることができた。	B	23～26年度を通じ、内容とともに援助・助言件数は堅調に推移している。
3514	(九州国立博物館) 1）地域の自治体と連携し、公私立博物館・美術館等職員のための古文書保存に関する専門講座を開催する。 2）地域の自治体と連携し、公私立博物館・美術館等職員・ボランティアのためのＩＰＭ（総合的有害生物管理）に関する専門講座を開催する。	**【九州国立博物館】** (4館共通) 1)公私立博物館等で開催された研究集会及び講演会において指導・助言を行った。(57件) ・文化財の調査に係る助言(14 件) ・文化財の保存修理にかかる援助、助言(12 件) ・作品の展示及び運営等についての指導、助言　(19 件) ・講演会、セミナー等における講演(12 件) (九州国立博物館) 1)「古文書保存基礎講座」を実施した。 2)文化財関係者及び市民等に向けての研修会「ミュージアムＩＰＭ支援者研修」基礎編・技術編・実践編を実施した。	B	計画通り、順調に進んでいる。	B	講座及び研修会等を実施しており、計画を順調に達成している。

4　文化財に関する調査及び研究の推進

【中期目標】我が国唯一の文化財に関する総合的な研究機関として、文化財に関する以下の調査・研究を行い、貴重な文化財を次代へ継承していくために必要な知識・技術の基盤の形成に寄与すること。

(1)　文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進

【中期目標】文化財の各分野に関する基礎的・体系的な調査・研究や、総合的な視点に基づく文化財の調査・研究手法の開発等を推進することにより、国及び地方公共団体における文化財保護施策の企画立案及び文化財の評価等に係る業務の基盤形成に寄与すること。

【中期計画】

貴重な文化財を次代へ継承していくために必要な知識・技術の基盤の形成に寄与するため、以下の調査・研究を行う。

(1)　文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進

国内外の機関との共同研究や研究交流を含め、文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究として、国内外の機関との共同研究や研究交流も含めて以下の課題に取り組み、国・地方公共団体における文化財保護施策の企画・立案、文化財の評価等に関する基盤の形成に寄与する。

①我が国の美術を中心とする有形文化財及びそれに係わる諸外国の文化財に関し調査・研究を実施する。

②我が国の歴史、文化の究明及び理解の促進等を図るため、歴史資料・書跡資料等に関する調査・研究を実施する。

③歴史的建造物の保存・活用の促進等を図るため、建造物及び伝統的建造物群に関する調査・研究を実施する。

④無形文化遺産の伝承・公開の基盤の形成等を図るため、無形文化財、無形民俗文化財、文化財保存技術に関する調査・研究を実施する。

⑤文化財の保存に加え、地域振興・国際的動向の観点も含めた活用の促進等を図るため、記念物に関する調査・研究を実施する。

⑥古代日本の都城の解明等を図るため、平城宮跡、藤原宮跡及び飛鳥地域における宮跡その他の遺跡に関する調査・研究を実施する。

⑦文化的景観の文化財としての概念の定着と保存・活用の促進等を図るため、文化的景観に関する調査・研究を実施する。

⑧遺物及び遺構の保存・活用の促進等を図るため、埋蔵文化財に関する調査・研究を実施する。

【主な計画上の評価指標】(1)～(5)共通

○中期計画に示された課題や文化財保護政策のニーズに沿って、研究の目的、テーマを適切に設定すること。

○それぞれの調査・研究を計画に沿って適切に実施すること。また、我が国の文化財保護政策上、緊急に保存修復の措置等が必要となった場合において、必要な実践的調査研究を迅速かつ適切に実施すること。

○調査研究の成果により我が国の文化財保護政策に寄与するとともに、学術雑誌等への論文の掲載、学会、研究会での発表、データベースの追加等により定量的観点からも調査研究の成果を確保すること。

【25 年度評価における主な指摘事項】

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価 年度	自己評価 中期
	(1) 文化財に関する基礎的･体系的な調査･研究の推進 国内外の機関との共同研究や研究交流を含め、文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究を推進することにより、国・地方公共団体における文化財保護施策の企画・立案、文化財の評価等に関する基盤の形成に寄与する。			

	① 我が国の美術を中心とする有形文化財及びそれに関わる諸外国の文化財に関し、以下の課題に重点的に取り組む。			
4111	ア　他機関との連携を図りつつ、文化財情報の公開・活用のための、より望ましい手法等の研究を行う。	**①ーア　文化財の研究情報の公開・活用のための総合的研究** 一昨年度一般公開を開始した「東京文化財研究所所蔵資料アーカイブズ『みづゑ』」の明治期全ての分の公開を開始した。『日本美術画報』をはじめとする貴重書の公開準備を始めた。また、「東京文化財研究所刊行物アーカイブシステム」に各種図書情報を移行し、各部署が所蔵する図書情報の一元化と一体運用のための準備を進めた。アーカイブズを主題とする各種研究会を開催し、アーカイブズのあり方について検討した。	B	B
4112	イ　日本を含む東アジア地域における美術の価値形成の多様性を解明するために、近年の記録媒体や分析手法等の進展に対応しながら調査研究を行い、文化財を対象とする資料学的基盤を整備、確立する。併せて、その基盤を礎としながら国内外の研究交流を推進し、成果を広く一般に公開する。	**①ーイ　文化財の資料学的研究** (1)・東京文化財研究所が所蔵する明治期の書簡・手記を中心とする近代文書の判読と翻刻作業。 ・美術史研究のためのコンテンツづくりとして、平安時代在銘彫刻作品の銘文データの入力と編年目録（年表）の作成を行った。 (2)(1)の東京文化財研究所が所蔵する明治期の書簡・手記を中心とする近代文書の判読と翻刻作業の成果の一端を企画情報部研究会（26年8月6日）で口頭発表を行った。 (3)・(2)の成果（企画情報部研究会での口頭発表）の内容を『美術研究』414号、同415号に掲載した。 ・東京文化財研究所が所蔵する今泉雄作の『記事珠』ウェブサイト上での公開に向けてのパイロット版を作成した。 ・第48回オープンレクチャー「モノ／イメージとの対話」（26年10月31日）で講演を行った。	B	B
4113	ウ　日本を含む東アジア諸地域における近現代美術の研究資料の収集、整理、調査研究を行うとともに、その交流を明らかにする有効な視点と調査研究方法の開発を目指す。また、多様化する我が国の現代美術の動向に関する調査研究を行い、基礎資料を作成する。	**①ーウ　近現代美術に関する交流史的研究**	B	B

4114	エ　美術や文化財についてのより深い理解を形成するため、彫刻や絵画を中心に、その表現・技法・材料の問題に対して基礎的な情報を収集・整理・蓄積するとともに、関連諸分野と連携した多角的な調査研究を行う。	**①ーエ　美術の表現・技法・材料に関する多角的研究** (1)・鶴見大学文学部文化財学科と共同で朝鮮螺鈿漆器の光学調査を実施した。 ・デジタル情報公開を目的とする故秋山光和氏調査資料の整理作業を引き続き実施した。 ・研究所が所蔵するガラス乾板のデジタル化作業を引き続き実施した。 ・龍谷ミュージアムにおいて、光照寺所蔵一流相承系図（絵系図）ほかの調査を行った。 ・東京国立博物館において、国宝孔雀明王像の調査を実施した。 ・愛知県陶磁美術館にて朝鮮螺鈿漆器の調査を実施した。 ・この他、鶴見大学・目白漆芸研究所との研究協議及び意見交換、また新たなデータベース作成に関する所内研究協議を実施した。 ・東京国立博物館所蔵国宝普賢菩薩像について高精細画像をもとに東京国立博物館との研究会を行った。 (2)・浦添市美術館で開催された「第5回琉球の漆文化と科学」において、琉球螺鈿漆器技術・トルコ螺鈿・パレスチナ螺鈿についてポスター発表を行い、これまでの調査成果について報告した。 ・企画情報部12月研究会において、南蛮漆器についての編年案を発表した。 ・企画情報部12月研究会において、東京国立博物館所蔵国宝普賢菩薩像について発表した。 (3)・デジタル化したガラス乾板については文字データなどの整理作業を行い順次ウェブサイトに公開した。 ・彩色DBについては長年の作成・校訂作業を終了し、ウェブサイトに公開した。	B	B
4121	②　日本の歴史、文化の源流等の実態を探り、それらを記録した資料の保存活用に資するために、近畿を中心とする古寺社や旧家等が所蔵してきた歴史資料・書跡資料等に関する原本調査、記録作成を悉皆的に実施するとともに、公表に向けて整理検討を行う。	**②　近畿を中心とする古寺社等所蔵の歴史資料等に関する調査研究** 仁和寺所蔵の書跡資料の調査成果として、『仁和寺史料 目録編〔稿〕二』を公刊した。ここには、仁和寺御経蔵聖教の第31函～第50函の目録を収録した。仁和寺は、中世・近世には法親王が門跡として入寺する、最高の格式を持った真言宗寺院であり、その聖教は、御流聖教と呼ばれて尊ばれてきた。その内容がはじめて世に出るものであり、学問的価値の高いものである。また、三仏寺が所蔵する勝手権現像についての調査成果を公表した。勝手権現とは、修験道では蔵王権現・子守権現とともに三所権現と称された重要な存在だが、明治の神仏分離により、実態がよく分かっていない点が多い。今回の調査により、中世に2躯の勝手権現像が、甲冑像・着衣像という、異なる姿で製作されている例が明らかになった。	B	B
4131	③　我が国の文化財建造物の保存・修復・活用に関する基礎データの収集、未指定建造物の調査、古代建築の今後の保存と復原に資するための調査・研究を行い、整理が終了したものより順次公表を行うとともに、伝統的建造物群及びその保存・活用に関する調査・研究を推進し、伝統的建造物群の保存を行っている各地への協力を行う。また、アジア地域における文化財建造物の保存・修復及び伝統的建造物群の保存・活用について、関係各国に対し協力を行う。	**③　我が国の建造物及び伝統的建造物群に関する調査・研究** 文化財建造物の保存修理に関する基礎データである所内保管資料「ガラス乾板」について画像のデジタルデータ化により、一般公開を推進した。また、古代建築の技法に関する再検証作業を「法隆寺金堂古材調査」を継続的に実施した。このほか、受託事業により、秋田県横手市増田町の歴史的建造物の調査を行った。	B	B

4141	④ －１　無形文化財の伝承実態に関する基礎的な調査研究及び資料の収集、記録作成を行い、その成果の一部を公開学術講座として発表する。具体的には伝統音楽・伝統芸能で用いる楽器、能楽の文献資料、未調査の音声・映像資料の整理と古い媒体による音声・映像資料の再生及びデジタルアーカイブ化、工芸技術に関する技法書及び工芸技術記録等を対象に調査を行い、能楽及び講談等の記録作成を行う。	**④－1　無形文化財の保存・活用に関する調査研究** (1) 古典芸能（能楽）の作曲法等について調査を行い、その成果を公表した。 (2) 染織技術を支える原材料や道具等について調査を行い、その成果を公表した。 (3) 無形文化遺産部が所蔵する音声資料の整理を行い、その成果を公表した。 (4) 上演機会が著しく減少している伝承芸能について実演記録を作成した。	B	B
4142	④ －２　我が国の風俗慣習、民俗芸能、民俗技術等無形民俗文化財のうち、近年の変容の著しいものを中心に、現在における伝承の実態、伝承組織、公開のあり方等を明らかにするとともに、各地の保存団体や保護行政担当者等とこれら研究成果及び問題意識の共有化を図る。また、これまでに研究所で収集・保管している記録・資料の整理を行い、必要に応じて媒体転換等の措置を講ずる。さらに、無形文化遺産の記録やその所在情報を継続的に収集し、その情報の整理・公開に努める。	**④－２　無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究** 民俗芸能・風俗慣習・民俗技術の伝承実態・伝承組織について現地調査と資料収集を行った。特に東北の被災地域における無形民俗文化財の現状調査は昨年度に引き続き重点的に行った。 調査の成果は、無形文化遺産の民俗学的解明に貢献し、また震災関連では把握されていない情報の集積に役立った。 また、無形民俗文化財研究協議会を開催し、無形民俗文化財の保存と活用に関する現実的課題への対応を協議した。特に本年度は被災地における無形文化遺産の継承を考えるために、移転・移住と無形文化遺産についてテーマとして取り上げ、関係者間の協議やネットワーク形成を図った。その成果は報告書にまとめ、関係者及び関係機関等に配布した。 さらに、無形文化遺産情報ネットワーク協議会も開催し、本年度は文化財の防災に関する点からも情報収集と関係者間の協議・ネットワーク形成を図った。	B	B
4143	④ －３日本と関連の深いアジア諸国等との間において研究員交流や無形文化遺産関連調査を行うなど、無形文化遺産分野における研究交流事業を実施する。	**④－３　無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集** 韓国国立無形遺産院との交流事業において、23 年度に調印した合意書（当時の韓国側の組織名は韓国国立文化財研究所）に基づき、研究員の相互派遣を内容とする研究交流を実施した。また関係する国際会議・シンポジウム等へ参加し、海外研究者への助言や調査協力を通して、無形文化遺産分野における国際的情報収集及び情報提供を行った。	B	B
4151	⑤ 我が国の記念物に関し、以下の調査・研究を実施する。 ア　遺跡等の整備に関連する国際的な動向も踏まえた資料の収集・調査・整理等を行うとともに、遺跡等の保存・活用に関する一体的な研究を推進し、個々の状況に応じた適切な管理・整備等に資する。また、過年度開催した研究集会の成果の取りまとめ及び公表を行うとともに、遺跡等のマネジメントに関する研究集会を開催する。	**⑤ －ア　我が国の記念物に関する調査・研究（遺跡等整備）** 「史跡等の整備・活用の長期的な展開」を主題として、遺跡整備及び関連する分野の取組に関する情報収集を行うとともに、遺跡整備及び関連する分野の代表的な事例に関する発表及び総合討議からなる研究集会を開催した。また、過年度の成果について、『計画の意義と方法』［平成 25 年度遺跡等マネジメント研究集会（第 3 回）報告書］を刊行・配布するなど、その普及等を行った。	B	B
4152	イ　庭園史に関する文献調査・内外での現地調査等を行い、研究会を開催するとともに、日本庭園に関する基礎的資料のデータベース化を進める。また、現存する庭園及びその保護に関する調査・研究を行う。 さらに、これまで取り組んで来た庭園に関する公開情報の増補改訂を行うとともに、所蔵資料の整理を進める。	**⑤ －イ　我が国の記念物に関する調査・研究（庭園）** 「平成 26 年度 庭園の歴史に関する研究会」を開催し、報告書をまとめた。この研究会では、「戦国時代の城館の庭園」をテーマに、建築史学・美術史学・考古学等の研究者と共に、学際的な議論を行った。戦国時代の城館に関する遺構は、発掘調査によって近年も検出事例が相次ぐ一方、その空間構成に関する研究は十分に進展していていないのが現状で、本研究会での学際的な議論は、中世庭園史研究の進展に寄与しただけでなく、検出遺構の解釈等の埋蔵文化財の調査研究に資する成果となった。また、奈良市における庭園の悉皆的調査では、寺院の庭園を中心に現地調査を行い、奈良市内に現存する寺院庭園の全体像を把握することができた。	B	B
4153	ウ　不動産文化財等に関連する各種研究成果について、米国コロンビア大学との研究交流のもとに成果発表を行う。	**⑤－ウ　我が国の記念物に関する調査・研究（国際研究交流）** 米国・コロンビア大学において、日本の不動産文化財に係る講演 2 件を実施した。	B	B
	⑥　国家の形成過程や当時の生活実態の解明に向けて、遺跡の発掘調査、出土品・遺構等に関する調査研究及び文化財建造物に関する基礎的調査研究を実施する。			
4161-1	ア　古代都城の解明のため、平城宮・京跡、藤原宮・京跡、及び飛鳥地域等の発掘調査を実施するとともに、古代官衙・集落遺跡に関する研究集会、古代瓦に関する研究集会を実施し、報告書を刊行する。	**⑥－ア－１　平城京右京一条二坊一坪・二条二坊四坪・一条南大路の発掘調査** ・平城京右京一条二坊四坪及び二条二坊一坪にあたる地域の発掘調査を実施し、多大な成果を挙げた。 良好に遺存する平城京の条坊遺構（一条南大路南北両側溝）を検出した。 大規模な土木工事による平城京造営過程等を明らかにすることができた。 宅地内の遺構や、宅地を区画する築地痕跡などを確認した。 ・調査研究成果の公表を行った。 ウェブサイトにて「奈文研本庁舎発掘だより」を 1～2 週間に 1 度公開した。調査の進捗に応じて記者発表も行った。	B	B
4161-2		**⑥－ア－２　古代官衙、集落遺跡等に関する研究集会の実施、報告書の刊行** (1) 第 18 回古代官衙・集落研究集会「宮都・官衙の土器（官衙・集落と土器 1）」を開催。 古代宮都・官衙出土土器の様相の地域間比較や、考古学・文献史学等の分野横断的な検討を行った。 古代宮都・官衙出土土器と在地集落出土土器の様相の明瞭な差異が確認され、その意義について議論を深めた。	B	B

		各地域における研究手法の違いなどを明らかにし、今後の調査・研究における課題を共有した。 (2)『第17回古代官衙・集落研究会報告書　長舎と官衙の建物配置』(報告編・資料編)(①)の刊行 昨年度開催した第17回研究集会の報告書を刊行し、研究成果の公開を行った。		
4161-3		**⑥－ア－３　古代瓦に関する研究集会の実施、報告書の刊行** (1)第15回古代瓦研究会シンポジウム「8世紀の瓦づくりⅣ－平城宮式軒瓦の展開2　6282-6721系－」を開催 平城宮式軒瓦の主体となる6282-6721型式について、平城宮・京での出土状況、各地における当該型式採用の経緯、時期、製作技法など多岐にわたる検討・議論を行った。 奈良時代後半に主流となる平城宮式の瓦が、平城宮・京でどのように使用され、それらが各地へどのように展開していくのかを検討した。 (2)シンポジウムの開催にあたり、発表要旨集を作成した。	B	B
4161-4		**⑥－ア－４　藤原宮跡の発掘調査（大極殿院）** ・藤原宮大極殿院の発掘調査（飛鳥・藤原第182次）を実施した。 ・調査の結果、藤原宮の中枢部において、藤原宮の時代を中心とする前後の時期にわたる遺構変遷を明らかにすることができた。 ・発掘調査で得た新知見より、今後の調査計画を明確にすることができた。	B	B
4161-5		**⑥－ア－５　藤原宮跡の発掘調査（東方官衙北地区）** ・藤原宮東方官衙北地区の発掘調査（飛鳥藤原第183次）を実施した。 ・調査の結果、藤原宮の官衙地区で初の事例となる礎石建物や、床束をもつ大型掘立柱建物など、格式高い建物を検出し、官衙地区の建物配置に重要な新知見を得た。また、条坊道路や建物・塀など、藤原宮造営直前から造営期の遺構も多数確認し、この時期の複雑な遺構変遷を明らかにした。古墳時代を含む、さらに古い時期の遺構の存在も把握した。 ・藤原宮の構造や成立過程の解明に寄与する多数の成果があがった。	B	B
4161-6		**⑥－ア－６　飛鳥地域発掘調査** 掘立柱建物5棟、掘立柱塀1基、土坑3基、溝状土坑1基などを検出した。檜隈寺伽藍南側では主に古代と中世初頭の二時期に建物等が建立されたという従前の調査成果を追認するとともに、建物がさらに伽藍南方へ展開することがあきらかになった。	B	B
4162-1		**⑥－イ－１　平城宮・京跡の出土遺物と検出遺構の調査研究等** (1)本年度の発掘調査出土遺物・検出遺構について、整理・分析及び研究、図面作成・写真撮影等の基礎作業を行った。 (2)昨年度以前の出土遺物・検出遺構に関する継続的な整理・分析研究・調査を行った。 研究を進展させ報告書作成に備えるとともに、出土文化財の保全に万全を期した。また、出土遺物の科学的分析・保存処理を行った。	B	B

		(3)出版物等により、調査成果の公表を行った。		
4162-2	イ　出土遺物及び遺構に関する調査、分析、復原的研究を総合的・多角的に実施し、整理が終了したものより順次公表を行う。	**⑥－イ－２　飛鳥・藤原京跡出土遺物・遺構に関する調査研究等** ・本年度の発掘調査により出土した木製品・金属製品・石製品・動植物遺存体、土器・土製品、瓦磚類などの整理、分析研究、及び発掘遺構の図面・写真資料の整理・作成、分析作業を実施し、成果の一部を公表した。 ・前年度までの発掘調査により出土した木製品・金属製品・石製品・動植物遺存体、土器・土製品、瓦磚類、木簡などの再調査・再整理、分析研究、及び発掘遺構の図面・写真資料の再整理・再検討作業を実施し、成果の一部を公表した。	B	B
4163	ウ　飛鳥時代の壁画古墳についての調査研究を行うとともに、東アジアにおける工芸美術史・考古学研究の一環として、出土遺物を中心とした資料の調査を実施する。また、飛鳥時代木造建築遺物の研究として、山田寺等の飛鳥・藤原京跡内寺院の出土部材の研究を行う。	**⑥－ウ　東アジアにおける工芸技術及び飛鳥時代の建築遺物等の研究** (1)キトラ古墳、高松塚古墳壁画に関する研究を継続した。 (2)飛鳥寺塔心礎出土品を含む飛鳥寺跡発掘調査出土品の再整理を継続した。 (3)川原寺裏山出土塑像の再整理を実施した。 (4)向原寺所蔵金銅観音菩薩立像の非破壊分析を実施した。 (5)過去に実施した和鏡に関する蛍光X線分析のデータを整理した。 (6)山田寺跡出土部材の計測調査を継続した。	B	B
4164	エ　アジアにおける古代都城遺跡、生産遺跡及び陶磁器に関する調査研究並びに研究協力について、日本の古代都城及び北魏洛陽城等に関する中国社会科学院考古研究所との共同研究、中国の生産遺跡（陶磁器窯跡及び生産品）に関する河南省文物考古研究所との共同研究、遼西地域の都城に関する遼寧省文物考古研究所との共同研究、日韓古代文化の形成と発展過程に関する韓国国立文化財研究所との共同研究等を、協定に基づいて実施する。また、整理が終了したものより順次公表を行う。	**⑥－エ　アジアにおける古代都城遺跡、生産遺跡、墓制及び陶磁器に関する中国、韓国との共同研究及びカザフスタンへの研究協力** (1)中国社会科学院との共同発掘調査成果の整理と次期共同研究への準備を行う。 (2)遼西地域東晋十六国期都城文化関連遺跡・遺物の調査と調査研究報告書を公刊する。 (3)鞏義市黄冶唐三彩窯跡等出土品の共同研究を実施し、成果を公刊する。 (4)日韓古代文化の形成と発展過程に関する共同研究と発掘調査交流を、韓国国立文化財研究所と行う。	B	B
4171	⑦ 文化的景観及びその保護に関する基礎的応用的な調査研究を推進し、諸外国との比較のもとに、我が国の文化的景観保護に関する情報の収集・検討等を行う。また、過年度開催した研究集会の成果の取りまとめ及び公表を行うとともに、これまでの成果を踏まえつつ、文化的景観の学術及び保護に資する検討会を主催し、文化的景観の概念及び調査・計画手法等の体系化に取り組む。	**⑦　文化的景観及びその保存・活用に関する調査研究** 文化的景観及びその保存・活用に関する調査・研究の一環として、“「文化的景観学」検討会”を開催して、文化的景観に関する体系化に関する検討を進めたほか、文化的景観の現地調査等を行い、論文等を通じて成果を報告した。また、昨年度の研究集会報告書及び『World Heritage Papers 26』日本語版を刊行した。	B	B

	⑧　我が国の埋蔵文化財及びその保存・活用に関し、以下の調査・研究を実施する。			
4181	ア　全国の遺跡に関する資料収集及び分析に有効な指標や手法についての研究を進め、その成果をデータベース化して順次公開する。	**⑧ーア　遺跡データベースの作成と公開** 官衙関係遺跡・集落・宮都等の建物データについて全国的に網羅して作成した資料集成をもとに、報告書『長舎と官衙の建物配置』を刊行した。また、官衙・寺院関係遺跡及び井戸遺構に関するデータベースを作成し、官衙・寺院データベースの北陸地方から関東地方の一部までについて新たに公開した。	B	B
4182	イ　出土遺物等の材質構造調査を行い、劣化状態に関する基礎データを集積する。また、鉄製品及び木製品の埋蔵環境調査を実施し、埋蔵中に生じる遺物の劣化現象に関して、環境が及ぼす影響の基礎データを集積する。	**⑧ーイ　出土遺物の材質構造調査、鉄製品及び木製品の埋蔵環境調査** (1) 標準試料のラマンスペクトルを集積するとともに、顔料、ガラス、石製品、紙資料のラマンスペクトルを取得した。 (2) 遺跡から出土した大量の玉類のＸ線ＣＲ撮影を実施することにより、材質と内部構造を明らかにした。 (3) 三内丸山遺跡出土の漆製品について，漆使用の有無をFT-IR法により明らかにした。また，赤色塗膜には酸化鉄を主成分とする赤色顔料ヘマタイト(Fe_2O_3)の使用が明らかになった。 (4) 古墳石室における埋蔵環境を再現した模擬石室で金属製遺物の暴露試験を開始し、埋蔵環境が金属製品の腐食に与える影響の解明に取り組んだ。 (5) 「石造文化財の劣化と保存に関する新たな展開」をテーマとした研究集会を開催した。	B	B
4183	ウ　平城宮跡等をフィールドとして、遺構における水分移動及び溶質移動に関する計測と数値解析を行い、遺構の安定化方法を検討するための基礎データを収集する。	**⑧ーウ　遺構の安定化方法を検討するための基礎データを収集** ・土遺構の露出展示保存を実施している平城宮跡遺構展示館を研究対象として、外界気象条件や覆屋内温熱環境、析出物の種類や分布、水質に関する実測調査を行うとともに、土中と覆屋内空気における熱、水分及び酸素、溶質の移動を考慮した同時移動解析を行った。 ・現在、石室保護施設を建設中のガランドヤ古墳では、石室内の環境の変化について調査を行うとともに、換気や熱源の運用方法について検討した。さらに、同じ日田市に所在する穴観音古墳と法恩寺山３号墳の２基の装飾古墳においても、墳丘直上の外界気象条件と石室内温熱環境に関する実測調査を行い、ガランドヤ古墳と併せて封土の状態や墳丘表面の被覆状況が石室内温熱環境に及ぼす影響について検討した。 ・塩の析出による劣化が喫緊の課題となっている大分市元町石仏では、塩析出による劣化の抑制を試みた。あわせて、季節毎に析出している塩の種類と分布、地下水の水質と覆屋内の温熱環境に関する調査を実施し、塩析出の要因について検討した。	B	B

(2)　文化財の研究に関する調査手法の研究・開発の推進

【中期目標】文化財の研究に関する調査手法の拡充と新たな技術開発を推進すること。

【中期計画】	**【主な計画上の評価指標】**
(2)　文化財の研究に関する新たな調査手法の研究・開発の推進 文化財の調査手法に関する研究・開発を推進し、文化財を生み出した文化的・歴史的・自然的環境等の背景やその変化の過程を明らかにすることに寄与する。 ①文化財の現状及び経年変化等の記録や解析に応用するため、デジタル画像の形成方法等について研究・開発を実施する。 ②遺跡調査の質的向上及び作業の効率化等を図るため、遺跡の調査手法に関する研究・開発を実施する。 ③木造文化財の年代及び産地の特定等を図るため、年輪年代の調査手法に関する研究・開発を実施する。 ④過去の生業活動の解明等を図るため、動植物遺存体等の調査手法に関する研究・開発を実施する。	

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価 年度	自己評価 中期
	（２）文化財の研究に関する調査手法の研究・開発の推進 文化財の調査手法に関する研究・開発を推進し、文化財を生み出した文化的・歴史的・自然的環境等の背景やその変化の過程を明らかにすることに寄与する。			
4211	①　高精細デジタル撮影により、文化財が本来有する多様な情報を目的に応じて正確・詳細に視覚化するとともに、その公開を目指して、調査・研究を行う。	**①　文化財デジタル画像形成に関する調査研究** ・宮内庁三の丸尚蔵館所蔵「春日権現験記絵」第７・14巻の光学調査を実施した。 ・奈良国立博物館と研究協議会を開催した。 ・泉屋博古館分館において黒田清輝作「菊花と西洋婦人」の全図・近赤外線撮影を実施した。 ・飯田市美術博物館において菱田春草作「菊慈童」の全図撮影を実施した。 ・熊本県立美術館において、永青文庫寄託菱田春草作「落葉」「黒き猫」の全図撮影を実施した。 ・永青文庫において洋人奏楽図屏風の撮影を実施した。 ・東京国立近代美術館所蔵菱田春草作「早春」の全図撮影を実施した。 ・東京国立近代美術館所蔵岸田劉生作「古屋君の肖像」「壺の上に林檎が載って在る」全図・近赤外線撮影を実施した。 ・ポーランド、ブロツワフ国立博物館所蔵、秋野蒔絵硯箱の全図・部分撮影を実施した。 ・徳川記念財団所蔵蒔絵長持の全図・部分撮影を実施した。 ・平等院の依頼を受け、扉絵の修理に伴う撮影を実施した。	B	B

		・この他、修復を行っている日本銀行貴賓室染織品、修復作業状況 国内各地の伝統保存修復技術の記録撮影を行った。 ・奈良博との共同研究成果について、報告書内に論考として公表した。 ・報告書の発刊の他、データは画像処理を行った上で、記憶媒体に記録して保存している。		
4221	②　埋蔵文化財の調査における新たな手法の開発・導入と応用に関する研究を行う。特に、情報取得手段としての遺跡探査と遺構・遺物の計測、それらの成果を公開・活用する方法について重点的に研究を進める。	**②　文化財の測量・探査等に関する研究** (1)三次元レーザースキャナーによる文化財計測の精緻化と迅速化を更に進め、応用研究を進めた。 (2)SfM（複数画像から撮影位置と方向を復原する技術）/MVS（前述の複数画像を利用した三次元形状計測データ生成技術）の実用化と精度検証を達成し、実践に移した。 (3)UAV（無人飛行艇）をプラットフォームとした各種遺跡調査システムを試行した。 (4)アレイ式地中レーダー・多チャンネル式電磁探査機・磁気探査機の試験を行い、必要な機器の開発を進めた。 (5)発掘調査記録の迅速化及び精緻化を目的とした簡便な手法の検討を重ねた。 (6)窯業生産資料の広域編年と流通に関連する研究を推進した。 (7)各地方公共団体等の依頼により、計測及び探査を実施した。	B	B
4231	③　出土遺物、建造物、美術工芸品等の木造文化財の年輪年代調査を実施し、考古学、建築史学、美術史学、歴史学等の研究に資する。とりわけ、奈良文化財研究所で開発、実用化したマイクロフォーカスＸ線ＣＴを用いた調査手法は貴重な文化財の非破壊調査に有効であるため、調査対象の拡充と活用を図り、これらの研究成果を公表する。	**③　文化財の測量・探査等に関する研究** 考古学・建築史・美術史といった多分野にわたる22件の木造文化財を対象とした年輪年代調査及び樹種同定調査を行った。また、デバイスの交換により高解像度・高出力化が図られたマイクロフォーカスＸ線ＣＴ装置を用いて、同装置による調査対象拡大に向けた非破壊検査を行った。そして、これらの調査・研究成果の一部を論文等、学会等において発表した。	B	B
4241	④　動植物遺存体による環境考古学的研究を継続的に実施する。また、各種計測機器、マイクロスコープを活用して出土骨に残る加工痕の観察方法を確立し、骨角器製作技術や動物解体技術の研究を推進する。さらに、これまで国内の遺跡で開発してきた微細遺物選別法の実践を行い、東アジア、環太平洋世界の中での農耕・牧畜の起源や動植物利用に関する比較研究を行う。	**④　動植物遺存体による環境考古学的研究** 震災復興事業に伴う整理作業や報告書作成に対する支援を行うとともに、幅広い地域や時代の動植物遺存体の分析を進め、その研究成果を学会で発表した。また、一般向けの講演のほか、環境考古学に関わる展示にも協力するなどの社会貢献を行った。ほかに、研究の基礎となる標本を継続的に収集・作製した。	B	B

(3)　科学技術の活用等による文化財の保存科学や修復技術に関する中核的な支援拠点として、先端的調査研究等の推進

【中期目標】最新の科学技術の活用による保存科学に関する先端的な調査・研究や、伝統的な修復技術、製作技法、利用技法に関する調査・研究を通じて、文化財の保存・修復に係る技術・技法や材料の開発・評価等を推進し、文化財の保存や修復の質的向上に寄与すること。

【中期計画】	**【主な計画上の評価指標】**
(3)　科学技術の活用等による文化財の保存科学や修復技術に関する中核的な支援拠点として、先端的調査研究等の推進 最新の科学技術の活用による保存科学に関する先端的な調査及び研究や、伝統的な修復技術、製作技法、利用技法に関する以下の調査・研究に取り組むことにより、文化財の保存や修復の質的向上に寄与する。 ①大規模燻蒸に替わるカビ対策のシステム化等を図るため、文化財における生物被害の予防と対策に関する調査・研究を実施する。 ②文化財の状態の安定化等を図るため、文化財の保存環境に関する調査・研究を実施する。 ③文化財の材質分析及び劣化診断の向上等を図るため、計測手法に関する調査・研究を実施する。 ④屋外文化財の修復材料・技法に関する研究及び文化財の自然災害による被害軽減のため必要な調査・研究を実施する。 ⑤文化財に用いられた伝統的な技法及び合成樹脂などの修復材料に関する研究を行い、成果を文化財修復や人材育成に活用する。 ⑥近代文化遺産の保存のための修復材料及び技法の開発評価を行い、成果を保存修復に活用するとともに、海外研究機関との共同研究を推進する。	

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価 年度	自己評価 中期
	（３）科学技術の活用等による文化財の保存科学や修復技術に関する中核的な支援拠点として、先端的調査研究等の推進 最新の科学技術の活用による保存科学に関する先端的な調査及び研究や、伝統的な修復技術、製作技法、利用技法に関する調査・研究としての課題に取り組むことにより、文化財の保存や修復の質的向上に寄与する。			
4311	①　博物館、美術館、図書館などの屋内環境におけるカビの予防、対策のみならず、寺社等の歴史的建造物や古墳環境などの屋外に近い、環境管理が難しい場所での制御方法についても検討を行う。	**①　文化財のカビ被害予防と対策のシステム化についての研究** (1)　環境制御が難しい古墳環境において浮遊菌、付着菌、浮遊粒子数の調査を継続的に実施し、除菌清掃のための管理基準を策定した。 (2)　空調がない寺社などの現場で、文化財保存環境の浮遊菌、付着菌、文化財害虫棲息状況を調査し、対策に向けた基礎資料とした。 (3)　歴史的木造建造物の生物劣化要因として、木材成分を分解する木材害虫あるいはその腸管微生物に由来する酵素について調査した。 (4)　処理中にはカビの発生を抑制し殺虫処理が行える低酸素濃度処理について、常識的な温度条件で	B	B

		殺虫処理ができる最短期間を検討した。 (5) カナダ保存研究所から研究者を招聘し、研究交流を実施した。		
4321	② 保存環境を考慮した文化財の展示・収蔵施設の省エネ化の研究及び環境データやシミュレーション技術を用いた文化財の保存環境改善のための研究を推進する。	**② 文化財の保存環境の研究** (1) 1970 年代に建てられた美術館の展示ケース内の温湿度分布と壁面温度の実測と解析を行った。 (2) テスト用実大展示ケースを用いたガス濃度実測結果とシミュレーションとの整合性の検討を行った。 (3) 研究成果を速やかに学会等で発表し、研究会を開催し公開した。 (4) これらの結果を、国指定文化財公開のための環境調査や館内環境改善のための助言に活用した。	B	B
4331	③ 文化財の材質分析及び劣化診断を目的とした計測手法に関する調査研究を進める。 ア その場分析を思考した小型化半方機器の精度向上を行うとともに、これまで開発・導入を図った可搬型機器を活用して絵画等の彩色材料調査及び金属製文化財等の材質・劣化状態調査を推進する。	**③－ア 文化財の材質及び劣化調査法に関する研究** (1) 持ち運びが可能な小型機器によるその場分析の適用範囲拡大についての研究を進めた。 (2) 同時に、研究室内での精密機器による分析の高度化についての研究を推進した。特に、本年度は鎌倉～江戸期絵画の彩色材料調査を積極的に進めるとともに、工芸品・金属製品等の材料・構造調査を行った。 (3) 科学的調査データの蓄積と解析を目的に、これまでに実施した絵画や金属製品等に関するデータ解析を進め、論文投稿・学会発表を行うとともに、初期洋風画に関する調査報告書 2 冊を刊行した。	B	B
4332	イ ミリ波イメージング及びテラヘルツ分光イメージングにより文化財を対象とした測定に必要となるデータを収集するための基礎実験を行う。さらに、文化財に用いられている材料のテラヘルツ分光スペクトルの収集を行う。	**③－イ ミリ波イメージングにかかる基礎実験及び装置の改良等** サブミリ波イメージング（テラヘルツ分光イメージング）により漆器の塗装構造に関する非破壊調査を行った。新規に導入予定のメーカープロトタイプのテラヘルツイメージング装置の測定試験を実施し、文化財への適用性を検討した。	B	B
4341	④ 石造・木質文化財を対象に、周辺環境等の劣化要因の究明及び修復材料･技術に関する研究を行う。また、石造文化財及び美術工芸品の災害対策に関する基礎的調査を行う。さらに、被災文化財に関して、被災状況に合わせた保存・修復方法の研究を行う。	**④－１ 周辺環境が文化財に及ぼす影響評価とその対策に関する研究** (1) 石造文化財では、出島の旧石倉（長崎市）において砂岩の劣化機構の解明と周辺環境の影響に関する調査、幸橋（平戸市）において既に修復された物件の保存状態に関する追跡調査などを実施した。 (2) 木造建造物では加賀市内神社（中嶋神社、稲荷神社）において材質の違いによる覆屋内環境と本体の保存状態の違いについて調査を継続した。 (3) 25 年度までに得られた成果について論文及び学会発表を行った。	B	B
4342		**④－２ 文化財の防災計画に関する研究** (1) 東日本大震災被災文化財の保全に関する研究として、石巻文化センター被災文化財仮設収蔵庫として使用している旧石巻市立湊第二小学校の環境調査を継続した。 (2) 文化財の地震対策に関する研究として、石灯籠の地震対策に関する評価を実寸大のものを使って行った。 (3) 25 年度に実施した石灯籠縮小模型の振動台実験結果について、国際会議で発表し、成果の公表に	B	B

		努めた。		
4351	⑤ 文化財の真正性を考慮した修復に寄与するために、伝統的修復技術及び材料の調査･分析を行う。また、これまで使用されてきた修復材料の追跡調査を行うことにより､それらの評価を行う。さらに、修復に今後使用されることが想定される材料について､それを文化財に適切に使用するための調査・研究を行う。	**⑤－１ 文化財における伝統技術及び材料に関する調査研究** 本年度は中期計画の 4 年目に当たり、劣化が著しい考古資料等の漆文化財や、伝統的な文化財建造物の塗装材料である漆塗装や乾性油塗料等の過去の塗装彩色修理に関する基礎資料の蓄積を図るとともに、その実績を塗装修理作業の実践的な施工指導に役立てた。また、第 8 回文化財における伝統技術及び材料に関する研究会を開催するとともに、第 2 冊目となるこれまでの研究会内容を纏めたブックレット形式の報告書を作成した。	B	B
4352		**⑤－２ 文化財修復材料の適用に関する調査研究** (1) 絵画修復材料に関する化学分析、クリーニング方法の検討実験を行った。 (2) 建造物等修理材料の現地曝露試験とその評価を開始した。 (3) 工芸品の調査として、染織品及び漆芸品についての調査・分析をし、評価方法について検討した。	B	B
4361	⑥ 近代文化遺産の特徴であるレンガ・石・コンクリート・各種金属・各種合成樹脂・各種繊維等の多種多様な材料の劣化状況や保存手法に関する調査・研究を行う。写真や図面等紙資料類等の保存修復に関する研究を進める。史跡の構成要素となっている建造物や構造物の保存理念や活用手法に関する研究を進める。ドイツ技術博物館との共同研究及び欧米あるいは東南アジアでの保存や修復事例調査を行う。	**⑥ 近代の文化遺産の保存修復に関する研究** (1) 洋紙：明治時代になってから急速に普及した洋紙及び没食子インクで記された文章の保存と修復に関して、各種書類の保存と修復に関して、調査研究を行った。 (2) 屋外展示物：屋外展示されている大型構造物、鉄道車両や航空機等の文化財の防錆対策のため、試験片を使った屋外曝露試験にて、塗装仕様と劣化速度の相関についても調査した。 (3) 建造物・構造物：佐渡金銀山遺跡、長崎県端島（軍艦島）、山口県萩市や静岡県伊豆の国市の反射炉等、史跡指定地に建つ建造物や構造物の保存や修復に関する研究を行い、地盤工学会にて発表を行った。 (4) 報告書：前年度の研究会をまとめた報告書を刊行した。	B	B

(4) 国・地方公共団体の要請に応じた保存措置等のために必要な実践的な調査・研究の実施

【中期目標】 国や地方公共団体の要請に応じて、我が国の文化財保護政策上重要かつ緊急性の高い文化財の保存・修復に係る実践的な調査・研究を実施すること。	
【中期計画】 (4) 高松塚古墳、キトラ古墳の保存対策事業等、我が国の文化財保護政策上重要かつ緊急に保存及び修復の措置等を行うことが必要となった文化財について、国・地方公共団体の要請に応じて、保存措置等のために必要な実践的な調査・研究を迅速かつ適切に実施する。	**【主な計画上の評価指標】**

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価 年度	自己評価 中期
	（４）高松塚古墳、キトラ古墳の保存対策事業等、我が国の文化財保護政策上重要かつ緊急に保存及び修復の措置等を行うことが必要となった文化財について、国・地方公共団体の要請に応じて、保存措置等のために必要な調査・研究を迅速かつ適切に実施する。			
4411	①　文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関して技術的に協力する。	**①－１　文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関する技術的協力** 高松塚古墳・キトラ古墳壁画共にクリーニングに効果が期待される酵素群の利用に関する研究を継続実施し、キトラ古墳壁画では墓室壁面からの取り外しによって分かれている漆喰の再構成のための修復材料の検討を行った。修理施設の生物・温湿度環境の安定化のための調査を実施した。劣化原因調査で採取された両壁画由来の微生物株について整理と公的機関への寄託についての準備を行った。高松塚古墳壁画の色料について、奈良文化財研究所と共同で調査を行った。	B	B
4412		**①－２　文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関する技術的協力** 文化庁が進める国宝高松塚古墳壁画の保存・活用に関する事業が円滑かつ適正に遂行するよう協力した。キトラ古墳では、史跡整備にむけて、仮設保護覆屋解体作業の立会調査や解体後の記録作業を実施した。また、古墳の保存、活用、整備の方向性を検討にするにあたり、技術的な支援・協力を行った。	B	B
4421	②　国土交通省が行う国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区公園予定地の調査及び保存･活用に関して技術的に協力する。	**②　国土交通省が行う国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区公園予定地の調査及び保存・活用に関する技術的に協力** 本年度は檜隈寺跡の北の丘陵地から、史跡檜隈寺跡の東側に沿って南に延び、塔跡の東側に至る範囲の工事立会（Ａ区）、檜隈寺跡の北の丘陵地の西斜面の工事立会（Ｂ区）の２カ所において調査を実施した。 Ａ区では一部、古代の遺構面を検出した。Ｂ区では、8 世紀後半から平安時代頃の瓦窯を１基検出した。	B	B

(5) 有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究

【中期目標】有形文化財の収集・保存・管理・展示・教育活動等に必要な調査・研究を計画的に実施すること。

【中期計画】

(5)　有形文化財の収集・保存・管理・展示・教育活動等にかかる調査・研究

有形文化財の収集・保存・管理・展示・教育活動等にかかる調査・研究を実施し、その保存と活用を推進することにより、次世代への継承及び我が国文化の向上に寄与する。

①適切な作品の収集・修理計画を立て、分かりやすい効果的な展示など、有形文化財の保存と活用を促進するため、所蔵品・寄託品の基礎的かつ総合的な調査を行う。

②日本の文化財及び日本の文化に影響を与えたアジア諸地域の有形文化財に関する基礎的かつ総合的な調査・研究を行う。

③平安時代から江戸時代までの京都文化を中心とした有形文化財の基礎的かつ総合的な調査・研究を行う。

④仏教美術及び奈良を中心とした有形文化財の基礎的かつ総合的な調査・研究を行う。

⑤アジアを中心に世界との交流という観点から捉えた、日本文化に関する調査・研究を行う。

⑥有形文化財の保存と活用の向上を図るため、有形文化財の保存環境・保存修復に関する調査・研究を行う。

⑦有形文化財の次世代への継承に寄与するため、文化財を活用した効果的な展示や、歴史・伝統文化の理解促進に資する教育活動等に関する調査・研究を行う。

【主な計画上の評価指標】

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価 年度	自己評価 中期
	（５）有形文化財の保存と活用を推進し、次世代に継承して、我が国の文化の向上に資するため、その収集・保存・管理・展示・教育活動等にかかる調査・研究を進める。			
	①　収蔵品・寄託品等の基礎的かつ総合的な調査・研究 （東京国立博物館）	①　収蔵品・寄託品等の基礎的かつ総合的な調査・研究 **【東京国立博物館】**		
4511-1	１）収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究を行う。	**1）収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究** 館蔵品・寄託品・それらの関連品及び今後収集・展示の対象となりうる文化財を調査研究し、併せて保存・展示・公開に関する調査研究を進める。	B	B
4511-2	２）特別調査「法隆寺献納宝物」（第36次）を行う。	**2）特別調査法隆寺献納宝物（第 36 次）「聖徳太子伝私記（古今目録抄）」（第１年度）** 重要文化財「聖徳太子伝私記（古今目録抄）」を調査し、『法隆寺献納宝物特別調査概報 36』「古今目録抄　上巻表」を刊行した。	B	B
4511-3	３）特別調査「書跡」第12回を行う。	**3）特別調査「書跡」第 12 回** 本年度は当館寄託受入となる「大日本古写経」に収められた写経断簡類について、作品の名称、制作年代、形状、界線等について確認した。断簡は原典推定をし、可能な限り『大正大蔵経』の本文と	B	B

		の照合を行った。合わせて原装丁の推測、使用された料紙の紙質の検討も合わせて行った。今回の調査対象について記載文字を可能な限り解読し書誌情報を収集した。また対象全件について法量を計測した。なお、本年度はスケジュールの都合により調査会場が狭隘であったため、高精細画像の撮影は実施しなかった。		
4511-4	4）特別調査「工芸」第6回を行う。	**4)　特別調査「工芸」第６回** 東京国立博物館の金工・漆工の列品について、最新の研究結果を反映させた知見を共有することができた。今後の列品の公開に知見を反映し、展示内容を向上できる。金工調査では、今年度は和鏡を取り上げ、4 館の研究員やアソシエイトフェローが揃って調査が実施され、特に古代に多く作例がみられる八稜鏡について活発な論議が加えられた。漆工調査では昨年に引き続き、香道具の中でも不定形な様相を示す香箪笥をとりあげ、記述、、計測、デジタルカメラ撮影、デジタル顕微鏡撮影の調査を行った。香道具の形式、加飾技法や材料の多様性を示す調査結果が得られた。	B	B
4511-5	5）特別調査「彫刻」第4回を行う。	**5）特別調査「彫刻」第４回** (1)文化庁所蔵の彫刻作品の調査を実施した。 (2)作品の形状、構造、保存状態などの調査結果を踏まえ、機構内４博物館への貸与作品を決定した。なお、平成 27 年度以降の各館の展示等へ活用する予定である。	B	B
4511-6	6）油彩画の材料・技法に関する共同調査を継続して行う。	**6)油彩画の材料・技法に関する共同調査** 平成 20 年 11 月から開始した。本調査は、3 年間の調査期間の締結を更新し、さらなる調査を進めている（更新２年目）。本年度調査が終了作品は、4 点である。	B	B
4511-7	7）漆塗籠棺残片の保存に関する共同研究を行う。	**7）漆塗籠棺残片の保存に関する共同研究** 修理仕様の策定を行い、修理前の事前調査を開始した。	B	B
4511-8	8）東京国立博物館所蔵仏教絵画の高精細画像による共同調査を行う。	**8）東京国立博物館所蔵仏教絵画の高精細画像による共同調査** 平成 24 年度に高精細デジタル画像撮影を行った国宝「普賢菩薩像 A-1」について東博・東文研両機関研究員による検討会を開催し、撮影画像をもとに「普賢菩薩像」に用いられた技法を詳細に観察、検討した結果、従来絵具で表されていると思われていた文様の一部が凹線によるものであることや、着衣の白く光る照暈が従来の認識とは逆の構造によって作られていることなど、これまで認識されてこなかった細部の技巧についての知見を深めることができ、今後の平安仏画の美的表現の研究・公開に資するに足る重要な資料を得た。また、来年度も継続的に調査と検討を行うために国宝「孔雀明王像 A-11529」の高精細デジタル画像撮影を行った。	A	A
4511-9	9）創立150年へ向けた館史編纂のための基礎的な資料整理と調査研究を行う。	**9)創立 150 年へ向けた館史編纂のための基礎的な資料整理と調査研究** ・館内各所から収集した、館史関係の文書記録・刊行物類を整理して目録を作成し、今後の館史編纂の利用に供することができるようにした。 ・資料の適切な保存を図るための措置を順次講じた。	B	B
4511-10	10)　板谷家を中心とした江戸幕府御用絵師に関する総合的研究を行う。	**10）板谷家を中心とした江戸幕府御用絵師に関する総合的研究（科学研究費補助金）** 伝来資料について、1,566 点（4,027 カット）の撮影を終了するとともに、並行して下絵と関連する原品作品の確認など知見の整理、絵画資料の調査、古文書の翻刻を行った。また、スタッフによる研究会と下絵作品の名称を決定するための画題研究会を開いた。本年度は、東京周辺と四国地方、海外所在の板谷派ならびに本家筋に当たる住吉派作品の調査を行った。	A	A

4511-11	11）中世聖徳太子絵伝の図像展開に関する調査研究を行う。	**11)中世聖徳太子絵伝の図像展開に関する調査研究(科学研究費補助金)** ①太子絵伝、あるいは関連する中世絵画について、博物館所蔵の作品、寄託品、及び特別展に出品された作品等の調査を実施することができた。 ②作品基礎データ、細部拡大写真などのデータ集積を行うことができた。 ③作品解説の充実、解説パネルの作成等、より効果的な展示に反映することができた。	B	C
4511-12	12）模写資料における書の受容・鑑賞に関する基礎的研究を行う。	**12）模写資料における書の受容・鑑賞に関する基礎的研究(学術研究助成基金助成金)** (1)東京国立博物館所蔵の模写資料の調査・撮影を進めるとともに、個人蔵の模写資料の調査・撮影を行った。また、宮内庁書陵部、東京大学史料編纂所、九州国立博物館、東山御文庫(御物)の関連史料を調査した。 (2)明治時代の東京国立博物館の模写活動や、明治～大正時代の田中親美による模写活動の一端を明らかにすることができた。また、平安～鎌倉時代の古写本の中にも本研究に関連性の高い資料を見つけることができた。 (3)特集「国宝再現　田中親美と模写の世界」（平成館企画展示室、10/15-12/7)に、東京国立博物館の模写活動を模本によって示すとともに、田中親美の未公開資料の展示とパネル解説、配布物(リーフレット)によってその模写活動を紹介した。また、成果を論文等で発表した。	B	B
4511-13	13）博物館における国際的な資料流通を素材とした明治期の文化交流しに関する基礎的研究を行う。	**13)　博物館における国際的な資料流通を素材とした明治期の文化交流史に関する基礎的研究(科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金)** (1)　本研究に関連した館史資料である『列品録』の項目一覧表を作成し、関係資料の釈読を進めた。 これにより、東博とオーストラリアとの列品交換などの初期の交流の経緯について解明するとともに、いくつかの知見を得た。 (2)　館史資料のうち、『重要雑録』の高精細デジタル撮影を行い、『動物録』の撮影にも着手した。 (3)　本研究に関連した列品を調査した。 (4)　内外の関係機関に対し、聞き取り調査を行った。 これにより、明治初年における諸外の日本美術の収蔵状況や、東博に外国からもたらされた物品の国立科学博物館での収蔵状況を知った。 (5)　現地調査として、国内調査（国立科学博物館筑波研究施設）、海外調査（オーストラリア）を行った。 (6)　メンバーと研究協力者による勉強会を開催した。	B	B
4511-14		**14）宮崎県西都原古墳群出土資料基礎調査（共同調査）** ① 宮崎県立西都原考古博物館へ列品の長期貸与を行い、西都原古墳群発掘調査 100 周年記念特別展に協力した。 ② 宮崎県立西都原考古博物館で、双方の担当者で列品に関する共同研究会を開催した。 ③ 年度末に、共同研究の研究成果報告書を作成した。	B	B
4511-15		**15）「家形埴輪の群構成と階層性からみた東アジアにおける古墳葬送儀礼に関する基礎的研究」（学術研究助成基金助成金）**	B	B

		科学研究費補助金Ｃ・Ｂ(2000～2002･2005～2007 年度)による調査･研究成果に基づき、各地の主要古墳出土埴輪群の分析結果の検討と研究会を実施し、本年度は次のような活動および成果があった。 ①東京都・大阪府・福岡県・石川県で共同研究会を開催した。 ②大阪府・石川県で埴輪の調査を実施した。 ③年度末に、研究成果報告書を作成した。		
4511-16		**16)縄文時代における浅鉢形土器の研究（学術研究助成基金助成金）** (1)遺跡出土浅鉢のデータベース化：文献調査 ・以下の対象地域に関する文献（発掘調査報告書等）の精査と文献複写作業 （対象地域：埼玉県、新潟県、福島県、群馬県の一部） (2)浅鉢形土器の資料調査（写真撮影・観察・計測等） ・東北地方の縄文時代中期の浅鉢形土器の資料調査を実施した。 ・群馬県内及び茨城県内出土の縄文時代中期の浅鉢形土器の資料調査を実施した。 ・長野県東信地方出土の縄文時代中期の浅鉢形土器の資料調査を実施した。	B	B
4511-17		**17）博物館における文化財の情報資源化に関する研究(科学研究費補助金)** ① 文化財に関連する目録類、図書、各種文書など基礎資料のリストを検討し、その全体像を明らかにした。さらに、分類法の検討を行った。 ② 文化財と関連資料について、それぞれのデジタル化によって、相互の関連付けが可能となった。 ③ 研究の成果を統合データベースに反映するための準備を行った。	B	B
4511-18		**18）古墳時代の農具研究（科学研究補助金）** (1)雄山閣より単著『古墳時代の農具研究』（総数 285 頁、26 年 8 月 25 日）を刊行した。 (2)本研究成果を、アメリカや韓国、日本で開催された学会や研究会にて紹介した。	B	B
4511-19		**19）古代東アジア世界における染織品の伝播と使用に関する考古学および美術史学的研究(科学研究費補助金)** (1)染織作品館内調査等：東京国立博物館・法隆寺宝物館所蔵の染織品(以下、法隆寺裂)のうち、列品(登録されている染織品)と未整理品(未登録の染織品)の調査と写真撮影を行い、資料の蓄積を行った。これらは点数が多いため、次年度以降も継続して行う予定である。これらの成果として、博物館において特集陳列「甦った飛鳥・奈良染織の美」を開催して、リーフレットを制作し、列品解説も行なった。また、文化財保存修復学会においてポスター発表を行った。さらに、法隆寺裂の献納経緯と技法・文様等について外部講演を行った。昨年調査を行った正倉院所在の法隆寺裂についての詳細を『正倉院紀要』において論文発表した。 (2)考古作品外部調査：金鈴塚古墳出土品(千葉県・木更津市郷土博物館金のすず)、瓢塚古墳出土品(千葉県成田市・房総のむら風土記の丘資料館)、石原稲荷山古墳等出土品(群馬県・高崎市観音塚資料館)、マケン堀横穴墓出土品(鳥取県西伯郡南部町教育委員会)、上塩冶横穴墓出土品(島根県埋蔵文化財センター)、九州国立博物館開催の「古代日本と百済の交流」展、島内地下式横穴墓出土品(宮崎県・えびの市歴史資料館)、入西石塚古墳出土品(埼玉県・坂戸市立歴史民俗資料館)。 上記、各出土品については調査及び写真撮影を行い資料の収集等を行った。	B	B
4511-20		**20）法隆寺献納宝物と正倉院宝物における上代染織作品の研究(学術研究助成基金助成金)** (1)韓国での考古遺物調査。法隆寺献納宝物の一部と推定される唐櫃の調査。 (2)韓国における調査の結果、武寧王陵出土品な陵山里古墳群出品、 また弥勒寺西石塔出土品など、百済の遺物に著しい共通点が見られることを確認した。唐櫃調査の結果、同作が法隆寺献納宝物の一部であり、かつては現在宝物館で保管されている上代裂を納めていた可能性が高くなった。 (3)韓国での考古遺物調査の成果として、今後献納宝物との比較研究に関する論文を執筆予定。また現在本研究の一環として上代裂の修理報告書の定期的な発表を目指しており、その第一回目の論文中に調査した唐櫃の概要と上代裂との関係について執筆した（『MUSEUM』655 号掲載予定）。	B	C
4511-21		**多数尊より構成される仏教尊像に関する調査研究(科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金)** (1)奈良国立博物館「鎌倉の仏像」展出品作品調査 ・京都国立博物館「南山城の古寺巡礼」展出品作品調査を行った。 ・広島にて鞆の浦・三原の寺院調査を行った。 ・宮城にて双林寺の調査を行った。 (2)「鎌倉の仏像」においては鎌倉国宝館所蔵および寄託の作品を熟覧でき、貴重な資料が収集できた。 ・「南山城の古寺巡礼」展においては出品作品の細部写真撮影など、貴重な資料が収集できた。 ・鞆の浦の安国寺、三原の棲真寺において所蔵作品を調査撮影し、資料の収集を行った。 ・双林寺において、所蔵作品の詳細を調査することができた。 (3)「鎌倉の仏像」展は昨年度の当科研による調査の成果に基づく。開催中に出品作品の調査も行い新たな知見を得ることができた。 ・「南山城の古寺巡礼」の図録、講演会、シンポジウムに際して科研の成果を反映した。 ・鞆の浦安国寺では納入品の詳細なデータを収集することができた。その成果は井上一稔氏によって公表される予定である。 ・双林寺調査で得られた情報は「みちのくの仏像」展の展示及び図録に反映した。	B	B
4511-22		**22）海外日本古美術展にみる日本観とその変遷に関する基礎的研究（科学研究費補助金）** (1)・米国、ドイツ、マレーシア、シンガポールにおいて 1939 年以降に開催された日本古美術展関係および 1940-1945 年の南方接収博物館関係の資料調査を実施するとともに、日本美術を扱った展覧会及び関連事業を視察した。国内では、東京国立博物館内文化庁分室及び京都国立博物館保管の海外日本古美術展関係資料の調査を実施し、写真資料のデジタル化を行った。 ・Web サイトや各館年報、関係資料を調査するとともに、関係者への聞き取り調査を行った。 (2)・海外訪問調査により、関係文献資料・展示風景写真等関係資料を入手、写真撮影によりデジタル化した。国内では、東京国立博物館内文化庁分室保存の 1995-2003 年開催の文化庁海外日本古美術展 12 展覧会について、会場写真(紙焼き)、各展覧会の記録冊子のデータ化を完了、閲覧可能とした。また、京都国立博物館主催の海外展について、面談調査を実施、記録写真を入手した。その他、展覧会を主催した新聞社、寺院など博物館以外の関係者との面談調査により、海外での展覧会の企画から運営の実態について知見を得た。	B	B

		・1936 年ボストンにおける「日本古美術展」から 2013 年までに海外で開催された日本古美術展の暫定リストを作成した。 (3)・国内外訪問調査により、現地でしか得られない記事のクリッピングや関連資料を収集、海外展に当館がどう関わったかの一端を見ることができ、東京国立博物館 150 年史編纂に向けての基礎資料収集が進んだ。 ・現地の反応や当時の解説及び現状の日本美術展示についての知見を、館内展示等外国人向け解説の英語版・中国語版に生かすことができた。 ・面談調査を通じ、日本美術展示を担当する学芸員との交流を深め、今後の国際交流事業の企画に向けての足がかりとなった。		
4511-23		**23)能狂言面の美術史的アプローチによる基礎的調査研究（科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金）** 研究開始年度である本年度は、本研究の目標のひとつである能狂言面の調査方法の確立のための試行と検証を兼ね、東京国立博物館所蔵の能面の調査を中心にすすめた。調査の結果、調査方法は概ね決定することができた。	B	B
4511-24		**24）日本における「美術」概念の再構築－語彙と理論にまたがる総合的研究（科学研究補助金）** ・日本の「美術」を語る体系全体とそれに従う美術作品記述の手法の再検討と、日本美術を捉え方とあるべき記述法に関する現代美術、工芸及び古美術という分野別研究。 ・アジアでの漢字文化圏における「美術」について、各地域での状況とその、さらに脱植民地化の中での状況などの研究。 ・同時代美術の動向と美術館の状況、さらに「美術」概念の再構築として翻訳とテクノロジーという面からの研究。 これらを国際シンポジウムを含む研究会の開催し、研究成果の共有と問題点について検討を行っている。	B	B
4511-25		**25）描いた女性たちに関する研究－桃山時代から明治・大正期まで（科学研究費補助金）** 前年度に引き続き、実践女子大学はじめ他機関の科研メンバーと協力し、9 月 1 日～4 日、福岡市で近世の女性画家の作品の調査を行い、これまで注目されていなかった作品の情報を収集するとともに、女性画家の伝記等に関するデータ収集に協力し、外部研究者と連携した質の高い研究を行うことができた。当該科研は今年度で終了するが、次年度以降も、外部との協力により当館所蔵の女性画家資料に対する研究を進めるよう準備を行った。	B	B
4511-26		**26）武装具の集積現象と古墳時代中期社会の特質（科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金）** 古墳時代中期における武装具集積の典型資料の調査および研究会を実施し、今年度は次のような研究成果があった。 ① 東京国立博物館所蔵資料を整理して、基礎情報を提示するために実測調査を進めた。 ② 調査情報を基礎として、「武装具の集積現象」を比較検討し、研究を推進した。 ③ 平成 26 年度平成館改修に伴う考古展示室計画に反映させた。	B	B
4511-27		**27）三次元計測を応用した青銅器製作技術からみた三角縁神獣鏡の総合的研究（科学研究費補助金）** ① 既存の調査成果の調査データ･写真の整理・分析を行なった。 ② 既存の主要古墳出土銅鏡・埴輪等の三次元データ分析と画像処理を行い、今後の活用に向けてデータ分析の方法の整備を図った。 ③ 研究成果を発表・公開した。	B	B
4511-28		**28）木彫像の樹種識別技術の高度化（科学研究費補助金）** (1)伐採後，数百年以上経過した木材中に残存する DNA の質と量について評価した。 (2)京都東寺の北総門に用いられていた伐採後 400 年以上経過したスギ材にも一定の量と質の DNA が残存することが分かった。 (3)伐採後数百年以上経過した木材からも DNA が得られることから，木彫像や建築物などから微量でも木材の試料が得られる場合，それを分析することで、樹種に関してのより詳細な情報が得られる可能性があり、文化財の製作された背景などに関して、科学的に考察できる可能性がある。	B	B
4511-29		**29）作品誌の観点による大徳寺伝来五百羅漢図の総合的研究（科学研究費補助金）** (1)博物館、寺院及び古跡に赴き、現地調査を行った。 (2)実際の作品を熟覧のうえ、写真撮影を行った。 (3)東洋館 8 室での展示、及び学会発表、論文等で成果を公表することができた。	B	B
4511-30		**30)在欧日本仏教美術の基礎的調査・研究とデータベース化による日本仏教美術の情報発信（科学研究費補助金）** (1)・イギリス・大英博物館、大英図書館において、日本仏教美術の調査を実施した。 ・在欧博物館所蔵の日本仏教美術のデータベース公開について、本研究担当者で今後の方針など検討会を行った。 ・米欧ミュージアム専門家交流シンポジウムと同事業のワークショップにおいて、米欧ミュージアム担当者と意見交換を行った。 (2)・イギリス・大英博物館、大英図書館が所蔵する日本仏教美術作品の確認が取れた。 ・在欧博物館所蔵の日本仏教美術データベースの内容を充実させることができた。 ・米欧ミュージアム担当者との意見交換において、新たな調査対象を見つけることができた。 (3)・米欧ミュージアム専門家交流シンポジウムにて、これまでの成果を口頭発表した。	B	B
	（京都国立博物館）	**【京都国立博物館】**		
4512-1	1）収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究を行う。	**1)収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究** 館蔵品、寄託品、それらの関連品及び今後収集・展示の対象となりえる文化財と、その周辺領域に関して、美術史、歴史学、考古学、博物館学、保存科学等の各見地から調査研究を実施し、各種学会等・学術誌等でその成果を発表した。	B	B
4512-2	2）訓点資料としての典籍に関する調査研究を行う。	**2）訓点資料としての典籍に関する調査研究** これまでの調査を踏まえて、客員研究員の宇都宮啓吾が東京文化財研究所で開催された国際研修「紙の保存と修復」において、講師として「古写経と訓点」（東京文化財研究所 International Course on Conservation of Japanese Paper 2014 2014.9.9）の講演を行った。また、秋の特別展覧会「修理完成記念 国宝鳥獣戯画と高山寺」に展示予定の高山寺所蔵『仏説弥勒上生経』『金剛頂瑜伽経』などに付された訓点の調査を行い、展示に反映させた。	B	B
4512-3	3）特別調査「彫刻」を行う。	**3）特別調査「彫刻」((5)-①)** ・特別展「南山城の古寺巡礼」出品作品の調査、撮影を行った。	B	B

		・京都国立博物館収蔵の大型作品の調査、撮影を行った。 ・京都市・妙心寺の仏像調査を行い、江戸時代の銘記を複数見出した。 ・木津川市鷲瀧寺、常念寺、滋賀県彦根市・高宮寺の予備調査を行い、平安時代、鎌倉時代の像を見出した。 ・河内長野市金剛寺の大黒天立像の調査により制作年代を記した銘記を発見した。 ・京都市・知恩寺の仏像調査を行った。 ・収蔵品等のＸ線ＣＴ調査を行った。		
4512-4-1	４）出土・伝世古陶磁に関する調査研究を行う。	**4）出土・伝世古陶磁に関する調査研究** ・福井市愛宕坂茶道美術館の所蔵品調査を行い、28 件の調書を作成すると同時に記録写真の撮影を行った。 ・徳島城博物館の寄贈品について調査を行い、29 件の調書を作成すると同時に記録写真の撮影を行った。	B	B
4512-5	５）特別調査「漆工」を行う。	**5）特別調査「漆工」（科学研究費補助金）** 昨年度までの成果の一部を当館研究紀要に発表することができた。昨年度にひきつづき、イギリスのV&A美術館とフランスパリ装飾美術館の収蔵庫にて漆器を調査し、イギリスではV&A美術館の家具修復担当者、フランスではルーヴル美術館の学芸員やオルセー美術館の名誉学芸員、またパリの家具修復家などとも日本製漆器の受容のありようについてさまざまな意見交換も行った。パリ装飾美術館からは、先方のコレクションを用いた展覧会を企画しないかとの提案も受けた。1 月にはV&A美術館のジュリア・ハット氏とパリ装飾美術館のアンヌ・フォレ・キャルリエ氏を当館へ招聘し、特にフォレ・キャルリエ氏とは「日仏漆芸交流を学ぶ」と題した国際研究セミナーを実現した。	A	B
	（奈良国立博物館）	**【奈良国立博物館】**		
4513-1	１）収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究を行う。	**1）収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究** 収蔵品・寄託品・それらの関連品及び今後に収集・展示の対象となりうる文化財について、研究員それぞれの専門分野の立場から調査を実施し、その調査に基づく研究の成果は、展示会場におけるパネル解説や、各種刊行物に掲載の論文、館内外での講座等に反映された。	B	B
4513-2	２）復元模写制作に伴う仏教絵画の光学的調査と研究を行う。	**2）復元模写制作に伴う仏教絵画の光学的調査と研究** (1)文化庁の復元模写事業に伴い、国宝信貴山縁起絵巻及び重要文化財板絵神像の光学的調査で得られたデータに基づいて研究会を実施した。 (2)ポリライトを用いた可視光励起による蛍光画像の撮影などの光学的調査を通じて得られたデータにより、有機色料の有無など制作当初の彩色の状態を復元的に把握することができた。 (3)光学的調査で得られたデータを基に当初の彩色の姿について検討を重ね、その所見を復元模写制作に反映させた。	B	B
	３）平安時代の大般若経を総合的に調査し、歴史資料としての情報資源化を図る。	**3）平安時代の大般若経を総合的に調査し、歴史資料としての情報資源化を図る（学術研究助成基金助成金）** ・昨年度に引き続き、「安倍小水麻呂願経」と呼ばれる貞観 13 年（871）の願文を持つ大般若経を、巻頭から巻末まで全巻開いて調査し、写真撮影した。その結果、慈光寺所蔵分の大般若経は全て調査を終え、調書整理とデータ化に着手した（27 年 3 月完了予定）。調査及びデータ整理の途上において、この大般若経は巻による筆跡の相違が顕著であることが判明した。	B	B

		・本研究課題の一環として海住山寺所蔵の大般若経（11 世紀）、及び長弓寺所蔵の大般若経（12 世紀）を調査したが、これは当館で来年度開催の特別展「まぼろしの久能寺経に出会う　平安古経展」の準備にも繋がるものである。		
4513-4	４）仏教工芸の総合的調査を行う。	**4）仏教工芸の総合的調査** ・特別展「国宝　醍醐寺のすべてー密教のほとけと聖教ー」の事前調査を行い、同寺所蔵の仏教工芸品を調査した。 ・収蔵する仏教工芸品に関して光学調査を含む調査を行った。 ・修理中の国宝・釈迦如来説法図（館蔵）について、東京国立博物館、京都国立博物館、九州国立博物館、正倉院事務所等の研究員を招き、研究会を行った。 ・特別展「国宝　醍醐寺のすべてー密教のほとけと聖教ー」では初出陳の工芸品を展示することができ、工芸史研究に新たな資料を提供できた。 ・同展に出陳され、後に当館の所蔵となった能作性宝珠（能作性塔付属）に舎利らしき納入品が発見され、中世の宝珠信仰の研究に新たな資料を提供できた。	B	B
4513-5	５）古墳・古墓出土品の調査と研究を行う。	**5）古墳・古墓出土品の調査と研究** 五條猫塚古墳出土品の各遺物の実測図や写真数百枚をとりまとめ、出土地点や遺物の種類ごとに分けて序列化し、報告書の作成をすすめた。写真図版編、報告編、考察編の三分冊の構成をとることにして、写真図版編を完成させ、報告編も編集を終了した。当年度内に二分冊の印刷を終え、残りの考察編のとりまとめを進め、次年度にて三冊揃いの報告書を公表する計画である。また、この報告書の作成により、各遺物の現況が明らかになったため、錆や破損の著しい鉄製品を抽出し随時修理に回すことが容易になった。	B	B
	（九州国立博物館）	【九州国立博物館】		
4514-1	１）収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究を行う。	**1)収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究** ・収蔵品・寄託品・それらの関連品及び今後収集・展示の対象となりうる文化財と、それらに関連する資料等について、美術史学・歴史学・考古学・博物館学・保存科学等の多様な見地から調査研究を行い、その成果を様々な展示に反映させ、また学会・研究会ならびに学術雑誌・書籍等でも発表・公開した。 ・様々な研究成果を以下のような展覧会に反映させた。 特別展「近衛家の国宝　京都・陽明文庫展」（26 年 4 月 15 日～6 月 8 日） 特別展「クリーブランド美術館展―名画でたどる日本の美」（26 年 7 月 8 日～8 月 31 日） 特別展「武寧王時代の東アジア」：韓国・国立公州博物館開催（26 年 9 月 23 日～11 月 23 日） 特別展「台北　國立故宮博物院―神品至宝―」（26 年 10 月 7 日～11 月 30 日） 特別展「日本発掘　―発掘された日本列島 2014」（27 年 1 月 1 日～3 月 1 日） 特別展「古代日本と百済の交流―大宰府・飛鳥そして公州・扶餘―」（27 年 1 月 1 日～3 月 1 日） トピック展示「館蔵近世絵画名品展」（前期：26 年 2 月 25 日～4 月 6 日、後期：26 年 4 月 8 日～5 月 18 日） 特別公開　国宝　琉球王国尚家関係資料修理完成記念特別公開（26 年 4 月 8 日～5 月 18 日） 特別公開　国宝「西光寺梵鐘」（26 年 4 月 22 日～8 月 31 日）	B	B

		特別公開「解剖書に見る東洋と西洋－ファブリカからターヘル・アナトミアへ－」(26 年 5 月 20 日～7 月 13 日) トピック展示「中国を旅した禅僧の足跡」（26 年 5 月 27 日～7 月 6 日） 関連展示　小中学生からの考古学（26 年 7 月 1 日～9 月 23 日） 特別公開「海を越えた再会－クリーブランド美術館の仲間たち－」（26 年 7 月 15 日～8 月 24 日） トピック展示「全国高等学校考古名品展」（26 年 7 月 15 日～9 月 23 日） 特集展示「『鳴りもの』の世界－九州ゆかりの梵音具を中心に」（26 年 11 月 18 日～27 年 2 月 15 日） 新春特別公開「徳川美術館所蔵　国宝　初音の調度」（27 年 1 月 1 日～1 月 25 日） トピック展示「大涅槃展」（27 年 1 月 14 日～2 月 15 日）		
4514-2	2）Ｘ線ＣＴスキャナによる青銅器・彫刻・漆工などの構造技法解析を行う。	**2）Ｘ線ＣＴスキャナによる青銅器・彫刻・漆工などの構造技法解析** (1)泉屋博古館の所蔵品を中心に中国古代青銅器の内部構造データを系統的に集積すると共にＸ線ＣＴ、３Ｄデジタイザ、３Ｄプリンター等の科学調査機器を用いて、調査研究を行った (2)本研究成果として、中国国内の研究者に公開するために、中国科学院自然科学史研究所と協力して研究報告書を作成した。 (3)調査研究の成果として、中国古代青銅器の構造・技法研究を非接触・非破壊で解明することができた。作品の安全を第一とする博物館における新しい研究方法として世界でも最初の研究成果である。また、中国古代青銅器の高い製作技術をパネルで紹介することができた。	B	B
4514-3	3）日本中世の工芸、特に茶道具に関する調査研究を行う。	**3)日本の中世の工芸、特に茶道具に関する調査研究** 芦屋鋳物師が製作した鋳造作品について、地元自治体文化財担当者や関連施設研究員の協力を得ながら三次元実測、Ｘ線ＣＴスキャン調査を実施し、芦屋鋳物師に特徴的な制作技法と構造を確認することができた。その成果は特集展示「「鳴りもの」の世界 － 九州ゆかりの梵音具（ぼんおんぐ）を中心に －」で公開した。	B	B
4514-4	4）日本中世における仏涅槃図の基礎的研究を行う。	**4)日本中世における仏涅槃図の基礎的研究** ・日本中世の涅槃図を中心に作品調査を実施した。 ・事前調査により、日本中世を中心にアジアにおける涅槃図の図像的、様式的展開を見通すことができた。展覧会開催前後には、写真撮影（赤外線撮影を含む）や詳細な調査を行い、作品に関する基礎データを集積した。 ・調査の成果として、トピック展示（特集陳列）「大涅槃展」を開催した。アジア全域に広がった涅槃像及び涅槃図の展開をわかりやすく展示した。	B	B
4521-1-1	②　アジア諸地域の有形文化財に関する基礎的かつ総合的な調査・研究（東京国立博物館における調査研究） 1）特別展等の開催に伴う調査研究を行う。	**②　アジア諸地域の有形文化財に関する基礎的かつ総合的な調査・研究** **【東京国立博物館】** **1)-1 特別展「台北　國立故宮博物院－神品至宝－」に関する調査研究** ・事前の作品調査に基づき、各作品に最も適した梱包を検討し、安全かつスムーズに輸送を行うことができた。	A	S

		・前年度からの作品調査の蓄積に基づき、皇帝コレクションの意味を確認するとともに、その特性を分かりやすく図録及び展示に反映することができた。 ・展覧会開催中も、内外の研究者を招いたシンポジウムを開催することで、國立故宮博物院所蔵品に対するより深い認識を得ることができた。		
4521-1-2		**1)-2 2014 年日中韓国立博物館合同企画特別展「東アジアの華　陶磁名品展」に関する調査研究** (1)中国国家博物館、韓国国立中央博物館の所蔵品を調査して作品選定を行うことで、それぞれの館の所蔵品の特性を活かしながら、それぞれの国の陶磁の展開を特徴的に示すことができた。 (2)日中、日韓、そして中韓の相互の陶磁の文化交流をテーマに中国、韓国の研究者と共同研究の中から作品を選定し、東アジアの陶磁の世界での交流の状況と各国の独自性を示す展示となった。 (3)展覧会会期中に中国国家博物館、韓国国立中央博物館を招き、三ヶ国の研究者による記念講演会を実施した。	B	B
4521-1-3		**1)-3 特別展「日本国宝展」に関する調査研究** ・出陳交渉に併せて作品の所在・保存状態を調査するとともに、安全な運搬・展示、効果的な展示方法などについて検討し、展覧会の内容充実に大きく寄与することができた。	B	B
4521-1-4		**1)-4 特別展「みちのくの仏像」に関する調査研究** (1)出品作品について作品調書、写真資料の作成を行つい、基礎データの集積を行うことができた。 (2)岩手・黒石寺の薬師如来像の像内墨書銘の赤外線撮影を行った結果、従来とは異なる読み方ができた。 (3)事前の調査によって得られた知見や写真を会場や図録に掲示し観覧者の理解を深めることができた。	B	B
4521-1-5		**1)-5 特別展「3.11 大津波と文化財の再生」に関する調査研究** (1)被災文化財の調査を行い安定化処理技術に関する研究をまとめた。 (2)文化財レスキューの概要と陸前高田市立博物館の文化財の再生の過程をまとめた。 (3)文化財レスキューが現在抱える課題と上記の成果を合わせて展示グラフィック等で公開し、情報の充実を図った。 (4)ギャラリートーク、講演会、シンポジウム等で文化財再生の現状を広く社会に伝えることができた。 (5)成果を論文や学会で発表した。	B	B
4521-1-6		**1)-6 特別展「鳥獣戯画―京都　高山寺の至宝」に関する調査研究** ・出陳交渉により、鳥獣戯画の伝わる高山寺、及び中興の祖明恵上人に関わる作品をかつてない規模で展観する見通しが立った。 ・出品作品の事前調査を行うことで、作品の保存状態などを詳しく精査することができた。 ・高山寺、明恵上人関連史跡を踏査することで、展示ディスプレイ、グラフィック等の充実をはかることができた。	B	B
4521-1-7		**1)-7 特別展「コルカタ・インド博物館所蔵　インドの仏―仏教美術の源流」に関する調査研究** (1)コルカタ・インド博物館において、展覧会出品予定の作品調査、撮影を実施した。展覧会の構成、図録原稿などを準備した。	A	A

		(2)日本では見る機会の少ないインドの仏像について、古代初期の前2世紀頃から12世紀以後の1000年以上の幅で多様な作品を調査できた。原始仏教からの発展や、密教の隆盛など仏教の大きな展開を様々な作品を通して通覧した。 (3)調査によって得られた成果は、展覧会の展示構成や、図録原稿に反映し、観覧者へ供与した。		
4521-1-8		**1)-8 特別展「クレオパトラとエジプトの王妃展」に関する調査研究** ・出品交渉によって12カ国、40を超える所蔵先から古代エジプトの王妃に関する作品を集め、効果的な展示を行う見通しが得られた。 ・なかでもベルギー王立美術館博物館所蔵「アメンヘテプ3世の王妃ティイのレリーフ」の出品は、日本初公開であるだけでなく、本例が出土したウセルハト墓を2011年に近藤氏が約100年ぶりに再発見したこともあって、本展の目玉の一つになると考える。 ・出品作品の事前調査を行うことで、作品の状態などを詳しく確認することができた。また関連作品の展示調査などによって支持具などの展示方法についても知見を得ることができた。	B	B
4521-1-9		**1)-9 特別展「始皇帝と大兵馬俑」に関する調査研究** (1)秦始皇帝陵博物院など中国陝西省にある展覧会出品候補作品の所蔵館において、作品状態の詳細とともに、所蔵機関における展示状況を調査して、より安全かつ効果的な展示手法を検討した。 (2)報告書の写真・図版・記載だけではわからない作品の詳細を実査することで、形態・製作技法などに関する実態を確認するとともに、新知見を得ることができた。これにより、作品解説などの執筆にかかる、より確実で詳細なデータを用意することができた。 (3)作品の保存状態ならびに、現在の展示状況も把握することで、特別展会場において適切な作品配置や安全対策を検討することができた。	B	B
4521-1-10		**1)-10 特別展「生誕150年　黒田清輝」（仮称）に関する調査研究** (1)山形美術館など展覧会出品候補作品の所蔵館において、作品状態の詳細とともに、所蔵機関における展示状況を調査して、適切な展示手法を検討した。 (2)近年、公開されていない作品も含め、作品を実査することで、表現技法の詳細を把握、黒田清輝の画業のなかに位置づけることができた。 (3)作品の保存状況並びに、現状の展示状況も把握することで、特別展会場において適切な作品配置や照明効果を検討することができた。	B	B
4521-2	2）館蔵の漢籍・洋書に関する基礎的研究を行う。	**2) 館蔵の漢籍・洋書に関する基礎的研究** ①　当館の所蔵するシーボルト献納本について、その書誌学的調査を行い、データベースを作成した。 貴重な図書を永く保存・活用するために 修復とデジタル撮影を実施した。 ②　シーボルト献納本に最小限の修理を施し、安全に取り扱うことが可能になった。 ③　修理の方針や、その過程を伝える画像などを、当館のウェブ上で公開した。	B	B
4521-3	3）東洋民族資料に関する調査研究を行う。	**3) 東洋民族資料に関する調査研究** (1)東京国立博物館と天理大学附属天理参考館においてオセアニア、及び台湾のタオ族、パイワン族、平埔族の民族資料に対して調査を実施した。 (2)東京国立博物館が所蔵する東洋民族の列品に関する基礎データを整理するとともに、いくつかの新知見を得ることができた。	B	B

		(3)調査で得られた知見は、東洋館13室で実施した次の展示に反映させた。 ・「台湾の海の民－タオ族の伝統文化－」（26年4月15日～26年7月6日） ・「南太平洋の暮らしと道具」（27年1月2日～27年4月5日予定）		
4521-4	4）東日本大震災による被災文化財の保存修復と文化財の防災に関する研究を行う。	**4) 東日本大震災による被災文化財の保存修復と文化財の防災に関する研究** (1)東京国立博物館と天理大学附属天理参考館においてオセアニア、及び台湾のタオ族、パイワン族、平埔族の民族資料に対して調査を実施した。 (2)東京国立博物館が所蔵する東洋民族の列品に関する基礎データを整理するとともに、いくつかの新知見を得ることができた。 (3)調査で得られた知見は、東洋館13室で実施した次の展示に反映させた。 ・「台湾の海の民－タオ族の伝統文化－」（26年4月15日～26年7月6日） ・「南太平洋の暮らしと道具」（27年1月2日～27年4月5日予定）	B	B
4521-5	5）絵巻の〈伝来〉をめぐる総合的研究を行う。	**5) 絵巻の〈伝来〉をめぐる総合的研究（科学研究費補助金）** 前年度に引き続き、絵巻の伝来、鑑賞歴といった情報を収集するため、以下の調査研究を進めた。 ・古代中世の文献資料に記載された絵巻関係資料の抜き出しとデータ化 ・東京国立博物館所蔵絵巻模本の調査 ・東京文化財研究所所蔵の売立目録の調査とデータ整理	B	B
4521-6	6）神像表現における物語性の研究を行う。	**6) 神像表現における物語性に関する研究（学術研究助成基金助成金）** 平成25年度に調査を実施した広島・南宮神社神像群についての論文を執筆した。	B	B
4521-7	7）江戸幕府による自然史科学の萌芽と御用絵師の役割に関する研究を行う。	**7)江戸幕府による自然史科学の萌芽と御用絵師の役割に関する研究（学術研究助成基金助成金）** 前年度の狩野探幽及び狩野常信の写生図の調査をふまえて、本年度は常信と交友のあった京都の公家・近衛家熙が制作した写生図の調査研究ををすすめた。 (1)家熙の日記『家熙公記』、及び家熙の言行を記録した山科道安著『槐記』を精査した。 (2)京都・陽明文庫所蔵「花木真写図巻」（近衛家熙作）三巻を調査した。 (3)『家熙公記』『槐記』の精査によって、家熙が本草学・名物学については、『和名類聚抄』（源順・平安時代）、『本草綱目』（李時珍・明時代）から影響をうけていたことを指摘し、そして「花木真写図巻」の調査によって、家熙が探幽・常信のみならず、ドドネウス著『草木誌』のような西洋の植物図からも新たな構図法を学んでいた可能性がみいだされた。さらに、家熙が典薬頭の錦小路頼庸や絵師の渡辺始興と交流しながら、本草学・博物学への造詣を深め、「花木真写図巻」のような植物図譜を制作した背景を考察した。 (4)家熙は宮廷や公家のみならず、将軍家、幕府の御用絵師、縁戚の水戸藩、薩摩藩、津軽藩などの人脈をもっていた。写生図制作についても、宮廷、幕府、藩主といった知的人脈をさらに明確にしていく必要があり、今年度は将軍家、水戸藩について調査した。 (5)本年の調査によって得られた知見は論文として発表した。また前年度の調査をふまえた狩野探幽とその写生図についての研究成果を論文として発表した。	B	B
4521-8	8）東京藝術大学付属図書館所蔵後藤家文書の研究を行う。	**8)刀装具一派後藤家の鑑定　極帳（鑑定控）の整理に基づく鑑定の様相と価値付けの考察(科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金)** ・極帳の翻刻を継続し、後藤家の鑑定活動や極帳との関係について更に理解を深めた。 ・極帳の鑑定記録と東京国立博物館所蔵にされる刀装具との照合が部分的に行えた。	B	B

		・上記研究成果を、展示会に協力することで視覚的に発表し、同展カタログにおいてその詳細を論述できた。		
4521-9	9）中世から近代における日本絵画の受容環境の復元的考察に関する研究を行う。	**9）中世から近代における日本絵画の受容環境の復元的考察（科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金）** (1)・東京国立博物館展示室において、輝度カメラ、分光光度計を用いて、既存照明器具で構成される展示照明環境の現状分析を行った。 ・東京国立博物館敷地内の施設並びに館外施設の展示室内の光の計測、調査を行い、比較資料となるデータ収集を行った。 ・研究協力社のもとで、LED 照明、有機 EL 照明器具の先進装置を調査、実験を行った。 (2)調査、実験結果のデータを考慮、検証することで、絵画の制作当時の状況を復元的に考察することで可能となり、先進的 LED 照明、有機 EL 照明をに用いた展示室で実際の展示効果を検証することができた。 (3)調査、実験成果をもとに、先進的 LED 照明、有機 EL 照明を用いた展示照明を実際の文化財展示に反映させた。	B	B
4521-10	10）東アジアにおける繍仏の基礎的研究を行う。	**10）東アジアにおける繍仏の基礎的研究(科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金)** (1)研究２年目である本年度は、主として国内外に所在する中国の作例の実見調査を実施することで、図像・材質技法・様式の詳細な分析を行った。 (2)これらの調査によって得られた繍仏の現存作例に関する、法量・図像・材質・技法・銘文・箱書・関連情報などを整理した。	B	B
4521-11	11）極薄青銅器の製作技術解明に関する研究を行う。	**11）極薄青銅器の製作技術解明－中国金属工芸史を再構築するための基盤研究** (1)国内外の博物館において極薄青銅器ないしそれに関連するユギの調査と分析を実施し、いくつかの製作技法を明らかにすることができた。 (2)調査で明らかにした製作技法を東京藝術大學における実験で検証し、技法各種を可能とする条件について知見を得た。 (3)調査で得た途中成果を刊行物、学会などで発表した。	B	B
4521-12		**12）ディルムン文明の起源－バハレーン島における古墳群の考古学的調査研究** (1)バハレーン王国に所在する古墳群において考古学的発掘調査を実施し、また関連学術情報を収集した。 (2)古墳群の地政学的データ、３Ｄデータ、考古学的・建築学的・人類学的データ等を取得した。 (3)成果を国内外の関係学会で発表し、また一部は一般向けメディアでも公開する予定である。	B	B
4521-13		**13)東アジアからみた乾隆画壇の総合的研究（科学研究費補助金）** (1)中国の博物館及び古跡に赴き、現地調査を行った。 (2)実際の作品を観覧して写真撮影を行った。 (3) 東洋館８室での展示、及び学会発表、論文等で成果を公表することができた。	B	B
4521-14		**14）高雄曼荼羅にみる古代アジア密教美術の様相（科学研究費補助金）** インドに残る古代絵画の希少な作例であるアジャンタ石窟、エローラ石窟の調査を実施した。	B	B
4521-15		**15）古代イスラエルの墓制と他界観に関する総合的研究(科学研究費補助金)**	B	B

		イスラエルにて現地調査を実施し、関連考古資料の収集を行った。国内では天理大学及び天理大学付属天理参考館が所蔵するゼロール遺跡出土資料を調査した。調査・研究の成果は、すでに日本オリエント学会での研究発表や、早稲田大学エジプト学研究所主催の国際シンポジウムで発表している		
4521-16		**16）中国典籍日本古写本の研究(科学研究費補助金)** 研究に関連する文献の収集に努めた。	B	B
4521-17		**17）５～９世紀東アジアの金銅仏に関する日韓共同研究(科学研究費補助金)** ・東京国立博物館において法隆寺献納宝物中の金銅仏及び金工品の調査を行った。 本調査では、日韓の同時代に製作された金銅仏でも、鉛の含有率など、銅に含まれる成分に違いがあることが判明した。 ・九州国立博物館で開催された『百済展』に出品される日韓の金銅仏に関して、２月１２～１３日調査を行った。 本調査では、日韓両国の金銅仏の表情や肉体表現などにおける様式的な相違および金工作品の加飾技法と金銅仏の加飾技法の共通性などについて検討を行った。	B	B
4521-18		**18)東アジアにおける木彫像の樹種と用材観に関する調査研究(科学研究費補助金)** ・国内に点在する木彫像の調査及び木片採取を実施した。 ・昨年度採取した木片の分析が完了しによって、木彫像の素材となる樹種の同定ができた。	B	B
4521-19		**19）東アジア文化の基層としての儒教の視覚イメージに関する研究(科学研究費補助金)** 中国美術に関する文献資料及び画像資料に徴し、中国儒教美術データベースの構築を進めた。また調査研究の過程で、中国西南部における神仏習合の様相が明らかとなった。	B	B
	③　京都文化を中心とした有形文化財の基礎的かつ総合的な調査・研究（京都国立博物館における調査研究）	**③　京都文化を中心とした有形文化財の基礎的かつ総合的な調査・研究** **【京都国立博物館】**		
4532-1-1	１）特別展覧会等の開催に伴う調査研究を行う。	**1)-1 特別展覧会「国宝 鳥獣戯画と高山寺」に関する調査研究** ・調査によって、学問印信・課業印信掛板を確認し、紀州に於ける明恵の事績の一端を初公開した。 ・龍谷大学古典籍デジタルアーカイブ研究センターと合同して、非破壊による写本と版本の紙質調査を実施し、展覧会図録に反映させた。 ・84 件の展示作品を選定した。	B	B
4532-1-2		**1)-2 特別展覧会「桃山時代の狩野派」に関する調査研究** (1)関東・近畿・四国・九州地方の博物館・美術館及び社寺や個人が所蔵する桃山時代後期の狩野派出陳予定作品（障壁画・屏風・掛幅）の調査を行った。 (2)これまで未紹介の作品の発見があり、出陳予定作品の候補に加えることができた。 (3)桃山時代の狩野派」展の出陳予定リストを確定させることができた。	B	B
4532-1-3		**1)-3 特別展覧会「琳派　京を彩る」に関する調査研究** (1)琳派関連書籍の収集を行い、研究史の整理を進めた。 (2)当館及び外部機関が収蔵する琳派関連作品の実見調査に基づき調書を作成した。この調査により、これまでに紹介されていない琳派作品を知る機会を得た。 (1)、(2)の成果により、展覧会出品作品を選定し、出品交渉を進めた。 (3)京都市内４館連携会議や、琳派 400 年祭実行委員会と連携し、関連教育事業を策定した。	B	B

4532-1-4		**1)-4 特別展観「山陰の古刹 島根鰐淵寺の名宝」に関する調査研究** 鰐淵寺伝来の重要文化財２件、重要美術品１件を含む彫刻作品について調査研究を進め、従来不明確であった尊格の同定や、銅造仏について蛍光Ｘ線による成分分析を行った。また、鰐淵寺伝来の金工作品について密教法具を中心に調査研究を進め、同寺所蔵の大形塔鈴の存在に着目し、近世初頭における無動寺と鰐淵寺との関係性を発見した。 これらの調査研究をもとに、特別展観「山陰の古刹 島根鰐淵寺の名宝」（27 年１月２日～２月 15 日）を開催した。	B	B
4532-1-5		**1)-5 特別展観「天野山金剛寺の名宝」に関する調査研究** 金剛寺所蔵の文化財について、彫刻、書画、工芸の各分野にわたって調査を実施した。近年の調査を踏まえ、今まで紹介されていない仏教と文学に関する典籍類を確認することができた。調査成果を活かし、国宝３件、重文 16 件、重美１件を含む 38 件の文化財を特別展観用に選定した。	B	B
4532-2	２）近畿地区（特に京都）社寺文化財の調査研究を行う。	**2)近畿地区（特に京都）社寺文化財の調査研究(科学研究費補助金)** 平成 25 年度末までの文化財の調査研究成果をもとに特別展覧会『南山城の古寺巡礼』を京都国立博物館の明治古都館（本館）において平成 26 年４月 22 日から同年６月 15 日まで開催した。この特別展覧会に出品するため 20 体ほどの彫刻作品の移動を行い、その移動に際して彫刻作品に関する新たな知見が得られた。	B	B
4532-3	３）近世絵画に関する調査研究を行う。	**3) 近世絵画に関する調査研究** ・当館に保管及び寄託される近世絵画に関する調査研究を進め、平成知新館の展示及び展示計画に必要な情報収集・整理を行った。 ・京都市内を中心に近世絵画の所在調査を行い、一部は今後寄託作品とすべく当館に移送した。	B	B
		4)近畿旧家伝来文化財総合調査 現地に担当研究員が赴き、漆工 300 件、陶磁 200 件、金工 100 件の調書作成、ならびに資料写真撮影を行った。また、調査関連データの整備とデータベース化を図った。 平成 24 年度からの調査成果をもとに、所蔵者より多数の文化財が当館へ寄贈された。	B	A
	④　仏教美術及び奈良を中心とした有形文化財の基礎的かつ総合的な調査・研究（奈良国立博物館における調査研究）	**④　仏教美術及び奈良を中心とした有形文化財の基礎的かつ総合的な調査・研究** **【奈良国立博物館】**		
4543-1-1	１）特別展等の開催に伴う調査研究を行う。	**1)-1 醍醐寺文書聖教７万点　国宝指定記念特別展「国宝　醍醐寺のすべてー密教のほとけと聖教ー」に関する調査研究** (1)醍醐寺の所蔵する彫刻・絵画・工芸・書跡・考古・建築の各分野の文化財について、調査・撮影を行った。 (2)各研究員がそれぞれの専門分野に沿って文化財調査・撮影を実施した結果、新たな知見や資料を得ることができた。また展覧会開催中にも写真撮影を含む調査研究を行い、展示品に関する基礎データの集積を行う事ができた。 (3)調査成果を反映し、従来の醍醐寺をテーマとした展覧会とは一線を画す、醍醐寺の歴史的特色をわかりやすく示す展覧会構成を実現した。	B	B

4543-1-2		**1)-2 特別展「天皇皇后両陛下傘寿記念　第 66 回正倉院展」に関する調査研究** (1)展覧会に先立ち、正倉院事務所において正確かつ最新の情報を得るために当館研究員が調書の精読、書写を行った。その情報は展覧会図録や展示パネル、題箋等に反映している。また、日頃の各研究員の研究は、展覧会図録の「宝物寸描」（小論文）に掲載したほか、公開講座等で発表した。 (2)宝物をいかに美しく、かつ快適にご覧いただき、さらに宝物への安全性も重要な研究課題である。例えば、照明の方法、ケース内の環境変化への対応、展示台の高さや角度の問題などであるが、アンケートによれば見やすさ、快適さは数年前に比べ各段に好評となっており、この分野における当館の対応も実を結びつつあることを実感している。 (3)正倉院展図録の印刷数は３万冊を超えており、発表媒体としてはきわめて多い点が特筆される。観覧者が購入することはもとより、多くの図書館等に収蔵されるので、展覧会後も探すことは容易である。さらに公開講座（当館職員は１回）、正倉院学術シンポジウムの発表（当館職員は１回）を実施している。 正倉院展図録のコラム「宝物寸描」は当館研究員２名が執筆したほか、概論が新規に執筆され、日頃の当館の研究成果が盛り込まれている。	B	B
4543-1-3		**1)-3 特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」に関する調査研究** 特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」は今年で９回目を数える。毎年異なるテーマを特集しており、これまで田楽や舞楽、神事の相撲や競馬、社家の文芸活動、大和士などについて詳細を紹介してきた。今年度の特集は、春日大社と協議の上で、祭礼に場に飾られる「威儀物」について特集することとした。過去のおん祭に使われた威儀物はほとんど現存しないことから、その探索は困難をきわめたが、京都の呉服の老舗「千総」に「千切台」なる威儀物の旧物が伝わることを知り、その調査と現物の展示公開を行うことができた。春日大社の祭礼に関わることは老舗のステイタスシンボルであり、「まつり」の原動力の一班はこうした点にも求め得ると紹介できた。また、春日大社の式年造替が始まることもあり、過去の造替にまつわる遺品、例えば室町時代の本殿の御簾金具や、江戸時代の社殿の設計図などについても調査、公開することができた。	B	B
4543-1-4		**1)-4 特別陳列「お水取り」に関する調査研究** (1)東大寺ミュージアムにおいて、文化財担当者と出陳候補文化財に関する打ち合わせを行い、また調査を実施した。 (2)出陳可能な文化財の決定と、その内容の確認を行うことができた。 (3)特別陳列「お水取り」の展示構成、また図録に上記の内容を反映させた。	B	B
4543-1-5		**1)-5 特別展「まぼろしの久能寺経に出会う　平安古経展」に関する調査研究** ・紺紙金字経や彩牋墨書経を調査して製作年代を推定し、展覧会への出陳の有無を決定した。 ・経塚出土の経典遺品を数多く調査し、本展の内容に相応しい遺品を絞り込んだ。	B	B
4543-1-6		**1)-6 開館 120 年記念特別展「白鳳」に関する調査研究** (1)館外の作品調査（鳥取県、島根県、大分県、福岡県、奈良県、京都府、大阪府、愛知県、三重県、滋賀県、千葉県、東京都）を実施。写真撮影、詳細な観察、構造等の精査などを実施した。既知の資料はもちろん、新出の資料も数多く発見することができた。また、関連する展覧会や研究会がある場合は、可能な限り脚を運び、成果を蓄積した。	B	B

		(2)館内の作品調査。これまで白鳳時代の作と認められていなかった品、未発表の作品も数多くあり、それらを改めて精査した。		
4543-2	2）南都の古代・中世の彫刻に関する調査と研究を行う。	**2）南都の古代・中世の彫刻に関する調査と研究** ・館内外において多数の作品の調査・撮影を行った。主要な作品は、法隆寺夢違観音像、深大寺釈迦如来像、海住山寺四天王像、正寿院十一面観音像、額安寺虚空蔵菩薩像、北僧坊虚空蔵菩薩像など。 ・いずれの像についても、調査の結果、学術的に重要な新知見が得られた。 ・特別展や名品展における図録の解説や題簽執筆、また公開講座での報告に新知見を反映させることができ、新たな解説を行えた。	B	B
4543-3	3）綴織當麻曼荼羅（當麻寺蔵）、信貴山縁起絵巻（朝護孫子寺蔵）の調査など、東京文化財研究所と共同で仏教美術の光学的調査研究を実施し、作品の材料・技術等の解明に寄与する。	**3）綴織當麻曼荼羅（當麻寺蔵）、信貴山縁起絵巻（朝護孫子寺蔵）の調査など、東京文化財研究所と共同で仏教美術の光学的調査研究を実施し、作品の材料・技術等の解明に寄与する** (1)大徳寺五百羅漢図の光学調査に関する成果を報告し、天台高僧像及び信貴山縁起絵巻の調査成果の公表方法について検討を重ねた。 (2)調査報告書『大徳寺伝来五百羅漢図』の刊行に伴う研究会および関連作品の追加調査を実施。天台高僧像及び信貴山縁起絵巻の調査報告書の刊行時期とその方法について協議を行った。 (3)報告書刊行に伴う研究会を通じて共同研究の成果を広く公表。天台高僧像の調査報告書を平成27年度中に刊行、信貴山縁起絵巻の調査成果を平成28年度開催予定の信貴山縁起絵巻展に反映させることで合意。	B	B
4554-1-1	⑤　アジアを中心に世界との交流という観点から捉えた、日本及びアジア諸地域の文化に関する調査・研究（九州国立博物館における調査研究） 1）特別展等の開催に伴う調査研究を行う。	**⑤　アジアを中心に世界との交流という観点から捉えた、日本及びアジア諸地域の文化に関する調査・研究** **【九州国立博物館】** **1)-1　特別展「古代日本と百済の交流－大宰府・飛鳥そして公州・扶餘－」に関する調査研究** (1)韓国国内の文化財について、国立博物館・国立文化財研究所での調査及び遺跡での現地踏査を行った。また各館の学芸員と意見交換を行い、多くの示唆を得た。 (2)日本国内に所在する百済関係の文化財調査を行い、遺跡での現地踏査を行った。 (3)研究成果を特別展「古代日本と百済の交流―大宰府・飛鳥そして公州・扶餘―」として九州国立博物館で行った他、韓国国立公州博物館でも研究成果を活かした特別展「武寧王時代の東アジア世界」が行われた。 (4)日韓の研究者が最新の研究成果を発表する講演会を開催し、討論を行った。	B	B
4554-1-2		**1)-2　特別展「発掘された日本列島2014」に関する調査研究** (1)展示で借用した島内地下式横穴墓群の金属製品についてＸ線ＣＴ調査を実施した。 (2)従来のＸ線写真より詳細な象嵌のデータを得ることができた。また、外面から判断できない金属内部の脆弱な部分についての調査も行った (3)従来の象嵌データに新たに反映をすることができた。	B	B
4554-1-3		**1)-3　特別展「戦国大名―九州の群雄とアジアの波濤―」に関する調査研究** ・計23機関で陶磁・金工・刀剣・漆工作品、及び考古資料・歴史資料の詳細調査を行った。	B	B

		・各作品の状態・法量を把握し、陶磁・刀剣作品及び考古資料の製作技法、漆工作品の加飾技法・木地構造、歴史資料の形態的特徴・文字情報等に関して知見を得た。 ・本調査研究の成果は、次年度当初の特別展「戦国大名―九州の群雄とアジアの波濤―」展に反映する予定である。		
4554-1-4		**1)-4　特別展「大英博物館展―100のモノが語る世界の歴史―A History of the World in 100 objects」に関する調査研究** (1)26年9月6日～13日に、河野と西島が大英博物館を訪問し、相手側展覧会担当者と協議を進め、さまざまな施設・部門を見学するとともに、展覧会に出陳予定の作品をつぶさに調査できた。 (2)大英博物館のコレクション及びそれを支えた英国の歴史について現地調査ができ、展覧会のメッセージについて具体的なイメージを確立することができた。 (3)現地調査研究の成果を、展覧会の企画や図録の翻訳作業に反映することができ、プロジェクトが飛躍的に前進した。	B	B
4554-1-5		**1)-5　特別展「美の国日本」に関する調査研究** 27年度開催予定の開館10周年記念展「美の国　日本」の出陳交渉を進めるとともに、各所蔵者の協力を得ながら出陳予定作品の現地調査を行い、輸送計画及び展示計画の立案に有効なデータを得ることができた。	B	B
4554-1-6		**1)-6　特別展「アフガニスタン美術展」に関する調査研究** ・展覧会図録（英文）を入手し、展覧会の内容と出品作品について把握した。オーストラリア・西オーストラリア博物館会場内の展示状況などを調査した。展覧会出品作品の輸送用外箱の保管状況を含む、展覧会に関する様々な情報収集を行った。 ・展示室内の実物をつぶさに観察でき、展示作品の質の高さと保存状態を確認することができた。また国際巡回にあたって準備された展示具を多用する展示の手法についても検討することができた。 ・展覧会企画書作成、文化庁を含む関係者との打ち合わせにあたっても、本展覧会に出品された作品の質の高さと文化財保護に関する意義を説くことができた。図録解説執筆及び展示のイメージを固めることができた。	B	B
4554-2	2）日本とアジア諸国との文化交流に関する調査研究を行う。	**2）日本とアジア諸国との文化交流に関する調査研究** (1) 朝鮮半島、三国時代の考古・美術に関する調査研究 ・百済と倭国の交流を出土品で跡づけることができた。 ・特別展「古代日本と百済の交流―大宰府・飛鳥そして公州・扶餘―」の企画や実施が大変効率的に進められた。 (2) 内蒙古所在壁画墓壁画の高精細画像データベースの構築 ・内蒙古博物院が所蔵する、内蒙古所在壁画墓壁画の高精細画像データベースの整備を進めた。 ・高精細画像データベースの展示事業への利活用のための基礎的作業を開始した。 (3)タイにおける異文化の受容と変容 ・国内にあるタイ由来文物や、タイに持ち込まれた我が国由来の作品について、両国研究者の理解が一層深まった。 ・27年の特別展のための準備が順調に進んだ。	B	B

4554-3	３）九州における対外交流文化財の保存と活用に向けた研究基盤を創設する。	**3)九州における対外交流文化財の保存と活用に向けた研究基盤の創設（科学研究費補助金）** (1)九州の特質とも言える外来文化の受容と展開における先進性や辺境性を示す文化財を対外交流文化財として位置づけ、東西南北４つの方向から流入した文化の中から代表的な事象を選んで調査を展開している。本研究期間内では、北ルート（古代を中心とする大陸との交流）及び西ルート（中世・近世を中心とするアジア・ヨーロッパとの交流）を中心に調査を展開した。 (2)各地で現地調査した文化財を必要に応じて九州国立博物館に移動して、大型Ｘ線ＣＴ、精密三次元計測機、高精細大型スキャナなどの最新鋭のデジタル計測機器を活用した科学調査を実施した。また、高精度の情報を網羅したデジタルアーカイブを新しい博物館情報として利用するために、展示への活用を計画した。 ・本年度は研究の最終年度にあたるので、本研究の総括報告書を作成した。	B	B
4554-4	４）中国山東省を中心とする漆工品の調査研究を行う。	**4) 中国・山東省を中心とする漆工品に関する調査研究** (1)調査対象とする螺鈿箱の調査分析を、他作例と比較しながら多角的に進めることができた。 (2)螺鈿器及び関連漆器の調査を広範囲に行うことにより、今まで知られていなかった比較作例を数多く集めることが できた。 (3)調査の過程で明らかになった新たな検討課題について、総括に向けて考察を深めることができた。	B	B
4554-5	５）タイにおける異文化の受容と変容－13世紀から18世紀の対外交易品を中心として－に関する研究を行う。	**5)タイにおける異文化の受容と変容－13 世紀から 18 世紀の対外交易品を中心として－（科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金）** ・前年度に続き、タイ及び日本においてタイ関係交易資料の調査を実施した。 ・日タイ双方においては個人コレクター所蔵資料を含む調査研究を行い、基礎データを強化できた。特に在日本タイ資料についてはタイ側の協力により新しい視点から見直すための資料情報を得ることができた。 ・タイにおいてセミナーを開催し、調査研究について発表し、その成果について現地に還元することができた。	B	B
4554-6	６）中世～近世初期の対馬宗氏領国に関する基礎的研究を行う。	**6) 中世～近世初期の対馬宗氏領国に関する基礎的研究（学術研究助成基金助成金）** ・長崎県立対馬歴史民俗資料館及び神宮文庫において、古文書・経典の調査を計４回実施した。 ・中世～近世初期の対馬の古文書の収集（撮影）・整理（データベース化）を行うとともに、対馬所在の大蔵経の印刷・将来年代等に関する知見を得ることができた。 ・前年度に引き続き、中世松浦地域に関する史料の収集（刊本めくり作業）・整理（データベース化）を行った。	B	B
4554-7	７）契丹壁画墓の集成と公開－唐滅亡後の東アジアにおける国家形成過程の視覚的理解－に関する研究を行う。	**7)契丹壁画墓の集成と公開-唐滅亡後の東アジアにおける国家形成過程の視覚的理解-(科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金)** (1)・内蒙古自治区フフホト市の内蒙古博物院で、内蒙古自治区所在の壁画墓からはぎ取られた壁画資料について、高精細画像データ（通常の画像、斜光線下の画像及び赤外線画像の三種）を作成した。 ・内蒙古自治区エチナ旗の黒水城遺跡で、契丹と同様、独自の文字を作り出した西夏の文物について現地調査を行った。 (2)契丹以前の五代の壁画墓資料についても高精細画像データを作成したため、契丹壁画の特性について比較する良質の材料が入手できた。 (3)通常光下、斜光線下及び赤外線下の３種類の画像高精細画像データを比較しながら、技法を含む研究を進めている。	B	B
4554-8	８）水中遺跡の保存・活用に関する調査研究を行う。	**8)水中遺跡の保存活用に関する調査研究（文化庁受託事業）** 海外の水中遺跡についての取組状況を取りまとめるために、現地を訪問し調査を行った。 ・本年度はデンマーク・スウェーデンを訪問して当該国の機関を調査した。また、日本の水中遺跡の探査に必要な機器の性能を把握するために、鹿児島県奄美大島宇検村倉木崎海底遺跡の調査を実施した。 ・本調査・研究の成果は我が国の海事文化財研究を推進する上で貴重な基盤事業となっている。また、水中遺跡の魅力をどのように市民に伝えるか、魅力的に展示するのかという課題についても、デンマークのヴァイキング博物館やスウェーデンの WASA 号博物館が参考になった。さらに、海底遺跡の魅力を臨場感豊かに伝える手段として８K 映像を撮影した。	B	B
4554-9	９）朝鮮半島、三国時代の考古・美術に関する調査研究を行う。	**9) 朝鮮半島、三国時代の考古・美術に関する調査研究** ・展覧会の出陳作品調査と併せて、百済と倭国の交流を示す出土資料を実見し、調査することができた。 ・画像だけでは分かり難い作品コンディションや、細部の構造について、調査・検討を加えることができた。また、所蔵機関スタッフとの交流の中で、歴史背景をはじめとする付帯情報を入手することができた。 ・特別展「古代日本と百済の交流―大宰府・飛鳥そして公州・扶餘」ならびに「日本発掘―発掘された日本列島 2014―展」の展示企画や図録製作に活用することができ、準備作業を効率的に進めることができた。	B	B
4554-10	10）ＶＲ技術を活用した装飾古墳アーカイブに関する調査研究を行う。	**10) ＶＲ技術を活用した装飾古墳アーカイブに関する調査研究** (1)桂川町立王塚装飾古墳館で、王塚古墳石室模型を撮影し、実際の石室の装飾文様が浮かび上がるような AR コンテンツを作成した。 (2)今まで蓄積した装飾古墳 VR データを、映像コンテンツ以外で活用するため、様々な実験的な取り組みを行った。	B	B
4554-11	11）平成20年度に開催した特別展「工芸のいま 伝統と創造」の成果を基礎に九州・沖縄の伝統工芸作家について継続的かつ発展的に調査研究を行う。	**11) 平成 20 年度特別展「工芸のいま　伝統と創造」に関連した九州・沖縄の伝統工芸作家への継続的かつ発展的な調査研究** (1)染織工芸（久留米絣、久米島紬）、芦屋釜鋳造工房、津屋崎人形工房において作品及び制作方法や制作用具について調査を行った。 (2)上記の調査に伴い、体験プログラムに応用する方法が確認できた。 (3) 次年度実施する体験プログラムの企画に調査結果を盛り込むことが可能となった。	B	B

4554-12	12）和泉市久保惣記念美術館所蔵の日本と中国の考古工芸品について、Ｘ線ＣＴスキャナ、３Ｄデジタイザ、三次元プリンタ等を用いて、科学調査を実施する。	**12)和泉市久保惣記念美術館の収蔵品の調査研究** ・本年度は帯鉤金具を中心に計測画像から、青銅器の内部構造について非接触・非破壊で青銅器の構造を解析した。 ・殷周青銅器では取っ手などの立体造形の接続状況に着目して解析を行った。その結果、無垢でつくるものと中子を挿入して金属湯をまわすものの２種類が存在することを確認した。また、中子と外型とを固定するためのスペーサーについても具体的な位置を確認することができた。この研究成果は久保惣記念美術館の展示として生かすことができた。	B	B
4554-13	13）中世大般若経の史料学構築に向けての基礎的研究を行う。	**13)中世大般若経の史料学構築に向けての基礎的研究** (1)翻刻史料及び未翻刻史料を広く調査し、中世大般若経に関する資料を収集した。 (2)前年度に引き続き、中世大般若経に関する基礎資料の収集を進めることができた。また、これにより、大般若経の果たした歴史的役割の変遷を跡づけることができた。 (3)大般若経の果たした歴史的役割の変遷についての知見を展示に反映することができた。	B	B
4554-14	14）九州南島の交流史に関する調査研究を行う。	**14)九州南島の交流史に関する調査研究** 前年度に調査を行った徳之島と喜界島の個人所蔵の縄文時代の土器・石器について、外部の専門家を交えて詳細な検討を行なった結果を、各調書に纏めた。このうち、特に重要であった喜界島の土器について論文に纏め、九州と南島に深い交流があったことを明らかにすることができた。	B	B
	⑤　有形文化財の保存環境・保存修復に関する調査・研究 （東京国立博物館）	**⑥有形文化財の保存環境・保存修復に関する調査・研究** **【東京国立博物館】**		
4561-1	１）博物館の環境保存に関する研究を行う。	**１)博物館の環境保存に関する研究** 今年度は展示環境に関する調査研究の内、展示ケース内の湿度環境について特殊な要件を実現するための手法に関する研究と現存の照明器具(蛍光灯、ハロゲンランプ)及び次世代型照明器具(LED、OLED)の比較評価と、次世代型照明器具を効果的かつ安全に導入するための研究を中心に実施した。具体的な成果は下記の通り。 ・展示ケース内を低湿度環境に維持するための研究を行い、文化財の材質の安定及び所蔵先からの要求条件を実現することができた。 ・展示室内及び展示ケース内蔵の照明器具から発する熱的影響を赤外線サーモグラフィーで観測・評価し、文化財への影響を回避するための手法を実践した。 ・展示環境をより安定化できる展示ケースを新たに設計した。 ・照明器具の熱的影響に関して学会発表を行ない、次世代型照明器具の評価と使用に関する論文を発表した。	B	B
		2）被災博物館等の汚染ガスからみた資料と環境の安定化およびその評価手法の研究(科学研究費補助金) パリ市内に所在する博物館施設を訪問し、セーヌ川氾濫時における緊急避難プログラムの詳細を聞き取り調査した。	B	B
	（京都国立博物館）	**【京都国立博物館】**		
4562-1	１）修復文化財に関する資料収集及び調査研究を行う。	**1）修復文化財に関する資料収集及び調査研究** (1)新規に搬入された文化財について、「修理計画書（設計書）」に基づきデータを入力した。また、京都国立博物館研究員による定期的な修理工房の巡回、あるいは適宜、行う調査を通して、修理中でなければ得ることのできない情報を収集した。 (2)修理が完成し、搬出した文化財については、修理工房から提出された「修理解説書（報告書）」によって、データの追加、及び更新を行った。 (3)以前、修理が完成した文化財に関する報告を『京都国立博物館文化財保存修理所修理報告集』第12号に掲載し、修理時の調査により発見された銘文を「銘文集成」として報告した。	B	B
4562-2	２）文化財の保存・修復に関する調査研究を行う。	**2）文化財の保存・修復に関する調査研究** (１)平成23年度から４カ年計画で修理を行っている国宝「病草子」について、本紙の裏面に接着する肌裏紙の調査を行いつつ、修理完成にむけた装幀の検討会を実施した。 (２)本年度から２カ年計画で修理を行う「賀茂御祖神社絵図（下鴨神社絵図）」について、調査を実施し、修理の方針を策定した。 (３)国宝「釈迦金棺出現図」について、彩色に使用されている顔料の色見本を作成した。	B	B
	（奈良国立博物館）	**【奈良国立博物館】**		
4563-1	１）収蔵庫・展示室・ケース内部等における環境の、文化財に与える影響などに関する調査研究を持続的に実施し、収蔵品の保存環境の向上を図る。	**1）収蔵庫・展示室・ケース内部等における環境の、文化財に与える影響などに関する調査研究を持続的に実施し、収蔵品の保存環境の向上を図る** (1)展示室・展示ケース内や収蔵庫に設置した温湿度センサーのデータを分析し、展示・収蔵環境の保持に努めた。 (2)展示ケース内から回収した粉塵の種類や量を計測し、展示ケースの気密性向上に資するデータを蓄積した。 (3)展示室・収蔵庫等への昆虫トラップの設置回収により、文化財害虫の生息状況を調査し害虫被害の回避につなげた。 (4)「環境整備委員会 保存環境に関するワーキンググループ」会議を定期的に開催し、保存環境の改善に努めた。	B	B
4563-2	２）収蔵品・寄託品等の調査研究を文化財修理の観点から実施し、文化財の活用及び後世への継承に資する。	**2）収蔵品・寄託品等の調査研究を文化財修理の観点から実施し、文化財の活用及び後世への継承に資する** (1)・館蔵品、寄託品について保存状態調査を実施し、その所見をもとに保存カルテを作成した。 ・文化財保存修理所で修理された文化財について、樹種同定調査及び銘文調査を実施した。 (2)・保存カルテをもとに修理調書を作成し、修理方針を決定した。 ・樹種同定調査は京都大学生存圏研究所との共同研究として実施し、銘文調査は当館で文字の翻刻を行った。 (3)修理の概要、樹種同定調査及び銘文調査の結果について、当館紀要への掲載の準備を進めた。	B	B
4563-3	３）収蔵品・寄託品等の調査研究を保存科学の観点から実施し、貴重な文化財の後世への継承に資する。	**3）収蔵品・寄託品等の調査研究を保存科学の観点から実施し、貴重な文化財の後世への継承に資する。** (1)館蔵、寄託品の修理に際し、Ｘ線透過撮影での構造調査を彫刻や漆工品に実施し、蛍光Ｘ線分析での顔料調査を絵画に実施した。	B	B

		(2)館蔵、寄託品のうち絹製文化財の修理において、電子顕微鏡を用いた料絹の組成調査、紙製文化財の修理において同じく料紙の繊維調査を実施し、その所見を修理に用いる補絹・補紙の調製に反映した。 (3)文化財保存修理所の修理寄託中の文化財について、蛍光Ｘ線分析装置を用いた材料調査を実施し、修理方針に資するデータを蓄積した。		
4564-1	（九州国立博物館） 1）文化財の材質・構造等に関する共同研究を行う。	**【九州国立博物館】** **1）文化財の材質・構造等に関する共同研究** (1)資料のＸ線ＣＴ撮影を行い、鉄錆地三十六間四方白兜の構造並びに金属の亀裂の有無を調査した。また繊維の断裂などを確認した。 (2)図２に示すように鋲と鉄板との接合状態を明らかにすることができた。また金属や繊維に亀裂または断裂は確認できず、良好な状態であることがわかった。 (3)展示前に状態調査を行ったことで、資料の状態を判断することができた。	B	B
4564-2	2）博物館における文化財保存修復に関する研究を行う。	**1）文化財の材質・構造等に関する共同研究** (1)吉備国際大学２名、九州産業大学２名、別府大学１名、広島市立大学１名の計４大学６名を対象に研修を実施した。 (2)修復技術者の協力を得て、少人数で実践的な研修を実施することができた。 (3)本研修により、修理技術者育成に寄与すると共に、学生の文化財保護への理解を深めることができた。	B	B
4564-3	3）博物館危機管理としての市民協同型ＩＰＭシステム構築に向けての基礎研究を行う。	**3）博物館危機管理としての市民協同型ＩＰＭシステム構築に向けての基礎研究** (1)継続的に行ってきたミュージアムＩＰＭ研修（基礎編）の募集地域の範囲を広げ、これまで受講していない地域の博物館学芸員を積極的に受け入れることで、ＩＰＭの普及に努めた。 (2)参加申込受付開始日に定員 20 名のところ、80 名以上の応募があるなど、参加人数が大幅に増え、学芸員・市民の関心の高さがうかがえた。そこで本年度のミュージアムＩＰＭ研修（基礎編）の実施回数を１回から２回に増やした。 (3)ＩＰＭ研修会の成果を博物館のＩＰＭ活動業務に生かすことができた。	B	B
4564-4	4）赤外線撮影法による彩色材料調査の有効性に関する研究を行う。	**4)赤外線撮影法による彩色材料調査の有効性に関する研究(学術研究助成基金助成金)** (1)国内外の様々な絵画の赤外線画像を撮影し、画像データを蓄積するとともに、館蔵品に関しては分光反射スペクトルを測定した。 (2)赤外線画像と分光反射スペクトルを比較し、彩色材料に関する情報が得られた。 (3)・図像や彩色の調査結果を展示に反映させることができた。 ・研究成果を日本文化財科学会で発表した。	B	B
4564-5	5）三次元データに基づく文化財研究と新展示手法の開発-興福寺　国宝阿修羅像を中心にーに関する研究を行う。	**5）三次元データに基づく文化財研究と新展示手法の開発　―興福寺 国宝阿修羅像を中心に―（科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金）** ・奈良興福寺の特別な許可を得て、Ｘ線ＣＴ調査で得られた国宝 阿修羅像をはじめとする十大弟子像４躯、八部衆像５躯の高精細三次元データを、美術史・工芸史・修復技術・文化財科学・博物館学の専門家が一同に集まって解析した。 ・文化財科学・美術史・工芸・修復技術の専門家が集まって、Ｘ線ＣＴによって得られた三次元画像を 1000 枚以上蓄積した。	B	B

		・本研究の成果を出版すべく編集作業を進めた。		
4564-6	6）三次元デジタル計測技術を活用した中国古代青銅器の製作技法の研究を行う。	**6)三次元デジタル計測技術を活用した中国古代青銅器の制作技法の研究（科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金）** ・中国古代青銅器の三次元調査成果に基づいて、研究チーム内での論文作成を進めた。 ・中国語版の報告書作成を進め、日中両国で刊行した。 ・相互に密な連絡を重ねて、日中の共同研究基盤を固めることができた。	B	B
4564-7	7）石棺に塗布された赤色顔料についての基礎的研究を行う。	**7)石棺に塗布された赤色顔料についての基礎的研究（学術研究助成基金助成金）** これまで赤色顔料使用の様相が不明であった日本列島東半部の前期古墳について調査を実施し、少なくとも新潟北部～栃木北部ライン以南では、墳墓内での朱とベンガラの使い分けが畿内とほぼ同時期に始まっていることが実証された。また、朱については、古墳を飾る壺に装飾を目的として塗布されたものがあること、ベンガラについては漆工品の下地として使用されているものもあること、青銅鏡や銅鏃に装飾目的で塗布されているものがあることなど、西日本の当該期ではあまり知られていないような使用方法も散見され、赤色顔料使用に多様性があることも判明した。	B	B
4564-8		**8)酸化促進剤の添加による文化財建造物用油性塗料の塗膜形成（学術研究助成基金助成金）** (1)油性塗料で施工された可能性が指摘されていた建中寺や薬師寺などの文化財建造物について塗装材料調査を行った。その結果、赤色などの同一色で施工された部材について複数の色料、展色剤が用いられていたことを明らかにした。 (2)塗膜の形成状況に関する知見を得るため、木材片を支持体として調査研究を行った。その結果、酸化促進剤を添加しなかった塗料は重合乾燥に非常に長い時間がかかり、表面に近い部位のみ膜が形成されることを明らかにした。	B	B
4564-9		**9）みんなでまもるミュージアム（文化庁文化芸術振興費補助金）** (1) 事業計画検討実施及び教訓と課題を共有するための事例発表を含む全体合同会議を開催し、被災地の施設・団体と防災対策の先進館において調査・情報収集を行い、研修プログラムの一部を試行した。 (2)災害の内容や地域性を考慮した研修プログラム策定のための基礎情報を共有した。 (3)事例発表と調査で得た情報を活かした博物館職員及び市民が共に学ぶ研修プログラムの一部を試行し、事業報告書を刊行した。	B	B
4571-1	⑦　文化財を活用した効果的な展示や、教育活動等に関する調査・研究 （東京国立博物館） 1）博物館環境デザインに関する調査研究を行う。	**⑦文化財を活用した効果的な展示や、教育活動等に関する調査・研究** **【東京国立博物館】** **1)博物館環境デザインに関する調査研究** ・　平成27年1月2日にリニューアルオープンした黒田記念館のため、東博から黒田記念館への＜案内・誘導サイン＞及び＜展示解説サイン＞について、多国語（4ヵ国語　：日英中韓、2ヶ国語：日英）で整備を行った。 ・　黒田記念館の開館準備として、展示室・資料室・映像室・ショップ・トイレ・ホール等について、建築空間の質的調和を考慮した、木製家具補修・新規家具什器・カーテン・ロッカー・カサ立て及び照明がデザインされた。 ・　平成館改修工事に伴い、本館地下ラウンジへ移設された＜ポスター掲示板＞を新設し、東博及	B	B

		び他館での展覧会等とともに憩いのスペースとなるようした。 ・ 東洋館の入口に東洋館名称「内照式サイン」と「懸垂バナー」を設置し、東洋館の認知度アップをはかった。 2015年3月には懸垂バナーと獅子、計4ヶ所にLEDスポット照明が追加設置された。		
4571-2	2）博物館教育に関する調査研究を行う。	**2）博物館教育に関する調査研究** (1)各種教育プログラムの開発と運営に関して、これまでの研究をもとに発表を行った。 ・9月18日　藤田千織　「学校のよりよい利用形態にむけて」（事例発表・ディスカッション）文化庁第4回ミュージアムエデュケーター研修、シンポジウム「コレクションを活かした鑑賞教育とは」 ・27年1月10日　藤田千織　科学研究費による研究「美術館の所蔵作品を活用した鑑賞教育プログラムの開発」（代表　一條彰子）成果発表・美術科教育学会共同開催 (2)・特集「熊めぐり」（4月22日 ～ 6月1日　神辺知加）では、来館者にとってのわかりやすさとはなにかについて考察を深めることができた。 ・親と子のギャラリー「仏像のみかた 鎌倉時代編」（6月10日 ～8月31日　川岸瀬里）では、普段なじみのない仏像作品へのアプローチのしかたを提示することができた。 (3)トーハクなびは、ISID（電通国際情報サービス）、クウジット社との共同研究で開発し、平成24年4月より一般公開を始め、その後、コンテンツの拡充、各種OSに対応するヴァージョンをリリースしてきた。本年度は、4月に全館をカバーするコースガイドの配信、10月に展示替えに即した作品解説を搭載した「トーハクなび3.0」へのヴァージョンアップを実施。また、外国語による情報発信の方法についての調査・研究の結果、人工音声エンジンを導入したシステムを構築した。12月には、これらについてのアンケート調査を実施し、今後の展開についての研究を継続中。	B	B
4571-3	3）博物館資料・業務の情報処理に関する調査研究を行う。	**3）博物館資料・業務の情報処理に関する調査研究** 東京国立博物館における収蔵品管理システムのプロトタイプについて、収蔵品検索機能、平常展管理機能、鑑査会議機能、貸与管理機能、修理予定・履歴管理の各機能を継続的に運用し、随時改善を重ねて機能を向上させた。また、様々な調査結果のデータを一括でアップロードする機能を複数実装した。さらに、今後の継続的なシステム改修・改善のため、システム全体のプログラムコードを大幅に整理した。	B	B
4571-4	4）凸版印刷と共同で、ミュージアムシアターでの公開に向けた研究を引き続き実施する。	**4)凸版印刷と共同で、ミュージアムシアターでの公開に向けた研究を引き続き実施する** (1)前年度にデータ取得及びコンテンツ制作に着手した文化財について、ミュージアムシアターのコンテンツ２件を公開した。 (2)新たに列品１件について新設したＸ線ＣＴスキャナーを使用して３次元データを取得した。 (3)既に取得した作品のデータを元にしたコンテンツの内容の修正について監修し、公開した。	B	B
4571-5	5）聴力障がいを持つ児童・生徒のための鑑賞プログラムの構築に関する研究を行う。	**5）聴力障がいを持つ児童・生徒のための鑑賞プログラムの構築(学術研究助成基金助成金)** 聴覚障がいをもつ児童・生徒への特別支援教育についての調査と、国内外の美術館・博物館で行われているバリアフリー化、ユニバーサル化事業の調査を行った。	B	B
4571-6		**6）占領期の教育政策における国立博物館の役割に関する調査研究（科学研究費補助金）**	B	B

		(1)国立国会図書館が保管するCIE(民間情報教育局)文書の約30,000件から、『MUSEUM』、『EXTHBIT』に関する400件の資料を調査し、そのうち200件を文字データ化し翻訳を行った。内容を分析し国立博物館関連の資料を発見した。 (2)国立博物館関連の資料についてデータベースを構築し一般公開する（27年3月公開）		
4571-7		**7）ミュージアムにおける鑑賞者開発の研究：新来館者の定着に向けた実証的調査分析(科学研究費補助金)** (1)鑑賞者開発を目指したイベント「博物館で野外シネマ」においてパイロット調査を実施した。 (2)上記調査の分析により、過去の調査からの仮説「非来館者はきっかけがあれば来館する」を実証した。 (3)全国の博物館・美術館に鑑賞者開発の現状を把握するためのアンケートを実施した。 (4)今後のミュージアム・イベントと本格調査の方向性が定まった。	B	B
4571-8		**8）藤ノ木古墳出土品からみた考古系博物館における展示・公開に関する総合的研究(科学研究費補助金)** (1)藤ノ木古墳出土品(金銅製鞍金具・龍文飾金具)の輸送中における振動の記録と輸送前後の形状変化の比較検討。 (2)輸送中における作品の振動に関する基礎データの集積を行うことができた。また輸送前後の形状比較のために三次元計測行うことでその計測データを得ることができた。 (3)今後の館内での作品移動や特別展などの貸出に伴う輸送について安全で適正な取扱や輸送方法を確立するための見通しと問題点が明らかになった。また三次元計測によって得られたデータによって、展示に伴う支持具の作成や輸送のための安定台の作成に反映させることができる。	B	B
4571-9		**9)日本とドイツの美術解剖学教育の発展と展開（科学研究補助金）** 東京国立博物館所蔵の美術解剖学関係資料、特に森鷗外･久米桂一郎･黒田清輝に関する資料調査を、24年度より継続して行っている。	B	B
4571-10		**10）文化財管理における美術品用語辞典の作成（科学研究費補助金）** 文化財に関する情報を扱う施設から収集した用語データを整理、体系化した。特に分担者は、データの整理や公開方法について検討した。	B	B
4571-11		**11）美術館の所蔵作品を活用した鑑賞教育プログラムの開発（科学研究費補助金）** 北米及びオーストラリアの美術館における鑑賞教育プログラムの調査を実施した。これにより、鑑賞教育プログラムと各美術館・博物館の所蔵作品、およびスタンダード（学習指導要領）との関係性について分析を行うことができた。 また、研究に参加している中の数館で実践（研究授業）を行い、相互行為分析と発達段階別の検証を行った。 国内外の鑑賞プログラムの事例調査と、国立美術館・博物館の所蔵作品を使って行った鑑賞プログラムの実践・分析結果をとりまとめ、研究報告会を開催した。さらにこれをウェブサイトにて報告した。	B	B
4572-1	（京都国立博物館） 1）文化財情報に関する調査研究を行う。	**【京都国立博物館】** **1）文化財情報に関する調査研究**	B	B

		(1) 写真資料・作品情報のデジタル化を進め、ウェブサイトにおける収蔵品公開データベースの更新を随時行った。 (2) デジタル化の推進やウェブサイトにおける公開機能の強化に対応するため、文化財情報システムの改良や運用改善を随時行うとともに、将来計画に向けた調査・検討を行った。 (3) 平成知新館開館を期に、展示系システムに関わる整備や館内ネットワークの更新による処理能力向上を行った。 (4) 科学調査機器の整備にあわせ、研究系サーバの能力強化や仮想化技術の導入を進めた。 (5) 文化財防災に関わる機能強化のため、文化財情報のバックアップ強化を検討し、各種試験を行った。		
4572-2	2）平成知新館の新装開館に向け、同館における新たな教育ツールの開発を行う。	**2) 平成知新館における教育ツールの開発** (1)京博ナビゲーターのための実践マニュアル「虎の巻」を作成した（163 部） (2)京博ナビゲーターのための基礎講座を開催した（1 日×8 回） (3)平成知新館において「ミュージアム・カート」の活動実践を行った（161 日、1 日最大約 500 人） (4)実践をふまえて、ナビゲーターからの意見も集めツール・手法の改善を行った (5)ミュージアム・カートについて館外への情報発信を行った	B	B
4572-3	3）高精細デジタル複製を使用した文化財鑑賞教育について調査・研究を行う。	**3) 高精細デジタル複製を使用した文化財鑑賞教育についての調査研究** (1)文化財ソムリエ（大学生ボランティア）に対するスクーリングを行った(21 回) (2)文化財ソムリエによる京都市内の小中学校への訪問授業を行った（7 回 488 人） (3)文化財の複製を用いた授業に関する交流会を行った（1 回 29 人） (4)高精細複製を用いた授業実践への協力を行った（4 回） (5)研究員による訪問授業を行った（2 回 93 人） (6)館蔵品の高精細複製を制作した（2 件） (7)他館の活動調査や、学生ボランティア同士の交流の機会を設けた（5 回） (8)『小さな瞳にワクワクを―平成 26 年度「文化財に親しむ授業」記録集―』を刊行した（1,000 部） (9)『文化財に親しむ授業ガイドブック』を配布（910 部）、増刷した（500 部） ※(3)～(9)は、「平成２６年度文化庁地域と共働した美術館・歴史博物館創造活動支援事業」の助成を受けて実施した	B	B
	（奈良国立博物館）	**【奈良国立博物館】**		
4573-1	1）歴史、伝統文化の教育普及に資するための調査研究を行い、その成果を児童・生徒を対象として行う「世界遺産学習」等に反映させる。	**1)　歴史、伝統文化の教育普及に資するための調査研究を行い、その成果を児童・生徒を対象として行う「世界遺産学習」等に反映させる。** (1)奈良の歴史と伝統文化に関する情報を、本年度開催した展覧会（名品展・特別展・特別陳列）の中から抽出した。 (2)その情報を、児童・生徒が歴史への関心を高めるのに使える情報は何かを検討した。 (3)ボランティアへの指導と話し合いを通して、世界遺産学習実践の場での「語りかけ」の精度を高めることに努めた	B	B

4573-2	2）文化財アーカイブズの形成に関する理論的・実践的研究を行い、その成果をデジタル画像の作成・各種データベースの構築（収蔵品・画像・図書）・各種情報資源の公開推進に反映させる。	**2) 文化財アーカイブズの形成に関する理論的・実践的研究を行い、その成果をデジタル画像の作成・各種データベースの構築（収蔵品・画像・図書）・各種情報資源の公開推進に反映させる。（学術研究助成基金助成金）** デジタル撮影の安定的な稼働を目指して、撮影機材、撮影環境、保存用ストレージ、体制等の整備を引き続き行い、多数の文化財を撮影した。館内の情報システムや公開用データベースのデータ更新を適宜行い、情報資源の拡充と公開に積極的に取り組んだ。今年度は、新たに修理記録のデータベースの公開も実施した。また、地下回廊において仏像写真展「大和のほとけたち－奈良博写真技師の眼－」と題する展示を実施するなど、当館における文化財写真アーカイブズ形成の成果を一般に広めることにも取り組んだ。	B	B
	（九州国立博物館）	**【九州国立博物館】**		
4574-1	1）ＮＨＫと協同で高精細画像を活用したスーパーハイビジョンシアターでの映像公開に向けた研究を引き続き実施する。	**1) ＮＨＫと協同で高精細画像を活用したスーパーハイビジョンシアター（シアター4000）での映像公開に向けた研究** (1)ＮＨＫ放送技術研究所において８Ｋ映像技術の情報収集を行った。 (2)九州国立博物館において映像の出力形式及び保守設備について打合せを実施し、新規コンテンツ制作のための基盤情報を整理した。 (3)長野県の駒ヶ根美術館において、画像展示に関する調査を実施した。 (4)宗像大社において沖ノ島の植生と生態に関する情報収集を実施した。 (5)沖ノ島において祭祀遺跡の立地を調査した。 (6)東京で関係者による打合せを実施し、本年度のまとめを行うとともに、番組構成案ならびに次年度のスケジュールを策定した。	B	B
4574-2	2）特別展のテーマに則した、解説パネル、冊子、ワークショップ等、観覧者の理解促進のための教育普及プログラムの調査研究を行う。	**2) 特別展のテーマに則した、解説パネル、冊子、ワークショップ等、観覧者の理解促進のための教育普及プログラムの調査研究** 展示室内での解説パネルの掲出や体験コーナーの設置、室外のワークショップや講演会などを実施。アンケートには、分かりやすかった、体験できて楽しかった、展示に対してもっと興味を持てた、などの感想がみられた。	B	B
4574-3	3）学校教育との連携を図りながら、学校貸出キット「きゅうぱっく」の研究・開発を引き続き実施する。	**3) 学校教育現場との連携を図って作り上げる学校貸出キット「きゅうぱっく」の研究・調査** 「きゅうぱっく」を活用した実践事例や博物館を活用した授業づくりに関する指導案を収集するとともに、「きゅうぱっく」に関する情報発信・利用の普及を図った。また、新規キットの開発に向けた研究を行っている。	B	B
4574-4	4）平成27年度に迎える開館10周年における一定程度のリニューアルを見据え、現在の展示施設、展示環境や展示方法の課題や展望について検討する。	**4) 27 年度に迎える開館 10 周年における一定程度のリニューアルを見据えた、現在の展示施設、展示環境や展示方法の課題や展望についての検討** (1)学芸部研究員全員参加による学芸部会議をはじめ、各テーマ担当者会議、事務局会議などを開催し、これまで抽出してきた文化交流展示室の課題改善に向けての検討を重ねた。 (2)外部委員会「次の 10 年を考える懇話会」第 10 回（最終回）を開催した。 (3)上記検討の成果をリニューアル計画として具体化させるとともに実施に向けての館内調整を進めた。 (4)27 年 10 月 17 日開催予定の開館 10 周年記念式典までにリニューアルを完了させる計画である。	B	B

4574-5	5）高等学校所蔵考古資料の調査研究を行う。	**5)高等学校所蔵考古資料の調査研究** (1)24 年度からの調査研究の中間報告として、7 月 15 日から 9 月 23 日にかけて当館文化交流展示室において「真夏のトピック展示　全国高等学校 考古名品展」を開催し、展示と図録を通じて、一般には知られていない高校所蔵考古資料の存在を浮き彫りにした。 (2)高校が主体となる考古学活動は 1970 年代頃から下火となったとみられていたが、これまでの現地調査をまとめることにより、現在においても活動を続けている高校があることを確認した。 (3)8 月 16 日に当館ミュージアムホールにおいて「全国高等学校考古学フォーラム in 九州国立博物館 2014」を開催することにより、現役高校生による考古学研究発表の場を創出し、高校生による考古学活動はすでに下火になっているとの認識を改めることができた。 (4)佐賀県下の県立高校の考古資料の所蔵実態と活動状況について、佐賀県に依頼して悉皆調査を実施し全容を把握した。 ・徳島県、愛媛県、秋田県、三重県、長野県における高校所蔵考古資料の実態について、当該自治体文化財関係者にヒアリングを行い、また文献調査を実施し、今後の調査にむけての基礎情報を収集した。	B	B
4574-6		**6)文化財管理及び画像情報データベースの効率的な運用についての調査研究** (1)京都国立博物館(列品調査室)及び奈良国立博物館(情報サービス室)で運用されている文化財管理システムの調査・研究を、当該担当者の指導・助言を得て行った。 (2)現行システムの問題点を洗い出した結果、新システムの採用に向けた取り組みを行った。 (3) (2)と並行して博物館データベース及びシステムの専任者を採用した。 (4)当館で撮影された写真フィルムの完全デューブ化を実現した。 (5)より高品位の記憶媒体に画像データを保管した。 (6)デジタル撮影の本格的稼働に備え、撮影機材、撮影環境、保存用ストレージ、体制等の整備に取り組んだ。	B	B

5　文化財保護に関する国際協力の推進

【中期目標】文化財の保護に関する国際協力の拠点としての位置づけを明確化するとともに、その機能の充実を図り、我が国の国際貢献に寄与すること。

(1)　保存・修復事業を実施するために必要な研究基盤の整備

【中期目標】研究機関間の連携強化や共同研究、研究者間の情報交換の活発化、継続的な国際協力のネットワークの構築、アジア諸国等における文化財の保護協力、技術移転・専門家養成等の支援等、有機的・総合的な事業展開を行い、人類共通の財産である文化財の保護に関する国際協力を通じて、我が国の国際貢献に寄与すること。

【中期計画】	**【主な計画上の評価指標】**
(1)　文化財の保護制度や施策の国際動向及び国際協力等の情報を収集、分析して活用する。また、国内の研究機関間の連携強化や共同研究、研究者間の情報交換の活発化を図るとともに、継続的な国際協力のネットワークを構築し、その成果をもとにアジア地域を中心とする諸外国の文化財の保護事業を推進する。	○情報の収集・分析及びその提供を行うこと。 ○国際協力のネットワークを構築すること。 ○アジア地域を主とする諸外国において、文化財保護事業を進めること。 **【25 年度評価における主な指摘事項】**

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価 年度	自己評価 中期
	文化財保護に関する国際協力に関して、以下の事業を有機的・総合的に展開することにより、人類共通の財産である文化財保護に関する国際協力を通じて、我が国の国際貢献に寄与する。 （１）文化財の保護制度や施策の国際動向及び国際協力等の情報を収集、分析して活用するとともに、国際共同研究を通じて保存・修復事業を実施するために必要な研究基盤整備を行う。また、国内の研究機関間の連携強化や共同研究、研究者間の情報交換の活発化を図るとともに、継続的な国際協力のネットワークを構築し、その成果をもとにアジア地域を中心とする諸外国において文化財の保護事業を推進する。			
5111	①　海外、特に国際協力活動の対象となる地域の文化遺産に関する情報の収集、諸外国の文化遺産保護施策等に関する調査を実施する。ユネスコ等が行う主要な国際会合へ出席して情報の収集を行うとともに、文化遺産の保護をめぐる今日的課題等に関する調査研究を行う。また、収集した情報の整理・公開及び比較研究等を通じて、今後の我が国の文化財保護施策の検討の用	**①　文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信** ・世界遺産委員会（ドーハ）、奈良文書 20 周年記念会合（奈良）、ICOMOS 総会（フィレンツェ）、ICCROM 理事会（ローマ）、無形文化遺産政府間委員会（パリ）等の国際会議に出席し、文化財保護に関する国際情報収集を行った。 ・日本の文化財の所蔵館や、他の所内業務において関連のある美術館・博物館を中心にアメリカにおける動産文化財の所蔵・管理状況についての調査を行った。 ・文化財保護関連の法令の収集・分析及び翻訳作業を実施し、対訳法令集シリーズを新たに 1 冊刊行した。	B	B

	に供する。			

(2)　諸外国における文化財の保存・修復に関する技術移転の推進

【中期目標】------

【中期計画】
(2)　国際共同研究等を通じて諸外国の保存・修復の考え方や技術に関する研究を進め、国際協力を推進するための基盤を形成するとともに、その成果をもとにアジア地域を主とする諸外国において文化財保護事業を推進する。

【主な計画上の評価指標】

【25 年度評価における主な指摘事項】

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価 年度	自己評価 中期
	（2）国際共同研究等を通じて諸外国の保存・修復の考え方や技術に関する研究を進め、国際協力を推進するための基盤を形成するとともに、その成果をもとにアジア地域を主とする諸外国において文化財保護事業を推進する。 ①　文化財の保存修復事業及び国際共同研究事業を以下のように実施し、成果を広く公表する。			
5211-1	ア　敦煌莫高窟壁画を始めとする中国の文化遺産の保存修復のための共同研究を実施する。	**①ーア　中国の文化遺産の保存修復のための共同研究** 敦煌研究院、陝西省考古研究院との共同関係を維持し、壁画文化財等の保護に関する研究について実績をあげた。 (1)敦煌研究院保護研究所と共同で、莫高窟第 285 窟で壁画の材質調査と環境に関する調査を実施した。 (2)陝西歴史博物館壁画展示館及び西安市所在の地下遺構保存に関連する施設、博物館を視察した。 (3)前年度までの研究成果を国内学会で発表した。 (4)中国で実施された壁画の保護に関する国際シンポジウムに参加し、発表を行った。 (5)敦煌研究院の若手研究者の研修を行った。	B	B
5212-1	イ　韓国及び日本の石造文化財を対象に保存修復のための共同研究を実施する。	**①ーイ　韓国及び日本の石造文化財を対象に保存修復のための共同研究** 「文化財の保存環境及び保存修復技術研究」に関する日韓共同研究合意書に基づく韓文研保存科学研究室との共同研究において（26 年度で第 4 期 4 年目）、韓国側研究者との研究交流により双方の研究発展を図っている。26 年度は、以下の内容を実施した。 (1)　5 月に韓文研保存科学センターセミナー室で研究会を開催し、両国の研究者による発表及び討議を行った。 (2)　5 月で韓国において、9 月に日本国内での現地調査を実施した。 (3)　研究会での発表内容については韓日共同研究報告書として刊行した。	B	B
5213	ウ　カンボジア・アンコール遺跡群（特に西トップ遺跡及びタ・ネイ遺跡）を始めとする東南アジア地域等の文化財保護に関する調査研究及び保存修復協力事業を実施する。	**①ーウ　東南アジア諸国等文化遺産保存修復協力** (1)カンボジアでは、タネイ遺跡の保存整備に向けた作業工程及び現状記録技術の実地検討を行った。基本的手法を確立し、現地機関に活用されている。 (2)タイでは、寺院扉の螺鈿装飾の科学的な現地調査を行い、技法・材料等に関するデータを取得した。分析結果は同作品の保存修復方針に反映される。 (3)ミャンマーでは、伝統的漆工芸品の保存協力協定を締結したほか、同国木造建築に関する研究会を開催し、研究課題等を把握・共有した。 **①ーウ・エ　カンボジア・アンコール遺跡群の西トップ遺跡の建築学的・考古学的・保存科学的調査** (1)西トップ遺跡に関しては、遺跡の安定化を図るための修復工事に本格的にとりかかり、まず南祠堂の解体修理に着手し、本年後半には再構築を開始した。 (2)修復工事に伴って発掘調査を適時実施し、本遺跡の基壇構造、基壇構築にかかる祭祀遺構などの発見があった。 (3)調査の成果を再構築のための基壇強化の手法に反映するとともに、遺跡の築造順位を確定することができた。	B	B
5214	エ　アフガニスタン（主としてバーミヤーン）及びイラクの文化財保存修復協力事業を実施する。また、併せて周辺地域（西アジア諸国等）において、文化財調査研究及び保存修復協力事業を実施する。	**①ーエ　西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業** （1）アフガニスタン：保存修復専門家の人材育成・技術移転を実施した。前年度活動の報告書の作成・刊行を実施した。 （2）西アジア周辺諸国の文化遺産の調査研究・保護への協力等：タジキスタン、キルギス、イラン、エジプト、アルメニア等において実施した。	B	B
5215	オ　上記各事業と連携しつつ、中央アジア諸国等ユーラシア地域における文化財の保存及び修復に係る調査研究を推進する。また、文化財の保存修復手法に関するワークショップの開催等を通じて国内外の専門家との情報の共有化を図る。	**①ーオ　ユーラシア壁画の調査研究と保存修復** (1)タジキスタン：本年度は、フルブック壁画断片の安定化処置を完了し、展示公開が実現できた。また、新たにペンジケント遺跡等出土ソグド壁画断片の一部のドキュメンテーションを実施した。 (2)イタリア、ドイツ：ユーラシア壁画の保存修復に着目してヨーロッパ諸国の壁画修復現場を視察し、修復技法や状態に関する調査を行った。 (3)壁画研究会：ユーラシア壁画の技法材料研究に関する研究会を開催し、関連分野に携わる専門家間の意見交換、議論の場を提供した。 (4)ウズベキスタン：ユーラシア壁画の保存修復に着目し、タシケントの関連機関での視察を行い、修復技法や状態に関する調査を実施した。	B	B

(3)　研修、専門家の派遣を通じた諸外国における人材育成、技術移転

【中期目標】------

【中期計画】	【主な計画上の評価指標】
(3)　文化財保護の担当者や学芸員並びに保存修復専門家を対象とした研修や専門家の派遣を通じて諸外国における文化財の保存・修復に関する人材育成と技術移転を積極的に進める。	○諸外国への文化財の保存・修復に関する人材育成と技術移転を積極的に進めること。 【25 年度評価における主な指摘事項】

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価 年度	自己評価 中期
	（３）文化財保護の担当者や学芸員及び保存修復専門家を対象とした研修や専門家の派遣を通じて諸外国における文化財の保存・修復に関する人材育成と技術移転を積極的に進める。			
5311	①　国内外の諸機関等と連携して人材育成や技術移転等の国際支援を実施する。また海外の文化財保存担当者を対象に、国内外において和紙及び紙・絹文化財、漆及び漆文化財についての材料学・保存修復等の講義と、修復、装丁等の実技を行い、基礎的な知識を教授する。在外の日本古美術品を対象に事前調査を行い、その結果を元に修復を行う。	**①－１　国際研修「紙の保存と修復」** (1)和紙を使用した紙文化財の保存修復に関する研修を行った。 ・国内研修：修復材料の基礎科学、道具の製作、学術的見地からみた文化財に関する講義。巻子修復、和綴じ冊子作製、掛軸・屏風の取り扱い実習。和紙製作現場や文化財修復工房等の見学。 ・メキシコ研修：修復材料、装こう技術、道具に関する講義。和紙やデンプン糊を用いた基礎的な修復実習。 (2)両研修では日本の文化財修復の技術や知識を海外の修復技術者及び文化財関係者に伝えることができた。 (3)昨年度の参加者からの意見を踏まえ、研修内容に若干の見直しを加えた。	B	B
5312		**①－２　在外日本古美術品保存修復協力事業** ・作品修復のため、掛軸１作品を輸入し、詳細な状態調査を開始した。使用されている材料および損傷状況等、修復作業に必要な基本的情報を得ることができた。 ・漆工芸品１作品の状態調査を行い、得られた情報に基づき修復を行った。 ・日本美術品を所蔵する海外の美術館博物館において絵画及び漆工芸品の調査を行い、今後の修復候補作品選定の基礎情報を収集することができた。 ・ベルリンにおいて紙本絹本文化財の保存修復に関するワークショップを、ケルンにおいて漆文化財の保存修復に関するワークショップを開催した。各国の文化財保存修復の専門家の参加があり、日本の文化財に対する理解の深化、修復技術の移転を行うことができた。 ・絹や色材といった修復に使用する材料の基礎的な研究を行い、学会発表を行った。研究によって明らかになった諸材料の特性を修復作業に反映させることができた。 ・25 年度までに修復を行った作品についての報告書を発行した。	B	B
5321	②　国際協力機構、ユネスコアジア文化センター等が実施する研修への協力を行う。	**②　ユネスコアジア文化センター等が実施する研修への協力** (1)集団研修「遺跡・遺物の調査と保存」ではアジア太平洋諸国 16 ヵ国、16 名の研修生に対して、考古学的遺跡・遺物の調査と保存に関する研修を行った。 (2)個人研修「遺跡の調査・保存と管理活用」ではバヌアツ人専門家２名に対して、遺跡の調査・保存と管理活用に関する研修を行った。 (3)個人研修「写真による文化遺産の記録とデジタルデータの管理・活用」ではブータン人専門家３名に対して、写真による文化遺産の記録とデジタルデータの管理・活用に関する研修を行った。 (4)バングラデシュで実施された「文化遺産ワークショップ」では当研究所の研究員１名を講師として派遣し、バングラデシュ人専門家 15 名に対して考古学的遺物の分析に関する研修を行った。	B	B

(4)　アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関する基礎的な調査・研究

【中期目標】平成２３年度にアジア太平洋無形文化遺産研究センターを開設し、同地域における無形文化遺産保護に寄与すること。

【中期計画】	【主な計画上の評価指標】
(2)　２３年度にアジア太平洋無形文化遺産研究センターを設置し、ユネスコ無形文化遺産保護条約を中心とした国際的動向の情報収集を図り、アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に係る調査・研究の拠点として、同地域の無形文化遺産保護に関する基礎的な調査・研究を行うとともに、我が国の知見を通じて、無形文化遺産保護の国際的充実に資する。	○アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関する基礎的な調査・研究を行うこと。 【25 年度評価における主な指摘事項】

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価 年度	自己評価 中期
5411	（４）アジア太平洋無形文化遺産研究センターは、アジア太平洋地域における無形文化遺産の保護のための調査研究拠点として、同地域における危機に瀕した無形文化遺産の保護に向けた現地調査やワークショップを実施する。また、無形文化遺産保護の分野の研究データ及び同地域の研究機関や研究者についての総合的な情報収集を行うための国際会議を開催し、その成果についてデータベースを構築し、共有する。さらに国際会議への出席やユネスコとの連携を通じて、無形文化遺産保護を中心とした国際的動向の情報収集を図る。	**（４）　アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関する基礎的な調査・研究の推進** 文化庁受託事業「平成 26 年度無形文化遺産保護パートナシッププログラム」及び文部科学省補助金「平成 26 年度政府開発援助ユネスコ活動費補助金」による事業を通じ、アジア太平洋地域における無形文化遺産保護の調査研究に関する情報収集と研究促進にむけたデータベース構築及び国際専門家会合、消滅の危機に瀕する無形文化遺産保護の現状・方策に関する現地での実態調査やワークショップを実施した。	B	B

６　情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信

【中期目標】国際化の推進を図るためインターネット等による情報発信を強化し、調査・研究の成果について、迅速な報告書の発行、利用価値の高いデータベースの構築等により、適時適切な公表を推進するとともに、施設の有効活用を図ることにより、研究者をはじめ広く社会に還元すること。

(1)　情報基盤の整備充実

【中期目標】 ------

【中期計画】

(1)　文化財関係の情報を収集して積極的に発信するため、ネットワークのセキュリティの強化及び高速化等に対応した情報基盤の整備・充実を行う。

また、文化財情報の計画的収集・整理・保管及びそれらの電子化の推進による文化財に関する専門的アーカイブの拡充を行うとともに、調査・研究に基づく成果としてのデータベースの充実を行う。

【主な計画上の評価指標】

○ネットワークセキュリティの強化及び高速化等に対応した情報基盤の整備充実を図ること。

○文化財に関する専門的アーカイブの拡充を行うとともに、調査研究に基づく成果としてのデータベースの充実を図ること。

【25 年度評価における主な指摘事項】

○研究成果、保存修復の成果の公開は、学術分野においても重要だが、広く国民への還元という点で、わかりやすい広報の仕方も求められる。博物館における展示活動に加え、文化財レスキューといった支援事業の内容や文化財保存における科学的解析の成果利用の実績など、機構の活動の具体的な内容や社会的意義を広く国民に周知する取組が求められる。

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価 年度	自己評価 中期
	以下のとおり、調査・研究に基づく資料の作成及び文化財に関連する資料の収集・整理・保管を行うとともに、調査・研究成果を積極的に公表・公開し、国内外の研究者や広く一般の人が調査・研究成果を容易に入手できるようにする。 （１）文化財関係の情報を収集して積極的に発信するため、ネットワークのセキュリティの強化及び高速化等に対応した情報基盤の整備・充実を行う。また、文化財情報の計画的収集・整理・保管及びそれらの電子化の推進による文化財に関する専門的アーカイブの拡充を行うとともに、調査・研究に基づく成果としてのデータベースの充実を行う。			
6111	①　文化財に関するデータベースの充実とアーカイブ機能の更新と拡張を図る。	**①－１　文化財情報基盤の整備** ・保守期限切れを迎えるネットワーク機器の更新を実施し、無線 LAN のアクセスポイントを追加した。また、仮想サーバを導入した。 ・アクセスポイントについては接続状況を再調査し、設置が必要な場所に追加した。また、WordPress による総合検索システムの導入に伴い不要となったサーバを活用して仮想サーバ化を行い、物理的には１台のサーバを複数のサーバとして利用することとした。 ・費用対効果の面で効果的にウェブサイトの運用を行うことができたため、更新が必要な機器を前倒しで更新することができた。	B	B
6112		**①－２　無形文化財に関わる音声・画像・映像資料のデジタル化** 映像資料に関しては、前年度に引き続き、旧芸能部の年代に作成された映像資料の媒体変換を実施した。 アナログ音声資料に関しては、オープンリールとカセットテープについて、収録内容の確認を含めた整理を行った。 無形文化遺産部所蔵資料の内、稀少性の高い刊行年代が昭和 30 年代に溯る紙媒体資料のデジタル化に向けて所蔵調査を行った。	B	B
6113		**①－３　文化財に関するデータベースの充実** GIS（地理情報システム）を活用した文化財情報の取得・分析に関する研究を行うとともに、成果を学会で発表している。文化財情報の電子化に関する研究を基に開発・改良を継続している各種データベースについて、業務用とともに公開用についても、記載方法の標準化を進めながらデータの充実を図った。	B	B
6121	②　被災文化財関連情報に関するデータベースの充実とアーカイブ機能の更新と拡張を図る。	**②　被災文化財関連情報に関するデータの蓄積・分析及び情報発信** ・文化庁委託事業「文化財（美術工芸品）等緊急保全活動・現況調査事業」と連携し、文化財レスキュー事業によって蓄積された情報の分析と発信について検討を行った。 ・文化財レスキュー事業実施時に撮影された画像について、そのデータベース化と共有のためのシステムを構築し、所内で公開した。また、シンポジウムや報告書などの調査研究成果をウェブで発信した。 ・従来は困難であった画像の検索を、テキストと関連させることで可能とし、またウェブデータベース化することで遠隔地との共有を可能とした。また、文化財レスキュー事業に関する情報を共有することができた。	B	B
6131	③　文化財関係資料や図書の収集・整理・公開・提供について充実するよう努める。	**③－１　専門的アーカイブの充実（資料閲覧室運営）** 資料閲覧室の運営、並びに資料の登録と情報のデータベース化、またそれを利用した外部公開用 SQL データの更新・運用を行った。	B	B
6132		**③－２　図書の収集・整理・公開・提供** 遺跡の発掘調査報告書、歴史的建造物の修理報告書等歴史・考古学分野を中心に図書・逐次刊行物の購入及び寄贈による収集を行い、整理された資料をデータベースに蓄積してインターネットに公開した。また、図書館システムをクラウンド化することにより、サーバの維持管理を省力化することができた。	B	B

(2)　研究所の研究成果の発信

【中期目標】 ------

【中期計画】	【主な計画上の評価指標】
(2)　文化財に関する調査・研究に基づく成果について、定期的な刊行物を刊行するとともに、公開講演会、現地説明会、国際シンポジウムの開催等により、積極的に公開・提供する。また、研究所の研究・業務等を広報するためウェブサイトの充実を図るとともに、ウェブサイトアクセス件数のカウントの統一を図り、アクセス件数の向上を図る。	○公開講演会、現地説明会、国際シンポジウム等を積極的に行うこと。 ○ウェブサイトの充実を図るとともに、アクセス件数の向上を図ること。 【25 年度評価における主な指摘事項】

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価 年度	自己評価 中期
	（2）文化財に関する調査・研究に基づく成果について、定期的な刊行物を刊行するとともに、公開講演会、現地説明会、国際シンポジウムの開催等により、積極的に公開・提供する。また、研究所の研究・業務等を広報するためウェブサイトの充実を図るとともに、アクセス件数の向上を図る。			
6211	①　定期刊行物の刊行 ○『東京文化財研究所年報』 ○『東京文化財研究所概要』 ○『東文研ニュース』	**①－１　定期刊行物の刊行（年報、概要、ニュース）** ・『年報』2013 年度版、『概要』2014 年度版を編集、刊行した。また、『東文研ニュース』を年 3 回刊行した。さらに、エントランスロビーパネル展示を更新した。 ・東京文化財研究所による研究成果をまとめるとともに、わかりやすく発信することができた。 ・東京文化財研究所への来訪者や、訪問先の関係者に対する研究成果の説明について有効に活用することができた。	B	B
6212	○『美術研究』（年3冊） ○『日本美術年鑑』	**①－２　定期刊行物の刊行（『平成 25 年版日本美術年鑑』、『美術研究』）** 本年度は、『平成 25 年版　日本美術年鑑』及び『美術研究』413～415 号を刊行した。	B	B
6213	○『無形文化遺産研究報告』 ○『無形民俗文化財研究協議会報告書』	**①－３　定期刊行物の刊行（『無形文化遺産部研究報告』、『無形民俗文化財研究協議会報告書』）** (1) 主として無形文化遺産部研究員の業績に基づく論考・報告・資料紹介等を内容とする『無形文化遺産研究報告』第 9 号の刊行。 (2) 26 年 12 月 5 日に開催した無形民俗文化財研究協議会での事例報告・総合討議を内容とする『第 9 回無形民俗文化財研究協議会報告書』の刊行。	B	B
6214	○『保存科学』	**①－４　定期刊行物の刊行（『保存科学』54 号）** 『保存科学』第 54 号を発行した	B	B
6215	○『奈良文化財研究所紀要』 ○『奈良文化財研究所概要』 ○『奈文研ニュース』 ○『埋蔵文化財ニュース』	**①－５　定期刊行物の刊行** 紀要等 2 点、ニュース 2 種 8 点、合計 10 点を刊行した。	B	B
6221	②　公開講演会、現地説明会、国際シンポジウムの開催等	**②－１　第 37 回文化財の保存と修復に関する国際研究集会の報告書作成** 前年度の 26 年 1 月 10 日（金）～12 日（日）、東京文化財研究所の地下セミナー室において開催した、第 37 回文化財の保存と修復に関する国際研究集会の報告書を作成した。	B	B
6222	○公開講座（オープンレクチャー）	**②－２　平成 26 年度オープンレクチャー** (1)第 48 回企画情報部オープンレクチャー「モノ／イメージとの対話」と題して 4 講演を 2 日間にわたり開催した。 (2)参加者数：163 人、アンケートによる満足度：82.7%（回収率：78%） (3) 4 講演中の 1 つは講演内容を踏まえて、次年度『美術研究』に論文として掲載を予定。	B	B
6223	○公開講演会 ○現地説明会	**②－３　公開講演会、現地説明会等の開催** (1)公開講演会は、例年実施している定例公開講演会(奈良)を 2 回、特別講演会(東京)を 1 回、飛鳥資料館特別展記念講演会等を 2 回開催した。いずれも多くの参加者があり、日頃の当研究所研究成果を一般に発信ができた。 (2)発掘調査に伴う現地説明会等を 2 回実施した。このことにより、調査研究成果を適時に適切に国民に公開・公表することができ、事業としてはに実施できた。	B	B
6231	③アクセス件数の向上を図るため、ウェブサイトの内容の充実を図る。	**③－１　ウェブサイトの運用** (1)活動報告（和英）や研究会等の開催情報などの広報について、及び文化財アーカイブズ研究室と連携しての文献や写真などの所蔵資料、研究成果の発信についてその手法の検討を行った。 (2)黒田清輝関連のページを中心としたウェブサイトの更新を随時実施し、レイアウトやメニュー構成などデータへのアクセス方法を改善した。また、WordPress によるデータベースを昨年度に引き続き随時整備・公開した。さらに、それらの更新情報をソーシャルネットワークサービス（SNS）により発信した。 (3)データベースの整備・公開により、調査研究情報へのアクセスが容易となった。	B	B
6232		**③－２　ウェブサイトの充実** (1)アクセス解析の精査による利用増加施策を戦略的に立案した。 (2)リポジトリコンテンツ増加により利用者数の増加が見られた。 (3)コラムの継続発信とブログの活用促進を行った。 (4)ウェブサイトの多言語化対応ページの充実を行った。 (5)ウェブサイト内コンテンツの再配置を行った。	B	B

(3)　研究所所管の展示公開施設の充実

【中期目標】 ------

【中期計画】	【主な計画上の評価指標】
(3)　平城宮跡資料館、藤原宮跡資料室、飛鳥資料館については、研究成果の公開施設としての役割を強化する観点から展示を充実させ、調査・研究成果の内容を広く一般に理解を深めてもらうことに資する。来館者数については、前期中期目標期間の年度平均（特別展示等による来館者数の著しい変動実績を除く。）以上確保する。	○来館者数については、前期中期計画期間の年度平均（特別展示等による来館者数の著しい変動実績を除く。）以上を確保すること。 【25 年度評価における主な指摘事項】

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価 年度	自己評価 中期
	（3）平城宮跡資料館、藤原宮跡資料室、飛鳥資料館については、研究成果の公開施設としての役割を強化する観点から展示を充実させ、調査・研究成果の内容を広く一般に理解を深めてもらうことに資する。来館者数については、前期中期計画期間の年度平均（特別展示等による来館者数の著しい変動実績を除く。）以上確保する。			
6311	①　平城宮跡資料館における展示・公開 常設展（月曜日、年末年始休館） 特別展（年1回） 企画展（年1回） 年間目標来館者数　85,300人	**①　平城宮跡資料館における展示公開** (1)常設展の円滑な実施のため、その維持・管理に努めるとともに、高精細画像鑑賞システムを新規設置した。 (2)夏期企画展「平城京ビックリはくらんかい」を開催した。 (3)秋期特別展「地下の正倉院展－木簡を科学する－／埋蔵文化財センターの 40 年」を開催した。 (4)ミニ展示「発掘速報展平城 2014」を 2 期へ分けて開催した。	B	B
6321	②　飛鳥資料館における常設展示の充実と特別展示の開催 常設展（月曜日、年末年始休館　有料公開） 特別展（年2回） 企画展（年 1 回以上） 年間目標来館者数　48,800人	**②　飛鳥資料館における展示公開** (1) 常設展示室の展示内容を部分的に改装、映像コーナーの映像を入れ替えた。 (2) 春期特別展「いにしえの匠たち―ものづくりからみた飛鳥時代―」を 26 年 4 月 25 日～6 月 15 日に開催し、記念座談会を 26 年 5 月 11 日に開催した。ギャラリートークを 3 回(26 年 4 月 26 日、5 月 11 日、5 月 24 日)実施した。 (3) 夏期企画展「第 5 回写真コンテスト「飛鳥の甍」応募作品展」を 26 年 7 月 25 日～9 月 7 日に開催し、写真教室を 26 年 7 月 25 日、8 月 23 日に開催した。 (4) 明日香村活性化事業「飛鳥光の回廊」に参加した。26 年 9 月 13 日～14 日開催。 (5) 企画展　「津田洋　大和の美仏に魅せられて」を 26 年 9 月 12 日～9 月 28 日に開催した。 (6) 秋期特別展「はぎとり・きりとり・かたどり－大地にきざまれた記憶－」を 26 年 10 月 10 日～11 月 30 日に開催し、記念講演会を 26 年 11 月 1 日に開催した。ギャラリートークを 4 回(26 年 10 月 10 日、11 月 22 日に 2 回ずつ)実施した。 (7) 冬期企画展「飛鳥の考古学 2014 - 縄文・弥生・古墳から飛鳥へ - 」を 27 年 1 月 16 日～3 月 1 日に開催。ギャラリートークを 4 回(27 年 1 月 17 日、2 月 15 日に 2 回ずつ)実施。	B	B
6331	③　藤原宮跡資料室における展示・公開 常設展（年末年始休館　無料公開） 年間目標来館者数　4,509人	**③　藤原宮跡資料室における展示公開** 常設展示及び発掘調査成果の速報展示などを通年で実施し、展示公開の充実を図った。庁舎エントランスの速報展示コーナーでは、最新の調査研究成果の公開を実施した。その他、適宜展示解説や各地の博物館への文化財貸与を行った。	B	B

定量評価	26 年度	25 年度	目標値	評定
来館者数				
平城宮跡資料館	109,188	108,896	83,500	A
飛鳥資料館	38,096	41,736	48,800	D
藤原宮跡資料室	8,461	7,869	4,509	A

(4)　文化庁が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力

【中期目標】 ------

【中期計画】
(4)　文化庁と国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業に協力し、支援を実施する。また、宮跡等への来訪者に文化財及び文化財研究所の研究成果等に関する理解を深めてもらうため、解説ボランティアを育成するとともに、ＮＰＯ法人等が自主的に行う各種ボランティア事業に対して活動機会・場所の提供等の支援を行う。

【主な計画上の評価指標】
○文化庁、国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業に協力すること。また、ボランティアへの活動支援を行うこと。

【25 年度評価における主な指摘事項】

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価 年度	自己評価 中期
	（4）文化庁と国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業に協力し、支援を実施する。また、宮跡等への来訪者に文化財及び奈良文化財研究所の研究成果等に関する理解を深めてもらうため、解説ボランティアを育成するとともに、ＮＰＯ法人等が自主的に行う各種ボランティア事業に対して活動機会・場所の提供等の支援を行う。			
6411	①　文化庁と国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力 ○　文化庁が行う平城宮跡、藤原宮跡の管理への協力 ○　国土交通省が行う平城宮跡第一次大極殿院復原への協力 ○　国土交通省が行う平城宮跡展示館（仮称）の建設への協力 ○　国土交通省が行う国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区公園予定地内の体験学習館の建設への協力	**①－１　文化庁平城宮跡管理事務所の運営への協力** 文化庁平城宮跡管理事務所が行う文化庁施設の公開・活用等における連携協力、文化庁の各種行事、発掘調査等の連絡調整及び文化庁施設の維持管理及び修繕等に対して提案、助言、連絡調整等協力し、文化庁の平城宮跡等整備事業に協力した。	B	B

6412		**①－２　文化庁・国土交通省が行う平城宮跡の復原・整備への協力** (1)第一次大極殿院の建物復原研究のため、所内検討会及び有識者を招聘した検討会を開催し、記録集を作成した。 (2)文化庁や国土交通省が開催する会議等に対して、専門的・技術的な援助・助言を行った。 ・文化庁や国土交通省と共催し、第一次大極殿院の復原整備についての講演会を開催した。 ・平成 12 年度までに行った平城宮跡の整備について報告書を作成した。 ・平城宮跡の整備設計・工事等に対して、設計条件の整理、提出資料に対する助言、立会調査等を実施した。	B	B
6413		**①－３　国土交通省が行う国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区公園予定地内の体験学習館の建設への協力** (1) 国営飛鳥歴史公園事務所の依頼に基づき、キトラ古墳体験学習館の展示に資する奈文研所蔵資料一覧の中から実際に貸与可能な物件と、貸与の場合に求められる条件を提示した。 (2) 都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区）と協力して国営飛鳥歴史公園事務所と展示内容について助言・協力を行った。	B	B
6414		**①－４　国土交通省が行う平城宮跡展示館（仮称）の建設への協力** (1) 展示評価のためのアンケート調査、フォーカスグループインタビューを実施した。 (2) 遺跡立地型展示施設等にて展示手法の調査を実施した。 (3) 詳覧ゾーン基本設計の展示内容を一部修正し、展示候補品を再選定のうえ、リストと資料カードを作成した。	B	B
6421	②　平城宮跡解説ボランティア事業の実施	**②　平城宮跡解説ボランティア事業の実施** 高い知識に基づく解説をより多くの来訪者に効率よく行い、文化財への理解を大いに広げることができた。	B	B
6431	③　平城宮跡防災・防犯パトロール「平城宮跡みまもり隊」への参加	**③　平城宮跡防災・防犯パトロール「平城宮跡みまもり隊」への参加** 平城宮跡来訪者に平城宮跡内でのマナーの向上や防災・防犯活動を行っていることを理解してもらうことができた。 みまもり隊の活動が近隣住民、来訪者に浸透した結果、一般人の参加者が前年度を上回った。	B	B
6441	④　NPO 法人等への支援	**④　ＮＰＯ法人等への支援** ボランティア団体への支援は、その育成につながった。 第 29 回国民文化祭シンポジウムに招待されて、平城宮跡及び平城京と秋田城との繋がりを紹介するとともに、遺跡ボランティア団体などによる遺跡紹介や交流イベントに参加し、平城宮跡の現状と魅力を発表した。	B	B

7　地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上

【中期目標】我が国の文化財に関する調査・研究の中核として、これまでの調査・研究の成果を活かし、地方公共団体や大学、研究機関とのネットワークや連携協力体制を構築し、機構が行った調査・研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言の円滑かつ積極的な実施を図り、我が国全体の文化財の収集・展示、調査・研究の質的向上に寄与すること。また、地方公共団体等の指導者層を主たる対象とする高度な研修事業や、若手研究者の育成に寄与するため実践的な連携大学院教育を実施し、今後の我が国の文化財保護における中核的な人材を育成すること。

【中期計画】
我が国の文化財に関する調査・研究の中核として、これまでの調査・研究の成果を活かし、国・地方公共団体等に対する専門的・技術的な協力・助言を行うことにより、我が国全体の文化財の調査・研究の質的向上に寄与する。また、専門指導者層を対象とした研修等を行い、文化財保護に必要な人材を養成する。
(1)地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が有する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本法人が行った調査・研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言の円滑かつ積極的な実施を行う。
(2)文化財に関する高度な研究成果をもとに、地方公共団体等で中核となる文化財担当者に対し埋蔵文化財等に関する研修を実施するとともに、保存担当学芸員に対し保存科学に関する研修を実施する。

【主な計画上の評価指標】
○文化財に関する協力・助言の円滑かつ積極的な実施を行うこと。
○地方公共団体等で中核となる文化財担当者に対し埋蔵文化財等に関する研修を実施すること。また、保存担当学芸員に対し保存科学に関する研修を実施すること。

【25 年度評価における主な指摘事項】

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価 年度	自己評価 中期
	我が国の文化財に関する調査・研究の中核として、これまでの調査・研究の成果を活かし、国・地方公共団体等に対する専門的・技術的な協力・助言を行うことにより、我が国全体の文化財の調査・研究の質的向上に寄与する。また、専門指導者層を対象とした研修等を行い、文化財保護に必要な人材を養成する。 (1) 地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が有する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本機構が行った調査・研究成果発信等を通じて、文化財に関する協力・助言の円滑かつ積極的な実施を行う。			
7111	①　地方公共団体等からの要請に応じ、それへの協力・助言・専門的知識の提供等を実施する。	**①－１　文化財の収集、保管に関する指導助言** 各研究員の専門的知識を活かして、地方公共団体等の行う文化財の収集、保存、展示に対して指導助言を行った。	B	B
7112		**①－２　無形文化遺産に関する助言** 26 年度は、無形文化遺産の保存・伝承・活用等に関して、文化庁文化財部伝統文化課に対する助言を始め、以下の助言を実施した。	B	B
7113		**①－３　文化財の修復及び整備に関する調査・助言** 26 年度は、蛍光Ｘ線分析やＸ線回折分析による材質調査、Ｘ線透過撮影による構造調査等、以下に示す調査・助言を実施した。	B	B

7114		**①－４　文化財の虫菌害に関する調査・助言** 本年度は、対応件数が 37 件（内訳：国内 35 件、国外 2 件）であり、指導助言先も国内のみならず、文化財保存に携わる国外文化財関係機関からの問い合わせも含めて多岐にわたり、複数回の指導助言に及んだ場合もあった。適正に文化財の虫菌害対策が実施されるように努めるとともに、今後の研究の課題にもつながり得るような新たな知見も得ることを念頭に調査・助言を実施した。	B	B
7115		**①－５　文化財の材質・構造に関する調査・助言** 26 年度は、蛍光Ｘ線分析やＸ線回折分析による材質調査、Ｘ線透過撮影による構造調査等、以下に示す調査・助言を実施した。	B	B
7116		**①－６　美術館・博物館等の環境調査と援助・助言** 国指定品の収蔵、展示を予定する 58 館を対象とした環境調査を行い、報告書を作成した。 また、全国の多くの文化財施設等からの保存環境に関する相談に対して、必要な対応を行った。	B	B
7117		**①－７　地方公共団体等の要請による発掘調査等への協力・援助** ・地方公共団体からの要請に基づき、平城宮・京跡における小規模開発に伴う発掘調査・立会調査を実施した。 ・緊急性を要する状況に適切に対応し、効率的な調査を実施した。 平城宮・京跡に関する基礎的資料を継続的に蓄積することができた。 ・地方公共団体に対し、調査成果を迅速に伝達し、文化財保護行政に資する情報として共有した。 また、紀要を通じて調査成果を公表し、学術的情報として公表した。	B	B
7118		**①－８　地方公共団体が行う飛鳥・藤原地区の発掘調査への援助・助言**藤原宮跡において地方公共団体が行う発掘調査への援助・助言の事業は 10 件あり、主に工事に伴う事前調査や立会である。緊急性を要する事前調査に効率よく対応し、藤原宮ならびに飛鳥・藤原地域についての基礎資料を継続的に蓄積した。	B	B
7119		**①－９　地方公共団体等が行う史跡の整備、復原事業等に関する技術的助言** 地方公共団体等が行う文化財の調査・保存・修復・整備・活用等の事業について、専門委員会委員への就任等を通して、建造物修理、史跡整備、出土文字資料調査、発掘調査等に関する専門的・技術的な助言を行った。	B	B
7121	②　これまで蓄積した調査・研究の成果を活かし、他機関等との共同研究及び受託研究を実施する。	**②－１　他機関等との共同研究及び受託研究を実施** 地方公共団体等が行う文化財の調査・整備・修復・保存・活用等について，これまで蓄積した調査・研究の成果を活かし，共同研究及び受託研究を行った。	B	B
		②－２　他機関等との共同研究及び受託研究を実施 地方公共団体等が行う文化財の調査・整備・修復・保存・活用等について，これまで蓄積した調査・研究の成果を活かし，受託研究等を行った。	B	B

7131	③　東日本大震災の復旧・復興事業に伴う埋蔵文化財発掘調査について、地方公共団体等に対する支援・協力を行う。	**③　東日本大震災の復旧・復興事業に伴う埋蔵文化財発掘調査に対する地方公共団体等への支援・協力** 東日本大震災被災地の復旧・復興事業に伴う埋蔵文化財発掘調査に対し、今までの調査・研究の成果を反映させた発掘調査への効果的な支援や報告書作成に係る支援を行った。同時に、奈文研の特性を踏まえた写真撮影等の技術について、地方公共団体等の要請を受け支援・協力を実施した。	B	B
7140	④　今後可能性が指摘されている巨大地震等大規模災害が発生した際に、各地域における文化財等の防災や被災した文化財等の救出・修復等の適切な処置を行うための体制を整備する。	**④　文化財防災ネットワーク推進事業** ・文化財防災ネットワーク推進のため「文化財防災ネットワーク推進本部」を設置した ・文化財防災ネットワーク構築の必要性と、今後の取り組みについて共通理解を得るため、文化遺産防災ネットワーク推進会議を設立した。 ・今後のネットワーク構築に向けた知見を得るため、文化遺産防災ネットワーク有識者会議を設立した。 ・全国各地に存在する史料ネットと連携のため、全国史料ネットネットワーク集会を共同開催した。 ・けいはんなオープンイノベーションセンター（略称：ＫＩＣＫ、旧私のしごと館）の収蔵庫の整備を行い、防災・レスキュー拠点等として活用するための体制を整備した。（27 年 3 月） ・第３回国連防災世界会議の一部として、国際専門家会合「文化遺産と災害に強い地域社会」を実施した。 ・国内外の事例現地調査及び災害痕跡のデータベース作成や動態記録の作成・研究等を実施した。 ・被災文化財等の救出、応急措置等に関する調査研究を複数実施した。 ・文化財レスキュー活動のノウハウの継承・発展のための研修を実施した。 **（自己評価の判定根拠）** **年度**：年度途中に交付決定された補助金事業にもかかわらず、短い期間で体制を整備し、ネットワークの構築を行い、国際専門家会合等複数の事業を実施することができた。 **中期**：連携・協力体制を構築し、翌年度以降の事業実施とネットワークの拡大強化の基礎を築くことができた。今後は常置の事業となるよう努力が必要である。	A	A
	（２）文化財に関する高度な研究成果をもとに、地方公共団体等で中核となる文化財担当者に対し埋蔵文化財等に関する研修を実施するとともに、保存担当学芸員に対し保存科学に関する研修を実施する。	（２）		
7211	①　埋蔵文化財及びその他文化財の担当者研修の実施 専門研修15課程、研修人数延べ190人	**①　文化財担当者研修** 遺跡の発掘調査や保存・整備等に関し、必要な知識と技術の研鑽を図るため、地方公共団体等の文化財担当職員を対象として、専門研修 15 課程の研修を実施し、延べ 171 名が受講した。 研修受講者全員に対するアンケート調査では、ほぼ全員から「有意義であった」「役に立った」との回答を得ており、充実した研修が実施できた。	B	B

7221	②　博物館・美術館等の保存担当学芸員研修の実施 期間2週間、受講生25名	**②　博物館・美術館等保存担当学芸員研修** 各地の文化財施設で資料保存を業務とする学芸員や行政担当者などを対象として、第31回博物館・美術館等保存担当学芸員研修を開催した	B	B
7231	③　東京藝術大学、京都大学、奈良女子大学との間での連携大学院教育等の推進 ○　東京藝術大学：システム保存学(保存環境学、修復材料学) ○　京都大学：共生文明学（文化・地域環境論） ○　奈良女子大学：比較文化学（文化史論）	**③－１　東京藝術大学との間での連携大学院教育の推進** 保存環境計画論、修復計画論、修復材料学特論、保存環境学特論をシラバスに則り開講した。また文化財保存学演習（文化財保存学専攻修士課程１年対象）を１コマ担当した。 26年度修士課程１・２年に各１名の学生を受け入れ、修士論文指導を行った。	B	B
7232		**③－２　京都大学、奈良女子大学との間での連携大学院教育の推進** 京都大学大学院人間・環境学研究科において５名、奈良女子大学大学院人間文化研究科において２名の研究職員が、客員教授・准教授として各専門分野に関する講義、演習、実習を通して、大学院生の研究指導を行った。 なお、平成26年度の受入学生数は京都大学44名、奈良女子大学７名であった。 その他、奈良大学との協定を締結し、５名の研究職員が非常勤講師として、学部生の教育を行った。	B	B

定量評価		26年度	25年度	目標値	評定
埋蔵文化財担当者研修	課程数（課程）	15	9	15	B
	研修受講者数（延べ人）	171	138	190	C
保存担当学芸員研修	期間（週間）	2	2	2	B
	受講生（名）	31	30	25	A

Ⅱ　業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

１　一般管理費等の削減

【中期目標】業務運営に関しては、「独立行政法人の事務・事業の見直しの基本方針」（平成22年12月７日閣議決定）等を踏まえ、国立文化財機構の活性化が損なわれないよう十分配慮しつつ、一層の業務の効率化を推進することにより、文化財購入等の効率化になじまない特殊要因経費を除き、中期目標の期間中、一般管理費については１５％以上、業務経費についても５％以上の効率化を図ること。ただし、人件費については次項に基づいた効率化を図る。

なお、１９年度の法人統合に伴い、機構の業務運営に際しては、平成２３年度までの統合後５年間で、１９年度一般管理費（物件費）の１０％相当の経費削減を図ること。

【中期計画】

１　中期目標の期間中、一般管理費については１５％以上、業務経費については５％以上の効率化を行う。ただし、文化財購入費、文化財修復費等の特殊要因経費はその対象としない。また、人件費については次項に基づき取り組むこととし、本項の対象としない。

なお１９年度の法人統合に伴い、機構の業務運営に際しては、平成２３年度までの統合後５年間で、１９年度一般管理費（物件費）の１０％相当の経費を削減する。

このため、運営費交付金を充当して行う事業については、国において実施されている行政コストの効率化を踏まえ、事務、事業、組織等の見直しや、公用車の運転業務など外部委託できる業務を引き続き精査して計画的にアウトソーシングするなど業務の効率化を図る。

具体的には下記の措置を講じる。

（１）共通的な事務の一元化による業務の効率化
（２）計画的なアウトソーシング
（３）使用資源の減少
・省エネルギー　（エネルギー使用量は、５年計画期間中に５％削減）
・廃棄物減量化
・リサイクルの推進

【主な計画上の評価指標】

○中期目標の期間中、一般管理費15%以上、業務経費５％以上の業務の効率化を図ること。
○共通的な事務の一元化を図ること。
○計画的なアウトソーシングを図ること。
○エネルギー使用量は、５年計画期間中に５％の削減を図ること。
○廃棄物の減量化を図ること。
○リサイクルの推進を図ること。
○競争性のある契約への移行を推進すること。
○民間競争入札等の推進を図ること。

【25年度評価における主な指摘事項】

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価 年度		自己評価 中期	
9110	**１　一般管理費の削減** （１）共通的な事務の一元化による業務の効率化 １）共通的な事務の一元化を推進し事務の効率化を引き続き図る。 ２）国立博物館各館における翌年度以降の展覧会企画等について「研究・学芸系職員連絡協議会」において連絡・調整を行い、企画機能強化を図る。	**１　一般管理費の削減** （１）共通的な事務の一元化による業務の効率化 1)共通的な事務の一元化と事務の効率化のため、機構共通の業務システムである、グループウェア、財務会計システム、人事給与統合システム、web給与明細システムの運用を継続した。 2)国立博物館各館及び各研究成果公開施設における26～30年度の展覧会予定表を毎月更新し、研究調整役を中心に企画調整を継続するとともに、「研究・学芸系職員連絡協議会」を開催し、連絡・調整を行った。	B	共通的な事務の一元化による業務の効率化として、必要な業務シス	B	必要な業務システムの運用を適切に継続することで、共通的な事務

	3）機構共通のネットワーク及びシステムにより、業務の効率的な運用及び情報の共有化を引き続き推進する。	3)業務の効率的な運用と情報共有化のため、機構共通の業務システムである、グループウェア「サイボウズ」、財務会計システム「GrowOne」、人事給与統合システム「U-PDS」、web給与明細システム「U-PHS HR」、また、これら各システムの基盤となるネットワーク「機構VPN(Virtual Private Network)」の運用を継続した。		テムは既に稼動しており、適切に運用を継続することができた。		の一元化による業務の効率化を順調に達成している。
9120	**（２）計画的なアウトソーシング** 以下の業務の外部委託を継続して実施する。 （東京国立博物館） ・警備及び看視案内の一部並びに売札及び清掃業 務 ・資料館業務の一部 ・施設内店舗業務 （京都国立博物館） ・看視案内業務及び設備保全業務の一部 ・受付・案内・警備業務、売札業務及び清掃業務 （奈良国立博物館） ・建物設備の運転・管理業務 ・警備及び看視案内の一部並びに売札及び清掃業 務 （九州国立博物館） ・建物設備の運転・管理業務等 ・警備業務、看視案内業務及び清掃業務 （東京文化財研究所・奈良文化財研究所） ・警備業務、清掃業務及び建物設備の運転・管理業務等	**（２）計画的なアウトソーシング** ・全ての施設において、電気設備保守業務、機械設備保守業務、昇降機設備保守点検業務、構内樹木等維持管理業務、清掃業務、各種事務補助作業等について、民間委託を実施している。 ・博物館は警備・展示室監視等業務の大部分を民間委託している。また、研究所は警備業務の全てを民間委託している。 ・博物館の来館者サービスに関しては、売札業務、受付・案内業務、図書・写真資料を閲覧等の利用に供するサービス及び図書整理業務等について民間委託を実施している。 ・東京国立博物館及び東京文化財研究所の施設管理・運営業務（展示等の企画運営を除く）、東京国立博物館の展示場における来館者応対等業務について民間競争入札を実施している。	B	計画どおり外部委託を実施している。	B	計画どおり外部委託を実施している。
9130	**（３）使用資源の減少**	**（３）使用資源の減少**				

	・省エネルギー 1）光熱水量の使用状況を把握し、管理部門を中心に引き続き節減に努める。 （エネルギー使用量は、5年計画期間中に5%削減） ・廃棄物減量化 1）使用資源の節減に努め、廃棄物の減量化に引き続き努める。 ・リサイクルの推進 1）廃棄物の分別収集を徹底し、リサイクルを引き続き推進する。	・日常の節電節水の周知徹底、クールビズ・ウォームビズの推進、冷暖房の省エネ運転等を行った。 ・廃棄物削減では、両面印刷の励行、館内LAN・電子メール等の活用を引き続き行い、会議での iPad 活用による文書のペーパーレス化を実施した。 ・リサイクルの実施（廃棄物の分別収集，リサイクル業者への古紙売り払い，再生紙の発注等） 使用資源の推移等 光熱水料金　（千円） | 事項	25 年度	26 年度	差額	増減率
---	---	---	---	---
電気料	496,266	549,706	53,440	10.77%
水道料	87,249	89,418	2,169	2.49%
ガス料	180,761	186,427	5,666	3.13%
計	764,276	825,551	61,275	8.02% | ※電気料は、下記の特殊要因により使用量・料金ともに増額となった。 ・電気料特殊要因①：原料高騰、再生可能エネルギー発電促進賦課金の賦課による契約単価と燃料調整費の上昇により増額となった。 ・電気料特殊要因②：東京国立博物館における正門プラザ開業と黒田記念館の開館により使用量が増加した。 ・電気料特殊要因③：東京文化財研究所における大型実験装置の稼動により使用量が増加した。 | 事項	25 年度単価（円/kwh）	26 年度単価（円/kwh）	差（円/kwh）	単価影響額（千円）
---	---	---	---	---
電気料特殊要因①	19.3	20.8	1.5	37,933 | | 事項	増加量（kwh）	26 年度単価（円/kwh）	単価影響額（千円）
---	---	---	---
電気料特殊要因②	505,103	22.6	11,409
電気料特殊要因③	215,071	22.9	4,920		B	判定根拠：光熱水料金の削減目標を達成したほか、省エネルギー、廃棄物減量化、リサイクル推進の取組状況も良好である。 課題と対応：廃棄物排出量が前年度比で僅かに増加しており、来年度は節減に努める。	B	判定根拠：光熱水料金の削減目標を達成したほか、省エネルギー、廃棄物減量化、リサイクル推進の取組状況も良好である。 課題と対応：廃棄物排出量が前年度比で僅かに増加しており、来年度は節減に努める。

※水道料は、全体として使用量ベースでは減少したが、単価の上昇により使用料金ベースで増額となった。

事項	25年度単価（円/㎥）	26年度単価（円/㎥）	差（円/kwh）	単価影響額（千円）
水道料特殊要因	566.9	602.7	35.8	3,521

※ガス料は、全体として使用量ベースでは減少したが、下記の特殊要因により使用料金ベースで増額となった。
・ガス料特殊要因①：原料高騰により契約単価が上昇した。
・ガス料特殊要因②：京都国立博物館における平成知新館（平常展示館）の開館により使用量が増加した。

事項	25年度単価（円/㎥）	26年度単価（円/㎥）	差（円/㎥）	単価影響額(千円)
ガス料特殊要因①	94.5	97.9	3.4	4,705

事項	増加量（㎥）	26年度単価（円/㎥）	単価影響額（千円）
ガス料特殊要因②	96,111	97.7	9,387

特殊要因を考慮した光熱水料金　（千円）

事項	25年度	26年度	差額	増減率
電気料（※）	496,266	495,444	△822	△0.17%
水道料（※）	87,249	85,897	△1,352	△1.55%
ガス料（※）	180,761	172,335	△8,426	△4.66%
計	764,276	753,676	△10,600	△1.39%

※それぞれ特殊要因を勘案して算定。

廃棄物排出量　（kg）

事項	25年度	26年度	差額	増減率（%）
一般廃棄物	238,041	241,900	3,859	1.62%

9140

（４）自己収入の増大

独立行政法人整理合理化計画（19年12月24日閣議決定）の方針に基づき設定した外部資金の活用及び自己収入の増大に向けた定量的目標の達成を、引き続き目指す。
１）機構全体において、入場料収入（共催展を除く）及びその他収入について、1.16%の増加を目指す。
２）機構全体において、寄附金350件及び科学研究費補助金76件の確保を目指す。

（４）自己収入の増大

1)定量的目標を設定した自己収入については、下表のとおり29.04%増となり、目標を上回った。

（単位：千円）

	平成24年度	平成25年度	平成26年度
自己収入基準額	904,886	915,383	926,001
自己収入目標額	915,383	926,001	936,743
自己収入実績額	880,271	968,819	1,194,914
増　加　率	△2.72%	5.91%	29.04%

※受託研究・受託事業を除く。
※自己収入目標額は、前年度の目標額から1.16%増加した場合の額。
※増加率は、自己収入基準額（前年度の目標額）に対する増加率。

2)下表のとおり、寄附金及び科学研究費補助金ともに目標件数を上回ることができた。

	目標値	平成26年度
寄附金	350件	561件
科学研究費補助金	76件	107件

A　自己収入及び寄附金ともに目標を上回ることが出来た

A　自己収入及び寄附金ともに目標を上回ることが出来た。

定量評価	26年度	25年度	目標値	評定
一般管理費の効率化（対前年度比%）	**37.15%増**	**10.88%減**	**3.20%減**	**D**
業務経費の効率化（対前年度比%）	**1.70%増**	**2.61%減**	**1.03%減**	**D**
光熱水料費の削減（対前年度比%）	**1.39%減**	**2.18%減**	**1.03%減**	**A**
自己収入増加率	29.04%	5.91%	1.16%	A
寄附金件数	561件	486件	350件	A
科学研究費採択件数	107件	95件	76件	A

２　給与水準の適正化等

【中期目標】給与水準については、「公務員の給与改定に関する取扱いについて」（平成 22 年 11 月 1 日閣議決定）を踏まえ、国家公務員の給与水準等を十分考慮して、検証したうえで、業務の特殊性を踏まえた適切な目標水準・目標期限を設定し、その適正化に取組むとともに、検証結果や取組状況を公表すること。
総人件費についても、平成２３年度はこれまでの人件費改革の取組を引き続き着実に実施するとともに、平成２４年度以降は、今後進められる独立行政法人制度の抜本的な見直しを踏まえ、厳しく見直すこと。

【中期計画】
２　国家公務員の給与水準とともに業務の特殊性を十分考慮し、対国家公務員指数については現状を維持するよう取り組み、その結果について検証を行うとともに、検証結果や取組状況を公表する。また、これまでの人件費改革の取り組みを平成２３年度まで継続するとともに、平成２４年度以降は、今後進められる独立行政法人制度の抜本的な見直しを踏まえ、取り組むこととする。ただし、人事院勧告を踏まえた給与改定分及び競争的資金により雇用される任期付職員に係る人件費については本人件費改革の削減対象から除く。
なお、削減対象の「人件費」の範囲は、各年度中に支給した報酬（給与）、賞与、その他の手当の合計額とし、退職手当、福利厚生費は含まない。

【主な計画上の評価指標】
○対国家公務員指数について、現状を維持するよう取り組み、その結果について検証を行うとともに、検証結果や取組状況を公表すること。

【25 年度評価における主な指摘事項】

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価			
			年度		中期	
9210	**２　給与水準の適正化等** 国家公務員の給与水準とともに業務の特殊性を十分考慮し、対国家公務員指数は国家公務員の水準を超えないよう取り組み、その結果について検証を行うとともに、検証結果や取組状況を公表する。また人件費改革の取り組みについて、今後の独立行政法人制度の見直し等を踏まえて検討する。	・人事給与統合システムが 20 年 4 月から稼働し、機構全体として統一的な処理ができるようになった。さらに人件費の削減に向けたシミュレーション等により人件費に関する計画を円滑に企画・立案することができた。 ・地域手当について、25 年度においても 21 年度の率を据え置くことが決定された。また、27 年度以降は国の状況及び当機構の人件費の状況を勘案し、毎年度検討することを決定した。 ・役職員の報酬額については、毎年度、総務省の実施している「独立行政法人の役員の報酬等及び職員の給与の水準の公表方法等について（ガイドライン）、平成15年9月9日策定」において、個別の額を公表しており、また、法人ウェブサイト上においても掲載している。今後も引き続き公表することとしている。	B	人件費削減に向けたシミュレーションを行い、26 年度実績も概ね順調に人件費に関する計画を遂行できたが、今後は、中期的な人事計画をもとに、最広義人件費の削減についても検討を進めていく。	B	引き続き、人件費改革の取り組みを実施し、順調に人件費削減を遂行している。

３　契約の適正化の推進

【中期目標】契約については、「独立行政法人の契約状況の点検・見直しについて」（平成 21 年 11 月 17 日閣議決定）に基づく取組を着実に実施し、一層の競争性と透明性の確保に努め、契約の適正化を推進するとともに外部委託の活用等により、定型的な管理・運営業務の効率化を図ること。

【中期計画】
３　「独立行政法人の契約状況の点検・見直しについて」（平成 21 年 11 月 17 日閣議決定）に基づき引き続き取組みを着実に実施し、文化財の購入等随意契約が真にやむを得ないものを除き、競争性のある契約への移行を推進することにより、経費の効率化を行う。また「独法の事務・事業の見直しの基本方針」（平成 22 年 12 月 7 日閣議決定）に基づき、施設内店舗の賃借について、企画競争を導入するなど競争性と透明性を確保した契約方式とする。なお民間競争入札については、現在実施している民間競争入札の検証結果等を踏まえ、一層推進する。

【主な計画上の評価指標】

【25 年度評価における主な指摘事項】

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価			
			年度		中期	
9310	**３　契約の適正化の推進** １）契約監視委員会を実施する。 ２）施設内店舗の貸付・業務委託について引き続き企画競争を実施する。 ３）民間競争入札を推進する。 （東京国立博物館・東京文化財研究所） ・施設管理・運営業務を継続して民間競争入札による外部委託を行う。 （東京国立博物館） ・展示場における来館者応対等業務を継続して民間競争入札による外部委託を行う。	**３　契約の適正化の推進** 1)「独立行政法人の契約状況の点検・見直しについて（平成 21 年 11 月 17 日閣議決定）」に基づき、外部委員で構成された契約監視委員会を設置し、機構が 26 年度に締結した契約の点検・見直しを行った。 第 1 回契約監視委員会（26 年 11 月 28 日開催） 第 2 回契約監視委員会（27 年 6 月 12 日開催予定） 2) 京都国立博物館平成知新館（ミュージアムショップ・レストラン）運営業務について、企画競争を実施した。 東京国立博物館（ミュージアムショップ・レストラン・黒田記念館カフェ、正門プラザ（ミュージアムショップ））、京都国立博物館（南門カフェ）、奈良国立博物館（ミュージアムショップ・レストラン）、奈良文化財研究所（ミュージアムショップ）については、既に企画競争を実施済み。 今後も、賃貸借期間終了時に順次企画競争を実施予定である。 3)・総務省からの要請に基づき、「独立行政法人整理合理化計画（平成 19 年 12 月 24 日閣議決定）」の一環として、随意契約の見直しを行い、随意契約によることがやむを得ないものを除き、引き続き競争契約に移行している。 ・より多くの競争参加業者を募るため、公告期間をこれまでの「10 日間以上」から自主的措置として 20 日間以上確保するように引き続き努めている。 ・列品等修理契約について、修理契約委員会を設置し、修理可能な業者が複数存在すると判断された契約は企画競争を実施している。	B	計画どおり取組を実施している。	B	計画どおり取組を実施している。

		一般競争入札件数 年度 / 25年度 / 26年度 / 増減 件数 / 171件 / 169件 / △2件				

4　保有資産の有効利用の推進

【中期目標】保有資産については、その必要性や規模の適切性についての検証を適切に行うとともに、本来業務に支障のない範囲で有効利用の推進を図ること。

【中期計画】
4　保有資産については、その必要性や規模の適切性についての検証を適切に行うとともに、有効利用の推進を図るため、映画等のロケーションのための建物等の利用や会議・セミナーのための会議室の貸与等を本来業務に支障のない範囲で実施する。

【主な計画上の評価指標】

【25年度評価における主な指摘事項】

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価 年度		自己評価 中期	
	4　保有資産の有効利用の推進					
9411	（博物館4施設）	**【東京国立博物館】** 1)月例講演会等の他、当館主催や外部利用による講演会を実施した。 2)撮影件数増加のためインターネットロケーション検索サイト（ロケなび！）への登録を継続した。 3)・定期的にコンサート、寄席などの文化イベントを開催した。 ・「国際博物館の日」を記念して上野地区の機関と連携し、ガイドツアーなどを実施した。 ・「留学生の日」イベントを行い、ガイドツアーや茶道体験など日本文化の紹介を行った。 ・総合文化展100万人プロジェクトの一環として若年層の新規来館者を目指したイベント「博物館で野外シネマ」を前庭で実施し、室外スペースを有効利用した。	B	計画どおり施設の有効活用を進めることができたため。	B	中期計画に記載のとおり、順調に保有資産の有効利用を推進できている。
9412	1）講座・講演会等を開催する。 2）講堂等の利用案内を関係団体、学校等に対し積極的に行う。 3）国際交流及び日本文化の紹介や入館者の拡大を目的としたコンサートなどを実施し、施設の有効利用を図る。	**【京都国立博物館】** 1)展覧会等に関する講演会、土曜講座、特別シンポジウムを開催した。 2)庭園を積極的に活用するなど施設の有効利用の推進を図った。また、外部団体等の講演会・研修会等への施設の貸出を積極的に行った。 3)来館者の拡大を目的としたコンサートを実施し、施設の有効利用を図った。	B	館休館期間中には庭園を利用した大規模なコンサートを開催し、平成知新館開館後は講堂やグランドロビーを利用した講演会、コンサート等を積極的に開催した。	B	中期計画に沿って、順調に講堂・会議室等の貸与を実施している。
9413		**【奈良国立博物館】** 1)公開講座、サンデートーク、正倉院展ボランティア解説、特別鑑賞会、文化財保存修理所特別公開等を開催した。 2)奈良市教育委員会と連携し、市内の小学校5年生を対象とした世界遺産学習を実施した。 3)地元自治体等と連携し、敷地内でコンサート等のイベントを実施した。	B	国内のみならず地方公共団体を通じてアジア地域に関連する催しにも会場提供を行い、博物館の認知及び、施設の有効活用ができた。	B	計画どおり順調に成果を上げている。
9414		**【九州国立博物館】** （博物館4施設） 1)文化交流展示や特別展に関連する講座・講演会等を開催した。 2)ミュージアムホール、エントランスホール、研修室、茶室等において、館主催事業及び各種団体主催のイベントを開催するとともに、希望団体にはミュージアムホール、研修室、茶室の貸出を行った。 3)国際シンポジウム、アジア諸国に関するイベント、留学生の日のイベント等を開催した。また、ガムランワークショップや茶道体験、コンサートの開催等を継続的に実施し、施設の有効活用を促進した。	B	展示と関係のある講演会やワークショップを開催したほか、9周年記念イベントを来館者数が比較的少ない時期に開催し来館者数の増加に貢献するなど、施設の有効利用を図った。	B	中期計画に基づき、適切に施設の貸与を行うことができた。
9415	（文化財研究所2施設） セミナー室、講堂等一般の利用の供することが可能な施設の有料貸付を実施するとともに、展示公開施設におけるミュージアムショップの運営委託等、施設の有効利用の推進を引き続き図る。	**【東京文化財研究所】** ・セミナー室、会議室等を利用することにより、施設の有効利用の推進を図った。 ・研究成果を広く一般にも公表するためのオープンレクチャーを本年度も開催した。この事業は台東区との連携事業として毎年開催されている「上野の山文化ゾーンフェスティバル」に東京文化財研究所のオープンレクチャーを同事業の講演会シリーズとして実施している。	B	会議・セミナーのための会議室・セミナー室の有料貸付を本来業務に支障のない範囲で実施したため。	B	会議・セミナーのための会議室・セミナー室の貸与等を本来業務に支障のない範囲で実施したため。

9416		【奈良文化財研究所】 施設名 ／ 平成26年度 平城宮跡資料館講堂 108件（内 有償貸与 3件） 平城宮跡資料館小講堂 115件（内 有償貸与 9件） 飛鳥資料館講堂 28件（内 有償貸与 0件） その他（本庁舎・管理棟・収蔵庫等） 35件（内 有償貸与 14件） 合計 286件（内 有償貸与 26件） ・一般利用申し出への行政サービスの向上を図る方針のもとに、ウェブサイト上での施設利用紹介等による積極的有効利用（貸付等）の促進を図った。 ・上記のほか、平城宮跡資料館、飛鳥資料館の各ミュージアムショップ（売店）の運営を外部委託し、図録等の販売を通して来館者の利便に供した。 ・本庁舎改築整備に伴って、当研究所が企画実施する研修等に際しての寄宿舎施設が取り壊わされた。	C	特別要因として寄宿舎施設が取り壊しとなったため、全体の利用実績件数は大幅に減少した。寄宿舎を除くほかの施設の有効利用件数は、減少傾向にはあるが推移としては鈍い。現在、本庁舎改築整備のため仮設庁舎での業務を行っており、限られたスペースで本来業務に支障のない範囲で、施設の有効利用を実施している。これまでの経年変化でもわかるように有効利用件数の年々の減少は、施設の老朽化等による影響も少なくはない。よって、本庁舎が新営となったおりには、施設利用紹介等を含めて有効利用の促進が期待される。	C	特別要因として寄宿舎施設の取り壊し、寄宿舎を除くほかの施設の有効利用件数は、減少傾向で鈍く推移している。このことは施設の老朽化等による影響も少なくはない。現在、本庁舎改築整備が進められており、本庁舎の新営は、施設利用紹介等を含めて有効利用の促進につながる。但し、寄宿舎施設については、附設の計画はない。

5　内部統制の充実・強化

(1)理事長のマネジメント強化

【中期目標】法令等を遵守するとともに、業務の特性や実施体制に応じた効果的な統制機能の在り方を検討し、内部統制の充実・強化を図ること。

【中期計画】	**【主な計画上の評価指標】**
5(1)理事長のマネジメント強化のため業務の特性や実施体制に応じた効果的な統制機能の在り方を検討し、自己点検評価を始め監事監査、内部監査などモニタリングを行う。	**○自己点検評価、監事監査、内部監査等を行うこと。** **【25年度評価における主な指摘事項】** **○収蔵品の整備と次代への継承を確実に進展させるため、適時適切な収集と十分な収蔵施設の確保、保存修理部門を充実することが求められる。**

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価 年度		自己評価 中期	
9510	**5（1）理事長のマネジメント強化** 1）モニタリングの実施 ・自己点検評価を行う。 ・監事監査を行う。 ・内部監査を行う。 2）リスクマネジメントの実施 ・リスク管理の必要に応じて、関連する諸規程の整備・見直しを行う。 ・危機管理マニュアルの見直し等を随時行う。	**5（1）理事長のマネジメント強化** 1)モニタリングの実施 ・自己点検評価を行い、『平成25年度　独立行政法人国立文化財機構自己点検評価報告書』を作成(26年6月)し、評価結果をウェブサイトで公開した。外部評価委員からの意見等を踏まえ、評価のしやすさに配慮して自己点検評価報告書を作成した。 ・監事による定期監査(26年6月19日)を行ったほか、臨時監査を本部事務局・東京国立博物館(27年2月13日)、奈良国立博物館(27年2月19～20日)を対象に行った。 ・内部監査を、26年10月30日～11月28日の日程で、本部事務局及び各施設を対象に順次行った。 2)リスクマネジメントの実施 ・情報システム管理・セキュリティ対策の一環として関連する諸規程の見直しを行い、情報セキュリティ強化のため、独立行政法人国立文化財機構ネットワーク管理運用要項に、プロキシサーバ（中継サーバ）を情報化委員会申し合わせにより運用する事項を加えた。 ・理事長からの指示に基づき、危機管理マニュアルの見直しを行った。東京国立博物館は26年4月改訂、京都国立博物館は見直し作業を継続して27年度改訂予定、奈良国立博物館は27年3月改訂、九州国立博物館では暫定版から正式版に26年12月に改訂、東京文化財研究所では27年3月改訂、奈良文化財研究所では27年3月改訂を行った。	B	監事による定期監査及び臨時監査を行い、危機管理マニュアルの見直し・改訂を行うなど、モニタリング、リスクマネジメントともに適切に実施することができた。	B	今年度も自己点検評価、監事監査及びモニタリングを適切に行うことができ、中期計画の達成に向けて順調である。

(2) 外部有識者による事業評価

【中期目標】外部有識者も含めた事業評価の在り方について適宜、検討を行いつつ事業評価を実施し、その結果を組織、事務、事業等の改善に反映させること。

【中期計画】	**【主な計画上の評価指標】**
5(2) 外部有識者も含めた事業評価の在り方について適宜、検討を行いつつ、年1回以上事業評価を実施し、その結果は組織、事務、事業等の改善に反映さ	**【25年度評価における主な指摘事項】**

せる。また、研修等を通じて職員の理解促進、意識や取り組みの改善を行う。						
処理番号	年度計画	主な実績	自己評価			
			年度		中期	
9520	**５（２）外部有識者による事業評価** １）運営委員会、外部評価委員会を実施し、その結果を組織、事務、事業等の改善に反映させる。 ２）職員の資質向上を図るため各種研修を実施する。	**５（２）外部有識者による事業評価** 1)運営委員会(26年7月23日)、外部評価委員会(研究所・センター調査研究等部会：26年4月23日、博物館調査研究等部会：4月25日、総会：5月30日)を実施し、その結果を機構の事業等の改善に反映させた。 2)(各種研修について詳細は処理番号0230参照)	B	運営委員会、外部評価委員会を予定通り実施し、その結果を組織、事務、事業等の改善に反映させることができた。	B	年１回以上の事業評価を実施し、その結果を組織、事務、事業等の改善に反映させることができ、順調である。

(3) 情報セキュリティ対策の向上と改善

【中期目標】管理する情報の安全性向上のため、政府の方針を踏まえた適切な情報セキュリティ対策を推進し、必要な措置をとること。	
【中期計画】 ５(3) 管理する情報の安全性向上のため、政府の方針を踏まえた情報セキュリティに配慮した業務運営の情報化・電子化に取り組み、情報セキュリティ対策の向上と改善を図るため定期監査等を実施する。	**【主な計画上の評価指標】** ○情報セキュリティに配慮した情報化・電子化に取り組むこと。 ○情報セキュリティ対策の向上・改善のための定期監査等を実施すること。 **【25年度評価における主な指摘事項】** **○友の会等の充実は自己収入確保の観点から重要であるが、これらの個人情報の漏えい等、顧客に対するセキュリティー強化を図られたい。**

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価			
			年度		中期	
9530	**５（３）情報セキュリティ対策の向上と改善** １）情報セキュリティについて定期監査等を実 施する。 ２）機構全体での情報セキュリティ強化のため、 ネットワーク環境等の見直しについて、検討を継続する。	**５（３）情報セキュリティ対策の向上と改善** 1)・保有個人情報管理監査を、本部事務局、東京国立博物館（27年2月13日）、奈良国立博物館（27年2月19日～20日）を対象に実施した。 ・情報システム監査を、奈良文化財研究所を対象に実施した。（27年2月24日） ・情報システム自己点検・評価について、セキュリティ対策の実施状況に重点を置いて実施した。（26年4月） ・監査法人による監査の一環として、システム監査を実施した。（27年1月） 2) 情報セキュリティ水準の向上のための機器の更新、導入を行った。	B	情報システム監査の実施、情報セキュリティ水準の向上のための機器の更新・導入などにより、所期の目	B	政府の方針を踏まえた情報セキュリティ対策のために当該規程の見直しに着手するなど、中期計画達成に向
		○政府機関における情報セキュリティ対策に基づき、26年6月25日に「独立行政法人における情報セキュリティ対策の推進について」が示された。これを踏まえ、機構の情報セキュリティポリシーの見直しを行うため、セキュリティポリシー見直しWGを設置し、27年度改正に向けた準備を進めた。		標を充分達成している。		けて順調である。

Ⅲ　予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画

【中期目標】入場料収入、寄付金等による自己収入の確保、予算の効率的な執行等に努め、適切な財務内容の実現を図ること。
1　自己収入の増加
入場料収入、寄付金等の外部資金、本来業務に支障のない範囲で施設の有効利用により自己収入を確保することで財源の多様化を図り、法人全体として積極的に自己収入の増加に向けた取り組みを進めること。
また、自己収入額の取り扱いにおいては、各事業年度に計画的な収支計画を作成し、当該収支計画による運営に努めること。
2　固定的経費の節減
管理業務の節減を行うとともに、効率的な施設運営を行うこと等により、固定的経費の節減を図ること。

【中期計画】管理業務の効率化を図る観点から、各事業年度において、適切な効率化を見込んだ予算による運営を行う。
また、収入面に関しては、実績を勘案しつつ、入場料収入、寄付や賛助会員等への加入者の増加、募金箱の設置などによる外部資金、映画等のロケーションのための建物等の利用や会議・セミナーのための会議室の貸与等を本来業務に支障のない範囲で実施するなど、施設の有効利用により自己収入を確保することで財源の多様化を図り、法人全体として積極的に自己収入の増加に向けた取り組みを進めることにより、計画的な収支計画による運営を行う。

【主な計画上の評価指標】
○当期総利益（又は当期総損失）の発生要因が明らかにすること。また、当期総利益（又は当期総損失）の発生要因の分析を行った上で、当該要因が法人の業務運営に問題等があることによるものかを検証し、業務運営に問題等があることが判明した場合には当該問題等を踏まえた評価を行うこと。
○利益剰余金が計上されている場合、国民生活及び社会経済の安定等の公共上の見地から実施されることが必要な業務を遂行するという法人の性格に照らし過大な利益となっていないかについて評価を行うこと。
○繰越欠損金が計上されている場合、その解消計画の妥当性について評価すること。当該計画が策定されていない場合、未策定の理由の妥当性について検証を行うこと。（既に過年度において繰越欠損金の解消計画が策定されている場合の、同計画の見直しの必要性又は見直し後の計画の妥当性についての評価を含む）。さらに、当該計画に従い解消が進んでいるかどうかについて評価を行うこと。
○当該年度に交付された運営費交付金の当該年度における未執行率が高い場合において、運営費交付金が未執行となっている理由を明らかにすること。
○運営費交付金債務（運営費交付金の未執行）と業務運営との関係についての分析を行った上で、当該業務に係る実績評価を適切に行うこと。

【25 年度評価における主な指摘事項】

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価	
			年度	中期
	予算 （単位：百万円） 区　分 ／ 金額 収入 運営費交付金 8,239 施設整備費補助金 2,990 展示事業等収入 1,323 受託収入 26 計 12,578 支出 管理経費 1,696 うち人件費 688 うち一般管理費 1,008 業務経費 7,866 うち人件費 2,412 うち調査研究事業費 1,309 うち情報公開事業費 181 うち研修事業費 20 うち国際研究協力事業費 214 うち展示出版事業費 160 うち展覧事業費 3,494 うち教育普及事業費 76 施設整備費 2,990 受託事業費 26 計 12,578			

収支計画

（単位：百万円）

区　　分	金 額
費用の部	7,499
経常経費	7,499
管理経費	1,634
うち人件費	688
うち一般管理費	946
業務経費	5,443
うち人件費	2,412
うち調査研究事業費	1,147
うち情報公開事業費	168
うち研修事業費	20
うち国際研究協力事業費	204
うち展示出版事業費	126
うち展覧事業費	1,292
うち教育普及事業費	74
受託事業費	26
減価償却費	396
収益の部	7,499
運営費交付金収益	5,754
展示事業等の収入	1,323
受託収入	26
資産見返運営費交付金戻入	383
資産見返物品受贈額戻入	13

資金計画

（単位：百万円）

区　　分	金 額
資金支出	12,578
業務活動による支出	7,103
投資活動による支出	5,475
資金収入	12,578
業務活動による収入	9,588
運営費交付金による収入	8,239
展示事業等による収入	1,323
受託収入	26
投資活動による収入	2,990
施設整備費補助金による収入	2,990

Ⅳ　その他主務省令で定める業務運営に関する事項

【中期目標】
1　施設・設備に関する計画
各施設の安全かつ良好な施設環境を維持するとともに、業務の目的・内容に適切に対応するため長期的視野に立った施設・設備の整備計画、研究機器の整備・更新計画を作成し、整備を図ること。
2　人事に関する計画
人事管理、人事交流の適切な実施により、内部管理事務の改善を図り、効率的かつ効果的な業務運営を行うため、非公務員化のメリットを活かした制度を活用すること。
また機構の将来を見据え、専門スタッフの配置などの計画的な確保・育成を図ること。

【中期計画】
1　施設・設備に関する計画
施設・設備の老朽化度合い等を勘案しつつ、別紙４のとおりの施設・設備に関する計画に沿った整備を推進する。

2　人事計画に関する計画
(1)方針
①国家公務員制度改革や類似独立行政法人等の人事・給与制度改革の動向を勘案しつつ、職員の能力や業績を適切に反映できる人事・給与制度を検討し、導入する。
②人事交流を促進するとともに、職員の資質向上を図るための研修機会の提供を行う。また、効率的かつ効果的な業務運営を行うため、非公務員化のメリットを活かした制度を活用する。
③機構の将来を見据え、専門スタッフの配置などの計画的な確保・育成を行う。

(2)人員に係る指標
給与水準の適正化等を図りつつ、業務内容を踏まえた適切な人員配置等を推進する。
中期目標期間中の人件費総額見込額
１３，０８７百万円
但し、上記の額は、役職員に対し支給する報酬（給与）、賞与、その他の手当の合計額であり、退職手当、福利厚生費を含まない。

3　中期目標期間を超える債務負担
中期目標期間を超える債務負担については、機構の業務運営に係る契約の期間が中期目標期間を超える場合で、当該債務負担行為の必要性及び資金計画の影響を勘案し、合理的と判断されるものについて行う。

4　積立金の使途
前中期目標期間の期間の最終年度において、独立行政法人通則法第 44 条の処理を行ってなお積立金があるときは、その額に相当する金額のうち文部科学大臣の承認を受けた金額について、次期へ繰り越した経過勘定損益影響額等に係る会計処理に充当する。

【主な計画上の評価指標】
○職員の能力や業績を適切に反映できる人事・給与制度の検討・導入を図ること。
○人事交流の促進、職員への研修機会の提供等を図ること。
○専門スタッフの配置などの計画的な確保・育成を行うこと

【25 年度評価における主な指摘事項】
○一般管理費や人件費の削減は既に限界を超えつつあり、これ以上の予算圧迫は博物館業務に重大な影響を及ぼすおそれがある。我が国文化の地球規模での発信は、国際理解や相互交流に不可欠のはずであるが、現状ではこれ以上の展開は望めない。今後は自己収入を確保し、博物館・研究所業務のさらなる発展に努められたい。

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価			
			年度		中期	
0110	**1　施設・設備に関する計画** 別紙のとおり施設・設備に関する計画に沿った整備を推進する。 施設・設備に関する計画 （単位：百万円） 施設・整備の内容 ／ 予定額 ／ 財　源 京都国立博物館 緊急屋根等漏水補修工事 ／ 182 ／ 施設整備費補助金 奈良文化財研究所 本庁舎地区再開発計画の推進 ／ 2,808 ／ 施設整備費補助金 計 ／ 2,990	**1　施設・設備に関する計画** （東京国立博物館） ・観覧環境向上のため、平成館において、展示室改修及び連絡通路の増築等を実施しており、27 年 3 月に完了した。 （京都国立博物館） ・緊急屋根等漏水補修工事は、本館中央室屋根修繕工事として屋根下地と瓦の葺替と正面破風銅板葺替等を 7 月に完了した。また 11 月末に文化財保存修理所改修一期工事として屋上及び外壁の防水改修、3 階部分の建具改修及び断熱等内装工事、更に改修機械設備工事として、給水方式を直圧式に改修し、配管を更新した。 ・平成 25 年度に完成した平成知新館(新平常展示館)において、今年度は展示製作工事等を終え、26 年 9 月 13 日に開館した。 （奈良国立博物館） ・なら仏像館において重要文化財建造物の保存修理工事として、屋根改修（回廊部分銅板屋根、中層瓦屋根（一部））、飾枡及び縦樋修繕、外壁洗浄・補修、飾石修繕、建具塗装、鋼製装飾塗装等を実施した。 ・なら仏像館において内部の展示室整備工事として、13 室ある展示室の内 6 室（5･7･8･9･10･12 室）について免震展示ケースの設置を伴う内装改修工事（電気設備・空調改修を含む）を実施した。 （奈良文化財研究所） ・旧庁舎取壊工事を平成 25 年度に引き続き実施しているが、埋蔵文化財発掘調査のため工期を 26 年度末まで延長した。 ・建設予定地地下の遺構を保存する必要が生じたため、新庁舎の設計を変更する準備を行っている。	B	当該年度実施予定の施設整備費補助金事業等、計画に沿った整備が実施されているため。	B	施設整備費補助金事業等、計画に沿った整備が実施されているため。

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価			
0210	**2　人事計画に関する計画** （1）職員の能力や業績を適切に反映できる人事・給与制度を検	**2　人事計画に関する計画** **(1)　職員の能力や業績を適切に反映できる人事・給与制度を検討する。** 平成 20 年度において、機構として統一的な運用及び規程を整備し、勤務評定制度を開始した。給与へは昇給及び勤勉手当に反映している。	B	26 年度においても、勤務評定制度を実施した。	B	例年同様、平成26年度においても、

	討する。	また、現行制度についての課題等を洗い出し、職員の能力や業績等をより適切に評価できるように、新たな評価制度の検討を開始した。				勤務評定制度を実施した。 また、職員の能力や業績等をより適切に評価できるよう、新たな評価制度の検討を開始した。
0220	（２）近隣大学等との交流を進め、優秀な人材を確保する。	**(2)　近隣大学等との交流を進め、優秀な人材を確保する。** 〈事務系職員〉 ・本部事務局及び各施設において、東京大学、京都大学、大阪大学、九州大学及び(独)国立美術館等から受け入れており、人材の確保と適材適所の人員配置を行った。 ・機構内での人事交流を図るため、本部及び各施設間（計９人）における交流を行っている。	B	事務系においては、7 法人 8 機関並びに機構内において 51 人の人事交流等を実施した。前年度に比して交流者数は減じたが、交流機関等と真に必要な交流ポストを選択し、集中的に優秀かつ多様な人材を確保した。研究系においても、主に文化庁との人事交流ではあるが、引き続き順調に交流を行った。	B	交流機関、交流者数ともに減じているが、交流者受入の必要性を検討し、効率的に優秀かつ多様な人材を確保した。また、機構外だけでなく機構内の人事交流を活性化することにより中堅職員の育成、幹部職員候補の育成を図ることができた。

年度	本部・東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館	東京文化財研究所	奈良文化財研究所	アジア太平洋無形文化遺産研究センター	年度計（人）
22	18（東大、東近美政研大京博）	14（京大、阪大、民博、奈文研、東博）	8（文化庁、阪大、京大、京博）	8（九大、本部	5（医科歯科大、東博、奈文研）	11（京大、阪大、総地研、奈女大）	—	64 (9)
23	17（東大、東近美、政研大、奈文研）	14（京大、阪大、民博、奈文研、東博）	12（阪大、京大、京博、本部）	8（九大、本部）	6（医科歯科大、東博、本部）	12（文化庁京大、阪大、奈女大）	1（奈文研）	70 (12)
24	17（東大、学士院、奈文研）	14（京大、民博、奈文研、東博）	9（阪大、京大、京博、本部）	9（九大、本部）	7（医科歯科大、東近美、東博、本部）	8（京大、阪大、奈女大、京博）	1（奈文研）	65 (11)
25	15（東大、学士院）	11（京大、京近美、民博、本部）	9（京大、阪大、本部、奈文研、京博）	8（九大）	5（東大、医科歯科大、東近美、本部、東博）	8（京大阪大、奈女大京博）	1（京博）	57 (8)
26	15（東大、学士院、京博）	9（京大京近美滋賀医科大、本部）	8（京大、阪大、本部、奈文研）	7（九大）	4（東大、本部、東博）	7（京大阪大、奈女大京博）	1（京博）	51 (9)

※表中の人事交流者の人数は、各年度末現在でカウントした。（機構に受け入れている人数）
※合計欄の（　）内の人数は、機構内の人事交流中の人数。

〈研究系職員〉
・職員の適性・能力、年齢構成及び業務の効率化など総合的に勘案し、新規に研究職員を 4 人採用した。
・また、文化庁から 6 人の受け入れ及び文化庁への出向を 16 人行っている。
・機構内での人事交流並びに幹部職員の育成を図るため、各施設間にて計 10 人の交流を行っている。
・研究休職制度を利用し、海外の研究機関に 1 人を派遣した。

0230	（３）各種研修を積極的に実施し、また、職員を外部の研修に派遣するなど、その資質の向上を図る。	**(3)　各種研修を積極的に実施し、また、職員を外部の研修に派遣するなど、その資質の向上を図る。** ・機構職員としての資質向上を図るため、新任職員や職員を対象とした各種研修(4 件)、施設系の職員を対象とした研修（1 件）、会計系の職員を対象とした研修(1 件)及びハラスメントに関する研修(1 件)を行った。 ・その他、他機関で実施する研修に延べ12名の職員を参加させ、職員の能力開発に寄与した。	B	対象を限定し、機構全体の研修プログラムを 6 件実施した。また、文化財防災ネットワーク補助事業を活用した育成研修も実施した。今後の検討事項として、OJT をより効果的に行うための研修プログラムを効率的に実施する必要がある。また、専門的な研修	B	新任職員を対象とした集合研修、全階層を対象とした個人情報、ハラスメント等の倫理等研修を実施した。 また、会計、施設等の職務能力の開発を対象とした研修を実施し、諸研修の機会を提供した。

研修名称	日程	受講対象者	受講者数
新任職員研修会	26 年 7 月 23 日～25 日	平成 25 年度以降の新任職員等	44 人
接遇研修	26 年 7 月 25 日	平成 25 年度以降の新任職員等	44 人

		個人情報保護についての研修・講演会 / 26年7月25日 / 平成25年度以降の新任職員等及び本部事務局、東京国立博物館、東京文化財研究所全職員及び近隣独立行政法人職員 / 約80人 ハラスメント防止に関する研修・講演会 / 26年7月25日 / 各施設の職員、ハラスメント防止等委員会委員及び相談員等 / 約80人 会計事務研修会 / 26年12月3日 / 機構内の会計系職員 / 25人 施設系職員研修会 / 26年7月17日～18日、27年2月19日～20日 / 機構内の施設系職員 / 延べ19人 文化財防災事業アソシエイトフェロー研修 / 26年12月8日～10日 / 文化財防災事業に関わるアソシエイトフェロー並びに機構内職員 / 21人		等についても検討を実施する。		
0240	（4）非公務員化のメリットを活かした制度の活用方法について引き続き検討する。	**(4)　非公務員化のメリットを活かした制度の活用方法について引き続き検討する。** ・平成19年度において、技術職員及び技能・労務職員について、機構独自で採用可能とする規程の整備を行い、平成20年度に施設の維持管理を行う職員を適用範囲とし、平成24年度において、事務職員を適用範囲とした。平成26年度においても同採用制度を活用し、事務職員4名の採用を行い、事務職員2名の採用内定を行った。 ・また、平成25年の採用方法を検証し、採用活動方法を改善した結果、当機構が想定する適切な母集団形成を実施することができ、より優秀な人物の獲得に寄与した。 ・平成20年度において、常勤の研究職員に準じた有期雇用職員の人事制度（アソシエイトフェロー）を新たに整備し、専門的事項の調査研究を行う研究職と高度な専門知識と経験等を有する専門職を対象として採用可能とした。平成26年度は東京国立博物館で14人、京都国立博物館で4人、奈良国立博物館で2人、九州国立博物館で4名、東京文化財研究所で6人、奈良文化財研究所で8人及びアジア太平洋無形文化遺産研究センターで2人の計40人を採用した。 ・新たに平成26年度より、機構の専門的分野・事項を取り扱う職として専門職制度を創設し、国際交流分野に1名の採用内定を行った。 ・平成26年度の機構独自の採用人数は上記のとおり、事務職員4名、アソシエイトフェロー40名の計44名である。	A	平成26年度において専門的分野・事項を取扱う新たな職として専門職制度を創設し、国際交流分野（特にアジア圏）において人材の確保を行った。 事務職員については、平成25年度に引き続き平成26年度についても採用試験を実施し、複数名の優秀な人材の確保が行えた。	B	専門的分野・事項を取り扱うパーマネントの職として新たに専門職制度を導入し、国際交流分野（特にアジア圏）において人材の確保を行った。 現行のアソシエイトフェロー制度をより柔軟に採用・登用ができるよう給与制度を含む制度の見直しが必要である。
0250	（5）専門スタッフの配置などの計画的な人材の確保・育成に向け、検討を進める。	**(5)　専門スタッフの配置などの計画的な人材の確保・育成に向け、検討を進める。** ・高度の専門的知識経験又は優れた識見を一定の期間活用して行うことが必要と認める業務に雇用する者とした任期付専門員制度を活用し、平成23年度において1名採用した。平成25年度において、柔軟かつ多様な人材の確保のため、新たに任期付専門職員制度を整備し、平成25年8月に1名を採用した。 ・高度に優れた専門的技術を兼ね備えた人材を確保すべく、専門職制度を創設し、採用活動を行ない、国際交流部門に1名を配置することが内定した。併せて、当該職の人事・給与制度の整備を行った。	B	配置実績はなかったが、新たに専門職制度を創設し、採用活動を行い、国際交流部門に1名を配置することが内定した。 既存の任期付職員制度と新たな専門職制度の棲み分けを明確にする必要がある。	B	配置実績はなかったが、新たに専門職制度を創設し、採用活動を行い、国際交流部門に1名を配置することが内定した。